日本語諸方言の四モーラ畳語を比較する試み*

高山 林太郎

キーワード：日本語諸方言　比較方法　四モーラ畳語　アクセント　長音

要旨

日本語諸方言（青森市，盛岡市，東村山市，東京，岡山市，尾道市，広島市，京都，神戸市，淡路島，徳島市，高知県，甑島，沖永良部島）の 4 モーラ畳語（ピカピカ（と），アカアカ（と），楽々（と），偶々，ピカピカ（だ），満々（だ），島々（が），ブツブツ（が），ワンワン（が）等）を比較し，そのアクセントを本土と琉球の共通の祖語に再構することを試みる。また，琉球のセグメントに現れる「ピカーピカ（と），アカアカー（と）」のような長音について考察する。

1. はじめに——何故 4 モーラ畳語を扱うのか，研究の経緯，調査範囲

上野（2006: 5）は「3 拍名詞は対応に問題があることが以前から知られて」おり，原因として「本来，対応は古くから口頭で連綿と伝承されてきている日常語において成り立つものであるから，その地域での生活語でないもの，文字を通して入った単語など，伝承語でないものには当てはまらない」と述べる。他の原因として，3 拍以上では複合語扱いの語の割合が増え始め，複合語規則に捕われて単純語の規則的変化の影響を脱し，音韻対応が曖昧化する可能性も考えられる。他方で上野（1988: 55）は IV 拍，IV・V 拍の単純動詞 1, 2 類に 2 つの式と次末下げ核の有無の区別を再構しており（*[ウタ!ガ]フ（終止形），*[ウタ!ガフ（連体形），*[コシ!ラ]フ，*[コシ!ラフル，*アラ[ハ]ス，*アラハ[ス，*アラ[ハ]ル，*アラハル[ル），条件次第では 4 拍語を扱ってよい。結局，実際に音韻対応が存在するか否かが重要である。なお音調の表記法は上野（1992, 2006）に倣い，各所から引用する際もこれに改める。

さて，金田一（2005a: 334-335）は「[ガ]ラガラと」と「ガ[ラガラに」では東京のアクセントが異なり，「シ[ロ]イ・[シ]ロクのように，[ガ]ラガラ対ガ[ラガラもやはり活用と言うべきではないか」と指摘する。情態副詞「[ガ]ラガラと」と結果副詞「ガ[ラガラに」は同じ副詞だが（この二分法を用いる），広く形容動詞語幹「ガ[ラガラ（だろ，だっ，で，に，だ，の，

* 筆者による畳語のアクセント等の調査にご協力下さった各地の方言話者の皆様に，厚く御礼申し上げます。その芳名を右に記します（あいうえお順，匿名希望の方以外）：浅見勇氏，池田康子氏，内田栄二氏，江藤又次氏，小川豊博氏，葛西慧紀氏，金子光一氏，川合萬次郎氏，川上忠志氏，小山昇氏，佐藤忠麿氏，嶋田憲三氏，下原瑞恵氏，城口寛治氏，中岡恒子氏，中谷眞也氏，野崎征吉氏，平嶺廣教氏。

また，本稿にデータを提供して下さった，日本語の調査研究をご専門とする大学院生の皆様と，その方言話者の皆様に心より御礼申し上げます。中澤光平氏（東京大学，日本学術振興会特別研究員（DC1））は淡路島で増水一二氏のご協力のもと畳語のアクセントを調査しました。徳永晶子氏（一橋大学，日本学術振興会特別研究員（DC2））は琉球で大蔵ユキ氏，岡村隆博氏をはじめとする多くの方々のご協力のもと畳語のセグメントを調査しました。大槻知世氏（東京大学）は自身を含む青森市話者 2 名に基づいて畳語の文法を調査しました。

また，本稿においてありうる不備や誤りは，もちろん全て筆者の責任ですが，本稿の論を展開する上での知識やアイディア・分析を提供して下さった，中澤光平氏（アクセントの通時論の先行研究に関して），徳永晶子氏（琉球のセグメントに関して），大槻知世氏（青森市の文法に関して）に，深く感謝いたします。

なら)」が無核なので，副詞と形容動詞[1] という異なる品詞が「派生」されている。この指摘を受けて，本稿では「4 モーラ畳語」を調査して方言比較を行う。品詞を変える派生が問題となるため品詞は限定しない。4 モーラ畳語は 2 モーラ（1, 2 音節）の要素が 2 つで 1 語となるものを指す（内部境界で連濁するものや漢語も含む）。/C (子音), S (半母音), V (母音), R (引き音), N (撥音), Q (促音)/ に対して「2 モーラの要素」は /CSVCSV, CSVR, CSVV, CSVN/ となる（/C, S/ がゼロの場合を含む。/CSVQ/ は問題[2] があるため扱わない）。「2 モーラの要素」という単位自身で単語になれるものもなりにくいものも扱う（例えば擬音語「[ワ]ンワン（と）」の「[ワ]ンと」は可能で，擬音語「[ゴ]ロゴロ（と）」の「[ゴ]ロと」や擬態語「[ピ]カピカ（と）」の「[ピ]カと」は不可能である。「擬音語／擬態語」の二分法を用いる）。品詞は主に情態副詞（オノマトペや準ずるもの ; 東京の例 : [ピ]カピカと，タ[カダ]カと）と派生形の形容動詞（ピ[カピカだ）だが，他にただの形容動詞（飛[び飛びだ），ただの副詞（た[びたび），感動詞（[や]れやれ），名詞（く[に]ぐに）がある（原則，（準）オノマトペと漢語はカタカナ，他はひらがなで表記）。なお東京の旧市内と東村山市では「[ピ]カピカ」の類の 1 モーラ目が無声化する環境で「ピ[カ]ピカ」などとなる[3]。「情態副詞，形容動詞，ただの副詞，感動詞」は順に「ト副，形動，副詞，感動」と略すことがある（名詞はそのまま）。調査項目は『新明解日本語アクセント辞典』（新明解と略す ; 東京方言）と『日本国語大辞典第二版』（日国と略す ; 東京，京都方言）に載る項目を基礎として若干補充した 4 モーラ畳語 885 項目と[4]，その一部の前部要素の単純語で，他に文法調査等も実施した。また，これらの辞典から東京方言（話者は秋永（1999: 35）参照）と京都方言（1897-1912 年生れの数名の話者）のデータを得た。

2012 年 2 月以来の研究[5] を総合し，未発表の論考・データと共に本稿に記す。なお「外輪式，中輪式，内輪式，中央式，九州二型，琉球多型」の調査データ等に基づいて論じ，「伊吹式，讃岐式，真鍋式，加賀・能登中央式」は今後の課題とする（系統を表わす用語は金田一（2005b），上野（1985, 1987）等参照）。また，本稿で個別の方言の詳しい解説はしない[6]。

---

[1] 東京の狭義の形容動詞の連体形は「な」であって「の」でない。本稿では「形容動詞」を広義に用いる。

[2] 例えば東京では「[グ]ツグツと，[グ]ーグーと，[グ]イグイと，[グ]ングンと」に対し「[グッグッ]と（引っ張る）」はアクセントが異なる。他方で例えば「[パッ]パと（払う）」は頭高型と解釈できるが 3 モーラである。

[3] 無声化の有無で相補分布するため，本稿では便宜上「[ピ]カピカ」として扱うことがある。

[4] 「デ[カデ]カと」等，調査項目選定の段階での見落としが後に判明した語がある。他方で，「[ピ]カピカと，ピ[カピカだ」の類は全てを調査し切ることが現実的でなく，バランスを考えて調査項目を制限・選択した。

[5] 本稿に至るまでの経緯を簡単に説明する。調査票作りは 2012 年 2 月に開始した。高山（2012b）では上記の東京・京都のデータを元に，岡山市・青森市の調査データと比較して，4 モーラ畳語においては，表現性の高い「オノマトペ」であっても語彙性の高い部分を見分けられること，単純語や複合語でなく「畳語」であっても方言間の音韻対応が存在することを，数量的な分析によって示した。高山（2012d）では東京都東村山市と青森市で，4 モーラ畳語のオノマトペの形容動詞に語幹末核の有無による語用論的意味の区別が見られることを指摘した（後に岩手県盛岡市でも確認した）。更に，複合動詞に関する高山（2012c, 2012e）のデータと併せて，イントネーションではなくアクセントが語用論的意味を表わす場合が存在することを，高山（2013a, 2013b, 2013f）で初めて明示的に指摘した。高山（2013d）では 4 モーラ畳語の情態副詞と形容動詞に限り，そのアクセントを通時的に考察した。高山（2013e）では広島県尾道市・広島市において 4 モーラ畳語の名詞が，情態副詞どうしの合流に巻き込まれるという，特殊な合流の仕方が見られることを指摘した。

[6] 青森市のアクセントの音韻解釈に関しては，先行研究の説明では捉え切れない現象について高山・中澤・大槻（2012a, 2012b）で扱った。沖永良部島のアクセントは高山（2013c）で改めて音韻解釈を示した。上甑島里方言は本稿で簡単に解説した。その他の地点のアクセントは豊富な先行研究の通りである。

2. 東京方言（中輪式），京都方言（中央式）——語群を設定する

本稿で 4 モーラ畳語を方言比較する為の暫定的[7] な語群を設定する：「i 群（i1 群，i2 群，i3 群），ii 群，iii 群，iv 群，v 群（v1 群，v2 群），vi 群，vii 群，viii 群，ix 群」。i1 群，v1 群などの下位群には音調上の特徴はあるが所属語彙の排他的な特徴は無い（後に岡山市，東村山市方言を例に説明する）。他方で i 群などの上位群には所属語彙に関する殆ど排他的な特徴があるが，i 群と v 群は緩やかに単一の群をなす（品詞が異なるため語幹の意味により一方の群に属しにくいことはあっても，所属語彙に関する排他的な違いとは考えがたい）。i 群，ii 群，iii 群は ト副，iv 群は副詞（，ト副）であり，文中で用いられる。v 群，vi 群は形動，vii 群は名詞（，形動，副詞），viii 群は名詞（v 群から生産的に派生する），ix 群は名詞（，副詞，感動）（i 群の擬音語から生産的に名詞が派生する）であり，文中・文末で用いられる。

i 群，v 群の代表例（東京）は「[ピ]カピカと，ピ[カピカだ」（原則和語）だが，他方で「[ユ]サユサと，ラ[ブラブだ」は順に v 群，i 群に属しにくい。ii 群，iii 群，iv 群，vi 群，vii 群，viii 群，ix 群の代表例（東京）は順に「ク[ログ]ロと（黒々），モ[クモクと（黙々），み[ちみち（道々），[ナイナイに（内々），し[ま]じま（島々），ブ[ツブツ（腫物），[ワ]ンワン（犬）」で，iii 群，vi 群は原則漢語，他は原則和語である。語彙が多く，対応に問題の無い i 群と v 群以外について，主に東京・京都方言から見た所属語彙，および対応が必ずしも明瞭ではないが分析の際に算入する参考語彙（それぞれ「所属，参考」と略す）を以下に示す[8]。

調査項目 885 中，i 群（ト副）の所属 467，参考 5。v 群（形動）の所属 142 である[9]。

ii 群（ト副；内部境界で連濁する傾向あり）は所属 43，参考 8（各項目の括弧内は大体の意味，半角カナは漢字の読みを表わす）。所属：アオアオと（青々），アカアカと（赤々），アキアキと（飽々），アリアリと（在々），イキイキと（生々），ウマウマと（旨々），オチオチと（落々），カルガルと（軽々），クラグラと（暗々），クログロと（黒々），コマゴマと（細々），コリゴリと（懲々），サエザエと（冴々），サムザムと（寒々），サメザメと（静寂），シミジミと（沁々），洒々ｼｬｱｼｬｱと，シラジラと（白々），シロジロと（白々），清々ｾｲｾｲと，タカダカと（高々），ツクヅクと（尽々），ナガナガと（長々），ナマナマと（生々），ナミナミと（並々），ヌケヌケと（抜々），ノウノウと（暢々），ノビノビと（伸々），ノメノメと（厚顔），ハヤバ

---

[7] ここで「暫定的」とは，現時点での語群の案ではあるものの，今後，変更・追加される可能性があるということを表わす。そもそも，金田一語類や系列別語彙に関しても，程度の差はあれ，なお「暫定的」と言える。

[8] なお，本稿での語群の枠組や，所属語彙の内容は，今後の研究の進展があれば，それによって修正を受けるに違いないが，本稿でひとまず分析する為の道具として，東京・京都方言の畳語の，（第一に）アクセント，（第二に）品詞，（第三に）和語・漢語の別だけを基準に，分類・設定している（結果として，これだけでも音韻対応を確認することができた）。本稿の目標は，様々な方言の状況を考慮に入れながら語群を精緻化することではない。語群の精緻化には，金田一語類や系列別語彙がそうであるように，原理的に長い年月を掛ける必要があり，もとより本稿の段階で達成できることではない。琉球方言の系列別語彙の研究者は，現段階では誰もが「恥を覚悟で」語群を発表しているという。4 モーラ畳語についても，方言形や併用形や語用論的意味の問題など，語群という仮説にとって難しい様々な問題が存在するにもかかわらず，集計数値を見ると，単純語や複合語と同様の音韻対応が存在する，ということを「先ずは」示そう，というのが本稿の狙い・考え方である。また音韻対応が見られる以上は，そこから音変化の通時的解釈に進むことが可能である。

[9] 「ユンユンと（電波が），ラブラブだ」等の「新しい」項目を若干含むが，これらは抽象的な語群に対して比較するものである。どれかの語群に属すると言いにくい語彙は 62 あり，原因としては「意味不明，不使用」（後述）となる率が高いか，地域ごとのまとまりはあっても全体の対応がずれているかである。

ヤと（早々），ハルバルと（遥々），ハレバレと（晴々），ヒエビエと（冷々），ヒロビロと（広々），フカブカと（深々），ホソボソと（細々），ホノボノと（仄々），ホレボレと（惚々），マザマザと（目撃），マジマジと（凝視），マルマルと（丸々），ヤスヤスと（易々），ユルユルと（緩々）。参考：イガイガと（毬々），ウスウスと（薄々），コワゴワと（怖々），サバサバと（捌々），シオシオと（萎々），シゲシゲと（繁々），スゴスゴと（悄々），ニギニギと（賑々）。

iii 群（ト副）は所属 35，参考 3。所属：藹々ｱｲｱｲと，陰々ｲﾝｲﾝと，鬱々ｳﾂｳﾂと，営々ｴｲｴｲと，延々ｴﾝｴﾝと，閑々ｶﾝｶﾝと，煌々ｺｳｺｳと，囂々ｺﾞｳｺﾞｳと，昏々ｺﾝｺﾝと，燦々ｻﾝｻﾝと，啾々ｼｭｳｼｭｳと，粛々ｼｭｸｼｭｸと，深々ｼﾝｼﾝと，切々ｾﾂｾﾂと，錚々ｿｳｿｳたる，続々ｿﾞｸｿﾞｸと，淡々ﾀﾝﾀﾝと，着々ﾁｬｸﾁｬｸと，転々ﾃﾝﾃﾝと，滔々ﾄｳﾄｳと，堂々ﾄﾞｳﾄﾞｳと，訥々ﾄﾂﾄﾂと，飄々ﾋｮｳﾋｮｳと，綿々ﾒﾝﾒﾝと，濛々ﾓｳﾓｳと，黙々ﾓｸﾓｸと，悶々ﾓﾝﾓﾝと，悠々ﾕｳﾕｳと，楽々ﾗｸﾗｸと，爛々ﾗﾝﾗﾝと，隆々ﾘｭｳﾘｭｳと，凛々ﾘﾝﾘﾝと，累々ﾙｲﾙｲと，恋々ﾚﾝﾚﾝと，朗々ﾛｳﾛｳと。参考：ノウノウと（暢々），茫々ﾎﾞｳﾎﾞｳと（草が），ボウボウと（火が）。

iv 群（副詞，ト副）は所属 23，参考 8。所属：いやいや（厭々），いろいろ（色々），うすうす（薄々），おさおさ（長々），近々ｷﾝｷﾝ，散々ｻﾝｻﾞﾝ，重々ｼﾞｭｳｼﾞｭｳ，早々ｿｳｿｳ，たびたび（度々），たまたま（偶々），ときどき（時々），なかなか（中々），なきなき（泣々），なくなく（泣々），日々ﾆﾁﾆﾁ，のちのち（後々），まにまに（随に），みちみち（道々），もともと（元々），ゆくゆく（行々），よくよく（善々），よなよな（夜々），碌々ﾛｸﾛｸ。参考：こわごわ（怖々），しぶしぶ（渋々），そうそう（然々），たかだか（高々），つらつら（熟々），つれづれ（徒然），ともども（共々），みすみす（見々）。

vi 群（形動）は所属 14，参考 3。所属：暗々ｱﾝｱﾝの，往々ｵｳｵｳに，諤々ｶﾞｸｶﾞｸだ，軽々ｹｲｹｲに，歳々ｻｲｻｲだ，じきじきに（直々），綽々ｼｬｸｼｬｸだ／と，上々ｼﾞｮｳｼﾞｮｳに，とびとびに（飛々），内々ﾅｲﾅｲに，年々ﾈﾝﾈﾝだ，ほどほどに（程々），満々ﾏﾝﾏﾝだ，洋々／揚々ﾖｳﾖｳだ。参考：散々ｻﾝｻﾞﾝだ，順々ｼﾞｭﾝｼﾞｭﾝだ，別々ﾍﾞﾂﾍﾞﾂだ。

vii 群（名詞，形動，副詞；内部境界で連濁する傾向あり）は所属 52，参考 13。所属：いえいえ（家々），一々ｲﾁｲﾁ，おのおの（各々），おりおり（折々），かたがた（方々），かねがね（予々），かみがみ（神々），くちぐち（口々），くにぐに（国々），くれぐれも（呉々），こえごえ（声々），ことごと（事々），これこれ（此々），さきざき（先々），さまざま（様々），しかじか（然々），しなじな（品々），しまじま（島々），しもじも（下々），重々ｼﾞｭｳｼﾞｭｳ，すえずえ（末々），すきずき（好々），すみずみ（隅々），それぞれ（其々），たえだえ（絶々），たかだか（高々），段々ﾀﾞﾝﾀﾞﾝ，ちかぢか（近々），つきづき（月々），つじつじ（辻々），つねづね（常々），つれづれ（徒然），てらでら（寺々），ときどき（時々），としどし（年々），ともども（共々），とりどり（彩々），なになに（何々），はしばし（端々），半々ﾊﾝﾊﾝ，ひとびと（人々），ひまひま（暇々），ふしぶし（節々），坊々ﾎﾞﾝﾎﾞﾝ，ますます（益々），まちまち（町々），まちまち（区々），みなみな（皆々），むらむら（村々），銘々ﾒｲﾒｲ，面々ﾒﾝﾒﾝ，やまやま（山々）。参考：いろいろ（色々），おいおい（追々），こもごも（交々），精々ｾｲｾﾞｲ，そこそこ（其処其処），代々ﾀﾞｲﾀﾞｲ，だれだれ（誰々），とんとん（均衡），方々ﾎｳﾎﾞｳ，ま

あまあ（一応），まえまえ（前々），まにまに（随に），われわれ（我々）。

viii 群（名詞）は所属 17（v 群から生産的に名詞を派生可能）。所属：いがいが（毬々），いやいや（嫌々），イライラ（苛々），うちうち（内々），カナカナ（蝉），ガラガラ（玩具），グリグリ（腫），げじげじ（虫），ゴロゴロ（雷），シャブシャブ（肉），点々ﾃﾝﾃﾝ，なぞなぞ（謎々），ヒラヒラ（布），ブツブツ（腫），ボツボツ（腫），もろもろ（諸々），歴々ﾚｷﾚｷ。

ix 群（名詞，副詞，感動）は所属 27，参考 1（i 群の擬音語から生産的に名詞を派生可能）。所属：かくかく（斯々），ケンケン（片足跳），極々ｺﾞｸｺﾞｸ，これこれ（感動），シイシイ（小便），しめしめ（感動），少々ｼｮｳｼｮｳ，精々ｾｲｾﾞｲ，そうそう（然々），そもそも（抑々），段々ﾀﾞﾝﾀﾞﾝ，チュウチュウ（鼠），蝶々ﾁｮｳﾁｮｳ，チョンチョン（点々），ちんちん（陰茎），ついつい（不慮），どれどれ（感動），はいはい（這々），はいはい（感動），ポンポン（腹），まあまあ（一応），まあまあ（感動），ミンミン（蝉），もしもし（感動），やれやれ（感動），わざわざ（態々），ワンワン（犬）。参考：かずかず（数々；vii 群の可能性も）。

以上，総項目数 923（多重所属 38）である。調査では項目ごとに短文を読み上げたあと「意味不明，不使用，方言と異なる」ものを指摘していただくが[10]，それらは原則として分析から除外する（但し，琉球では独自語彙の全てを共時的分析に，一部は通時的分析にも用いる）。また併用形はそれぞれ個別の項目と見て，集計の際には延べ数を出す。

3. 東京方言（中輪式），岡山市方言（内輪式）——語彙と表現の境界を測る

東京（旧市内），東京都東村山市，岡山市（南区妹尾），広島県尾道市，広島市では下げ核（弁別的）と句音調（非弁別的）で音調型が決まる（系統は中輪式か内輪式）。尾道市までは東京と同じ句音調だが，広島市は有核語では 1 拍卓立，無核語は低平となる。岡山市からは形容動詞語尾が「だ」でなく「じゃ」となるが，アクセントには影響しない。下げ核が無ければ「0」，語頭から n モーラ目なら「n」，1, 3 モーラ目なら「13」で表わす。

岡山市（南区妹尾）についてはこれまで高山（2011a, 2011b, 2012a, 2012b, 2012c）で扱ってきた。岡山市の i 群の 1 単位形は「ピ[カ]ピカと」（i1 群）などとなり[11]，これを重ねて「ピ[カ]ピカピ[カ]ピカ…」（「26…」で表わす；i3 群）と言えるが，他方で光が点滅している場合は 2 単位形（但し「単位」≠「単語」）で「[ピ]カ[ピ]カと」（i2 群），延々と続く場合は「[ピ]カ[ピ]カ[ピ]カ[ピ]カ…」（「1357…」で表わす；i3 群）となる。i1 群が「語彙」寄りで i3 群が「表現」

[10] リスト読み上げ式の調査において，比較言語学的な観点から問題となる，方言間での語彙的意味の微妙な違いについてここで言及しておく。琉球では音形自体が本土とかなり異なるため，話者の回答は「音形または意味または両者が近いもの」を答えるもので，意味の違いについて曖昧なままになることは比較的少なかったと考えられる。他方で本土諸方言では，細かい発音こそ違えど，仮名で書くレベルの基本的な音形はよく似通っていて，それゆえ方言間での意味の微妙な違いが見過ごされた可能性がある。本来は，各語の意味について，東京との微妙な違いまで明らかにするのが望ましいが，調査に掛かる時間等も勘案し，語彙的意味の厳密な記述は断念して，形式本位で調査を進めた。これと同様のことは，畳語に関連して実施した文法調査についても言える。方言間での文法的・語用論的意味の微妙な違いについて，厳密に捉え切れているとは言いがたく，先行研究で言われているいくつかの形態論的な「型」にはめて分類して行ったというのが実情である。また，意味の記述としても，専門の研究者から見て大雑把な記述である可能性は免れず，ここでも形式本位となった。

[11] これが常態であって，無声化により相補分布する東京とは異なる。また，「[ワン]ワンと」などとなる。

寄りであることはすぐに分かるが，i2 群の位置付けについては考察が必要である[12]。

岡山市の「[ピ]カ[ピ]カと」が語彙か表現かを考える為に，高山（2012b）で数量的に分析し，高山（2012c）にその一部を引用した。その結果「13」は「動きや物事の繰り返しが含意され，複数の動きや物事の切れ目が明瞭な場合」（i2 群）によく用いられ，逆に「繰り返しを積極的に含意しないか，切れ目が曖昧または存在しない場合」（i1 群）に「2」がよく用いられ[13]，語幹を重ねて用いると「継続・繰り返しが必ず含意される」（i3 群）と分かった。i2 群，i3 群は有縁性が高く，「表現」寄りのため，通時論では「語彙」的な i1 群が中心となる。

但し，後述の兵庫県南あわじ市阿万方言では「[ピ]カピカと」より寧ろ「[ピ]カ[ピ]カと」が i1 群の（数量的に）典型的な異音として現れるので，2 単位形だから i2 群であるとも限らない。京都（秋永（1980: 404-412）参照）と同様に ii 群が i 群に合流している阿万では，東京の「ア[カア]カと」を「[ア]カ[ア]カと，[ア]カアカと」と発音する。ところで ii 群の所属語彙を見ると，動きや物事として繰り返すことが可能な意味を持つ「2 モーラの要素」は 1 つも無く，これが i 群との意味的な違い[14] となっている（高山 2012b）。従って南あわじ市阿万の「13」は意味とは関係なく（＝恣意的に），「13」という型で現れていると言える。

以下に東京，岡山市方言の体系と比較を示す。岡山市の話者は 1932, 1932, 1937 年生れ計 3 名延べ 5 名である。太枠は各品詞の最大度数，各語群の対応位置などの注目点を示す。本節でのみ，表の読み方を詳しく説明し，以降の節では要点だけ述べる。共時的体系を示す品詞別の表は参考用である。語群ごとの度数分布を表わす表は，最後に通時的考察をするための基礎として各節に示している。対応を解釈する上では，出現度数が偏って多くなっている部分（太枠で表示）を見ていく。i 群は東京では原則「1」で，1 モーラ目が無声化する環境でのみ「2」となるが，岡山市では原則「2」で，表現性が高まると「13」となる。ii 群は「3」

---

[12] その前に，本稿の「語彙／表現」の区別について改めて説明する。この区別は，ラング（≒定着した社会習慣的なもの）とパロール（≒その場限りの個人的なもの）の区別とは必ずしも一致しない。例えば救急車のサイレンのドップラー効果を「ピーポー」の繰り返しで巧みに表現するのは個別的・一回的である。しかし定着した社会習慣であっても，有縁性の大きさから「表現」寄りに位置付けられる場合がある。両唇ふるえ音で「[ブ]ー！」と発音し，2, 3 歳の幼児を「可愛がる，あやす，注意を引く」間投音が日本列島に分布する（青森市，盛岡市，東村山市，岡山市，高知県，甑島，沖永良部島の老年層男女計 14 名で確認）。この種の音声（服部（1984: 73），Alpher (1994: 163)，高山（2011a, 2012a, 2013g））は，たとえ局所的な弁別性があっても，感動詞やオノマトペにのみ分布する「周辺的な音韻（marginal phoneme）」であり，言語音とジェスチャーとの境界に位置する「口周りのジェスチャー（oral gesture）」である。現実の言語は多少なりと有縁性（≒本稿の「表現」性）を含むが，言語の本質（≒定義，典型）は恣意性（≒本稿の「語彙」性）にある。

[13] i2 群と i1 群の意味の違いについて，高山（2012b）より具体例を，本稿に合わせて加工した上で引用する。或る話者の内省報告によれば，「ひょこひょこ，ぴょこぴょこ，ふうふう，ぷうぷう，ぽくぽく，ぽこぽこ，ぼそぼそ，ぼたぼた，ぼちぼち，ぼちゃぼちゃ，ぽつぽつ，ぼつぼつ，ぽとぽと，ぼとぼと，ぽりぽり，ぽろぽろ」は（下げ核が）「13」ならゆっくり，（下げ核が）「2」なら速く。「ぶうぶう，ふりふり，ぼりぼり，もじもじ」は「13」ならゆっくり，「2」なら激しく。「ぷちぷち，ぽかぽか（と殴る），ぽたぽた，みしみし」は「13」ならゆっくり別々に，「2」なら速く続けて。「そろそろ（帰ろう）」は「13」ならゆっくり，「2」ならもういい加減に。「ひりひり，ぴりぴり，ぽかぽか（する）」は「13」ならじんわり，「2」なら強烈に。「ぴしぴし・びしびし（叱る）」は「13」なら柔かくじっくり，「2」なら沢山。「ぽそぽそ（した米）」は「13」なら普通に，「2」なら余計にばらばら。「人によってまちまちだ」は「13」なら指差すかのように個別に言及，「3」なら集団としてひっくるめて。「またまた出番だ」は「13」なら叙情・口語的（例：[ま]た[ま]た雨じゃなー），「3」なら叙事・文語的（例：ま[たま]た雨だ）。「ほそぼそ暮らす」は「13」なら余裕がある，「3」ならきゅうきゅうしている。

[14] このような「アクセントと意味との関係」は，既に上野（2002）で，名詞において指摘されている。

となる。iii 群は東京では原則「0」で「3」も併用されるが，岡山市では「3」となる。iv 群は東京では「0」だが，岡山市では「3」も併用される。v 群は「0」，vi 群は「0, 3」が併用される。vii 群は東京では「2」、岡山市では「3」となる。viii 群は東京では「0, 4」が併用されるが，岡山市では「0」である。ix 群は東京では「1」だが，岡山市では「13」も現れる。

表 1. 東京（辞典），岡山市方言の 4 モーラ畳語の体系と比較

		下げ核の有無と位置	13	1	2	3	0	4	計
東京・辞典	形動	（例：）ピ[カピカだ，飛[び飛びだ	0	4	11	15	185	1	216
	ト副	[ピ]カピカと，ク[ログ]ロと	0	433	35	67	38	1	574
	副詞	[つ]いつい，み[ちみち	0	17	17	6	37	1	78
	感動	[や]れやれ，[も]しもし	0	10	0	0	0	0	10
	名詞	し[ま]じま（島々）	0	18	35	15	26	6	100
		計	0	482	98	103	286	9	978
岡山市南区妹尾	形動	ピ[カピカじゃ，飛[び飛びじゃ	28	10	23	81	764	0	906
	ト副	ピ[カ]ピカと，ク[ログ]ロと	212	19	1980	353	6	0	2570
	副詞	[つ]い[つ]い，み[ちみち	49	8	26	110	87	0	280
	感動	[や]れ[や]れ，[も]し[も]し	38	2	0	2	3	0	45
	名詞	し[まじ]ま（島々）	10	47	10	191	100	0	358
		計	337	86	2039	737	960	0	4159

	語群	i	ii	iii	iv	v	vi	vii	viii	ix	余	計
東京・辞典	1	431	13	3	6	1	0	10	0	25	24	513
	2	32	3	0	6	0	1	49	2	0	9	102
	3	21	48	17	3	0	6	16	4	3	8	126
	0	5	3	34	29	141	16	19	13	4	34	298
	4	1	0	0	0	1	0	0	6	0	1	9
	計	490	67	54	44	143	23	94	25	32	76	1048
岡山市南区妹尾	13	211	1	1	8	4	0	16	0	53	55	349
	1	19	0	0	0	0	0	14	1	41	18	93
	2	1966	67	19	16	7	0	17	4	4	32	2132
	3	60	179	162	57	9	35	253	4	12	42	813
	0	2	3	4	73	635	48	23	66	13	104	971
	計	2258	250	186	154	655	83	323	75	123	251	4358

4. 尾道市方言（内輪式），広島市方言（中輪式）——品詞の枠を越えた，世代間の音変化

広島県尾道市（土堂，久保）の i1 群は「2~1」（特殊拍を含むと「1」になる），i2 群は「13」，i3 群は「26~15…」となる。話者は 1919 年生れ 1 名（「古」とする），1936 年生れ 1 名（「新」とする）である。広島市は『広島市方言アクセント辞典』に基づき，i1 群は「2~1」（同上），話者は 1907, 1913 年生れ計 2 名延べ 1 名（「古」），1926, 1929, 1943, 1947 年生れ計 4 名延べ 1 名（「新」）である。以下に各方言の体系と比較を示す。下表を見ると ii 群，iv 群，vii 群で品詞の枠を越えて，「古」の「3」が「新」の「2」に変化する傾向がある（iii 群，vi 群は殆ど影響無し）。「古」は，「4」の存在は東京に，vii 群が「3」である点は岡山市に似ている。本稿全体の通時的比較は，尾道市・広島市ともに，合流前の「古」の状態を用いる。

表 2. 尾道市，広島市方言（古，新）の 4 モーラ畳語の体系と比較

		下げ核の有無と位置	13	1	2	3	0	4	計
尾道市土堂・古	形動	ピ[カピカじゃ，飛[び飛びじゃ	2	2	5	24	150	1	184
	ト副	ピ[カ]ピカと，ク[ログ]ロと	10	73	361	68	1	0	513
	副詞	[つ]い[つ]い，み[ちみち	8	5	5	16	26	0	60
	感動	[や]れ[や]れ，[も]しもし	7	2	0	0	0	0	9
	名詞	し[まじ]ま（島々）	0	10	7	37	15	6	75
		計	27	92	378	145	192	7	841
尾道市久保・新	形動	ピ[カピカじゃ，飛[び飛びじゃ	2	7	6	10	161	0	186
	ト副	ピ[カ]ピカと，ク[ロ]グロと	37	120	349	27	5	0	538
	副詞	[つ]い[つ]い，み[ちみち	9	6	16	2	24	0	57
	感動	[や]れ[や]れ，[も]しもし	7	2	0	0	1	0	10
	名詞	し[ま]じま（島々）	0	11	22	17	19	4	73
		計	55	146	393	56	210	4	864
広島市・辞典古	形動	かさかさに，散り散りに	0	5	4	7	29	1	46
	ト副	ピ[カ]ピカ，クロ[グ]ロと	0	20	116	21	3	0	160
	副詞	[しょ]うしょう，たまたま	0	4	9	7	8	1	29
	感動	[や]れやれ，[も]しもし	0	2	0	0	0	0	2
	名詞	ひと[び]と（人々）	0	5	2	7	5	0	19
		計	0	36	131	42	45	2	256
広島市・辞典新	形動	かさかさに，散り散りに	0	1	7	4	27	1	40
	ト副	ピ[カ]ピカ，ク[ロ]グロと	0	20	131	3	0	0	154
	副詞	[しょ]うしょう，たまたま	0	4	9	3	8	1	25
	感動	[や]れやれ，[も]しもし	0	2	0	0	0	0	2
	名詞	ひ[と]びと（人々）	0	4	6	2	5	0	17
		計	0	31	153	12	40	2	238

	語群	i	ii	iii	iv	v	vi	vii	viii	ix	余	計
尾道市土堂・古	13	9	1	0	1	0	0	1	0	8	8	28
	1	72	1	2	1	0	0	5	0	11	4	96
	2	358	17	1	2	1	0	7	1	2	9	398
	3	13	33	33	7	3	9	46	1	5	10	160
	0	0	0	1	22	127	8	9	9	2	19	197
	4	0	0	0	0	0	0	1	6	0	0	7
	計	452	52	37	33	131	17	69	17	28	50	886
尾道市久保・新	13	37	0	0	1	0	0	0	0	8	9	55
	1	119	3	4	1	2	0	8	1	11	10	159
	2	314	46	6	7	3	0	31	0	1	11	419
	3	2	1	26	1	0	6	12	0	6	3	57
	0	3	1	1	21	131	10	12	12	1	22	214
	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	4
	計	475	51	37	31	136	16	63	17	27	55	908

語群		i	ii	iii	iv	v	vi	vii	viii	ix	余	計
広島市・辞典古	1	19	1	0	1	0	0	8	0	7	2	38
	2	110	17	1	5	1	0	5	1	1	4	145
	3	2	18	3	5	0	3	13	0	0	1	45
	0	2	2	1	7	24	1	3	4	0	3	47
	4	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
	計	133	38	5	19	26	4	29	5	8	10	277
広島市・辞典新	1	19	1	0	1	0	0	3	0	7	2	33
	2	112	31	2	5	1	0	14	0	1	4	170
	3	0	1	2	1	0	3	4	0	0	1	12
	0	0	0	0	8	24	1	1	4	0	2	40
	4	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
	計	131	33	4	16	26	4	22	4	8	9	257

5. 東村山市方言（中輪式）——アクセントによる語用論的意味の区別

5.1. 東村山市方言の形容動詞の語幹末核の有無による語用論的意味の区別

東京都東村山市の i1 群は「1~2」（1 モーラ目が無声化すると「2」），i2 群ナシ（「13」は存在するが数量的に極僅か），i3 群は「[ピ]カピカ[ピ]カピカ…」（「15…」，無声化時は「26…」）となる。話者は 1935, 1938, 1938, 1938, 1938, 1923 年生れ計 6 名延べ 6 名（農家の男性；秋津町，恩多町，久米川町，野口町，廻田町 2 名）である。以下に体系と比較を示す。

表 3. 東村山市方言の 4 モーラ畳語の体系と比較

		下げ核の有無と位置	13	1	2	3	0	4	計
東京都東村山市	形動	ピ[カピカ]だ，飛[び飛び]だ	4	58	41	46	371	530	1050
	ト副	[ピ]カピカと，ク[ログ]ロと	20	2319	152	256	177	3	2927
	副詞	[つ]いつい，み[ちみち	11	64	35	40	170	3	323
	感動	[や]れやれ，[も]しもし	7	42	0	1	10	0	60
	名詞	し[ま]じま（島々）	0	93	149	58	77	59	436
		計	42	2576	377	401	805	595	4796

語群		i	ii	iii	iv	v	vi	vii	viii	ix	余	計
東京都東村山市	13	20	0	0	0	0	0	1	0	9	13	43
	1	2309	49	23	16	31	2	44	5	115	94	2688
	2	152	2	0	5	1	0	192	8	1	24	385
	3	71	219	25	25	6	12	70	4	24	30	486
	0	35	10	150	128	253	70	67	27	11	91	842
	4	3	1	0	1	478	10	4	54	0	46	597
	計	2590	281	198	175	769	94	378	98	160	298	5041

東京（旧市内）と大きく異なる点は，「4」が大量に現れる点である。特に v 群，vi 群の形容動詞と，viii 群の派生名詞に集中的に現れている。この点について高山（2012d, 2012e, 2013a, 2013b）では詳細に文法的・語用論的意味に関する議論を展開したが，以下では本稿の議論に繋がる要点だけを取り出して述べる。先ずは具体的なデータを分析した上で，一般の語用論的意味について解説する。形容動詞（v 群，vi 群：ピカピカだ，別々だ）において語幹末核

（v2 群 : ピ[カピカ]だ）と無核（v1 群 : ピ[カピカだ）の形が併用されている[15]。高山（2012d）では 1936 年生れの多摩湖町の話者を加えた計 7 名ほか数名を対象に文法調査を実施し，原則として全員の一致を見た。語幹末核の有無は全活用形に及ぶ[16]。「4/ 0」は「個別感覚／共有感覚」[17]（文末・文中で）または「予想外／法則通り」[18]（恐らく文中のみ）を表わし，終助詞「よ／よね」の区別に近い（滝浦 2007，福島ほか 2006，三宅ほか 2012）。「4」が話し手の感情・感覚を表わす点に注目すれば，工藤（2007）の，愛媛県宇和島方言の形容詞における「表出（テンス分化がなく，発話時の話し手の感情，感覚，評価を表出する）／叙述（テンス分化があり，客体的側面を前面化する）」の区別にも似ているが，やはりこの場合，終助詞の表わす意味の方が近い。なお，文中の形式が存在しない終助詞や形容詞の表出形とは異なり，「4/ 0」は文中でも区別され，またそれゆえ「文末のイントネーション」とは分析できない。

久米川町の話者に物語文[19] とそれに終助詞等を付けた版を交互に計 12 回読み上げていただき，26 か所（下線部）の 4 モーラ畳語の語幹末核の有無を数えた。結果，「だ，じゃ」が続く形は「4」91%，「の」が続く形は「0」88%で，それぞれの（物語文を読み上げる際の）無標形が判明した（短文を次々に読み上げるアクセント調査では「だ」が続く形で「4」65%であり，また自然談話でも数値が異なることが予想される）。ところが下線部 (10) では旧常識を示す文脈であるためか（過去の共有感覚），ここだけ「0」（有標形）が 42%で，(18) で

---

[15] 4 モーラ畳語でない形容動詞や名詞では，たとえ偶然「4, 0」が併用されていても問題の意味の区別は存在せず，また和語でなく漢語であっても 4 モーラ畳語であれば問題の形態の区別が存在することを確認した。

[16] ピ[カピカ]だ(ん)べ，ピ[カピカだ(ん)べ，ピ[カピカ]だった，ピ[カピカだ]った，ピ[カピカ]でさ，ピ[カピカでさ，ピ[カピカ]に（なる），ピ[カピカに（なる），ピ[カピカ]だ，ピ[カピカだ，ピ[カピカ]の（車），ピ[カピカの（車），ピ[カピカ]だら（良い），ピ[カピカだ]ら（良い）。但し「だ(ん)べ，だら」は東京の「だろう，なら」に相当する。

[17] 「個別感覚」は典型的には「孤立」を表わすが，単に共有を意図しない場合にも用いられる。「共有感覚」は典型的には「現物」の存在を表わすが，たとえ現物が現場に無くとも「感覚の共有」（周囲に自分の感覚が理解されること）を意図して用いうる。例えば，暑いなか外で共同作業をしていて早くも喉が渇いてきたが，皆の手前言い出せなくてボソッと小声で呟く時は，「喉がカ[ラカラ]だ」となる（「孤立」）。他方で，作業が一旦は終了し皆で休憩を取ろうという時に，周囲にアピールする時は，「喉がカ[ラカラだ」となる（自らの喉という「現物」が他者から見えないが，それでも共有が意図されている）。

[18] 「個別感覚／共有感覚」はそれぞれ「予想外／法則通り」と分析できる場合もある。久米川町と多摩湖町の話者 2 名では形容動詞から生産的に派生する名詞にも問題の形態の区別を確認した（他の 5 名の生産的な派生名詞は「4」のみで，意味の区別も中和するが，形容動詞に関しては 7+α 名一致）。この 2 名では，例えば「モヤモヤが（出る）」は「0」なら「自然と，法則通りに」，「4」なら「突如として，予想外に」，山に霧が出る様子を表わす。この区別は形容動詞語幹に「の」が付く場合にも見られる（後述）。

[19] 物語文は次のようなもの :『太郎と花子の双子の兄妹のことは皆よく知っていた。太郎と花子の家には二台の自転車があった。ピカピカの自転車とボロボロの自転車だった。一台目は十年使ってボロボロになった。ボロボロの一台目は十年使った。二台目は買ったばかりでピカピカのままだった。ピカピカの二台目は買ったばかりだった。太郎はいつもピカピカの自転車に乗っていた。太郎がいつも乗っている自転車はピカピカだった。花子はいつもボロボロの自転車に乗っていた。花子がいつも乗っている自転車は(10)ボロボロだった。その日はクラスの皆で遊ぶために公園に来ていた。太郎と花子がもうすぐ公園にやってくるところだった。太郎と花子がやってくる道を皆で眺めていた。遠くに小さく花子がやってくるのが見えた。「あれ？花子がピカピカの自転車に乗ってきたぞ？」「ピカピカじゃなくて ボロボロの自転車のはずだろ？」「ボロボロじゃなくて ピカピカの自転車だよ。」「あの自転車はピカピカだよ。ボロボロじゃない。」続いて後ろから太郎がやってくるのが見えた。「あれ？太郎も(18)ピカピカの自転車に乗ってきたぞ？」「ボロボロじゃなくて ピカピカの自転車に？」「ピカピカじゃなくて ボロボロの自転車のはずだろ。」「あの自転車はボロボロじゃない。ピカピカだよ。」二人が公園に着いたので自転車のことを聞いた。なんでも同じ自転車をもう一台買ったそうだ。ボロボロの自転車は前の日に処分したらしい。二台のピカピカの自転車には名前が書かれていた』。

は我が目を疑う文脈であるためか（予想外・孤立），ここだけ「4」（有標形）が 58%だった。結果に無標形が半分混じるため明瞭な使い分けでないが[20]，アクセント調査，複数人数調査，内省調査[21] と併せて総合的に判断する。なお終助詞等の有無の影響は見られなかった。

以上のような状態が表 3 の v 群，vi 群，viii 群に反映していると考えられる。表 1，表 2 の viii 群と比べると，東京，尾道市における名詞「0, 4」は東村山市に類似した状態の痕跡と解釈できる。また青森市・盛岡市では，東村山市に類似した形態の区別が見られる（後述）。

5.2. 語用論的意味を区別するアクセント・イントネーションについての補説

さて，以下の部分では高山（2013a, 2013b, 2013f, 2013g）で記した「語用論的意味」についての解説の一部を，本稿に合わせて加工した上で引用する。本稿の議論と直接の関係はないが，畳語のアクセントを考える上で避けて通れないため，補説として記すこととなった。

仁田（2004）「文法とは何か」（西山（2004）「語用論の基礎概念」も），前川（2004）「音声学」（藤崎（1994）の分類）より抜粋・引用し，箇条書で要約・補足・再構成する。

・命題… 話し手が外界や内面世界との関係において描き取ったひとまとまりの事態，文の意味内容のうち客体化・対象化された出来事や事柄を表した部分。文節で構成される。個々の文節には，世界の一断片を写し取ったところの語彙的意味を表わす側面と，他の単語に対する関係づけ等の文法的な意味や機能を担う側面がある。

・語用論… 形式を持つ命題を扱う「意味論」に対して，形式のない推論的な意味・機能を扱うものを「語用論」と呼ぶ。ここから，文法で扱う意味のうち命題的意味「以外」のものを語用論的意味と呼ぶが，文法で扱う以上，何らかの形式によって表わされることが前提であり，語用論の本義（＝形式を持たないこと）からは外れている。

・（日本語の）文法… 明確に規定できる形式を持つ，文の命題的意味（語彙的意味，文法的意味），語用論的意味（文のモダリティ的意味，連文的・文脈的意味など）を扱う。

・命題めあてのモダリティ… 発話時における話し手の命題に対する認識的な捉え方・把握の仕方を表したもの。断定・推量（に違いない，はずの，だろう，…）など。

・発話・伝達のモダリティ… 文をめぐっての発話時における話し手の発話・伝達的態度のあり方，その文の発話 - 伝達的役割・機能を表したもの。終助詞「か，よ，ね」など。

---

[20] このような不明瞭な使い分け，即ち，或る文脈で有標形が出現し易いという傾向はあっても，どちらか一方だけが出現する環境を用意できない使い分けは，既に「語用論的意味の区別」という形で知られている。

[21] 久米川町の話者による内省を示す（詳細は高山（2012d）参照）。「ギラギラが目に入る」は，「0 は暑さの強さを伝える」。「ゴロゴロが鳴る」は，「ガは上げた方が強い。雷そのものを指しているような」。「ダクダクだ」は，「0 は凄い汗をかいていて周りの人にもその様を伝える。4 は普通の話のアレ」。「クタクタだ」は，「0 は自分が疲れていることを相手が感知している。4 はただ話す」。「グニャグニャだ」は，「0 は相手がどう感じているかを含意。相手にも柔かさ・ぐにゃぐにゃさが分かるように。実際に物を見て曲がっている様子を相手が感じる。曲げているのを見ている感じ。4 は相手がどう感じているかを必ずしも言っていない」。「モヤモヤが出る」は，「意味は例えば，山の霧。0 は空を見ていると曇ってきて風が出てきてそれから霧が出るという自然の法則に則った感じ。4 は急に何の前触れも無く出てきたというのが分かるという感じで，例えば妖怪の仕業なら 4 になる」。「顔にボツボツがある」は，「0 は孫とか相手に触ってもらいながら。ぼつぼつが目に見えて分かるような感じ」。なおこれらは小野編（2007）を用いて語幹の意味が偏らないよう選んだ 98 項目中，内省の得られた一部を挙げたが，全項目で「0, 4」両音形を得ている。

・言語的情報（linguistic information；命題的意味＝知的意味相当）… 主知的な意味の対立に関係する情報．話者による意識的な制御をうけ，離散的な表現が可能である．

・パラ言語的情報（paralinguistic information；語用論的意味，情的意味相当）… 対話の制御にかかわる情報のほか，発話の意図や話者の心的態度に関する情報が含まれる．話者によって意図的に制御されるが，単一の意味カテゴリの内部で，量的かつ連続的な変化（例えば「疑い」の強弱）が生じうる点で，離散的な言語的情報と異なる．※形式の非離散性が特徴となるが，その表わす「パラ言語的意味」は語用論的意味の一部と考えられる。

・非言語的情報（nonlinguistic information；情的意味相当）… 話者が意識的に制御することのできない情報であり，主として話者の身体性に関する情報である．話者の性別や個人的特徴のほか，体調の良否や，生理的反応としての感情（恐怖，驚きなど）も含む.

さて，知的意味（＝命題的意味）の弁別に基づく音韻は，語用論的意味（≒情的意味）を区別していてもよいが，語用論的意味の区別を以って音韻とは言えない。ここで語用論的意味を単純に排除するのではなく，語用論的意味だけを表わす特殊な音声まで含めた総合的な音韻論を構築し（「パラ言語的意味を基準とした音韻論の構築」（前川 2002）），従来の命題的意味の弁別に基づく音韻（「（通常の）音韻」）と，それ以外の語用論的意味の区別のみに基づく音韻（「語用論的音韻」）とを区別する[22]。分節音における助動詞や終助詞などのように，アクセントが語用論的意味を表わし分ける場合がある。以下に，いくつか簡単に例示する。

東京都東村山市の複合動詞では，前部要素の－②の位置に核がある（か「[こ]ろげ込む」のように頭高型の）場合，強調形（「[こ]き使う，[漏]れ聞く」等）の表わす動作は文字通り真剣に行われるが，－①の場合，真剣さが弱い。例えば，契約書を読む場合は「[読]み返す」のみ許容されるが，漫画の場合は「読[み]返す」でもよく，但し漫画を「[読]み返す」場合には真剣に内容を覚える等の意味になる。素手による本気の殺し合いでは「な[ぐ]り殺す」だが，冗談めいた一種の誇張表現では「な[ぐり]殺す」となる。強調形は，無標形（「漏[れ聞く，漏[れ聞]く」等）では表わされない「真剣さ」という「命題めあてのモダリティ」的な意味を，核の位置で表わし分ける（高山 2012e）。4 モーラ畳語については既述の通りである。

青森市では，「ピカピカ[だ」（「0」）が無標形で，「ピカピ[カ]だ」（「4」）が有標形となり，有標形は「話し手が不意に感じた驚きの表出」を表わす。これは工藤（2007）の，愛媛県宇和島市の形容詞の「叙述／表出」（アカイ／アカヤ）の区別に近く，「命題めあてのモダリティ」的な意味の区別となる。岩手県盛岡市では単純な「叙述／表出」の区別となる。

高知市上町（中央式）の形容詞は弁別的な 2 つの型：「[カル]イ，[シ]ロイ」を持つが，こ

[22] 他方で「命題的音韻」という言い方をしない理由は，「通常の音韻」が時に語用論的意味を表す場合を排除しないからである。もし排除するなら，例えば終助詞「ね」の分節音 [ne] は音韻 /ne/ ではないことになる。

滝浦（2007）は，終助詞「か／よ／ね」に，それぞれ順に，「か」：［－話し手］（話し手の判断保留・判断放棄），「よ」：［＋話し手］（話し手の一方的言明），「ね」：［＋聞き手］（聞き手への共有の確認・促し）（但し，「＋／－」は当該の情報が話し手なり聞き手なりの管理下に“ある／ない”ものとして伝達されるということ）という「弁別素性」を立てて中核的な「意味機能」とし，その他を語用論的な「コミュニケーション機能」とする。一見して他の弁別素性が含まれる例文は，文脈による見掛け上のものとする。「終」助詞と呼ばれるように文末に限定され，発話・伝達のモダリティの典型例となっている。

れら無標形に対する表出形 :「カー[ル]イ，シー[ロ]イ」がある（終止連体形のみ引き音必須，他の活用形では引き音任意，名詞「[カルサ，シ[ロサ」に表出形ナシ）。情態副詞「[カル]ガルと，[シロ]ジロと」にも表出形「カ[ル]ガルと，シ[ロ]ジロと」（引き音ナシ）がある。

以上の，語用論的意味を区別するアクセントは，通常はイントネーションが担うべき機能をアクセントが担っている，言わば例外的なものであるが，複合動詞や 4 モーラ畳語のアクセントを調査・研究する上では避けて通れない。他方で，対照の為に，語用論的意味の区別のみに基づく「語用論的音韻」として，数種のイントネーションを以下に例示する。

前川（2004: 47）「(e)句末音調」では，平叙文の発話末の下降（final lowering），質問文の末尾のピッチの上昇（＝聞き手への反応要求；滝浦 2007）などの「句末音調」の存在が述べられている。前川（2004: 47-51）「1.11 パラ言語的情報の伝達」では，「ヤマダサンデスカ」という文について，「中立」「感心」「疑念」「落胆」という 4 種類のパラ言語的情報をこめて発音した発話を測定し，「中立」「疑念」時の上昇の句末音調，「落胆」時のピッチレンジの縮小，「感心」「疑念」時の句頭の上昇の遅れ（いわゆる「遅上り」），その他分節音への影響，の存在が指摘されている。これらの様々なイントネーションは，「発話・伝達の」または「命題めあてのモダリティ」を表わしているので，「モダリティ的音韻」ということになる。但し「音韻」であるからには形式を明確に規定する必要があるが，前川（2004）も「探索的」と述べる通り，まだ確立されておらず，そもそも形式が明確に規定できるかも不透明である。

次に，形式を明確に規定できるイントネーションの例を挙げる。高山（2013a, 2013b）では，東京の「句頭の上昇」には，「文構造」（形式）を並べ立てる「並べ立て（arrangement ; 造語）」と，並んだ「文脈」（内容）から取り立てる「取り立て（focus または prominence）」の 2 つの機能が存在し，これらの機能が記号論的に表裏の関係にあることをあらためて指摘した[23]。「句頭の上昇」についての基礎的な解説は省略し，以下では語用論的機能の分析のみを記す。

「句頭の上昇」の中でも，前川（2004: 40-47）で「(a)アクセント句」「(d)強調」と節を分けるように，話し手が文の始端をマークする「文頭の上昇」と，文中に現れて意味を強調したりする「文節頭の上昇」とは，区別する必要がある。東北地方の昇り核の方言で文の終端をマークする「文末の下降」と，文中に現れて並列などを表わす「文節末の下降」（上野（1989: 192-193）「[ク]ジラト|ネ[ズ]ミト|ナマ[ズ]ト|イワシ。」）も同様と考えられる。伝統的に「句頭の上昇」「句末の下降」とまとめて呼ばれ，「|」は句切りを表わす。文の始端や終端をマークする利点は，発話に含まれる複数の文の間を句切る，即ち，文どうしを並べ立てる点にある。「来た，見た，勝った。」という複文は，「|[キ]タ|[ミ]タ|[カッ]タ。」と 3 つに句切るのが自然である。「3K とは“キツイ・汚い・危険”の意である。」という文（“ ”内は一種の引用部分）も，「|[サンケ]ーとは|キ[ツ]イ|キ[タナ]イ|キ[ケンの意]である。」のように句切るのが自然である。これらは，文どうしを並べ立てる機能が文の短さに影響されないことを示している。

[23] 「接続詞等による複合化は，複文の場合のように両者が明示されるのが一般的ではある。しかし，複合化された述語句の一方が明示され，他方が暗示されるという変則的な形ではあるが，広い意味では，とりたて詞も接続詞等に類する述語句の複合化を行っていると考えることができる。つまり，とりたても文の複合化の一種と考えられるのである。」（沼田 2009: 33）などのように，同様のことは以前から指摘されている。

窪薗（1995）は「(1a) |コ[ワ]イ目]のオマ]ワリサン」「(1b) |コ[ワ]イ|[目]の病気」,「(1c) |ア[オ]イ屋]根の家」,「(1d) |ア[オ]イ|[オ]ーキナ家」について，左枝分かれ構造の (1a), (1c) に対して右枝分かれ構造の (1b), (1d) には 2 度目の句頭の上昇が現れやすい点を指摘する。これに対して，上野（2009）は後述の「取り立て」機能に当たると考えられる「意味の焦点」で説明し，(1b), (1d) でも文脈により 1 句になりうることを指摘して，音調は構文から一義的には決まらないと述べる。しかし文脈を全く付与しなければ，(1b), (1d) は 2 句に分かれるのが自然であり，「怖い」と「目の」,「青い」と「大きな」を入れ換えても（日本語では）問題なく，意味的に「並列」に当たる。「そして・かつ」を挿入できる（「*怖いかつ目のお巡りさん」は非文,「怖いかつ目の病気」は OK)。従って (1b), (1d) の「目の」「大きな」における上昇は，他に文脈が無ければ，文節どうしを並べ立てる機能の現れと考えられる。

3 つの統語上の段階,「長い文，短い文，文節」を取り上げたが，これらの他にも，様々なレベルの統語境界に現れることが窪薗（1995）に述べられている。そこで「並列」と言うと語弊があるため「並べ立て」とした（「並列」以外の「並べ立て」は今後の課題とする)。

次に,「句頭の上昇」のもう 1 つの機能である「取り立て」について述べる。仁田（2004)，沼田（2000）より抜粋・引用し，以下に箇条書で短く要約・補足する。

・当の要素の，同一の類に属する要素群に対する関係のあり方を，系列的な関係（paradigmatic relation）と言う．文中のある要素に対する系列的な関係づけの付与が，取り立て助辞の働きであり，関係づけのあり方が取り立て助辞の意味である．【中略】

取り立て助辞によって担われている意味には,「塾なんか行きたくない.」のような，話し手の主体的な捉え方・態度【＝命題めあてのモダリティ】の濃厚なものから,「子供なら運動場で遊んでいるだろう.」のように，文脈情報（連文的意味）の卓越したものまで，幅と広がりがある．ただ，その基本は，文中の要素を同一の類に属する要素群との関係づけの中で捉え，自らが表している事態を他の事態に関係づけることにある．他の事態との関係づけを帯びるといったことは，結局，その文の生じる文脈に対しての情報を持つ，ということである．その文が生じるにあたって，どのような前提があり，何が影（裏面）の意味として表されるのか，といった出現文脈についての情報を文に付与する（仁田 2004: 15, 17）

・「とりたて」の働きをするものには，主なものとして，とりたて詞，工藤（1977）の限定副詞（後に改称して「とりたて副詞」（工藤 1982)），小林（1987）の序列副詞などがあり，この他に,「総記」あるいは「排他」の用法の主格助詞「が」もとりたての機能を持つ．また，音声的な情報としての卓立[24] などが，とりたての機能を果たす場合もある．ここではこれらのうち，文構成には直接関与しない任意の要素で，もっぱらとりたての機能を果たすとりたて詞について見ることで，とりたてを考えることにする．（沼田 2000: 153）

[24] 本稿では「句頭の上昇」による「卓立」のみ扱う。前川（2004: 45）には「語用論上・意味論上の重要性を示すために，発話の特定部分を前後と対比して際立たせるのが強調（focus）である．【略】音声学の文献では，プロミネンス (prominence) という術語が使用されることも」とあり,「強調」＝「卓立」と見られる。他方, contrastive な focus と informational な prominence を区別する研究もあり,「取り立て」との整合性が今後の課題となる。

以下では，仁田（2004: 14-15）と沼田（2000: 170-177）を参考に，とりたて詞「も・さえ」の機能から「句頭の上昇」の効果を分離する議論を行う。本稿では「句頭の上昇」の「取り立て的意味」を「情報的な重要さ（informational importance）」と見るが，これは「ほかでもない」（uninterchangeable）という意味で，「対比的」（contrastive）な暗示にも繋がっている。

先ず，「も」が数量詞に付く場合（仁田 2004: 15）について考える。「(2a) 集会に三百人も集まった」は，「(2b) 集会に三百人集まった」という命題について，「三百」を多いと評価した，という数量に対する話し手の主体的な捉え方を含む。ここで「(2c) |[集会に三百]人集ま]った」と「(2d) |[集会に|[三百]人集ま]った」を比べれば，前者は「三百」を予定通りの数と捉えているのに対して，後者は「三百」を何か価値のある情報，新情報であるとか，予想と違うとか，多い・少ないとか，そういった数として捉えている。また，「(2e) |[集会に三百]人も集ま]った」と「(2f) |[集会に|[三百]人も集ま]った」を比べると，後者が自然であり，前者は不自然であるか，または建前とは裏腹に本音では「三百」という数に大した感動も価値もないと判断している，という含みが付加されている。

次に，「も」が「単純他者肯定」（「A も」と述べた時，単純に「B も，C も，…」が暗示されること，累加の意）を表わす場合（沼田（2000）の「も $_1$」）について考える。「(3a)（足の動きに合わせて，）無自覚に手も動かしている」は，「(3b) |ム[ジ]カクに|[手]もうごか]している」が自然であるのに対して，「(3c) |ム[ジ]カクに手]もうごか]している」は不自然であるか，または全く周知の，取るに足らない情報として提示されている等の含みになる。

最後に，「も」が「意外」を表わす場合（沼田（2000）の「も $_2$」）について考える。沼田（2000）は「意外」の例文として「(57)（彼の放蕩ぶりには）親 <u>も／さえ</u> 愛想を尽かした.」を挙げ，この際，「も」と「さえ」（沼田（2000）の「さえ $_1$: 意外」）は交換可能であると指摘する。しかし，「(4a) |[か]れの放蕩ぶりに]は|お[や]も愛想]を尽か]した」が，「親以外は愛想を尽かすが，親は愛想を尽かさないと思った」という含み（意外さの含み）を持つのに対して，「(4b) |[か]れの放蕩ぶりに]はおや]も愛想]を尽か]した」は「案の定そうなった」という逆転した含み（意外性の無さの含み，親が大勢の中の一人に過ぎないという含み，累加の含み）を持ち，句頭の上昇の有無で意味が異なる。他方で，「(4c) |[か]れの放蕩ぶりに]は|お[や]さえ愛想]を尽か]した」は自然だが，「*(4d) |[か]れの放蕩ぶりに]はおや]さえ愛想]を尽か]した」は不可能で，「意外」の「さえ」は「句頭の上昇」を義務とする。これは「さえ : （上下限を超えて）意外」の付くものが「情報的に重要」である為と考える[25]。逆に「も」が「句頭の上昇」を義務としないのは，「（上下限を超えて）」のような意味が語彙的に存在しないからと考える。

以上のように，「句頭の上昇」はそれ自体「取り立て」機能を持つが，とりたて詞を持つ文節との相互作用を見ると，「句頭の上昇」の削除によって情報的価値が低下した含みが規則的に生じる一方で，とりたて詞固有の意味によって「句頭の上昇」が義務となる場合もある。

[25] 沼田（2000）は条件節中に現れる「さえ 2」（～さえあれば，等）を「最低条件」とするが，これを「さえ 1」に拡張するなら，「素人さえ勝てた」，「玄人さえ勝てなかった」の両者を考慮して，「（上下限を超えて）意外」と規定される。上下限は「情報的に重要」であるため，句頭の上昇を義務とするという理屈である。この点に関連して，「親さえ」の代りに「お巡りさんさえ」とすると唐突で不自然だが，「お巡りさんも」は全く自然。

かくして「句頭の上昇」には主に「並べ立て，取り立て」の 2 つの機能があると考える。パラ言語のような，工藤（2007）で言えば「表出」に当たる機能が全く存在しないと考えているわけではないが，「句頭の上昇」において主ではないだろうと考えている。筆者は語用論的意味を表わす音調を分類するに当たって，「並べ立て，取り立て，表出」という形態論的な 3 つの大きな枠組のどれかに当てはめた上で，可能なら更に細かく記述するという方策を採っている。最後に枠組の問題点について簡単に述べて，この補説を締めくくることにする。

「並べ立て」は統語の問題なのではないかという考え方がありうるが，明瞭な使い分けにならない以上，語用論的意味の問題と考えて良い。例えば岡山市の複合動詞で「揺[れ]う[ご]く」などと発音されうるのは，前部要素と後部要素が並列の関係にあるからと考えられることが数量的に示される（高山 2012c, 2013f）。しかし 4 モーラ畳語で，一部の方言において恣意的に 2 単位形で現れる場合，これを単純に「並べ立て」の産物と見るわけには行かない。「A と A」は「A と B」とは異なり，また「山々」は「山」が自立できるが「ピカピカと」は「ピカと」が自立できない。これらの構造上の問題が原因となり，畳語は扱いにくい。

「取り立て」は，これがイントネーションでなくアクセントに反映される場合，概念として大雑把すぎるきらいがある。例えば岡山市の複合動詞で「切る，込む」（例：よ[わ]り[切]る，お[も]い込[む）のように後部要素が前部要素の意味の「程度を強調」する場合（アスペクト的な含みが生じる場合もありえよう），2 単位形で現れやすい。「ちょっとやそっとではないこと」（程度強調）は「ほかでもないこと」（取り立て）の下位分類と捉えることができるが，ここで「程度強調」を「取り立て」と記述してしまうと当然，大雑把に過ぎる。

「表出」はそもそも大掴みである。（発話時の話し手の）感情・感覚・評価というものは，基本の喜怒哀楽の他にも多種多様で，それら全てが可能なら単純に「表出」とだけ記述すれば良い。しかし実際には何らかの制限が存在する場合があり，例えば青森市の 4 モーラ畳語の形容動詞の有標形では「（不意の驚きの）表出」となっている。このような但書は，話者が精密な内省を提供できる場合に限って得られるもので，リスト読み上げを中心として，気になった点は文法調査もする，という程度のアクセント調査では，細かい所までは分からない。「表出」というラベルが付いていても，但書の部分の記述が不足している可能性がある。

6. 青森市，盛岡市方言（以上外輪式）——核の位置を決める前部（＝後部）要素

青森市，岩手県盛岡市では昇り核と[26]，有核語の「言い切り形／接続形」の区別[27] によって音調型が決まる。下げ核と同様に「0, n」等の記号を定める。青森市で核が 1, 3 または 2, 4 モーラ目にあることを「13, 24」で表わすと，核によるダウンステップ（Igarashi (2006)，高山・中澤・大槻（2012a, 2012b））による小さな下降を「!」で表わせば「13」は「[はい!は]い。，[ただ!ただ…」などとなり，核による低平化（高山・中澤・大槻 2012a）により後部要素の上昇

[26] 青森市・盛岡市共に，有核語では核の位置で強く上昇し，無核語では文節末で弱く上昇するが，盛岡市では接続の環境で無核語が低平になることもある。

[27] 後に続く接続形（「…」で表わす）では音調句末の下降が現れず，言い切り形（「。」で表わす）では現れるが，言い切り形は青森市では最終音節のみ低くなり，盛岡市では 1 拍卓立となる。

が抑えられた「24」は「い[や]いや。」などとなる[28] [29]。盛岡市の「13」は「[や]れ[や]れ。」などとなる。なおセグメントは東京と同様に表記する[30]。

青森市では i1 群は裸では「[ピカピ]カ。」となるが，「と」が付くと一部語幹で「[トクトクと…（擬音語），トクトク[と（擬態語）（～注ぐ）」などと「1/ 0」で使い分け，i2 群ナシ（「13」（[ピカ!ピカ…）は動きを殊更に表現する為に用いるが，数量的に極僅か），i3 群は「[ピカピカ!ピカピカ!（中略）[ピカピ]カ。」（「15…」）となる。盛岡市では i1 群は裸では「1」だが，「と」が付くと「1/ 0, 4」（程度強調（擬音語も含む）／無標）で使い分け，i2 群ナシ，i3 群は「15…」か「00…」となる。青森市で「と」が付く形は数量的な分析から除外したが[31]，盛岡市では場合分けして下表にデータを示す。青森市の話者は 1987 年生れ（石江；市役所西の農村），四十代後半（松森；市役所東の市街），1991 年生れ（桜川；松森の西隣；個別の点に関する補強のデータとした）の 3 名である。盛岡市は『岩手方言アクセント辞典』[32] の，明治末期頃に生れた少なくとも計 3 名延べ 1 名のデータと，1929 年生れ（八幡町）の話者の調査データ[33] に基づく。以下に各方言の体系と比較を示す。

表 4．青森市，盛岡市方言の 4 モーラ畳語の体系と比較

		昇り核の有無と位置	13	1	2	3	0	4	計
青森市石江	形動	ピカピカ[だ。飛び飛び[だ。	0	4	2	8	175	0	189
	ト副	[ピカピカ]と。クロ[グロ]と。	0	433	4	51	35	0	523
	副詞	[つい]つい。みちみ[ち。	3	6	8	10	30	0	57
	感動	[やれ!や]れ。[もしも]し。	1	1	0	0	0	0	2
	名詞	し[なじ]な。（品々）	0	15	21	14	20	6	76
		計	4	459	35	83	260	6	847
青森市松森	形動	ピカピカ[だ。飛び飛び[だ。	1	1	2	11	163	3	181
	ト副	[ピカピカ]と。クロ[グロ]と。	4	397	6	34	36	0	477
	副詞	[つい!つ]い。みちみ[ち。	5	7	7	13	26	0	58
	感動	[やれ!や]れ。[もし!も]し。	8	0	0	0	0	0	8
	名詞	しな[じ]な。（品々）	0	10	15	28	14	4	71
		計	18	415	30	86	239	7	795

[28] 感動詞「いやいや」は各地で「0, 2, 24」が多く見られ，対応の観点からこのデータに問題はないが，少数のため数量的な分析から除外する。

[29] 無核語による高平化（高山・中澤・大槻 2012a）というのもあるが本稿には関与しない。なお上野善道（p.c.）によれば，青森市と発生条件は異なるが岩手県雫石町でもダウンステップ，高平化に当たる現象が存在する。

[30] 方言的なセグメントとして前鼻音付きの濁音や，語中で有声化する清音や，イ，シ，チ，ジが順にエ，ス，ツ，ズと合流する現象等が存在する。なお東村山市ではイとエが合流直前で，1 名のみ前鼻音が見られた。

[31] 青森市では i 群で「と」が付くと石江では「0」が 20 例，松森では 373 例，桜川では 2 例出現した（既述の擬音語／擬態語の使い分け）。東村山市でも i 群で「と」が付くと野口町では「4」が 10 例，恩多町では「0」が 44 例出現し（これらは数量的分析から除外した），「と」が付かなくても「0」が話者総計 35 例出現している（この原因は不明）。i 群で「と」を付けると現れる「0, 4」は，東村山市以北に現れる特徴である。

[32] なお，『岩手方言アクセント辞典』p.616 は「ピカピカ[ず]ー」のような形における「ずー」が東京の「する」に対応すると述べているが，八幡町の話者の著書（中谷 2011: 31）に「形容詞」とあり，同話者に打消の形を選んでいただくと「ピカピカ[ず]く[ね」（形容詞）であって「*ピカピカざね」（動詞）は不可能という回答だった。「華々しい」等の「しい」に対応する要素と考えられたため，本稿の分析から除外した。

[33] 八幡町の形容動詞「4」が特殊拍の影響で「3」にずれる場合は「4」として数えた。表において，i 群は平均・四捨五入した値で合計に算入したが，ii, iii 群はそのまま算入した。i, ii, iii 群はト a, b, c をデータとするので，他の群に比べて 3 倍のデータ量となっている。

		昇り核の有無と位置	13	1	2	3	0	4	計
盛岡市・辞典	形動	ピカピ[カ]に。飛び飛[び]に。	0	7	8	12	22	53	102
	ト副	ピカピカと。クログ[ロ]と。	0	175	13	3	162	48	401
	副詞	[しょ]うしょう。みちみち。	0	6	10	10	21	2	49
	感動	[や]れやれ。[も]しもし。	1	3	0	0	1	0	5
	名詞	し[な]じな。（品々）	0	6	17	14	11	5	53
		計	1	197	48	39	217	108	610
盛岡市八幡町	形動	ピカピ[カ]だ。飛び飛[び]だ。	1	2	9	11	37	152	212
	ト副	ト a, b, c の合計値	0	798	37	0	330	394	1559
	ト a	ピカピ[カ]と V。シ[ラ]ジラと V。	0	190	13	0	136	182	521
	ト b	[ピ]カピカ V。シ[ラ]ジラ V。	0	385	12	0	86	36	519
	ト c	ピカピ[カ]と。シ[ラ]ジラと。	0	223	12	0	108	176	519
	副詞	[つ]いつい。みちみち…	3	14	12	7	27	2	65
	感動	[や]れ[や]れ。[も]しもし。	4	7	0	0	0	0	11
	名詞	し[な]じな。（品々）	0	18	26	14	3	17	78
		計（ト副は平均・四捨五入値算入）	8	307	59	32	177	302	885

語群		i	ii	iii	iv	v	vi	vii	viii	ix	余	計
青森市石江	13	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	4
	1	433	8	2	1	1	0	5	1	16	10	477
	2	1	4	0	2	0	0	24	0	1	6	38
	3	9	39	13	4	1	0	24	1	4	3	98
	0	7	2	30	23	136	14	16	11	3	29	271
	4	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	6
	計	450	53	45	30	138	14	69	19	25	51	894
青森市松森	13	4	0	0	0	0	0	0	0	7	7	18
	1	397	5	2	3	0	0	5	0	12	8	432
	2	4	2	0	3	0	0	20	0	0	4	33
	3	9	32	1	5	0	2	39	1	3	4	96
	0	9	4	29	22	130	11	9	9	1	26	250
	4	0	0	0	0	3	0	0	4	0	0	7
	計	423	43	32	33	133	13	73	14	23	49	836
盛岡市・辞典	13	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	1	175	2	0	0	5	0	3	0	9	7	201
	2	13	1	0	4	3	0	24	0	1	6	52
	3	2	2	0	6	5	3	22	0	1	3	44
	0	145	15	11	16	11	7	12	4	2	8	231
	4	24	29	1	3	49	1	3	3	0	3	116
	計	359	49	12	29	73	11	64	7	14	27	645

語群		i	ia	ib	ic	ii	iii	iv	v	vi	vii	viii	ix	余	計
盛岡市八幡町	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	8
	1	787	189	378	220	13	13	4	1	0	9	1	20	17	340
	2	10	4	3	3	30	0	3	2	0	33	3	0	8	82
	3	0	0	0	0	0	0	3	1	1	12	0	5	7	29
	0	236	105	52	79	36	91	25	16	14	7	2	0	13	283
	4	339	160	24	155	71	8	6	134	3	8	11	0	24	378
	計	1372	458	457	457	150	112	41	154	18	69	17	29	73	1120

v 群の「0, 4」は青森市石江・松森，盛岡市八幡町では使い分ける（高山・中澤・大槻 2012b: 163-164 ; 桜川は「0」に合流済み)。青森市・盛岡市の「0/ 4」（v1 群／ v2 群）は工藤（2007）「叙述／表出」の区別に近い。盛岡市の「0/ 4」は単純な「叙述／表出」と考えられる。他方で青森市については，大槻知世の文法調査（石江・松森）によれば，「4」は文末において「訴え」の型で，話し手が心情的に（マイナスまたはプラスの感情の表出 ; マイナスが典型的)，「不意に感じた驚き」を聞き手に訴えかける為に用いる。文中でも「0, 4」は区別するが，「4」の「聞き手への訴えかけ」の要素が消え，「話し手が不意に感じた驚きの表出」のみとなる。vi 群の漢語では文末でも「0」が普通だが「4」も不可能ではない。viii 群の名詞に「0, 4」の 2 種あるが，形容動詞から生産的に派生するのは「4」だけで，問題の意味の区別は中和する。以下に大槻知世の内省と調査による文例を示す。文末で言い切る形に付した文脈は，対応する連体修飾の形にもそのまま適用されるが，「聞き手への訴えかけ」の有無が異なる。

表 5. 青森市石江，松森方言のオノマトペの形容動詞の「訴えの型」の文例

1a1	無標「0」 キラキラ[だ。［宝飾店（光り輝くものがあるのが当然の場所）でショーケースの中の貴金属を見て］
1b1	訴え「4」 キラキ[ラ]だ。（プラスの感情）［何の期待もせず開けてみた引き出しの中に宝石があるのを見つけて］（※同じ音形で，名詞という解釈も可）
2a1	無標「0」 ポカポカ[だ。［非常に寒い日に外から戻り，こたつに入って］
2b1	訴え「4」 ポカポ[カ]だ。（プラスの感情）［寒い日に外から帰って，まだ電源が入っていないはずのこたつに入ったところ，家人が既に電源を入れていたのかこたつが温かくて］
3a1	無標「0」 ピカピカ[だ。［父親の新品の時計を見て］
3b1	訴え「4」 ピカピ[カ]だ。（マイナスの感情）［成金趣味のような派手な時計を目にして］
4a1	無標「0」 グニャグニャ[だ。［縦書きでノートをとっている時に，真っ直ぐにならず左右に蛇行してしまって］
4b1	訴え「4」 グニャグ[ニャ]だ。（マイナスの感情）［縦書でお礼状を書くとき（真っ直ぐ書くことが期待される状況）に，真っ直ぐにならず左右にブレてしまったのを見て］
5a1	無標「0」 ベツベツ[だ。（※漢語の場合）
5b1	訴え「4」 ベツベ[ツだっ]てば。（マイナスの感情）［何度言っても分かってくれない相手に「もういい加減分かってくれよ」という気持ちで］
1ab2	無標「0」キラキラ[だ]ホーセキ[だ。／驚き「4」キラキ[ラだ]ホーセキ[だ。
2ab2	無標「0」ポカポカ[だ]コタツ[だ。／驚き「4」ポカポ[カだ]コタツ[だ。
3ab2	無標「0」ピカピカ[だ]トケー[だ。／驚き「4」ピカピ[カだ]トケー[だ。
4a2	無標「0」グニャグニャ[だ]モジ]だ。（※連体形は「～の」も可）
4b2	驚き「4」グニャグ[ニャだ!モジ]だ。（※ダウンステップが発生）

vii 群（「島々」等の語で，複合語に近い）では，前部（＝後部）要素が単語にもなる場合は，その核の有無と位置によって全体の核の位置が決まる傾向がある（下表の太枠)。下表で青森市石江を見ると，畳語が「3」の場合に例外が 3 例あるが，「形動・副詞」の例で，「名詞」に限れば例外は無い。青森市松森は「2, 3」を併用する語が 11 例，盛岡市の辞典は 6 例あり，「3」への合流が進んでいる。八幡町の話者は，前部要素が「0, 2」なら畳語は「2」，「1」なら「3, 1」になるという明確な傾向を持ち，恐らくこの種の分布の古態と見られる。

表 6. 青森市，盛岡市方言の vii 群（名詞・形動・副詞）とその前部（＝後部）要素の核

前部（＝後部）要素が単語にもなる畳語の核		1	2	3	0	4	計
青・石江	要素が「0」である畳語の数（和語＋漢語）	0+0	7+0	4+1	0+0	0+0	11+1
	要素が「1」である畳語の数（和語＋漢語）	1+2	0+0	6+4	2+2	0+0	9+8
	要素が「2」である畳語の数（和語＋漢語）	1+0	13+0	2+1	1+0	0+0	17+1
	計	2+2	20+0	12+6	3+2	0+0	37+10
青・松森	要素が「0」である畳語の数（和語＋漢語）	0+0	5+0	6+1	1+1	0+0	12+2
	要素が「1」である畳語の数（和語＋漢語）	1+2	0+0	5+3	2+0	0+0	8+5
	要素が「2」である畳語の数（和語＋漢語）	1+0	9+0	14+1	2+0	0+0	26+1
	計	2+2	14+0	25+5	5+1	0+0	46+8
盛岡辞典	要素が「0」である畳語の数（和語＋漢語）	0+0	8+0	2+0	5+0	0+0	15+0
	要素が「1」である畳語の数（和語＋漢語）	0+1	2+0	7+2	1+1	0+0	10+4
	要素が「2」である畳語の数（和語＋漢語）	0+0	6+1	6+0	2+0	0+0	14+1
	計	0+1	16+1	15+2	8+1	0+0	39+5
盛岡八幡	要素が「0」である畳語の数（和語＋漢語）	1+0	12+0	0+0	0+0	2+0	15+0
	要素が「1」である畳語の数（和語＋漢語）	4+2	1+0	5+5	1+0	1+0	12+7
	要素が「2」である畳語の数（和語＋漢語）	0+0	10+1	1+0	2+0	2+0	15+1
	計	5+2	23+1	6+5	3+0	5+0	42+8

7. 京都，神戸市，南あわじ市，徳島市，高知市方言（以上中央式）——式の対立

京都，兵庫県神戸市，南あわじ市，徳島市，高知市では，下げ核と声調（高く始まり自然下降しながらも平らに進む「高起式」と，低く始まりやがて上昇する「低起式」）が弁別的である。高起式，低起式を「a, b」で表わす。低起式で無核の際の上昇位置は，高知市は 2 拍目，徳島市は 3 拍目，その他は最終拍である。2 単位形は本来「a1.a1, b2.b2」だが「13, 24」で代用する[34]。語末核は高知市以外では拍内下降を有し，例えば「つ[ね]]（常 b2）」などとなる[35]。形容動詞語尾「だ」の方言形「や（，じゃ）」は 5 方言とも「低接」で[36]，例えば京都では「ピカピカ[に，ピカピ[カ]や」（総合的には b0）となる。下表で，京都方言は『日国』に基づく。神戸市は 1971 年生れの，徳島市は 1937 年生れの，高知市は 1946 年生れの話者各 1 名に関する辞典（中井ほか編 1997, 1999, 2001）のデータに，南あわじ市阿万は 1933 年生れの話者 1 名に対する中澤光平の調査に基づく。南あわじ市で i1 群は「13」を基本に「a1」まで揺れ，2 つ目のピッチの山を少し抑えた発音も現れる（「と」の有無は任意）。i2 群は存在せず，i3 群は「([ピ]カ[ピ]カと,) [ピ]カ[ピ]カ[ピ]カと, [ピ]カ[ピ]カ[ピ]カ[ピ]カと, …（～光る）」（「135…」）のように，後に動詞が続く際は必ず「と」が付く[37]。以下に体系と比較を示す。

高知市では i 群と ii 群の対立が明瞭だが，京都，神戸市，南あわじ市，徳島市では i 群に合

[34] 「24」は南あわじ市の「わ[れ]わ[れ]]，向[き]向[き]]」2 例（b2 との併用形で，我 b0，向き b2）のみで，岡山市の名詞の「13」（高山 2012b）と同様に一種の強調形と見られるが，数量的な分析からは除外する。

[35] 但し「a4」0 例，「b4」は京都「いろい[ろ]]」1 例のため，「a4, b4」は数量的な分析から除外する。

[36] 助詞・助動詞や文末の要素が低く付くことを一般に「低接」，高く付くことを本稿では「高接」と呼び，語が有する固有のアクセントとは切り離して考える。なお後述の土佐市の「ぢゃ」は音韻的に破擦音。

[37] 「と」が付く「13」は i3 群とも解釈できるが，「と」の無い「13」は i1 群としか解釈できず，数量的にも i1 群は「13~a1」である。i3 群に「15…」は存在しない。「単位」を繰り返す回数はその動作の回数を動機づけず，単に時間の長さを表わす。i 群には他に強調形「ク[ラー]クラ，グ[ルー]グル，ゴ[チャー]ゴチャ，ヒョ[ロー]ヒョロ」（非弁別的な引き音を挟む b2）が存在するが，数量的な分析からは除外する。

流直前か合流済みである。京都では ix 群に「b3」が現れるが，次節の高知県の各市町でも同様で，中央式の特徴と見られる。iv 群，vii 群，viii 群は群の内部で「a/ b」が分かれている。

表 7. 京都，神戸市，南あわじ市，徳島市，高知市方言の 4 モーラ畳語の体系と比較

		式と下げ核	13	a1	a2	a3	b2	b3	a0	b0	計
京都・辞典	形動	ピカピ[カ]や，[サンザン]や	0	4	2	0	11	5	33	97	152
	ト副	[ピ]カピカと，[ホ]ソボソと	5	380	0	1	1	1	37	5	430
	副詞	[つ]い[つ]い，[たまたま	3	9	4	0	14	1	20	11	62
	感動	[や]れ[や]れ，さ[て]さて	2	4	0	0	1	0	0	0	7
	名詞	つ[き]づき（月々）	0	1	19	0	14	9	12	11	66
		計	10	398	25	1	41	16	102	124	717
神戸市・辞典	形動	ピカピ[カ]や，[サンザン]や	2	3	0	0	2	3	2	15	27
	ト副	[ピ]カピカと，[ホ]ソボソと	41	41	0	0	3	2	1	0	88
	副詞	[つ]い[つ]い，[たまたま	3	4	0	0	3	4	7	4	25
	感動	[や]れ[や]れ	1	1	0	0	0	0	0	0	2
	名詞	つ[き]づき（月々）	0	2	0	0	3	2	4	4	15
		計	47	51	0	0	11	11	14	23	157
南あわじ市阿万	形動	ピカピ[カ]や，[サンザ]ンや	4	1	2	2	9	1	25	137	181
	ト副	[ピ]カ[ピ]カと，[ホ]ソボソと	384	165	1	2	3	0	39	1	595
	副詞	[つ]い[つ]い，[たまたま	9	4	3	2	17	1	26	2	64
	感動	[や]れ[や]れ，さ[て]さて	7	0	0	0	3	0	0	0	10
	名詞	[つき]づき（月々）	2	6	26	1	15	3	15	8	76
		計	406	176	32	7	47	5	105	148	926
徳島市・辞典	形動	ピカ[ピカ]や，[サンザ]ンや	2	2	0	2	6	2	1	13	28
	ト副	[ピ]カピカと，[ホ]ソボソと	43	43	1	0	2	0	2	0	91
	副詞	[つ]い[つ]い，[たまたま	3	2	0	3	6	0	5	1	20
	感動	[や]れ[や]れ	1	1	0	0	0	0	0	0	2
	名詞	[つき]づき（月々）	0	1	1	3	3	0	5	2	15
		計	49	49	2	8	17	2	13	16	156
高知市・辞典	形動	ピ[カピカ]や，[サンザ]ンや	2	2	1	2	4	2	1	14	28
	ト副	[ピ]カピカと，[ホソ]ボソと	38	39	5	3	0	1	3	0	89
	副詞	[つ]い[つ]い，[たまたま	4	4	5	4	2	1	4	1	25
	感動	[や]れ[や]れ	1	1	0	0	0	0	0	0	2
	名詞	[つき]づき（月々）	0	1	4	4	0	2	4	2	17
		計	45	47	15	13	6	6	12	17	161

	語群	i	ii	iii	iv	v	vi	vii	viii	ix	余	計
京都・辞典	13	5	0	0	1	0	0	0	0	4	0	10
	a1	351	44	2	3	2	0	1	0	8	8	419
	a2	0	0	0	1	0	0	21	0	0	4	26
	a3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	b2	1	0	0	1	1	0	27	0	2	9	41
	b3	1	0	0	0	2	0	6	0	7	1	17
	a0	6	1	33	18	8	16	8	9	4	9	112
	b0	4	2	0	11	92	3	6	5	0	4	127
	計	369	47	35	35	105	19	69	14	25	35	753

語群		i	ii	iii	iv	v	vi	vii	viii	ix	余	計
神戸市・辞典	13	38	3	0	0	0	0	0	0	4	2	47
	a1	38	3	0	1	0	0	1	0	7	2	52
	a2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	a3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	b2	0	3	0	0	0	0	7	0	0	1	11
	b3	1	2	0	1	1	0	5	0	2	2	14
	a0	0	0	1	7	0	2	1	3	1	0	15
	b0	0	0	0	2	13	0	4	2	1	2	24
	計	77	11	1	11	14	2	18	5	15	9	163
南あわじ市阿万	13	369	26	2	4	0	0	2	1	12	12	428
	a1	143	23	5	1	0	0	2	1	7	3	185
	a2	1	1	0	3	0	0	30	0	0	1	36
	a3	1	1	0	1	0	1	1	0	1	1	7
	b2	2	3	0	3	2	1	26	0	2	15	54
	b3	0	0	0	0	0	0	3	0	2	0	5
	a0	10	5	32	24	0	16	7	9	4	13	120
	b0	1	0	0	2	133	1	2	6	0	4	149
	計	527	59	39	38	135	19	73	17	28	49	984
徳島市・辞典	13	38	5	0	1	0	0	0	0	4	2	50
	a1	39	5	0	0	0	0	0	0	4	2	50
	a2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
	a3	0	0	0	2	0	1	3	0	1	1	8
	b2	0	2	0	2	1	0	10	0	0	2	17
	b3	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	3
	a0	1	0	1	4	0	1	0	5	1	0	13
	b0	0	0	0	0	13	0	2	0	2	1	18
	計	78	13	1	9	15	2	18	5	12	8	161
高知市・辞典	13	38	0	0	1	0	0	1	0	5	2	47
	a1	38	1	0	1	0	0	1	0	6	2	49
	a2	0	5	0	2	0	0	6	0	1	1	15
	a3	0	3	0	2	0	1	4	0	1	2	13
	b2	0	0	0	0	1	0	4	0	0	1	6
	b3	1	1	0	1	0	0	3	0	1	0	7
	a0	1	1	1	4	0	1	0	4	0	0	12
	b0	0	0	0	1	13	0	2	1	0	1	18
	計	78	11	1	12	14	2	21	5	14	9	167

8. 高知市春野町，高知市上町，安芸市，土佐市方言（以上中央式）—— i 群と ii 群の対立

前節を受け，更に高知県（中央式の地域）で，高知市春野町（1932 年生れ），高知市上町（1946 年生れ；中井編（1997）と同じ話者），安芸市（1949 年生れ），土佐市（1927 年生れ）の 4 名を調査した。春野町の話者は南あわじ市と同様に i1 群は「13」をむしろ基本とし，安芸市・土佐市も「13」を自由異音とする。上町の話者は京都と同様に「13」（i2 群）を稀にしか用いない。i3 群は「1357…，15…」のいずれも可能である。以下に体系と比較を示す。

表 8. 高知市春野町，高知市上町，安芸市，土佐市方言の 4 モーラ畳語の体系と比較

		式と下げ核	13	a1	a2	a3	b2	b3	a0	b0	計
高知市春野町	形動	ピ[カピカ]じゃ，[サンザン]じゃ	4	0	2	1	10	1	12	164	194
	ト副	[ピ]カ[ピ]カと，[ホソ]ボソと	389	226	37	0	15	0	37	0	704
	副詞	[つ]い[つ]い，[たまたま	10	7	13	1	18	0	13	3	65
	感動	[や]れ[や]れ，さ[て]さて	5	1	0	0	3	0	0	1	10
	名詞	[つき]づき（月々）	0	3	27	0	15	8	10	12	75
		計	408	237	79	2	61	9	72	180	1048
高知市上町	形動	ピ[カピカ]や，[サンザ]ンや	2	1	4	5	10	2	15	160	199
	ト副	[ピ]カピカと，[ホソ]ボソと	2	460	45	38	0	0	48	0	593
	副詞	[つ]いつい，[たまたま	1	11	15	13	15	1	17	1	74
	感動	[や]れやれ，さ[て]さて	3	7	0	0	3	0	0	0	13
	名詞	[つき]づき（月々）	0	5	28	3	10	5	12	15	78
		計	8	484	92	59	38	8	92	176	957
高知県安芸市	形動	ピ[カピカ]じゃ，[サンザン]じゃ	3	3	2	1	6	1	13	167	196
	ト副	[ピ]カピカと，[ホソ]ボソと	55	439	36	0	1	0	59	7	597
	副詞	つ[い]つい，[たまたま	4	10	9	1	15	1	14	7	61
	感動	[や]れ[や]れ，さ[て]さて	5	1	0	0	3	0	1	0	10
	名詞	[つき]づき（月々）	1	7	28	0	11	5	8	16	76
		計	68	460	75	2	36	7	95	197	940
高知県土佐市	形動	ピ[カピカ]ぢゃ，[サンザン]ぢゃ	3	3	3	1	8	2	15	160	195
	ト副	[ピ]カピカと，[ホ]ソボソと	148	425	0	0	3	0	52	0	628
	副詞	[つ]いつい，[たまたま	0	14	6	0	16	2	17	2	57
	感動	[や]れやれ，さ[て]さて	3	4	0	0	4	0	0	0	11
	名詞	[つき]づき（月々）	0	2	27	1	12	10	11	12	75
		計	154	448	36	2	43	14	95	174	966

語群		i	ii	iii	iv	v	vi	vii	viii	ix	余	計
高知市春野町	13	377	22	3	5	0	0	1	0	9	7	424
	a1	203	18	19	2	0	0	1	0	8	2	253
	a2	9	32	2	6	1	0	30	1	1	5	87
	a3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2
	b2	13	12	0	6	0	1	25	1	3	17	78
	b3	0	0	0	0	0	0	2	0	6	2	10
	a0	9	1	30	12	0	12	3	7	2	1	77
	b0	0	0	0	3	140	4	4	8	1	22	182
	計	611	85	54	34	141	17	67	17	30	57	1113
高知市上町	13	2	0	0	0	0	0	1	0	4	1	8
	a1	452	23	3	4	0	0	1	0	18	14	515
	a2	17	41	0	8	0	0	33	1	1	7	108
	a3	11	37	0	7	0	1	10	0	2	5	73
	b2	0	0	0	4	2	1	18	0	2	13	40
	b3	0	0	0	0	0	0	4	0	4	0	8
	a0	15	3	36	17	0	13	5	7	1	4	101
	b0	0	0	0	1	136	3	5	9	3	21	178
	計	497	104	39	41	138	18	77	17	35	65	1031

語群		i	ii	iii	iv	v	vi	vii	viii	ix	余	計
高知県安芸市	13	53	6	3	3	0	0	0	0	7	5	77
	a1	428	15	11	2	1	0	1	1	11	11	481
	a2	11	33	0	7	0	0	31	0	0	4	86
	a3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2
	b2	0	1	0	4	0	0	22	0	4	9	40
	b3	0	0	0	0	0	0	3	0	5	0	8
	a0	26	5	37	12	0	13	3	4	1	4	105
	b0	7	0	0	6	138	6	6	11	1	24	199
	計	525	60	51	34	139	19	67	16	29	58	998
高知県土佐市	13	142	8	3	1	0	0	1	0	3	3	161
	a1	396	43	6	8	1	0	1	0	13	9	477
	a2	0	0	0	3	0	0	28	0	0	5	36
	a3	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
	b2	1	3	0	4	0	1	21	0	3	14	47
	b3	0	0	0	0	1	0	5	0	8	1	15
	a0	20	2	35	14	0	13	4	8	1	6	103
	b0	0	0	0	2	138	2	4	9	1	19	175
	計	559	56	44	32	140	16	66	17	29	57	1016

高知県の中央式は形容詞が 2 型を保つなど，古態をよく留めていることで知られる。仁淀川以東の春野町・上町・安芸市では i 群と ii 群の対立が保たれており，土佐市は，仁淀川を挟んで東側の高知市春野町の状態から，ii 群が i 群に合流して成立したと見られる（理由は後述）。i 群は「13~a1」（または「a1~13」）で，ii 群は原則「a2」である。上町（城下町で，春野町の北）の話者は「a2~a3」だが，「a3」は併用形として挙げられるに過ぎない。「a2」を持ついくつかの語は「13~a1」を併用形とするが，ii 群の独立を脅かすほどには至っていない。上町の「b2」はゼロとなっているが，実際には「a2」と規則的に併用される。但し，無標形「a2」に対する表出形が「b2」であり，語用論的意味は異なるが，語彙的なものではない[38]。

[38] なお，形容詞は「軽い」等の「a2」と「白い」等の「a1」の 2 型に分かれるが，これら無標形「a2, a1」に対して表出形「b2」が存在し（更に語頭を伸縮性のある長音にすることで，形容詞の意味の程度の強さを表わす：「[かる]い→かー[る]い，[し]ろい→しー[ろ]い」），情態副詞「軽々と」等における「a2, b2」併用現象と並行している点を，上町の話者（中井編（1997）の話者）に教えていただいた。また，高山（2013a）の発表時に，低起式に見えるものは境界音調の一種の可能性があると指摘を受けたが，話者の内省は低起式で，録音を確認してもピッチの低下自体に伸縮性は認められない（※伸縮性は語頭の長音化が引き受ける）。

更に上町の話者より伺ったことを記す。表出形の表わす感情がプラスかマイナスかは，或る程度，その語幹の意味に影響されて偏りが生じる。形容詞の表出形の引き音は，終止連体形のみ必須で，他の活用形では任意となり，派生された情態副詞に引き音は現れない。名詞「[カルサ，シ[ロサ」や，「[アカ]イ，[マル]イ，[ウ]マイ，[フ]カイ，[ヨ]ワイ」に対する名詞「[アカミ，[マルミ，[ウマ]ミ，[フカ]ミ，[ヨワ]ミ」に表出形は存在しない。活用形を挙げる（表出形には「表」を付ける）：「[かる]い，かー[る]い(表)，[し]ろい，しー[ろ]い(表)，[かる]いろー，かー[る]いろー(表)，[し]ろいろー，しー[ろ]いろー(表)，[かる]かった，か(ー)[る]かった(表)，し[ろ]かった，しー[ろ]かった(表)，[かる]ー，か(ー)[る]ー(表)，し[ろ]ー，しー[ろ]ー(表)，[かる]ければ，か(ー)[る]ければ(表)，し[ろ]ければ，しー[ろ]ければ(表)」。なお「*かるや」のような「や」を付ける形は存在しない。また，引き音は撥音でもよい：「[アオ]イ，アー[オ]イ(表)，アン[オ]イ(表)，[マル]イ，マー[ル]イ(表)，マン[ル]イ(表)，[ヨ]ワイ，ヨー[ワ]イ(表)，ヨン[ワ]イ(表)，[ク]ロイ，クー[ロ]イ(表)，クン[ロ]イ(表)，[セ]マイ，セー[マ]イ(表)，セン[マ]イ(表)，[ナ]ガイ，ナー[ガ]イ(表)，ナン[ガ]イ(表)」。子音により促音の場合がある：「[アカ]イ，アッ[カ]イ(表)，[ウス]イ，ウッ[ス]イ(表)，[チ]カイ，チッ[カ]イ(表)，[ホ]ソイ，ホッ[ソ]イ(表)」。このような表出形は語幹が 2 拍の形容詞とその畳語の情態副詞に存在するが，他の形容詞，情態副詞，形容動詞，意味的に形容詞に近い名詞などには，約 60 語調べたが，確認されなかった。他方で，情態副詞でなくただの副詞であっても「（時期が）[チカ]ヂカ，チ[カ]ヂカ(表)」が区別される。

上町の状態に加えて，春野町では ii 群に語彙的な「b2」が一定数存在するが，意味に偏りが見られる。1 つ目は，「薄々，ウマウマと，オチオチと，怖々と，マザマザと，マジマジと」のように情意表出的な意味のもので，2 つ目は「飽き飽きと，在り在りと，生き生きと，懲り懲りと，伸び伸びと」のように動詞を 2 回繰り返すタイプのものである[39]。これらは無標形「b2」に対して表出形が逆に「a2」となる。情意表出的なものは，表出形ばかり使われた為に無標と有標が逆転したと考えられる。動詞を 2 回繰り返すタイプのものは，そのようなアクセント規則が外部から ii 群に侵入して来ていると解釈される。安芸市（高知市から東へ離れた地点）の語彙的な「b2」は「ツクヅクと」で，土佐市の語彙的な「b2」は「繁々と，シミジミと，ツクヅクと」であり，情意表出的なものに限られている。土佐市では「a2」は i 群に合流した一方で，「b2」の一部は取り残されたと解釈される。以上[40] を踏まえた上で，通時的考察の中心となる，高知県（中央式の地域）の ii 群の語彙的な形は「a2」となる。

9. 甑島方言（九州二型），院政期京都方言（文献）——式保存の法則と式の対応

鹿児島県上甑島里方言（以下甑島方言）では声調（文節の次末で一旦上昇した直後に下降する A（型）と，文節末でただ上昇する B（型））が弁別的である。但し，鹿児島市では「A, B」とも低く始まるのに対し，甑島では語頭隆起のため高く始まり文節末付近で上昇する直前まで高い。また，言い切り形はともかく，接続形では A 型なら文節末の下降が生じず（条件により上昇すら生じない場合も），B 型なら上昇が生じないので，語頭隆起の長さで「A/ B」が対立する。また，「だ」に対応する「やい」は「低接」で，短い語に「やい」が付くと対立が中和する。特殊拍の扱い等，詳細な論点は先行研究（窪薗 2012，児玉 2012）を参照されたい。以下に語例・体系・比較を示す。「やい，すい，ない」は順に「だ（る），する，なる」に対応する。甑島では情態副詞に対して，引き音を伴う結果副詞（フラフラー（本土ではフラフレーとも），カチカチー，ラブラビー，スベスベー，ボロボレー等）が対立する。引き音を「に」に換えても B 型だが，他方「やい」が付くと A 型となる。用意した調査票の不備により下表の数値は多少混乱している。1948 年生れ（里・薗上），1950 年生れ（里・薗中）の 2 名の話者にそれぞれ約 6 割ずつ担当していただき照合･合算した延べ 1 名のデータとなる。

表 9. 甑島方言における A 型と B 型の対立例，甑島方言の 4 モーラ畳語の体系と比較

葉	A	[ハ	[ハ]と	ハ[か]ら	[ハ].や[い
歯	B		ハ[と	[ハ]か[ら	
鼻	A	[ハ]ナ	ハ[ナ]と	[ハ]ナ[か]ら	ハ[ナ].や[い
花	B	ハ[ナ	[ハ]ナ[と	[ハナ]か[ら	

[39] 対照の為に実験的に調べている項目：「撫で撫で，塗り塗り，混ぜ混ぜ，揉み揉み」は「b2」，「剃り剃り」は「b3」で，同様の音形を示した。なお南あわじ市阿万の「b2」はこのタイプと同様の分布を示す。

[40] なおこれらの他に，取り立て形（とりたて詞に類する意味を付加する強調形）の一種として，「[ハ]ルサメが（春雨）」は「[ハ]ルサ[メ]が」，「キョ[オ]ダイで（兄弟）」は「キョ[オ]ダ[イ]で」のように，助詞・語尾の直前のモーラを高める形式が広く存在するが（上町の話者の内省調査あり），ii 群も頻繁にこの取り立て形で実現し，無標形「[ホソ]ボソと」に対して，表出形「ホ[ソ]ボソと」，取り立て形「[ホソ]ボ[ソ]と」，表出形の取り立て形「ホ[ソ]ボ[ソ]と」がいずれも，少なくとも高知市上町・春野町では可能である。

女	A	オ[ナ]ゴ	[オ]ナ[ゴ]と	[オナ]ゴ[か]ら	オ[ナゴ].や[い
男	B	[オ]ト[コ	[オト]コ[と	[オトコ]か[ら	[オ]トコ.や[い
甘酒	A	[ア]マ[ザ]ケ	[アマ]ザ[ケ]と	[アマザ]ケ[か]ら	[ア]マ[ザケ].や[い
唐傘	B	[カラ]カ[サ	[カラカ]サ[と	[カラカサ]か[ら	[カラ]カサ.や[い

情態副詞（～と）	A	[ピ]カ[ピ]カ	[ピ]カピカ.[す]い	[ピ]カ[ピカ].や[い
結果副詞（～に）	B	[ピカピ]カ[ー	[ピカピ]カー.[す]い	[ピカピ]カー.な[い

夏 A	春 B	行く A	書く B
[ナ]ツ	ハ[ル	[イ]ク	カ[ク
夏休み A	春休み B	行きやれ A	書きやれ B
[ナツ]ヤ[ス]ミ	[ハルヤ]ス[ミ	イッ[キャ]レ	[カッ]キャ[レ
夏休みだ A	春休みだ B	行きやり申せ A	書きやり申せ B
[ナツ]ヤスミ.や[い	[ハルヤ]スミ.や[い	[イッ]キャイ[モ]セ	[カッキャイ]モ[セ

		A 型／B 型と和語／漢語	A 和	B 和	A 漢	B 漢	計
上甑島里	形動	ピカピカーB，擦れずれに B	42	117	4	11	174
	ト副	赤々ーと A，青々ーと B	362	67	20	19	468
	副詞	たびたび A，ときどーき B	29	17	4	6	56
	感動	やれやれ A，どれどれ B	8	2	0	0	10
	名詞	くちぐち A，すみずみ B	32	35	4	4	75
		計	473	238	32	40	783

	語群	i	ii	iii	iv	v	vi	vii	viii	ix	余	計
上甑島里	A；前部単独 A	49	12	2	9	6	6	23	5	6	10	128
	A；前部単独不明	288	2	16	6	21	3	4	1	10	10	361
	A；前部単独 B	22	1	0	2	1	0	1	0	2	1	30
	B；前部単独 A	3	0	1	0	10	0	2	1	1	4	22
	B；前部単独不明	32	7	15	7	66	6	5	8	3	15	164
	B；前部単独 B	12	27	3	5	17	2	30	1	5	12	114
	計	406	49	37	29	121	17	65	16	27	52	819

前部要素が A 型ならば全体も A 型に，B ならば B になる傾向があり，生産的な語では特に明瞭である。この複合語規則は京都方言などの「a/ b」におけるいわゆる式保存の法則と対応し，更には「A/ B」が院政期京都方言の「a/ b」と対応することが知られている。下表に院政期京都方言（秋永（1991），秋永ほか編（1997）参照）に対する，本稿で扱う各地の対応を例示する。なお沖永良部島では「半」を「判（印鑑）」で代用した（沖永良部島の記号は次節参照）。「#」はデータ無し，院政期京都の「ax, bx」は式保存の法則により複合語と前部要素の式を双方向に推定したもの，「b1, ba, bb, b0」は順に「[[○]○，[[○○，○○(低平)，○[○」を表わす。横の番号は順に「1 広島市，2 尾道市（話者 2 名照合），3 岡山市（話者 1 名），4 東京，5 東村山市（話者 6 名照合），6 盛岡市（辞典と話者 1 名照合），7 青森市（話者 3 名照合），8 京都，9 南あわじ市，10 高知県（話者 4 名照合），11 院政期京都，12 甑島（話者 2 名照合），13 沖永良部島」を表わす。「類」は金田一語類，早稲田語類（動詞 2 類は (2) とした）。対応を見ると，甑島と沖永良部島は「bb」の「b-」を保ち，京都や南あわじ市では「bb」が「a1」に変化する。甑島方言は確かに古い形での「a/ b」対立と式保存の法則を保つが，式保存の法則が共時的にも生産的に働く点には留意すべきである。即ち，前部要素の型を複合語全体に過剰適用する可能性があり，「a/ b」対立の無い語群に類推で対立が生じたかもしれない。なお「38 まづ, 39 よく」の A 型は鹿児島本土にも見られる規則的な例外である（上野 2006: 39）。

表 10. 日本語諸方言の 2 拍語 60 語における式と核の対応（表 18 参照）

番号	*漢字*	*類*	*仮名*	*1 広*	*2 尾*	*3 岡*	*4 標*	*5 村*	*6 盛*	*7 青*	*8 京*	*9 淡*	*10 高*	*11 院*	*12 甑*	*13 沖*	*13 沖 segments*
1	口	1	くち	0	0	0	0	0	0	0	a0	a0	a0	a0	A	a0	]kucji[nu
2	此	1	これ	0	0	0	0	0	0	0	a0	a0	a0	a0	A	#	
3	末	1	すゑ	0	0	0	0	0	0	0	a0	a0	a0	a0	A	a0	]sue[nu
4	其	1	それ	0	0	0	0	0	0	0	a0	a0	a0	a0	A	#	
5	暇	1	ひま	0	0	0	0	0	0	0	a0	a0	a0	a0	A	a0	]hjima[ni
6	道	1	みち	0	0	0	0	0	0	0	a0	a0	a0	a0	A	a0	]micji[nu
7	共	-	とも	0	0	0	0,1	0,1	1	0	a0	a0	a0	a0	A	a0	]tumu[ni
8	誰	1?	たれ	1	0	0	1	1	1	1	a0	a0	a0	a0	A	a0	]taru[nu
9	謎	-	なぞ	0	0	0	0	2,0	2	0	b2	a0	a0	ba	A	#	
10	国	1	くに	0	2,0	0	0	0,2	0	0	a0	a0	a0	a0	A	a0	]kuni[nu
11	品	1	しな	0	2,0	0	0	0,2	0	0	a0	a0	a0	a0	A	a0	]sjina[nu
12	端	1	はし	0	2,0	0	0	0,2	0	0,2	a0	a0	a0	a0	A	a0	]Fasji[nu
13	先	1	さき	2	2	2	0	0	0	0,2	a0	a0	a1	a0	A	a0	]sacji[nu
14	程	1?	ほど	2	2	2	0	0,2	2	0	a0	a0	a0	a1	A	#	
15	否	-	いや	#	0	0	1	0,1	2	2	a0	#	a0	ax	A	#	
16	偶	-	たま	0	0	0	0	0	0	2	a0	a0	a0	ax	B	b2	ta[ma]ni
17	様	1?	さま	2	2	2	2	2	2	2	a1	a0	a0	a0	B	#	
18	人	2?	ひと	0	0	2	0	0,2	0	0	a1	a1	a1	a1	A	a0	]cjuR[nu
19	又	-	また	#	1	1	0	2	0	0,2	a1	a1	a1	a1	A	b2	ma[ta]ka
20	方	2	かた	#	2	2	2	2	1	2	a1	a1	a1	a1	A	#	
21	下	2	しも	#	2	2	2	0,2	0	2	a1	a0	a1	a1	A	#	
22	次	2	つぎ	2	2	2	2	2	2	2	a1	a1	a1	a1	A	a0	]cugi[nu
23	町	2	まち	2	2	2	2	2	0	2,0	a1	a1	a1	a1	A	a0	]macji[nu
24	皆	2	みな	#	2	1	2	2	0,2	2	a1	a1	a1	a1	A	#	
25	村	2	むら	2	2	2	2	2	2	2,0	a1	a1	a1	a1	A	#	
26	毬	2?	いが	2	2	2	2	2	0	2	b2	b0	b2	a1	B	#	
27	向	-	むき	1	1	1	1	1	1	1	b2	b2	a0	a1	A	a0	]muki[nu
28	其	4?	そこ	2	2	2	0	0	2	0,2	b0	b0	b2	b0	B	#	
29	後	4	あと	1	1	1	1	1	1	2	b0	b0	b2	b0	B	b2	a[tu]nu
30	数	4	かず	1	1	1	1	1	1	1	b0	b0	b0	b0	B	#	
31	隅	4	すみ	1	1	1	1	1	1	1,2	b0	b0	b0	b0	B	#	
32	中	4	なか	1	1	1	1	1	1	2	b0	b0	b0	b0	B	b2	na[R]nu
33	何	4	なに	0	0	0	1	1	1	1	b0	b0	b0	b0	B	b2	[nuR]nu
34	我	4	われ	#	1	1	1	1	1	1	b0	b0	b2	b0	B	b2	[waN]nu
35	未	-	まだ	1	1	1	1	1	1	1	b0	b0	b0	b0	B	b2	ma[da]ka
36	取	(2)	とる	#	1	1	1	1	1	1	b0	b0	b0	b0	B	b1	[tu]ju%N
37	見	(2)	みる	1	1	1	1	1	1	1	b0	b0	b0	b0	B	b1	[mi]ju%N
38	先	-	まづ	#	1	1	1	1	1	1	a1	a1	a1	b1	A	#	
39	能	-	よく	#	1	1	1	1	1	1	a1	a1	a1	b1	A	b1	ju[kwa]N
40	前	5	まへ	1	1	1	1	1	1	1	a1	a1	a1	b2	B	b2	[meR]nu
41	声	5	こゑ	1	1	1	1	1	1	1	b2	b2	b2	b2	B	b2	Fu[i]nu
42	更	-	さら	1	1	1	1	1	1	1	b2	b2	b2	b2	A	#	
43	常	5	つね	#	2,1	1	1	1	0,2	2	b2	b2	b2	b2	B	#	
44	唯	5?	ただ	1	1	1	1	1	1	1	b0	b0	b0	b2	B	b2	ta[da]nu
45	尚	-	なほ	1	1	1	1	1	1	1	b0	b0	b0	b2	A	#	
46	粉	-	こな	2	2	1	2	2	2	2	b0	b0	b0	bx	B	b1	[ku]R%
47	神	3	かみ	2	2,1	1	1	1	2	1	a1	a1	a1	bb	B	b1	[ha]mi[nu
48	半	-	はに	#	1	2	1	1,2	1	0,1	a1	a1	a1	bx	B	b1	[Fa]N%
49	家	3	いへ	2	2	2	2	2	2	2	a1	a1	a1	bb	B	#	
50	色	3	いろ	2	2	2	2	2	2	0,2	a1	a1	a1	bb	B	b1	[i]ru%R
51	草	3	くさ	2	2	2	2	2	2	2	a1	a1	a1	bb	B	b1	[ku]sa[nu

52	事	3	こと	2	2	2	2	2	2	2	a1	a1	a1	bb	B	b1	[ku]tu[nu
53	島	3	しま	2	2	2	2	2,0	2	2,0	a1	a1	a1	bb	B	b1	[sji]ma[nu
54	月	3	つき	#	2	2	2	2	2	2	a1	a1	a1	bb	B	b1	[cji]cji%R
55	時	3	とき	2	2	2	2	2	2	2	a1	a1	a1	bb	B	b1	[tu]ki[nu
56	年	3	とし	2	2	2	2	2	2	2	a1	a1	a1	bb	B	b1	[tu]sji[nu
57	節	3	ふし	2	2	2	2	2,0	2	2	a1	a1	a1	bb	B	a0	]Fusji[nu
58	山	3	やま	2	2	2	2	2	2	2	a1	a1	a1	bb	B	b1	[ja]ma[nu
59	元	3?	もと	0	2	2	2,0	2,0	2	0,2	a1	b2	a1	bb	B	b2	mu[tu]nu
60	後	3?	のち	0	0	2	2,0	2,0	2,1	2,0	a0	a0	a0	bb	A	#	
番号	*漢字*	*類*	*仮名*	*1 広*	*2 尾*	*3 岡*	*4 標*	*5 村*	*6 盛*	*7 青*	*8 京*	*9 淡*	*10 高*	*11 院*	*12 甑*	*13 沖*	*13 沖 segments*

10. 沖永良部島方言（琉球多型）――「カナガナーと」に見られる引き音

松森（2000, 2012）を参考に，類・系列の区別が明瞭で体系の解釈も明快な地点として鹿児島県沖永良部島国頭を選び，1943 年生れの話者 1 名（国頭・中部）にお願いして，名詞，動詞，形容詞，4 モーラ畳語のセグメント，アクセント，文法調査を実施した。4 モーラ畳語の体系と比較以外については高山（2013c）にデータと分析をまとめたので，本稿では重複を避け，最低限の点にだけ触れる。セグメント表記は上野善道らが用いている方式を基本とする（例：F[ɸ], c[ts], hj[ç], sj[ɕ], cj[tɕ], zj[(d)ʑ], R (引き音), N (撥音), Q (促音)）。表記方針は「弁別的な音声のローマ字転写」とし，例えば [çi] は /hi/ でなく hji と書く。声門閉鎖音を伴う半母音や喉頭化子音は大文字で表記する（例：]JuR[nu（魚の），[Ma]R%（馬））。アクセントの表記と解釈は上野（1992, 2006）を基本とする。アクセントは一種の上げ核であり，その有無と位置（n モーラ語に n 種の位置）が弁別的である。通時的にはいわゆる高起群が無核で低起群は有核だが，共時的には無核文節が低く始まり，有核文節は，語頭核語以外は高く始まる。通時的な高起群，低起群に属することを順に「a, b」で表わす。無核文節は低く始まり，最終拍に向けて緩やかに上昇するので，これを例えば「]○○○[○」のように表記する。また，無核を「0」で表わす（従って無核語は「a0」と表わせる）。有核文節が有する核は，その位置の次を上げる性質のほか，上げ核の定義とは別に，その位置の前があれば語頭隆起させる性質も有する。上げ核による上昇よりも語頭隆起からの下降の方が強く発音される場合もある。上げ核による上昇が弱い場合は「%」（半上昇）で表わす。語幹末のモーラから逆算指定で n 拍目の上げ核を「-n」で表わす（従って有核語は「b-n」と表わせるが，「bn」と略す）[41]。すると例えば「[○]○[○○」は「b3」と表わせる。松森晶子（2000, 2012）の A, B, C (, D) 系列は順に a0, b1, b2 (, b3) に対応する（但し D 系列の存在にはまだ問題がある）。「b1」の n 拍語で言い切ると最終拍が上昇により引き伸ばされ，「[○]R%, [○]○[R, [○○]○[R, [○○○]○%」のようになる。1 モーラ伸びる場合だけ R を書き足すが，「%」の直後も少し伸びている。上げ核で上がったあと，もし文節に余りがあれば普通はその後下降するが，そのまま高く進んでもよい（異音と見られる）。名詞は 2 モーラ 1 音節語と 2 モーラ 2 音節語に「a0, b1, b2」，3 モーラ語に「a0, b1, b2, b3」，4 モーラ語に「a0, b1, b2, b3, b4」が存在し，n モーラ語に n+1 の型がある。動詞は 2 モーラ語に「a0, b1」，3, 4, 5 モーラ語に「a0, b2」が存在し，2 型である。

[41] 「0, -1」等でなく「a0, b1」などと記す理由の一つに，「-」が目に見えにくく印刷で掠れやすい点がある。

形容詞[42] は「a0, b1, b2」の 3 型だが，「b2」は 4 例しか見当たらず，新たに生じた型と考えられる[43] 。以下に 4 モーラ畳語の体系と比較（琉球独自の語彙[44] を含む）を示す。

表 11. 沖永良部島国頭方言の 4 モーラ畳語の体系と比較

		上げ核の有無と位置	a0	b1	b2	b3	b4	計
沖永良部島国頭	形動	[hji]cja[hjicja(ni) ; b3，]tubitubi[ni ; a0	6	1	4	113	3	127
	ト副	[hji]cja[hjicja(tu) ; b3，[hanaga]naR[tu ; b1	7	37	0	362	0	406
	副詞	]tamata[ma ; a0，[tu]ki[duki ; b3	10	1	0	14	1	26
	感動	]FuriFu[ri ; a0，[udou]do[R ; b1	2	1	2	2	0	7
	名詞	]kunigu[ni ; a0，[sji]ma[zjima ; b3	18	2	1	22	3	46
		計	43	42	7	513	7	612

	語群	i	ii	iii	iv	v	vi	vii	viii	ix	余	計
沖永良部島国頭	a0	0	1	5	6	1	2	20	1	3	6	45
	b2	0	0	0	0	1	0	1	0	0	5	7
	b1	7	35	3	1	1	0	2	1	0	1	51
	b3	353	5	9	7	100	2	18	3	6	23	526
	b4	0	0	0	0	3	0	0	1	1	2	7
	計	363	41	17	14	103	4	41	6	10	37	636

v 群には東村山市に類似する意味の区別がある。東村山市の「個別感覚／共有感覚」に対して国頭では「独断／同意伺い」となり，「対自分（・家族）で，共感・了解を得ようとしない（従って他人に対して用いると相手の意思を無視した言い方となる）」形式と，「対相手（・他人）で，共感・了解を得ようとする」形式に分かれる。「対家族」が「独断」に含まれうる点や，感覚の共有というよりその要請である点が東村山市と異なる。東京の終助詞「よ／ね」（話し手の一方的言明か，聞き手への共有の確認・促しか）の区別に近い。音形は，何らかの音変化に伴い相応に変化している（i 群が v 群に合流し，派生関係にある ix 群も並行して viii 群に近づく結果，「[waN]waN（犬 b4）」などとなる（東村山市の「4」に対応する形））。v 群の形容動詞と派生形の viii 群は「[bu]cu[bucunu [ni]bu[tu（b3 ; 同意伺い，nibutu は腫物），bu[cu]bucunu [ni]bu[tu（b4 ; 独断），[ni]bu[tunu bu[cu]bucu」などとなり，東村山市の形容動詞・

[42] 形容詞から生産的に派生する情態副詞があるが，「sa」を含むことがあるため革新と見る：「[hji]R[sa]N（b1 寒い），nuN[gi]saN（b2 恐ろしい）」に対し，「]hjiRsahjiRsa([tu)（a0 寒々と），]nuNginuNgi([tu)（a0 怖々と）」。

[43] 原因としては，何らかの音韻条件によって生じた可能性の他に，高知県（中央式の地域）の形容詞の無標形「a2, a1」（順に院政期の高起式・低起式由来）に対する表出形「b2」のように，語用論的意味を表わす第 3 の型が，固定化され，言わば「語彙化」した可能性もある。「語彙化」の例としては情態副詞「a2」の表出形「b2」（安芸市「ツクヅクと」，土佐市「繁々と，シミジミと，ツクヅクと」）が挙げられる。語用論的意味を表わす「b2」が健在の高知市上町は語彙化が起こっておらず，高知市春野町は語彙化が進行中の状態と考えられる。

[44] ii 群の独自語彙として「[hanaga]naR[tu（愛々b1 ; 和気藹々と），[sabisa]biR[tu（寂々b1），[usuu]suR[tu（薄々b1 ; 薄っすらと）（左記 3 つは『日国』に記載），[kiR]giR[tu（黄々b1），[nuR]nuR[tu（何々b1 ; 一風変わって），[hjiR]biR[tu（日々b1 ; 日常的に）」，iv 群に「[ji]ru[jiru（ヨルヨル b3 ; ヨナヨナと仮に対応づける ; [ji]ru%R（ヨル b1）」，vii 群に「]sjaRzjaR[nu（下々a0 ; シタジタに該当 ;]sjaR[nu（シタ a0）），]sjiRzjiR[nu（隅々a0 ; シリジリに該当 ;]sjiR[nu（後・隅 a0）），[nuR]nuR[nu（何々b1 ; ナニナニと仮に対応づける ; [nuR]nu（何 b2）），[ja]R[jaRnu（家々b3 ; 屋々に該当 ; [ja]R[nu（家 b1））」を認め，ほか i 群，v 群，viii 群にもいくつか認めた。これらは抽象的な語群に対して比較するものである。

名詞の形態の区別「0/ 4」と国頭の「b3/ b4」[45] とは，多人数調査をすれば，比較できる[46]。

ii 群は原則「b1」[47] である（東村山市の「3」に対応する形；甑島に見られる「A/ B」対立は式保存の法則による類推の産物と見る）。「tu」が義務的で，語幹が 4 音節の語では語幹末に引き音が付く。この引き音は甑島でも 17 語で語彙的に保たれるが，国頭では規則的に現れる。次節の徳永晶子の文献調査によれば琉球各地に同様の形が確認される[48]。地理分布からこの引き音は琉球方言の古形と見るが，本土と比較した場合，アクセントの影響で生じた可能性がある。なお ii 群の情態副詞は，甑島以北では「2 モーラの要素」の表わす意味の「程度が甚だしいこと」を表わすが，国頭では「広範囲で不揃いなこと，斑のある広がり（飽和）」を表わす。「黒々と（焦げたパン）」は「真っ黒に」でなく「殆どが黒く」となる。「]hana[sjaN（愛しい a0）」の「（愛情が）一対一，集中」に対して「[hanaga]naR[tu（愛々）」は「（愛情が）多対多，拡散」（即ち，和気藹々）を意味し，「非常に愛しい」という意味にはならない。

iii 群と vi 群は「b3」の勢力も強いが，語彙の日用性や京都との対応から見て「a0」（doRdoRtu, meNmeNtu, moRmoRtu, mukumukutu, rakurakutu, tubitubini, maNmaNni）が本来の形と考える（甑島の「A/ B」対立は類推の産物と見る）。他方で，iv 群と vii 群の「a0, b3」は甑島や京都（現代，院政期）と比較して，本来の「a/ b」対立である可能性も考えられる（但し「b3」は iv 群では東村山市の「0」に，vii 群では「2」に当たる）。また viii 群と ix 群は「b3, b4」が多いが，甑島や京都と比較して「a0」（teNteN, FuriFuri (これこれ；感動), cuicui）も本来の形か。

11. 琉球方言（セグメント）——「ピカーピカ」に見られる引き音

本節は徳永晶子による調査研究を筆者が編集し，若干加筆したものである。i 群のセグメントは沖永良部島知名・国頭において，無標形 /CVCV-CVCV/，強調形 /CVCVR-CVCV/（国頭の例 : [inabi]ka[rinu [pi]kaR[pika, [hamidu]ru[nu [go]roR[goro）となる（/-/ は内部境界 ; /S/ は /C/ に含める）。この /R/ は非弁別的で，辞書等の見出し語への記載も殆ど無いが，口頭の回答では一定数現れる。ところが，琉球には /R/ を挟む無標形を有する地点が分布する。下表に

---

[45] 他の 4 拍語で「b3, b4」が自由に交替する例が見られたが（例：[ku]ni[gaminu, ku[ni]gaminu, [ku]N[zjainu, [kuN]zjainu（～[cjuR；国頭の人)），3 拍語で「b2, b3」が自由に交替する例は見られなかった。

[46] 以下のことは，アクセントによる区別ではないので東村山市と直接比較することはできないが，共時的体系として記述される。「b3」の語幹に対して「tu, ni」が付かなければ「独断」，付けば「同意伺い」となり，文中の情態副詞, 結果副詞ではセグメントが意味の区別を担う。文末では, 例えば語幹「[Fu]ja[Fuja, [Fa]R[Fa(R)（ほやほや b3)」に対して，「[daR（だ；断定の終助詞；借用語か），[dja]R（では；話し手の自信のなさを表わす終助詞），[doR（だぞ；伝達の終助詞），[jaQ]saR（だよ；コピュラ＋終助詞サ），ja[sji]ga（だが；コピュラ＋接続助詞シガ），[sjuN（する；動詞），[sjuQ]saR（するよ；動詞＋終助詞サ）」のような「文末の要素」（それぞれの品詞・意味については全てを厳密に確かめたわけではない）が，「低接」すれば「独断」，「高接」すれば「同意伺い」となる（他の環境では異音に過ぎない下降が，局所的に語用論的意味の区別を担う）。

[47] [oR]oR[tu（青々），[aR]aR[tu（赤々），[MaR]MaR[tu（旨々），[utiu]tiR[tu，[haruga]ruR[tu，[kuragu]raR[tu，[kurugu]ruR[tu，[Fumagu]maR[tu，[sjimizji]miR[tu，[sjirazji]raR[tu，[sjuR]zjuR[tu（白々），[takada]kaR[tu，[nagana]gaR[tu, [namana]maR[tu, [namina]miR[tu, [noR]noR[tu, [nubinu]biR[tu, [heR]beR[tu（早々），[haruba]ruR[tu，[Fariba]riR[tu，[hjuR]bjuR[tu（広々），[Fukabu]kaR[tu，[Fusubu]suR[tu，[Funubu]nuR[tu，[Furibu]riR[tu，[mazama]zaR[tu，[mazjima]zjiR[tu，[maruma]ruR[tu，[juR]juR[tu，[juruju]ruR[tu，[rakura]kuR[tu。

[48] 与論島 (cjikucjikuRtu)，那覇 (akaakaRtu, uFuuFuRtu, kanaganaRtu, cjirazjiraRtu, FuriburiRtu, jasjijasjiRtu, jaFajaFaRtu, rakurakuRtu)，石垣島 (uFuuFuRtu, rakurakuRtu)。これらは次節の表 12 の数値から除外した。

調査結果を示す。横の番号は順に「1 石垣市登野城（宮城 2003），2 宮古島市城辺町（城辺スマフツ研究会編 2003, 2012），3 沖縄島那覇市（内間ほか 2006），4 沖縄島今帰仁村（沖縄言語研究センター2000），5 与論町麦屋（菊ほか 2005），6 沖永良部島知名町知名（徳永 2012a, Tokunaga 2012），7 徳之島天城町浅間（岡村ほか 2009，徳永 2012b），8 奄美大島大和村大和浜（長田ほか 1977, 1980），9 喜界町阿伝・志戸桶・城久（竹田 2011）」を表わす。

表 12. 琉球諸島各地における畳語の音韻形態構造

		構造＼地点	1 石垣	2 宮古	3 那覇	4 今帰	5 与論	6 沖永	7 徳之	8 奄美	9 喜界	計
無標群	1	/CVCV-CVCV/	22	37	18	17	17	58	12	61	50	292
	2	/CVCVR-CVCV/	26	56	0	9	0	7	45	0	0	143
	3	/CVCVR-CVCVR/	11	11	3	41	51	12	1	1	1	132
		無標群の割合 (%)	*63*	*92*	*58*	*97*	*52*	*92*	*88*	*97*	*91*	*80*
有標群		有標群の割合 (%)	*37*	*8*	*42*	*3*	*48*	*8*	*12*	*3*	*9*	*20*
	4	/CVQCVR-CVQCVR/	1	0	1	1	55	1	0	0	0	59
	5	/CVRCV-CVRCV/	16	1	2	0	2	3	2	0	4	30
	6	/CVQCV-CVQCV/	9	7	0	0	0	0	0	2	1	19
	7	/CVRCVR-CVRCVR/	6	1	4	0	5	0	0	0	0	16
	8	/CVCV-CVCVR/	2	0	8	1	0	3	0	0	0	14
	9	/CVCVQ-CVCV/	1	0	0	0	0	0	6	0	0	7
		計	94	113	36	69	130	84	66	64	56	712

2 音節を繰り返す語（2 音節畳語）は例外無く拾ったが，前節で例示した ii 群の分の数値は上表から除いた。多様な 2 音節畳語の中でも複数地点で多数の語彙が採録されるのは上表の縦の番号の 1 から 3 番までで，4 番以降は地域が限られるか度数が小さい。そこで 1 から 3 番までを「無標群」，残りを「有標群」と推定する。無標群の中では各地点の最大度数の形を「無標形」と推定し（但し宮古島城辺の音形については後述），太枠で示す。有標群の中では度数 3 以上の形を太枠で示す。無標形の地理分布を見ると，徳之島を除く沖永良部島以北は /CVCV-CVCV/，那覇を除く与論島以南は /CVCVR-CVCV(R)/ となる。但し徳之島浅間方言は「自立語は必ず重音節を 1 つは含む」（上野 2000）ため，共時的規則の影響も考えられる。琉球地域北部の与論島を含む広範囲に分布するため，/R/ を挟む無標形は琉球方言の古形である可能性が考えられる（各地で改めて詳しく調査した上で判断すべきだが，ここでは既存の辞典等のデータだけから「見通し」として，大まかに推定することを試みた）。本土の古形 /CVCV-CVCV/（山口 2002: 34-35）と比較すると，アクセントの影響で生じた可能性がある。

ところで，宮古島城辺では他と異なり，語中長音は寧ろ ii 群の特徴である。下表は『城辺町スマフツ辞典』に掲載された畳語 113 語のうち，本稿の語群との対応が明らかなものを選び出し，音韻形態構造の偏りについてまとめたものである。i 群の多くは /CVCV-CVCV/ 型を取るのに対し，ii 群の全てが /CVCVR-CVCV(R)/ 型を持つことが分かる。

表 13. 宮古島城辺の畳語の語類と音韻形態構造（『城辺スマフツ辞典』より）

構造＼群	i	ii	iii	iv	例
/CVCV-CVCV/	7	0	0	0	i : カシャカシャ（かさかさ），ガヴガヴ（がぶがぶ），カラカラ，クタクタ，グルグル，ドゥルドゥル（どろどろ），パタパタ。
/CVCVR-CVCV/	1	7	1	1	i : ヌフーヌフ（ぬくぬく）。ii : アカーアカ（赤々），カス゜ーカス゜（軽々），クマークマ（細々），タカータカ（高々），ナガーナガ（長々），フカーフカ（深々），ヤスーヤス（易々）。iii : ラクーラク（楽々）。iv : ムトゥームトゥ（元々）。
/CVCVR-CVCVR/	0	1	0	0	ii : アヴーアヴー（青々）。
/CVN-CVN/	2	0	0	0	i : トゥントゥン（とんとん），ピンピン。
/CVRCV-CVRCV/	1	0	0	0	i : ユーサユーサ（ゆさゆさ）。
合計	12	8	1	1	

また，新たに ii 群に追加される語彙もある。下地（2006: 103）等が指摘するように，宮古諸方言の一部[49] では形容詞語根の重複による畳語の形成が生産的で，城辺も同様である。形容詞語根の重複の場合，多くは /CVCVR-CVCV/ 型となる。意味的には「程度の強調」を表し，形容詞もしくは情態副詞として働く。『城辺町スマフツ辞典』より次に項目を引用する。

タカムヌ.　　①人の背丈や木などが高い事。②品物の値段が高い事。値打がいい物。
タカータカ.　　とても高いこと。人の背丈や木、山などがそびえるようにして高いさま。
フサムヌ.　　臭いもの。腐ってにおうこと。
フサーフサ.　　とても臭いこと。嫌なにおいがつんと鼻をつく。

このように，宮古島城辺方言において語中長音は ii 群の特徴であり，また ii 群が独自の発展を遂げた結果, 多くの形容詞が生産的に ii 群を構成する畳語を派生したものと考えられる。i 群が語中長音，ii 群が語末長音を有するタイプの方言と，寧ろ ii 群が語中長音を有するタイプの方言とが存在することになり，琉球の畳語の長音を考察する際には注意を要する。

12. 院政鎌倉期，室町江戸期，現代の京都方言（中央式の成立）——歴史的な音変化

中井（2003）を参考に京都方言における 4 モーラ畳語の変遷を見る。声点「平，東，上，不明」は「L (低), F (拍内下降), H (高), X」で記す。秋永ほか編（1997）より「(1) 院政鎌倉期，(2) 室町江戸期，(3) 現代」のデータを作成し，本稿の中央式のデータで (3) を補う。(1) に例が無いものは原則拾わないが，(2) から (3) への情態副詞の変化を示すものは拾う。鈴木編（2003: 196）「サワサワに LLLHH（前田本），LLLLH（他）」は誤りと見て，前田育徳会尊経閣文庫編（2002: 33），石塚編（2007: 139）の「LHLHH」を採る。X を含む併用形で他と一本化できるものはして，通時的に矛盾する併用形を除き，X を共時的・通時的に推定した上で，X がなお残る項目は除外し，以下に分析を示す。語例僅少のため方言で未調査の語彙の

[49] 宮古群島の一つ伊良部島では，南区の長浜・国仲・仲地・伊良部集落で形容詞の重複が生産的であるのに対し，北区の佐良浜（池間添，前里添）では重複が起こらないとの回答が得られた（2012 年 9 月一橋大学中島由美ゼミ伊良部島調査より）。重複が生産的な方言では，情態副詞の ii 群も宮古島城辺と同様かもしれない。

一部を本稿の語群に割り振る。院政鎌倉期の語例を次に示す。a0 :「いやいや(感動) (1) HHXX, (2) HHHH, HHLL, (3) HLLL, 偶々 (1) HHXX, (3) HHHH, 泣く泣く (1) (2) (3) HHHH, 又々 (1) HHXH, (1) (3) HLLL」。a1 :「サヤサヤ (1) HLXX, (3) HLLL, バラバラ (1) HLXX, (3) HLLL, ハルバル (1) HLXX, (2) HLLL, HHLL, (3) HLLL, ヒソヒソ (1) HLXX, (2) (3) HLLL, ホノボノ (1) HLLL, (2) HHLL, (3) HLLL」。a2 :「カツカツ(疲労) (1) HHLL, 区々 (1) (2) HHLL, (3) HLLL, 愈々 (1) (2) HHLL, (3) HLLL, 事々(悉) (1) (2) (3) HHLL, 益々 (1) HHLL, (2) HLLL, (3) LHLL, まにまに (1) HHLL, (3) HHHH, 各々 (1) (2) (3) HHLL, (3) LHLL, くまぐま(隈々) (1) HHLL, 品々 (1) (3) HHLL, 人々 (1) HHXX, (2) (3) HHLL」。a1.a1 (2 単位形 ; 13 と略す) :「日に日に (1) HLHL, HLFL, (3) HLLL」。b00 (低起式昇り核 0 下げ核 0 ; 以下同様) :「種々 (1) LLXX, (2) HHHL, (3) HHLL, LHLL, しかしか(然々) (1) LLLL, (2) LLHH, (3) LHLL, 時々 (1) LLLL, (2) (3) LHLL」。b20 :「きぬぎぬに (1) LHHH-H, (2) LHLL, ツダツダ(寸々) (1) LHHH, LLXX, (3) LLLH, 猩々ｼｬｳｼﾞｬｳ (1) LHHH, (3) LLLH, タガタガ(幼児の初歩き) (1) LHHH, 時々 (1) LHHH, (3) LLLH, ハタハタ(飛蝗) (1) LHHH, (3) LLLH」。b22 :「交々 (1) HLXX, (1) (3) LHLL, つらつら (1) (2) LHLL, (3) HLLL, ヨソヨソ(巍々) (1) LHLL, 声々 (1) (2) (3) LHLL」。b30 :「かつがつ(且々) (1) LLHH, (2) LHLL」。b33 :「ほとほど(殆ど) (1) LLLH, LLHL, (2) (3) LHLL」。b40 :「中々 (1) LLLH, (2) HHLL, (3) HHHH」。b20b20 (2 単位形 ; *24* と略す) :「サワサワに (1) LHLH-H, ハロハロに (遥々) (1) LHLH-H, 諸々 (1) LHLH, (1) (2) (3) HHHH」。b20 か *24* :「モヤモヤも (1) LHXX-L, (3) LLLH」。室町江戸期などの語例は秋永ほか編（1997）等を参照されたい。

表 14. (1) 院政鎌倉期，(2) 室町江戸期，(3) 現代の京都方言の体系と比較

		(1) (2) (3) の 2 式	a-					b-							計
		(1) の昇り核	なし					3	2	4	3	2	0	*24*	
		(1) (2) (3) の下げ核	13	1	2	3	0	3	2	なし					計
(1) 院政鎌倉期	形動	[区]々，つ[だつだ			2				1			2	1	2	8
	ト副	[ほ]のぼの		5					2						7
	副詞	[偶々，時々（低平）	1		4		3	1		1	1		2		13
	感動	[否々					1								1
	名詞	[品]々，こ[ゑ]ごゑ			4				1			4		1	10
		計	1	5	10	0	4	1	4	1	1	6	3	3	39
(2) 室町江戸期	形動	[区]々			1	1			1						3
	ト副	[ほの]ぼの		1	21				3						25
	副詞	[泣々		4	6		1		6	1					18
	感動	[此]々，[否々			1		1								2
	名詞	[人]々，こ[ゑ]ごゑ			2		2		2						6
		計	0	5	31	1	4	0	12	1				0	54
(3) 現代京都	形動	ま[ち]まち，ずたず[た			1				2	3					6
	ト副	[ほ]のぼの		29											29
	副詞	[偶々，[泣々，ときど[き		7	2		3		7	3					22
	感動	[こ]れこれ，[い]やいや		2											2
	名詞	[品]々，こ[え]ごえ			3		1		3	3					10
		計	0	38	6	0	4	0	12	9				0	69

	語群	i	ii	iv	v	vii	viii	ix	計
(1) 院政鎌倉期	13							1	1
	a1	3	2						5
	a2					8			8
	b22	1				2			3
	a0			2					2
	b40			1					1
	b20				1	1	2		4
	b00			1		1			2
	24				2		1		3
	計	4	2	4	3	12	3	1	29

※ここでは見易さを考慮して，合計数値以外の 0 については省略した。

	語群	i	ii	iv	v	vii	viii	ix	計
(2) 室町江戸期	a1	1						3	4
	a2	13	8	1		7		1	30
	b2	2	1	1		2			6
	a0			1		1	1		3
	b0					1			1
	計	16	9	3	0	11	1	4	44
(3) 現代京都	a1	19	10					5	34
	a2					5			5
	b2			1		9			10
	a0			3			1		4
	b0			3	4		1		8
	計	19	10	7	4	14	2	5	61

i 群と ii 群は早くも合流済みである。「仄々」は HLLL > HHLL > HLLL と変化し，南北朝期の音変化の前から「a1」である。ix 群は 2 単位形も交えて i 群と同じ分布となる。iv 群は「a0, bx0」が古くから見られる。v 群は 2 単位形「LHLH-H/L（助詞ニ／モ；秋永（1991: 193）参照)」（サワサワ，ハロハロ，モヤモヤ?）と 1 単位形「LHHH」（ツダツダ，モヤモヤ?）が見られる。viii 群の「諸々*24*」は高知市春野町「b2」，高知市上町・安芸市・土佐市「b0」，甑島 B 型，沖永良部島「[muRrumuR]ru[nu（b1），前部単独 [muR]runu（b3；「諸々の」と同義)」となるため，現代京都・南あわじ市の「a0」は革新と見られ，viii 群は v 群と同じ分布となる。vii 群は古くから「a2/ b2」が一貫している（「事々a2, a3」の「a3」は併用形のため除外)。

13. 通時的考察（i 群，ii 群，v 群）——和語の情態副詞・形容動詞

先ずは i 群，ii 群，v 群の音韻対応を通時的に解釈し，祖形を考察する上での主要な論点を取り上げて論ずる。また，現段階での祖形案を提示する。本稿のデータを踏まえ，下表を示す。下表では無核を「0」，語頭から n モーラ目の下げ核または昇り核を「n」，語幹末から n モーラ目の上げ核を「-n」，高起式・低起式を「a・b」，九州二型の A 型・B 型を「A・B」で表わす。便宜的に「H・L・F」で記す箇所がある。なお九州二型の「A・B」や，外輪式・沖永良部島国頭の無核・有核は，院政期京都の「a・b」に対応することが知られている。

i 群の 2 単位形について述べる。岡山市と南あわじ市に関して既に述べたように，語彙性の高い i1 群の「13」だけが，2 単位形の「古さ」に関する証拠になる。その南あわじ市と高知市春野町では，「13：a1」の出現延べ数は順に 369：143，377：203 で，いずれも「13」が基本である（「13」と「a1」の中間的な音声も存在するタイプの自由異音だが，どちらかに振り分けて数えた)。他方で，i2 群に現れる「13」は，より「新しい」型，lexical diffusion によって「a1」と分裂したのち，意味による使い分けが固定化された variation と見られる。下表で「(13)」などとアクセントが括弧に入れてあるのは，リスト読み上げ調査での出現が稀であることを表わす。「13~a1 (自由)」などとあるのは，自由異音の関係にあることを表わす。

表 15. 日本語諸方言の 4 モーラ畳語（i 群，ii 群，v 群）のアクセント対応

	i3 群	i2 群	i1 群	ii 群	v1/ v2 群
1 青森市	15	(13)	裸 1，ト 1/ 0	ト 3, (2)	0/ (4)
2 岩手県盛岡市	15, 00	-	裸 1，ト 1/ 0, 4	ト(1), 0, 4, (2)	(0)/ 4
3 東京都東村山市	15~26	(13)	1~2（無声化）	3	0/ 4
4 東京（辞典）	?	?	1~2（無声化）	3	0
5 岡山市	1357, 26	13	2	3	0
6 広島県尾道市	26~15	13	2~1（特殊拍）	3	0
7 広島市（辞典）	?	?	2~1（特殊拍）	3	0
8 京都（辞典）	?	(13)	a1	a1	b0
9 京都（室町期）	?	?	HHLL	HHLL	?
10 京都（院政期）	?	?	HLLL	HLLL	LHHH, LHLH
11 神戸市（辞典）	?	?	a1, 13	a1, 13, (b2, b3)	b0
12 南あわじ市	135	-	13~a1（自由）	13, a1, (b2, a2, a3)	b0
13 徳島市（辞典）	?	?	a1, 13	a1, 13, (a2, b2)	b0
14 高知県安芸市	1357	-	a1~13（自由）	a2, (b2), a1	b0
15 高知市上町	1357, 15	(13)	a1	a2/ b2 ~a3 (自由), a1	b0
16 高知市春野町	1357, 15	-	13~a1（自由）	a2, b2, a1	b0
17 高知県土佐市	1357, 15	-	a1~13（自由）	a1, (13, b2)	b0
18 鹿児島県甑島	AA	-	A	A/ B	B
19 沖永良部島	-3-3	-	-3	-1	-3/ -4

i 群の 1 単位形について述べる。『日本語アクセント史総合資料索引篇』等で見ると，院政期京都でも「a1」だったと分かる。また，甑島では「A」で，高起式に対応している。沖永良部島では有核型の「-3」で，低起式に対応しているように見えるが，これは i 群と v 群が合流している為で，この場合，v 群の方に合流したと解釈される。これらのことから，ひとまず，「a1」が「古い」と見ておくことができる。次に，各方言への変化を考える。i1 群の 1 単位形は基本的には 1 モーラ目に核があるが，規則的な音変化で核が 2 モーラ目にずれている方言もあると見られる。「8, 9, 10 京都」では，院政期から室町期にかけて核がずれていながら（4 モーラ畳語を扱う秋永（1980: 411）はこの点を見落としたか），現代では再び元に戻っている（中井幸比古の言う「昇核現象」と見られる）。岡山市や「6, 7 広島県」では核がずれたまま戻っていないが，「6, 7 広島県」では 2, 4 モーラ目が特殊拍の語において核がずれていない。他方，「3, 4 東京都」では，規則的な音変化に従えば一旦「2」にずれたあと戻って「1」になったはずで（金田一 2005b: 573），1 モーラ目が無声化する環境で「2」となっているのは古形の保存と解釈される。「1, 2 外輪式」では通常，高起式が無核，低起式が有核に対応しているが（上野 2006: 39），裸では原則「1」で，「と」を付けると「1」のほか「0」も（盛岡市では「4」も）可能となり，一見して上手く対応していない。青森市では「と」を付けると「1/ 0」で「擬音語／擬態語」を区別する。盛岡市では「と」を付けると「1/ 0, 4」で「程度強調（擬音語を頻繁に含む）／無標」を区別する（「0, 4」の区別は v 群の影響と見る）。対応を解釈するに当たって，「1, 2 外輪式」の「1」は「*13」由来と見る（「と」が付く場合だけ 1 単位形が発生したと考える）。「*a1」が規則的に「0」になる一方で，「*13」は（岡山市のように）しばらく変化せず，比較的後代になって再度「1」へと変化したと考える（青森市の「(13)」

はその痕跡か)。「a1」を「古い」とする考え方は，各方言への変化を考える上で大きな問題を生じないが，それだけでなく，2 単位形「13」との関係を考える上でもよく辻褄が合っている。「13」における「2 モーラの形態素」はそれぞれ「a1」で，それらのうち前部要素の「a1」だけが 1 単位形のアクセントに反映されることは理に適っている (culminativity 現象の一種)。以上のことから，i 群の祖形は 2 単位形「*13」(即ち「*a1.a1」)，1 単位形「*a1」と暫定的に見ておく。外輪式については，更なるデータで推論を裏付けて行く必要がある。

ii 群に 2 単位形は確認されていない。後述の「ハロハロニ LHLHH」は v 群（形容動詞）と見る。「8, 9, 10 京都」では早くも院政期から i 群に合流済みで, 南あわじ市阿万も同様である。沖永良部島では，i 群こそ v 群に合流しているが，ii 群は独立を保っており，有核型であって低起式に対応する。またセグメントが短縮しなければ「クルグルーとぅ（黒々と, HHHLLH)」のように，規則的に「と」の直前に引き音が現れる（セグメントが短縮したら「アーアーとぅ（赤々と，HHLLH)」などとなる)。甑島でも一部の語彙にこの引き音が見られる（lexical diffusion 的に引き音が失われつつある）が，甑島では前部要素の型が分かるものはほぼ例外無く，前部要素の型が全体の型に一致していて，共時的に ii 群の内部に型の対立がある。これは九州二型アクセントに広く見られる複合語規則で，中央式のいわゆる「式保存の法則」と対応するものであることが従来から指摘されている。沖永良部島や，既に述べた高知県の状況を考慮に入れれば，甑島における ii 群の内部の型の対立が「古い」特徴であるとは考えにくい。ii 群の黎明期にそのような対立があった可能性は決して低くないが，甑島が示す特徴は，複合語規則からの類推によって生じた「新しい」特徴と見ておくのが穏当である。沖永良部島で（低起式に対応する）有核型になり，「1, 2 外輪式」でも（低起式に対応する）有核型になる点を踏まえると，南北朝期の体系変化前は「*LLLH(L), *LLLF(L)」のような形で（引用の「と」は古くは低接（秋永 1991: 193)），これが南北朝期の語頭隆起で「*HHLL(L)」に変化し，その後，京都のように核が右にずれたり戻ったりしたかもしれないが（中井 2003: 101-103)，i 群と ii 群の対立は保たれ，「14, 15, 16 高知県」の「13~a1」と「a2」の対立に至っていると考えられる。「3, 4, 5, 6, 7 中輪式・内輪式」では「13~a1」と「a2」の対立が一旦「13~2」と「3」の対立に変化したあと，「3, 4 中輪式」では「2」が「1」に巻き戻ったと見られる。「1, 2 外輪式」では「a2」を出発点として，上昇・下降位置が規則的に右にずれて青森市の「3」が成立したと見られる（3 拍語「頭」類の変化を参照)。盛岡市では基本的に i 群に合流済みだが，「苛々と，ウカウカと，懲り懲りと，冴え冴えと，シミジミと，シラジラと，高々と，高々（副詞)，晴々と，冷え冷えと，深々と，仄々と，惚れ惚れと，ムラムラと」（情意表出的）が「2」で現れ，恐らく「b2」の痕跡かと考えられる（なお，青森市石江の話者は「イガイガと，高々（副詞)，ツクヅクと，長々と，冷え冷えと」で「3, 2」を併用する)。以上のことから, ii 群の祖形は 1 単位形「*LLLH(L), *LLLF(L)」のいずれかと暫定的に見ておく[50]。式, 昇り核，下げ核の順に記号化するなら「*b40, *b44」（のいずれか）と書ける。

[50] 中澤（2013）によれば，南あわじ市沼島の ii 群の語彙的な無標形 HHLH-L は*LLLH-L の痕跡を留めると推定される。また同市三原町にも HHLL-L 型の ii 群が見られるが，淡路島では一般的には i 群に合流済みという。

v 群の 2 単位形「LHLH(H)」は，日本書紀に「サワサワニ（前田本），ハロハロニ（岩崎本など）」の 2 例が例証される（助詞「に」は古くは高接（秋永 1991: 193））。但し「サワサワニ」は鈴木編（2003）の記述が誤っているので，前田本の影印（2002: 33）を直接確認されたい。1 単位形「LHHH(H)」は，京都の文献や，現代の「14, 15, 16, 17 高知県」に見られる。但し助動詞「ぢゃ，じゃ，や」は低く付いて「LHHH(L)」となる。現代京都や南あわじ市では上昇位置が遅れて，「LLLL(H)（～に），LLLH(L)（～や）」となる。甑島で「B」，沖永良部島で有核型となり，低起式に対応している。「3, 4, 5, 6, 7 中輪式・内輪式」では，3 拍語「兎」類（LHH）が「形」（HHH）類に早期に合流したと推定される点（金田一 2005b: 571）と並行して，「LHHH(H)」は「HHHH(H)」を経由して再び「LHHH(H)」に至ったと見られる。このほか，既に述べたように，東村山市には語用論的意味の異なる「0/ 4」の variation がある。「4」の方は 2 単位形からの変化が想定される：「LHLH(H) > *LHLH(L) > *LHHH(L) > *HHHH(L) > LHHH(L)」。ここで「LHLH(H) > *LHLH(L)」と記したのは，助詞が院政期には有していた固有のアクセント（秋永 1991: 193）を失うことで，畳語構造からの類推によって形態素内部境界の下がり目（≒下げ核）が語幹末にも複製されるという変化を表わす。ここで「*LHLH(L) > *LHHH(L)」と記したのは，院政期京都における variation から文献時代以前に生じたと推定される「*LHLH > *LHHH」という変化と同じものである。また，語末核は「～上]に，～所]が」のように，「古い」ものが保持される例が指摘されている（上野 2006: 38）。また，青森市では無標形「0」に対して「話し手の不意の驚きを表出する」表出形「(4)」が（高山 2012d, 2013a），盛岡市では無標形「(0)」（但し使用頻度は比較的低い）に対して（ただの）表出形「4」が存在する。3 拍語「兎」（LHH）類は規則通りなら「1」となるはずなので，中輪式・内輪式と同様にして，4 拍語において例外的に早期に 3 拍語「形」（HHH）類へと合流し，東村山市と同様に語幹末核の有無の区別を保ったと，ここでは解釈しておく。以上のことから，v 群の祖形は 2 単位形「*LHLH」，1 単位形「*LHHH」と暫定的に見ておく。式，昇り核，下げ核の順に記号化するなら，2 単位形「*b20.b20」，1 単位形「*b20」と書ける。

14. 通時的考察（iii 群，iv 群，vi 群）——漢語の情態副詞・形容動詞，和語のただの副詞

続いて，iii 群，iv 群，vi 群の音韻対応を通時的に解釈し，祖形を考察する上での主要な論点を取り上げて論ずる。また，現段階での祖形案を提示する。前節の議論と本稿のデータを踏まえ，下表を示す。i 群・ii 群・v 群は簡略表記する。漢語は和語と異なり，祖語の段階から共有されていたとは言えないが，共通の祖形が存在したと「仮定」して考える。

iii 群と vi 群（漢語の情態副詞・形容動詞）の祖形は，中央式と同様の「*a0」と暫定的に見ておく。「1, 2 外輪式」は「*a0」の高起式が反映して無核で現れると考える。甑島や沖永良部島における対立は類推か，アクセントの祖形自体が共有されていないと見る。「3, 4, 5, 6, 7 中輪式・内輪式」では「0」の他に「3」が見られるが，ii 群からの類推と見る。同様のことを iv 群でも考えて，iv 群の外輪式・中輪式・内輪式の形は本来「0」と見る。iv 群（和語のただの副詞）の祖形は，「*a0」に関しては iii 群・vi 群と同じ理屈で，暫定的に認められる。

「*b20」に関しては問題があって，第一に，院政期京都では「b40（中々），b00（時々）」（南北朝期の語頭隆起で高起式に変化してしまうもの）は確認されていても「b20」は確認されていない。第二に，中央式の中でも「b0」が一定数見られるのは京都と安芸市のみであって，他の地点では語例が少ない。故にここでは「iv 群」の祖形は「*a0」のみと，暫定的に見ておく。南北朝期の体系変化前には低起式のものも一定数存在したかもしれないが，体系変化後は有核型に変化してしまうので，「iv 群」という括りの中では扱うことが難しい。

表 16. 日本語諸方言の 4 モーラ畳語（iii 群，iv 群，vi 群）のアクセント対応

	i 群	ii 群	iii 群	iv 群	vi 群	v 群
1 青森市	1, 0	3, (2)	0	0	0	0/ (4)
2 岩手県盛岡市	1, 0, 4	(2)	0	0	0	(0)/ 4
3 東京都東村山市	1~2	3	0, (3)	0	0, (3)	0/ 4
4 東京（辞典）	1~2	3	0, 3	0	0, (3)	0
5 岡山市	2	3	3	0, 3	0, 3	0
6 広島県尾道市	2~1	3	3	0, (3)	0, 3	0
7 広島市（辞典）	2~1	3	3	0, 3	0, 3	0
8 京都（辞典）	a1	a1	a0	a0/ b0	a0	b0
9 京都（室町期）	a2	a2	?	a0	?	?
10 京都（院政期）	a1	a1	?	a0, b40, b00	?	b20, *24*
11 神戸市（辞典）	a1, 13	(b2, b3)	a0	a0, (b0)	a0	b0
12 南あわじ市	13~a1	(b2, a2, a3)	a0	a0, (b0)	a0	b0
13 徳島市（辞典）	a1, 13	(a2, b2)	a0	a0	a0	b0
14 高知県安芸市	a1~13	a2, (b2)	a0	a0/ b0	a0	b0
15 高知市上町	a1	a2/ b2	a0	a0, (b0)	a0	b0
16 高知市春野町	13~a1	a2, b2	a0	a0, (b0)	a0	b0
17 高知県土佐市	a1~13	(b2)	a0	a0, (b0)	a0	b0
18 鹿児島県甑島	A	A/ B	A/ B	A/ B	A/ B	B
19 沖永良部島	-3	-1	0, -3	0/ -3	0, -3	-3/ -4

15. 通時的考察（vii 群，viii 群，ix 群）——複合名詞や派生名詞など

続いて，vii 群，viii 群，ix 群の音韻対応を通時的に解釈し，祖形を考察する上での主要な論点を取り上げて論ずる。また，現段階での祖形案を提示する。前々節・前節の議論と本稿のデータを踏まえ，下表を示す。i 群・ii 群・v 群は紙幅の都合で簡略表記する。再確認すると，九州二型の「A・B」や，外輪式・沖永良部島国頭の無核・有核は，院政期京都の「a・b」に対応することが知られている。vii 群の名詞は複数を表わす場合もあり，（ii 群に似て）複合に近い派生と見る。viii 群の名詞は v 群からの，ix 群の名詞は i 群からの派生と見る。

vii 群は，外・中・内輪式では，祖形を「*2/ *3」と暫定的に見ておく。この祖形の要点は前部要素の核の有無と位置を全体の核の位置に反映させる点にあり，盛岡市八幡町の話者の状態に鑑みれば，語例は少ないものの「数々」（ix 群）のような語の「*1」もこの複合語規則の一部と考えられる。「3, 4 東京都」では「2」に合流し，「5, 6, 7 中国地方」では「3」に合流したと考える。他方で中央式・九州二型・琉球多型では，祖形を「*a2/ *b22」と暫定的に見ておく。この祖形の要点は前部要素の式を全体の式に反映させる点にある（表 18 参照）。

viii 群は，v 群からの派生で説明が付くものについては，祖形を「*b20, *b20.b20」と暫定的に見ておく。他に「*a0」の系列が混ざっていて，iii 群・iv 群・vi 群と同じ対応を示すように見えるが，v 群からの派生関係を重視するため，「viii 群」という括りの中では扱わない。

ix 群は，祖形を「*a1, *a1.a1」と暫定的に見ておく。i 群に見られる核の位置のずれは，ix 群には殆ど確認できない点が注目される。甑島の「B」は類推で生じたと見る。沖永良部島では i 群が v 群に合流するため ix 群も viii 群に近づいて有核型が現れるが，感動詞「FuriFuri（これこれ）」など無核型で現れる語もある。中央式に「b3」が見えるが，原因は不明である。

表 17. 日本語諸方言の 4 モーラ畳語（vii 群，viii 群，ix 群）のアクセント対応

	ix 群	i 群	ii 群	vii 群	v 群	viii 群
1 青森市	1, 13	1, 0	3, (2)	2/ 3	0/ (4)	0, 4
2 岩手県盛岡市	1, 13	1, 0, 4	(2)	2/ 3	(0)/ 4	0, 4
3 東京都東村山市	1	1~2	3	2	0/ 4	0/ 4
4 東京（辞典）	1	1~2	3	2	0	0, 4
5 岡山市	13, 1	2	3	3	0	0
6 広島県尾道市	1, 13	2~1	3	3	0	0, 4
7 広島市（辞典）	1	2~1	3	3	0	0
8 京都（辞典）	a1, 13, b3	a1	a1	a2/ b2	b0	a0/ b0
9 京都（室町期）	a1, a2	a2	a2	a2/ b2	?	a0
10 京都（院政期）	13	a1	a1	a2/ b22	b20, *24*	b20, *24*
11 神戸市（辞典）	a1, 13	a1, 13	(b2, b3)	b2, b3	b0	a0/ b0
12 南あわじ市	13, a1	13~a1	(b2, a2, a3)	a2/ b2	b0	a0/ b0
13 徳島市（辞典）	13, a1	a1, 13	(a2, b2)	b2	b0	a0
14 高知県安芸市	a1, 13, b3	a1~13	a2, (b2)	a2/ b2	b0	a0/ b0
15 高知市上町	a1, 13, b3	a1	a2/ b2	a2/ b2	b0	a0/ b0
16 高知市春野町	13, a1, b3	13~a1	a2, b2	a2/ b2	b0	a0/ b0
17 高知県土佐市	a1, 13, b3	a1~13	(b2)	a2/ b2	b0	a0/ b0
18 鹿児島県甑島	A/ B	A	A/ B	A/ B	B	A/ B
19 沖永良部島	0, -3, -4	-3	-1	0/ -3	-3/ -4	0, -3/ -4

表 18. 中央式・九州二型・琉球多型の 2 拍語 60 語とその畳語の「式保存」（表 10 参照）

番号	*漢字*	*類*	*仮名*	*8 京*	*8 畳*	*9 淡*	*9 畳*	*10 高*	*10 畳*	*11 院*	*11 畳*	*12 甑*	*12 畳*	*13 沖*	*13 畳*	*13 沖 畳語 segments*
1	口	1	くち	a0	a2	a0	a2	a0	b2	a0	#	A	A	a0	b3	]ku]cji[gucjini
2	此	1	これ	a0	a2	a0	13	a0	a2	a0	#	A	A	#	#	
3	末	1	すゑ	a0	a2	a0	a2	a0	a2	a0	#	A	A	a0	a0	]suezuema[de
4	其	1	それ	a0	b2	a0	a2	a0	a2	a0	#	A	A	#	#	
5	暇	1	ひま	a0	a2	a0	a2	a0	a2	a0	#	A	A	a0	a0	]hjimahjima[ni
6	道	1	みち	a0	a0	a0	a0	a0	a0	a0	#	A	A	a0	a0	]micjimicjini[ti
7	共	-	とも	a0	a0	a0	a2	a0	a2	a0	#	A	A	a0	a0	]tumudumu[ni
8	誰	1?	たれ	a0	a2	a0	a2	a0	a2	a0	#	A	A	a0	a0	]tarudaru[ga
9	謎	-	なぞ	b2	b0	a0	a0	a0	a0	ba	#	A	A	#	#	
10	国	1	くに	a0	a2	a0	a2	a0	a2	a0	#	A	A	a0	a0	]kuniguni[nu
11	品	1	しな	a0	a2	a0	a2	a0	a2	a0	a2	A	A	a0	a0	]sjinazjina[nu
12	端	1	はし	a0	a2	a0	a2	a0	a2	a0	#	A	A	a0	a0	]hasjiba[sji
13	先	1	さき	a0	a2	a0	a2	a1	a2	a0	#	A	A	a0	a0	]saQcjiRzaQcjiR[nu
14	程	1?	ほど	a0	a0	a0	a0	a0	b0	a1	#	A	A	#	#	
15	否	-	いや	a0	a0	#	a0	a0	a0	#	ax	A	A	#	#	

16	偶	-	たま	a0	a0	a0	a0	a0	a0	#	ax	B	A	b2	a0	]tamata[ma
17	様	1?	さま	a1	a0	a0	a2	a0	a2	a0	#	B	B	#	b3	[sa]ma[zamanu
18	人	2?	ひと	a1	a2	a1	a2	a1	a2	a1	ax	A	A	a0	a0	]cjuRzjuR[nu
19	又	-	また	a1	a1	a1	13	a1	a1	a1	a0	A	A	b2	a0	]matama[ta
20	方	2	かた	a1	a2	a1	a2	a1	a2	a1	ax	A	A	#	#	
21	下	2	しも	a1	a2	a0	a2	a1	a2	a1	#	A	A	#	#	
22	次	2	つぎ	a1	a1	a1	13	a1	a2	a1	#	A	A	a0	b3	[cu]gi[cugi
23	町	2	まち	a1	a2	a1	a2	a1	a2	a1	#	A	A	a0	a0	]macjimacji[nu
24	皆	2	みな	a1	a1	a1	a2	a1	a2	a1	#	A	A	#	#	
25	村	2	むら	a1	#	a1	a2	a1	a2	a1	#	A	A	#	#	
26	毬	2?	いが	b2	#	b0	b0	b2	b0	a1	#	B	B	#	#	
27	向	-	むき	b2	a0	b2	a0	a0	a0	a1	#	A	A	a0	a0	]mukimuki[nu
28	其	4?	そこ	b0	#	b0	b2	b2	b2	b0	#	B	B	#	#	
29	後	4	あと	b0	b2	b0	b2	b2	b2	b0	#	B	B	b2	b3	[a]tu[atunu
30	数	4	かず	b0	b2	b0	b2	b0	b2	b0	#	B	B	#	#	
31	隅	4	すみ	b0	b2	b0	b2	b0	b2	b0	#	B	B	#	#	
32	中	4	なか	b0	a0	b0	a0	b0	a0	b0	b40	B	A	b2	b3	[na]R[naRnu
33	何	4	なに	b0	b2	b0	b2	b0	b2	b0	#	B	B	b2	b2	[nuR]nuR[nu
34	我	4	われ	b0	b2	b0	b2	b2	b2	b0	#	B	B	b2	#	
35	未	-	まだ	b0	#	b0	b2	b0	b2	b0	#	B	A	b2	a0	]madama[da
36	取	(2)	とる	b0	b2	b0	b2	b0	b2	b0	#	B	B	b1	b3	[tu]i[dui
37	見	(2)	みる	b0	b2	b0	b2	b0	b2	b0	#	B	B	b1	#	
38	先	-	まづ	a1	a1	a1	13	a1	a2	b1	#	A	B	#	#	
39	能	-	よく	a1	a0	a1	a0	a1	a1	b1	#	A	A	b1	a0	]jokujo[ku
40	前	5	まへ	a1	b2	a1	a2	a1	a2	b2	#	B	B	b2	b3	[me]R[meR]kara
41	声	5	こゑ	b2	b2	b2	b2	b2	b2	b2	#	B	B	b2	#	
42	更	-	さら	b2	b2	b2	b2	b2	b2	b2	#	A	B	#	#	
43	常	5	つね	b2	b2	b2	b2	b2	b2	b2	#	B	B	#	#	
44	唯	5?	ただ	b0	b2	b0	b2	b0	b2	b2	#	B	B	b2	#	
45	尚	-	なほ	b0	b2	b0	b2	b0	b2	b2	#	A	A	#	#	
46	粉	-	こな	b0	b0	b0	b0	b0	b0	bx	#	B	B	b1	b3	[ko]na[gona
47	神	3	かみ	a1	a2	a1	a2	a1	a2	bb	#	B	B	b1	b3	[ha]mi[gami
48	半	-	はに	a1	b3	a1	b3	a1	b3	#	bx	B	B	b1	a0	]haNhaN[ni
49	家	3	いへ	a1	a2	a1	a2	a1	a2	bb	#	B	B	#	#	
50	色	3	いろ	a1	b2	a1	b2	a1	b0	bb	#	B	B	b1	#	
51	草	3	くさ	a1	a2	a1	a2	a1	b2	bb	bx	B	B	b1	#	
52	事	3	こと	a1	a2	a1	a2	a1	a2	bb	#	B	B	b1	b3	[ku]tu[gutunu
53	島	3	しま	a1	a2	a1	a2	a1	a2	bb	#	B	B	b1	b3	[sji]ma[zjima
54	月	3	つき	a1	b2	a1	a2	a1	a2	bb	#	B	B	b1	b3	[cji]cji[zjicjinu
55	時	3	とき	a1	b0	a1	b2	a1	a2	bb	b20	B	B	b1	b3	[tu]ki[dukinu
56	年	3	とし	a1	a2	a1	a2	a1	a2	bb	#	B	B	b1	b3	[tu]sji[dusjinu
57	節	3	ふし	a1	b2	a1	a2	a1	a2	bb	#	B	B	a0	a0	]Fusjibusji[nu
58	山	3	やま	a1	a2	a1	a2	a1	a2	bb	#	B	B	b1	a0	]jamajama[nu
59	元	3?	もと	a1	b3	b2	b0	a1	b0	bb	#	B	B	b2	#	
60	後	3?	のち	a0	a0	a0	a0	a0	a2	bb	#	A	A	#	#	
番号	*漢字*	*類*	*仮名*	*8 京*	*8 畳*	*9 淡*	*9 畳*	*10 高*	*10 畳*	*11 院*	*11 畳*	*12 甑*	*12 畳*	*13 沖*	*13 畳*	*13 沖 畳語 segments*

16. おわりに——アクセントの祖形と複合語規則，セグメントの祖形，今後の課題

以上より，単純語扱いの畳語の祖形としては，i 群・ix 群「*a1.a1, *a1」，ii 群「*b40 か*b44」，v 群・viii 群「*b20.b20, *b20」，iii 群・iv 群・vi 群「*a0」を暫定的に見ておく（今回扱えなか

ったものは今後の課題となる)。また複合語扱いの畳語（vii 群）の複合語規則としては，「(1) 前部（＝後部）要素が「0, 2」なら複合語は「2」，「1」なら「3, 1」になる」というもの（＝盛岡市八幡町の話者の規則）と，「(2) 前部要素の式が「a」なら複合語は「a2」，「b」なら「b2」になる」というものの 2 種類と，それらの変形と見なすことのできるものが分布している。(1) のタイプについては，西日本の外輪式などでの分布を今後調べて行く必要がある。上野（1997）によれば，通常の複合名詞は大まかには，「(1) 後部要素の核で決まるタイプ」と「(2) 前部要素の式で決まるタイプ」に分かれ，歴史的に見ると，古くは (1) (2) が両立していたとされる。畳語における 2 種類の複合語規則も状況がよく似ているが，通常の複合名詞との違いの解明や，(1) (2) が両立している例の捜索が今後の課題となる。

本土諸方言のどこにも，i 群・ii 群の無標形に語中・語末長音が現れない以上，セグメントは長音の無い形を本土と琉球の共通の祖形と見ておくのが穏当である。琉球方言でいかにして，例えばアクセントの影響で，長音が発達したかについては今後の課題となる。関連する研究には，服部（1979a, 1979b），上野（1996），松森（1996），新田（2005）等がある。

参考文献

Alpher, Barry (1994) Yir-Yoront ideophones. In: Leanne Hinton, Johanna Nichols and John J. Ohala (eds.) *Sound symbolism*, 161-177. Cambridge: Cambridge University Press.

Igarashi, Yosuke (2006) A preliminary analysis of the relation between lexical pitch accent and prosodic phrasing in Goshogawara Japanese. In:『第 20 回日本音声学会全国大会予稿集』, 141-146.

Tokunaga, Akiko (2012) The Okinoerabu dialect: A study on onomatopoeia in an endangered language. In: *International Workshops on Corpus Linguistics and Endangered Dialects*, October 2012. Tachikawa: National Institute for Japanese Language and Linguistics.

秋永一枝（1980）『古今和歌集声点本の研究』研究篇上：404-412．東京：校倉書房.

秋永一枝（1991）『古今和歌集声点本の研究』研究篇下：41-121, 193．東京：校倉書房.

秋永一枝（1999）「江戸アクセントから東京アクセントへ」『東京弁アクセントの変容』: 33-52. 東京：笠間書院.

秋永一枝ほか編（1997）『日本語アクセント史総合資料索引篇』東京：東京堂出版.

石塚晴通編（2007）『尊経閣文庫本日本書紀 本文・訓点総索引』東京：八木書店.

内間直仁・野原三義（2006）『沖縄語辞典―那覇方言を中心に』東京：研究社.

上野善道（1985）「日本本土諸方言アクセントの系譜と分布(1)」『日本学士院紀要』40(3): 215-250.

上野善道（1987）「日本本土諸方言アクセントの系譜と分布(2)」『日本学士院紀要』42(1): 15-70.

上野善道（1988）「下降式アクセントの意味するもの」『東京大学言語学論集'88』: 35-73．東京：東京大学言語学研究室.

上野善道（1989）「日本語のアクセント」『講座日本語と日本語教育 2 日本語の音声・音韻（上）』: 178-205．東京：明治書院.

上野善道（1992）「昇り核について」『音声学会会報』199：1-13.
上野善道（1996）「名瀬市芦花部・有良方言の名詞のアクセント体系」『東京大学言語学論集』15：3-68．東京：東京大学言語学研究室.
上野善道（1997）「複合名詞から見た日本語諸方言のアクセント」杉藤美代子監修『日本語音声 2 アクセント・イントネーション・リズムとポーズ』: 231-270．東京：三省堂.
上野善道（2000）「奄美方言アクセントの諸相」『音声研究』4(1)：42-54.
上野善道（2002）「アクセント記述の方法」『現代日本語講座 3』: 176-186．東京：明治書院.
上野善道（2006）「日本語アクセントの再建」『言語研究』130：1-42.
上野善道（2009）「句頭の上昇は語用論的意味による」『月刊言語』38(12)：84-85．東京：大修館書店.
岡村隆博・沢木幹栄・中島由美・福嶋秩子・菊池聡（2009）『徳之島方言二千文辞典』改訂版．松本：徳之島方言の会.
沖縄言語研究センター（2000）『今帰仁方言音声データベース』（URL: http://ryukyu-lang.lib.u-ryukyu.ac.jp/nkjn/index.html）
長田須磨・須山名保子・藤井美佐子編（1977, 1980）『奄美方言分類辞典 上巻・下巻』東京：笠間書院.
小野正弘編（2007）「意味分類別さくいん」『擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典』: 33-64．東京：小学館.
菊千代・高橋俊三（2005）『与論方言辞典』東京：武蔵野書院.
金田一春彦（2005a）「日本の方言」『金田一春彦著作集』7：311-657．東京：玉川大学出版部.（『日本の方言』（1975；教育出版）の増補版（1995）の再録）
金田一春彦（2005b）「アクセントの分布と変遷」『金田一春彦著作集』8：536-585．東京：玉川大学出版部.（初掲は『岩波講座日本語 11 方言』（1977））
金田一春彦監修・秋永一枝編（2001）『新明解日本語アクセント辞典』東京：三省堂.
城辺スマフツ研究会編（2003, 2012）『城辺スマフツ辞典 上巻・下巻』宮古島：城辺町教育委員会，宮古島市教育委員会.
工藤真由美（2007）「愛媛県宇和島市方言の形容詞」工藤真由美編『日本語形容詞の文法―標準語研究を越えて―』: 119-146．東京：ひつじ書房.
窪薗晴夫（1995）「イントネーション規則と枝分かれ制約」『語形成と音韻構造』: 98-103．東京：くろしお出版.
窪薗晴夫（2012）「鹿児島県甑島方言のアクセント」『音声研究』16(1)：93-104.
児玉望（2012）「甑島の二型アクセント―自発談話音声資料の分析」『ありあけ 熊本大学言語学論集』11：47-68．熊本：熊本大学言語学研究室.
下地理則（2006）「南琉球語宮古伊良部島方言」『文法を描く』1：84-117．東京：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
鈴木豊編（2003）『日本書紀人皇巻諸本 声点付語彙索引』東京：早稲田大学文学部.

高山林太郎（2011a）「岡山県妹尾方言における両唇ふるえ音」『日本方言研究会第 92 回研究発表会発表原稿集』: 27-34.
高山林太郎（2011b）「岡山県妹尾方言におけるジャとナの含意」『東京大学言語学論集』31：317-333．東京：東京大学言語学研究室.
高山林太郎（2012a）「伝承童謡ニラメッコの表現と歴史」『国際児童文学館紀要』25：1-14．大阪：財団法人大阪国際児童文学館.
高山林太郎（2012b）「四モーラ畳語を音調と意味で分類する試み」『語彙・辞書研究会第 41 回研究発表会予稿集』: 17-24．東京：三省堂.
高山林太郎（2012c）「岡山市方言の複合動詞のアクセント」『東京大学言語学論集』32 : 305-332．東京：東京大学言語学研究室.
高山林太郎（2012d）「東村山市方言の四モーラ畳語の形容動詞の語末核の有無による意味対立」『日本語文法学会第 13 回大会発表予稿集』: 169-176.
高山林太郎（2012e）「東村山市方言の複合動詞のアクセント」『日本言語学会第 145 回大会予稿集』: 488-493.
高山林太郎（2013a）「音調が文法的・語用論的意味を表わす場合の音韻解釈―日本語諸方言を例に」．第 8 回音韻論フェスタ.
高山林太郎（2013b）「句頭の上昇の語用論的な意味と機能」．第 126 回関東日本語談話会.
高山林太郎（2013c）「系列別語彙を用いたアクセント調査―沖永良部島国頭方言を例に―」『JLVC2013 予稿集』: 141-150.
高山林太郎（2013d）「四モーラ畳語の情態副詞と形容動詞のアクセントの通時的考察」『日本語学会 2013 年度春季大会予稿集』: 209-214.
高山林太郎（2013e）「四モーラ畳語のアクセントの品詞による合流と品詞を越えた合流」『日本言語学会第 146 回大会予稿集』: 418-423.
高山林太郎（2013f）「東村山市と岡山市の複合動詞の有標アクセントについて」．日本音声学会第 327 回研究例会.
高山林太郎（2013g）「情的意味を表わすふるえ音・吸着音の日本列島周辺における分布」『第 27 回日本音声学会全国大会予稿集』.
高山林太郎・中澤光平・大槻知世（2012a）「青森市若年層のアクセントについて―ダウンステップ，低平化，高平化―」『第 26 回日本音声学会全国大会予稿集』: 19-24.
高山林太郎・中澤光平・大槻知世（2012b）「青森市方言における語末核の「上昇の遅れ」」『日本語学会 2012 年度秋季大会予稿集』: 159-166.
滝浦真人（2007）「終助詞「か／よ／ね」の意味機能とコミュニケーション機能――モダリティーとポライトネスの観点から」麗澤大学言語研究センター第 31 回研究セミナー発表.
竹田晃子（2011）「鹿児島県喜界町方言におけるオノマトペの語彙的特徴」木部暢子他編『消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究 喜界島方言調査報告書』: 139-162．立川：国立国語研究所.

徳永晶子（2012a）「沖永良部方言におけるオノマトペの言語地理学的研究」．国際沖縄研究センター若手研究者育成セミナー「消滅危機言語としての琉球語研究の意義と目的」2012 年 1 月発表．沖縄：琉球大学（沖縄言語研究センター）．
徳永晶子（2012b）「奄美諸島のオノマトペ」．「オノマトペ友の会第 9 回例会」2012 年 7 月発表．東京：東京大学教育学研究科．
中井幸比古編（1997）『高知市方言アクセント小辞典』神戸：神戸市外国語大学．
中井幸比古ほか編（1999）『徳島市方言アクセント小辞典』神戸：私家版．
中井幸比古ほか編（2001）『兵庫県南部方言アクセント小辞典』神戸：私家版．
中井幸比古（2003）「アクセントの変遷」『朝倉日本語講座 3 音声・音韻』：85-108．
中澤光平（2013）「南あわじ市沼島方言のアクセントにおける 2 単位形の共時的および通時的分析」『日本方言研究会第 96 回研究発表会発表原稿集』．
中谷眞也（2011）『伝承 盛岡弁の語り口』盛岡：杜陵印刷．
西山佑司（2004）「語用論の基礎概念」『言語の科学 7 談話と文脈』東京：岩波書店．
新田哲夫（2005）「アクセント論――能登島の「式」の変化を考える」『国文学―解釈と教材の研究―』50(5)：34-43．
仁田義雄（2004）「文法とは何か」『言語の科学 5 文法』東京：岩波書店．
沼田善子（2000）「とりたて」『日本語の文法 2 時・否定と取り立て』東京：岩波書店．
沼田善子（2009）『現代日本語とりたて詞の研究』東京：ひつじ書房．
服部四郎（1979a）「日本祖語について (21)」『月刊言語』8(11)：97-107．
服部四郎（1979b）「日本祖語について (22)」『月刊言語』8(12)：100-114．
服部四郎（1984）『音声学』：73．東京：岩波書店．
平山輝男監修・森下喜一編（1986）『岩手方言アクセント辞典』東京：第一書房．
福島和郎・岩崎庸男・渋谷昌三（2006）「終助詞「よ」と「ね」に関する研究の動向」『目白大学心理学研究』2：65-74．東京：目白大学．
藤崎博也（1994）「韻律研究の諸側面とその課題」『日本音響学会平成 6 年度秋季研究発表会講演論文集』1：287-290．
編集委員会編（2002）『日本国語大辞典第二版』東京：小学館．
前川喜久雄（2002）「研究室から：失われた意味を求めて」『国語研の窓』10．
前川喜久雄（2004）「音声学」『言語の科学 2 音声』東京：岩波書店．
前田育徳会尊経閣文庫編（2002）『日本書紀』東京：八木書店．
馬瀬良雄編（1994）『広島市方言アクセント辞典』広島：中野出版企画．
松森晶子（1996）「琉球における 2 音節語第 4・5 類の語頭長音節をめぐる諸問題―北琉球祖語のアクセント再建にむけて―」平山輝男博士米寿記念会編『日本語研究諸領域の視点』下巻：1130-1147．東京：明治書院．
松森晶子（2000）「琉球アクセント調査のための類別語彙の開発―沖永良部島の調査から―」『音声研究』4(1)：61-71．

松森晶子（2012）「琉球語調査用「系列別語彙」の素案」『音声研究』16(1)：30-40.
宮城信勇（2003）『石垣方言辞典 本文篇』那覇：沖縄タイムス社.
三宅知宏・高木千恵・松丸真大（2012）「確認要求的表現と対照方言学」『日本語文法学会第 13 回大会発表予稿集』：29-58.
山口仲美（2002）『犬は「びよ」と鳴いていた 日本語は擬音語・擬態語が面白い』東京：光文社.

資料の説明

資料 1（約 12 頁半），資料 2（約 14 頁），資料 3（約 17 頁）が TULiP 電子版に掲載される（大部のため印刷版では省略される）。資料 1 は東京方言の例文による 4 モーラ畳語の調査項目で，元の形をできるだけ生かしつつ方言に訳して読んでいただいたが，時には初めから部分的に方言に似せることもあった（例えば助動詞「だ」を「や」に変えるなど）。資料 2・資料 3 は，既存の辞典以外の，本稿で調査した 4 モーラ畳語のデータで，特にセグメントが他と大きく異なる沖永良部島に限り，本土方言との対応関係の判断や，話者から得られた用例なども記載するが，他の方言では記号化したアクセントだけを記載する。

資料 1. 日本語諸方言の四モーラ畳語の調査項目

番	かな	漢字交り	品詞	東京方言による例文（※方言に訳して用いることもあった）
1	あいあい	藹々	ト副	和気・藹々とする、藹々する、藹々と、藹々
2	あおあお	青々	ト副	青々とする、青々する、青々と、青々、あおい
3	あかあか	赤々/明々	ト副	赤々とする、赤々する、赤々と、赤々、あかい
4	あきあき	飽き飽き	ト副	飽き飽きとする、飽き飽きする、飽き飽きと、飽き飽き、飽きる
5	あつあつ	熱々	形動	熱々だ、熱々になる、熱々のご飯、熱々
6	あとあと	後々	副詞	後々話す、後々だ、後々、後の、後
7	あまあま	甘々	形動	甘々だ、甘々になる、甘々の説教、甘々
8	ありあり	在り在り	ト副	在り在りとする、在り在りする、在り在りと、在り在り、在る
9	あんあん	暗々	形動	暗々のうちに、暗々
10	いえいえ	家々	名詞	家々が立ち並ぶ、家々、家の、家
11	いがいが	毬々	名詞	栗の毬々を取る、毬々、毬の、毬
12	いがいが	毬々	ト副	いがいがとする、いがいがする、いがいがと、いがいが
13	いきいき	生き生き	ト副	生き生きとする、生き生きする、生き生きと、生き生き、生きる
14	いじいじ		ト副	いじいじとする、いじいじする、いじいじと、いじいじ
15	いそいそ	忙々	ト副	いそいそとする、いそいそする、いそいそと、いそいそ
16	いちいち	一々	副詞	一々話す、一々だ、一々、一の、一
17	いぼいぼ	疣々	形動	疣々だ、疣々になる、疣々の顔、疣々
18	いやいや	厭々	副詞	厭々行く、厭々ながら、厭々
19	いやいや	否々	感動	いやいや！違う！いや！いやいやいやいや！
20	いやいや	嫌々	名詞	首を振って嫌々をする、嫌々、嫌だ、嫌
21	いよいよ	愈々	副詞	愈々始まる、愈々だ、愈々
22	いらいら	苛々	名詞	苛々が募る、苛々
23	いらいら	苛々	ト副	苛々とする、苛々する、苛々と、苛々
24	いろいろ	色々	形動	色々な話をする、色々、色の、色
25	いろいろ	色々	副詞	話は色々ある、色々と話す、色々話す、色々と、色々
26	いんいん	陰々	ト副	陰々とする、陰々する、陰々と、陰々
27	うかうか		ト副	うかうかとする、うかうかする、うかうかと、うかうか
28	うきうき	浮き浮き	ト副	浮き浮きとする、浮き浮きする、浮き浮きと、浮き浮き
29	うじうじ		ト副	うじうじとする、うじうじする、うじうじと、うじうじ
30	うすうす	薄々	副詞	薄々知っている、薄々だ、薄々、うすい
31	うずうず		ト副	うずうずとする、うずうずする、うずうずと、うずうず
32	うだうだ		ト副	うだうだと言う、うだうだ言う、うだうだと、うだうだ
33	うちうち	内々	名詞	内々だ、内々に話す、内々の話、内々
34	うつうつ	鬱々	ト副	鬱々とする、鬱々する、鬱々と、鬱々
35	うとうと		ト副	うとうととする、うとうとする、うとうとと、うとうと
36	うねうね		ト副	うねうねとする、うねうねする、うねうねと、うねうね
37	うまうま	甘々	ト副	うまうまと成功する、うまうまする、うまうまと、うまうま、うまい
38	うようよ		ト副	うようよとする、うようよする、うようよと、うようよ
39	うらうら		ト副	うらうらとする、うらうらする、うらうらと、うらうら
40	うるうる		ト副	うるうるとする、うるうるする、うるうると、うるうる
41	うれうれ	熟れ熟れ	形動	熟れ熟れだ、熟れ熟れになる、熟れ熟れの果物、熟れ熟れ
42	うろうろ		ト副	うろうろとする、うろうろする、うろうろと、うろうろ
43	うんうん		ト副	うんうんと唸る、うんうん唸る、うんうんと、うんうん
44	えいえい	営々	ト副	営々とする、営々する、営々と、営々
45	えろえろ		形動	エロエロだ、エロエロになる、エロエロの服装、エロエロ
46	えんえん	延々	ト副	延々と続く、延々続く、延々と、延々
47	おいおい		ト副	おいおいと泣く、おいおい泣く、おいおいと、おいおい
48	おいおい	追々	副詞	追々に話す、追々話す、追々だ、追々
49	おうおう	往々	形動	往々にして失敗する、往々だ、往々
50	おさおさ		ト副	用意・おさおさ怠りない、おさおさだ、おさおさ
51	おじおじ	怖じ怖じ	ト副	怖じ怖じとする、怖じ怖じする、怖じ怖じと、怖じ怖じ
52	おずおず	怖ず怖ず	ト副	怖ず怖ずとする、怖ず怖ずする、怖ず怖ずと、怖ず怖ず
53	おせおせ	押せ押せ	形動	押せ押せだ、押せ押せになる、押せ押せの態度、押せ押せ
54	おたおた		ト副	おたおたとする、おたおたする、おたおたと、おたおた
55	おちおち	落ち落ち	ト副	夜もおちおち眠れない、おちおちだ、おちおち、落ちる
56	おどおど	怖ど怖ど	ト副	おどおどとする、おどおどする、おどおどと、おどおど
57	おのおの	各々	名詞	各々意見を述べる、各々だ、各々
58	おめおめ		ト副	おめおめと帰れない、おめおめ帰れない、おめおめと、おめおめ
59	おやおや		感動	おやおや！おや！おやおやおやおや！
60	おりおり	折々	名詞	四季・折々だ、折々に話す、折々の花、折々
61	おろおろ		ト副	おろおろとする、おろおろする、おろおろと、おろおろ
62	かあかあ		ト副	かあかあと鳴く、かあかあ鳴く、かあかあと、かあかあ

63	がああ		ト副	がああと鳴く、がああ鳴く、がああと、がああ
64	かくかく	斯く斯く	副詞	斯く斯くしかじかの話、斯く斯く
65	がくがく	諤々	形動	侃々(かんかん)・諤々だ、諤々になる、諤々の喧嘩、諤々(がくがく)
66	がくがく		形動	がくがくだ、がくがくになる、がくがくの入れ歯、がくがく
67	がくがく		ト副	歯ががくがくとする、がくがくする、がくがくと、がくがく
68	かさかさ		形動	手がかさかさだ、かさかさになる、かさかさの手、かさかさ
69	かさかさ		ト副	かさかさとする、かさかさする、かさかさと、かさかさ
70	がさがさ		形動	手ががさがさだ、がさがさになる、がさがさの手、がさがさ
71	がさがさ		ト副	がさがさとする、がさがさする、がさがさと、がさがさ
72	かすかす		形動	果物がかすかすだ、かすかすになる、かすかすの果物、かすかす
73	かすかす		ト副	かすかすとする、かすかすする、かすかすと、かすかす
74	かずかず	数々	名詞	逸品の数々、数々の逸品、数々、数の、数
75	かたがた	方々	名詞	こちらの方々に話す、方々、方の、方
76	がたがた		形動	がたがただ、がたがたになる、がたがたの椅子、がたがた
77	がたがた		ト副	がたがたとする、がたがたする、がたがたと、がたがた
78	かちかち		形動	頭がかちかちだ、かちかちになる、かちかちの頭、かちかち
79	かちかち		ト副	かちかちとする、かちかちする、かちかちと、かちかち
80	がちがち		形動	がちがちだ、がちがちになる、がちがちの体、がちがち
81	がちがち		ト副	歯ががちがちとする、がちがちする、がちがちと、がちがち
82	かつかつ		形動	お金がかつかつだ、かつかつになる、かつかつの暮らし、かつかつ
83	がつがつ		ト副	がつがつとする、がつがつする、がつがつと、がつがつ
84	かなかな		名詞	(蝉の)かなかなが鳴く、かなかな
85	かねがね	予々	副詞	名前はかねがね聞いている、かねがねだ、かねがね
86	がばがば		形動	がばがばだ、がばがばになる、がばがばのズボン、がばがば
87	がばがば		ト副	がばがばと流れる、がばがば流れる、がばがばと、がばがば
88	かぴかぴ		形動	かぴかぴだ、かぴかぴになる、かぴかぴのご飯、かぴかぴ
89	がびがび		形動	がびがびだ、がびがびになる、がびがびの鼻、がびがび
90	がぶがぶ		形動	腹ががぶがぶだ、がぶがぶになる、がぶがぶの腹、がぶがぶ
91	がぶがぶ		ト副	がぶがぶと飲む、がぶがぶ飲む、がぶがぶと、がぶがぶ
92	かみがみ	神々	名詞	神々がおわす、神々、神の、神
93	がみがみ		ト副	がみがみと怒る、がみがみ怒る、がみがみと、がみがみ
94	がやがや		ト副	がやがやとする、がやがやする、がやがやと、がやがや
95	からから		形動	喉がからからだ、からからになる、からからの喉、からから
96	からから		ト副	からからと笑う、からから笑う、からからと、からから
97	からがら	辛々	形動	命からがら逃げ出す、からがらだ、からがら
98	がらがら		形動	がらがらだ、がらがらになる、がらがらの店、がらがら
99	がらがら		ト副	がらがらと鳴る、がらがら鳴る、がらがらと、がらがら
100	がらがら		名詞	(玩具の)がらがらが鳴る、がらがら
101	かりかり		形動	かりかりだ、かりかりになる、かりかりのお菓子、かりかり
102	かりかり		ト副	かりかりとする、かりかりする、かりかりと、かりかり
103	がりがり		形動	がりがりだ、がりがりになる、がりがりの男、がりがり
104	がりがり		ト副	がりがりとする、がりがりする、がりがりと、がりがり
105	かるがる	軽々	ト副	軽々と運ぶ、軽々運ぶ、軽々と、軽々、かるい
106	かんかん		形動	かんかんだ、かんかんになる、かんかんの怒り、かんかん
107	かんかん		ト副	日がかんかんと照る、かんかん照る、かんかんと、かんかん
108	かんかん	閑々	ト副	閑々とする、閑々する、閑々と、閑々
109	がんがん		ト副	耳ががんがんとする、がんがんする、がんがんと、がんがん
110	きいきい		ト副	きいきいと叫ぶ、きいきい叫ぶ、きいきいと、きいきい
111	ぎいぎい		ト副	ぎいぎいと鳴る、ぎいぎい鳴る、ぎいぎいと、ぎいぎい
112	ぎくぎく		ト副	ぎくぎくとする、ぎくぎくする、ぎくぎくと、ぎくぎく
113	ぎこぎこ		ト副	鋸でぎこぎこと切る、ぎこぎこ切る、ぎこぎこと、ぎこぎこ
114	ぎざぎざ		形動	ぎざぎざだ、ぎざぎざになる、ぎざぎざの歯、ぎざぎざ
115	ぎざぎざ		ト副	ぎざぎざとする、ぎざぎざする、ぎざぎざと、ぎざぎざ
116	ぎしぎし		ト副	ぎしぎしと揺れる、ぎしぎし揺れる、ぎしぎしと、ぎしぎし
117	ぎすぎす		ト副	ぎすぎすとする、ぎすぎすする、ぎすぎすと、ぎすぎす
118	きちきち		形動	きちきちだ、きちきちになる、きちきちの服、きちきち
119	きちきち		ト副	きちきちと払う、きちきち払う、きちきちと、きちきち
120	きつきつ		形動	きつきつだ、きつきつになる、きつきつの服、きつきつ
121	きぬぎぬ	後朝	形動	夫婦がきぬぎぬになる、きぬぎぬ
122	きびきび		ト副	きびきびとする、きびきびする、きびきびと、きびきび
123	きゃぴきゃぴ		ト副	きゃぴきゃぴとする、きゃぴきゃぴする、きゃぴきゃぴと、きゃぴきゃぴ
124	きゃんきゃん		ト副	きゃんきゃんと吠える、きゃんきゃん吠える、きゃんきゃんと、きゃんきゃん
125	きゅうきゅう		形動	きゅうきゅうだ、きゅうきゅうになる、きゅうきゅうの靴、きゅうきゅう
126	きゅうきゅう		ト副	きゅうきゅうとする、きゅうきゅうする、きゅうきゅうと、きゅうきゅう
127	ぎゅうぎゅう		形動	ぎゅうぎゅうだ、ぎゅうぎゅうになる、ぎゅうぎゅうの鞄、ぎゅうぎゅう

128	ぎゅうぎゅう		ト副	ぎゅうぎゅうとする、ぎゅうぎゅうする、ぎゅうぎゅうと、ぎゅうぎゅう
129	きょろきょろ		ト副	きょろきょろとする、きょろきょろする、きょろきょろと、きょろきょろ
130	ぎょろぎょろ		ト副	ぎょろぎょろとする、ぎょろぎょろする、ぎょろぎょろと、ぎょろぎょろ
131	きらきら		形動	きらきらだ、きらきらになる、きらきらの宝石、きらきら
132	きらきら		ト副	きらきらとする、きらきらする、きらきらと、きらきら
133	ぎらぎら		ト副	ぎらぎらとする、ぎらぎらする、ぎらぎらと、ぎらぎら
134	きりきり		形動	きりきりだ、きりきりになる、きりきりの痛み、きりきり
135	きりきり		ト副	きりきりと痛む、きりきり痛む、きりきりと、きりきり
136	ぎりぎり		形動	ぎりぎりだ、ぎりぎりになる、ぎりぎりの時間、ぎりぎり
137	ぎりぎり		ト副	ぎりぎりと痛む、ぎりぎり痛む、ぎりぎりと、ぎりぎり
138	きれぎれ	切れ切れ	形動	切れ切れだ、切れ切れになる、切れ切れの記憶、切れ切れ
139	きわきわ		形動	きわきわだ、きわきわになる、きわきわの服、きわきわ
140	きんきん		形動	ビールがきんきんに冷える、きんきんのビール、きんきん
141	きんきん	近々	副詞	近々に移転する、近々移転する、近々だ、近々
142	ぎんぎん		形動	ぎんぎんだ、ぎんぎんになる、ぎんぎんの頭、ぎんぎん
143	ぐいぐい		ト副	ぐいぐいと飲む、ぐいぐい飲む、ぐいぐいと、ぐいぐい
144	ぐうぐう		ト副	ぐうぐうと鳴る、ぐうぐう鳴る、ぐうぐうと、ぐうぐう
145	くさくさ		ト副	気がくさくさとする、くさくさする、くさくさと、くさくさ
146	くさぐさ	種々	形動	くさぐさの品、くさぐさ、草の、草
147	くしゃくしゃ		形動	くしゃくしゃだ、くしゃくしゃになる、くしゃくしゃの紙、くしゃくしゃ
148	くしゃくしゃ		ト副	くしゃくしゃとする、くしゃくしゃする、くしゃくしゃと、くしゃくしゃ
149	ぐしゃぐしゃ		形動	ぐしゃぐしゃだ、ぐしゃぐしゃになる、ぐしゃぐしゃの紙、ぐしゃぐしゃ
150	ぐしゃぐしゃ		ト副	ぐしゃぐしゃとする、ぐしゃぐしゃする、ぐしゃぐしゃと、ぐしゃぐしゃ
151	くすくす		ト副	くすくすと笑う、くすくす笑う、くすくすと、くすくす
152	ぐすぐす		ト副	鼻がぐすぐすとする、ぐすぐすする、ぐすぐすと、ぐすぐす
153	ぐずぐず		形動	鼻がぐずぐずだ、ぐずぐずになる、ぐずぐずの鼻、ぐずぐず
154	ぐずぐず		ト副	ぐずぐずと言う、ぐずぐず言う、ぐずぐずと、ぐずぐず
155	くたくた		形動	くたくただ、くたくたになる、くたくたの足、くたくた
156	くだくだ		ト副	くだくだと言う、くだくだ言う、くだくだと、くだくだ
157	くちぐち	口々	名詞	口々に言う、口々、口の、口
158	ぐちぐち		ト副	ぐちぐちと言う、ぐちぐち言う、ぐちぐちと、ぐちぐち
159	くちゃくちゃ		形動	くちゃくちゃだ、くちゃくちゃになる、くちゃくちゃの紙、くちゃくちゃ
160	くちゃくちゃ		ト副	くちゃくちゃとする、くちゃくちゃする、くちゃくちゃと、くちゃくちゃ
161	ぐちゃぐちゃ		形動	ぐちゃぐちゃだ、ぐちゃぐちゃになる、ぐちゃぐちゃの紙、ぐちゃぐちゃ
162	ぐちゃぐちゃ		ト副	ぐちゃぐちゃと言う、ぐちゃぐちゃ言う、ぐちゃぐちゃと、ぐちゃぐちゃ
163	くちゅくちゅ		ト副	くちゅくちゅとウガイをする、くちゅくちゅする、くちゅくちゅと、くちゅくちゅ
164	ぐちょぐちょ		形動	ぐちょぐちょだ、ぐちょぐちょになる、ぐちょぐちょの靴、ぐちょぐちょ
165	くつくつ		ト副	くつくつと笑う、くつくつ笑う、くつくつと、くつくつ
166	ぐつぐつ		ト副	ぐつぐつと煮る、ぐつぐつ煮る、ぐつぐつと、ぐつぐつ
167	くどくど		ト副	くどくどと言う、くどくど言う、くどくどと、くどくど
168	くにぐに	国々	名詞	国々がある、国々、国の、国
169	ぐにゃぐにゃ		形動	ぐにゃぐにゃだ、ぐにゃぐにゃになる、ぐにゃぐにゃの体、ぐにゃぐにゃ
170	ぐにゃぐにゃ		ト副	ぐにゃぐにゃとする、ぐにゃぐにゃする、ぐにゃぐにゃと、ぐにゃぐにゃ
171	くねくね		ト副	くねくねとする、くねくねする、くねくねと、くねくね
172	くよくよ		ト副	くよくよとする、くよくよする、くよくよと、くよくよ
173	くらくら		形動	くらくらだ、くらくらになる、くらくらの頭、くらくら
174	くらぐら	暗々	ト副	夜道がくらぐらとする、くらぐらする、くらぐらと、くらぐら、くらい
175	くらくら		ト副	くらくらとする、くらくらする、くらくらと、くらくら
176	ぐらぐら		形動	ぐらぐらだ、ぐらぐらになる、ぐらぐらの椅子、ぐらぐら
177	ぐらぐら		ト副	ぐらぐらとする、ぐらぐらする、ぐらぐらと、ぐらぐら
178	くりくり		形動	頭をくりくりに剃る、くりくりの頭、くりくり
179	くりくり		ト副	目がくりくりとする、くりくりする、くりくりと、くりくり
180	ぐりぐり		名詞	ぐりぐりがある、ぐりぐり
181	ぐりぐり		ト副	ぐりぐりとする、ぐりぐりする、ぐりぐりと、ぐりぐり
182	くるくる		ト副	くるくると回る、くるくる回る、くるくると、くるくる
183	ぐるぐる		ト副	ぐるぐると巻く、ぐるぐる巻く、ぐるぐると、ぐるぐる
184	くれぐれ	暮れ暮れ	名詞	日の暮れ暮れまで待つ、暮れ暮れ
185	くれぐれ	呉々	副詞	くれぐれも気を付ける、くれぐれも、くれぐれ
186	くろぐろ	黒々	ト副	黒々とする、黒々する、黒々と、黒々、くろい
187	くんくん		ト副	くんくんと鳴らす、くんくん鳴らす、くんくんと、くんくん
188	ぐんぐん		ト副	ぐんぐんと引っ張る、ぐんぐん引っ張る、ぐんぐんと、ぐんぐん
189	けいけい	軽々	形動	軽々に話す、軽々だ、軽々
190	げえげえ		ト副	げえげえと吐く、げえげえ吐く、げえげえと、げえげえ
191	げこげこ		ト副	蛙がげこげこと鳴く、げこげこ鳴く、げこげこと、げこげこ
192	げじげじ		名詞	（虫の）ゲジゲジが出た、ゲジゲジ

193	けちけち		ト副	けちけちとする、けちけちする、けちけちと、けちけち
194	けらけら		ト副	けらけらと笑う、けらけら笑う、けらけらと、けらけら
195	げらげら		ト副	げらげらと笑う、げらげら笑う、げらげらと、げらげら
196	けろけろ		ト副	けろけろとする、けろけろする、けろけろと、けろけろ
197	げろげろ		ト副	げろげろと吐く、げろげろ吐く、げろげろと、げろげろ
198	けんけん		名詞	（遊びの）けんけんが上手だ、けんけん
199	こえごえ	声々	名詞	声々に叫ぶ、声々、声の、声
200	こうこう	煌々	ト副	煌々とする、煌々する、煌々と、煌々
201	ごうごう	囂々	ト副	囂々とする、囂々する、囂々と、囂々
202	ごうごう		ト副	風がごうごうと鳴る、ごうごう鳴る、ごうごうと、ごうごう
203	こくこく		ト副	こくこくと頷(うなず)く、こくこく頷く、こくこくと、こくこく
204	ごくごく	極々	副詞	極々少数、極々だ、極々、極少数
205	ごくごく		ト副	ごくごくと飲む、ごくごく飲む、ごくごくと、ごくごく
206	ごしごし		ト副	ごしごしとこする、ごしごしこする、ごしごしと、ごしごし
207	こせこせ		ト副	こせこせとする、こせこせする、こせこせと、こせこせ
208	こそこそ		ト副	こそこそとする、こそこそする、こそこそと、こそこそ
209	ごそごそ		ト副	ごそごそとする、ごそごそする、ごそごそと、ごそごそ
210	ごたごた		形動	ごたごただ、ごたごたになる、ごたごた、ごたごたが起こる
211	ごたごた		ト副	ごたごたとする、ごたごたする、ごたごたと、ごたごた
212	こちこち		形動	頭がこちこちだ、こちこちになる、こちこちの頭、こちこち
213	こちこち		ト副	こちこちと鳴る、こちこち鳴る、こちこちと、こちこち
214	ごちゃごちゃ		形動	ごちゃごちゃだ、ごちゃごちゃになる、ごちゃごちゃの部屋、ごちゃごちゃ
215	ごちゃごちゃ		ト副	ごちゃごちゃとする、ごちゃごちゃする、ごちゃごちゃと、ごちゃごちゃ
216	こちょこちょ		ト副	こちょこちょとくすぐる、こちょこちょくすぐる、こちょこちょと、こちょこちょ
217	こつこつ	兀々	ト副	こつこつと勉強する、こつこつ勉強する、こつこつと、こつこつ
218	ごつごつ		形動	ごつごつだ、ごつごつになる、ごつごつの岩、ごつごつ
219	ごつごつ		ト副	ごつごつとする、ごつごつする、ごつごつと、ごつごつ
220	こてこて		形動	こてこてだ、こてこてになる、こてこての料理、こてこて
221	こてこて		ト副	こてこてと塗る、こてこて塗る、こてこてと、こてこて
222	ことごと	事々	名詞	例の事々が問題になる、事々、事の、事
223	ことこと		ト副	ことことと鳴る、ことこと鳴る、ことことと、ことこと
224	ごとごと		ト副	ごとごとと鳴る、ごとごと鳴る、ごとごとと、ごとごと
225	こなごな	粉々	形動	粉々だ、粉々になる、粉々のガラス、粉々、粉の、粉
226	ごぶごぶ	五分五分	形動	五分五分だ、五分五分の勝負、五分五分、五分の、五分
227	こぽこぽ		ト副	こぽこぽと注ぐ、こぽこぽ注ぐ、こぽこぽと、こぽこぽ
228	ごぼごぼ		ト副	ごぼごぼと湧く、ごぼごぼ湧く、ごぼごぼと、ごぼごぼ
229	こまごま	細々	ト副	こまごまとする、こまごまする、こまごまと、こまごま、こまかい
230	ごみごみ		ト副	ごみごみとする、ごみごみする、ごみごみと、ごみごみ
231	こもごも	交々	形動	悲喜・こもごもだ、こもごもになる、こもごもの話、こもごも
232	こりこり		ト副	こりこりとする、こりこりする、こりこりと、こりこり
233	ごりごり		ト副	ごりごりとする、ごりごりする、ごりごりと、ごりごり
234	こりごり	懲り懲り	ト副	懲り懲りとする、懲り懲りする、懲り懲りと、懲り懲り、懲り懲りだ、懲りる
235	これこれ		感動	これこれ！やめなさい！これ！これこれこれこれ！
236	これこれ	此々	副詞	これこれしかじか、これこれ、これの、これ
237	ころころ		ト副	ころころと笑う、ころころ笑う、ころころと、ころころ
238	ごろごろ		ト副	ごろごろと鳴る、ごろごろ鳴る、ごろごろと、ごろごろ
239	ごろごろ		名詞	（雨で）ごろごろが鳴る、ごろごろ
240	こわごわ	怖々	ト副	怖々と歩く、怖々歩く、怖々と、怖々、こわい
241	ごわごわ		形動	ごわごわだ、ごわごわになる、ごわごわの服、ごわごわ
242	ごわごわ		ト副	ごわごわとする、ごわごわする、ごわごわと、ごわごわ
243	こんこん	昏々	ト副	こんこんと眠る、こんこん眠る、こんこんと、こんこん
244	こんこん		ト副	（雪が）こんこんと降る、こんこん降る、こんこんと、こんこん
245	ごんごん		ト副	ごんごんと叩く、ごんごん叩く、ごんごんと、ごんごん
246	ざあざあ		ト副	（雨が）ざあざあと降る、ざあざあ降る、ざあざあと、ざあざあ
247	さいさい	歳々	形動	年年・歳歳だ、歳歳
248	さえざえ	冴え冴え	ト副	冴え冴えとする、冴え冴えする、冴え冴えと、冴え冴え、冴える
249	さきざき	先々	名詞	先々の心配、先々、先の、先
250	さくさく		ト副	さくさくと掘る、さくさく掘る、さくさくと、さくさく
251	ざくざく		ト副	ざくざくと掘る、ざくざく掘る、ざくざくと、ざくざく
252	さてさて		感動	さてさて！さて！さてさてさてさて！
253	さばさば		ト副	さばさばとする、さばさばする、さばさばと、さばさば、さばける
254	ざぶざぶ		ト副	ざぶざぶと洗う、ざぶざぶ洗う、ざぶざぶと、ざぶざぶ
255	さまざま	様々	形動	様々だ、様々になる、様々な話、様々、様の、様
256	さむざむ	寒々	ト副	寒々とする、寒々する、寒々と、寒々、さむい
257	さめざめ		ト副	さめざめと泣く、さめざめ泣く、さめざめと、さめざめ、醒める

258	さやさや		ト副	(風で)さやさやと揺れる、さやさや揺れる、さやさやと、さやさや
259	さらさら	更々	副詞	その気は更々無い、更々だ、更々、更に
260	さらさら		形動	さらさらだ、さらさらになる、さらさらの髪、さらさら
261	さらさら		ト副	さらさらとする、さらさらする、さらさらと、さらさら
262	ざらざら		形動	ざらざらだ、ざらざらになる、ざらざらの肌、ざらざら
263	ざらざら		ト副	ざらざらとする、ざらざらする、ざらざらと、ざらざら
264	さわさわ		ト副	さわさわとする、さわさわする、さわさわと、さわさわ
265	ざわざわ		ト副	ざわざわとする、ざわざわする、ざわざわと、ざわざわ
266	さんさん	燦々	ト副	燦々と照る、燦々照る、燦々と、燦々
267	さんざん	散々	副詞	散々待つ、散々だ、散々
268	さんざん	散々	形動	散々だ、散々になる、散々の負け戦、散々
269	しいしい		名詞	(幼児に)しいしいをさせる、しいしい
270	じいじい		ト副	じいじいと鳴く、じいじい鳴く、じいじいと、じいじい
271	しおしお	萎々	ト副	しおしおとする、しおしおする、しおしおと、しおしお、しおれる
272	しかじか	然々	副詞	これこれしかじかの話、しかじか
273	じきじき	直々	形動	直々に話す、直々の話、直々
274	しくしく		ト副	しくしくと泣く、しくしく泣く、しくしくと、しくしく
275	じくじく		ト副	じくじくと痛む、じくじく痛む、じくじくと、じくじく
276	しげしげ	繁々	ト副	繁々と見る、繁々見る、繁々と、繁々、しげる
277	しこしこ		ト副	(噛むと)しこしことする、しこしこする、しこしこと、しこしこ
278	しずしず	静々	ト副	静々と歩く、静々歩く、静々と、静々
279	しとしと		ト副	しとしとと降る、しとしと降る、しとしとと、しとしと
280	じとじと		ト副	じとじととする、じとじとする、じとじとと、じとじと
281	しなしな		ト副	しなしなと撓(たわ)む、しなしな撓む、しなしなと、しなしな
282	しなじな	品々	名詞	品々がある、品々、品の、品
283	しばしば	屢	副詞	しばしば起こる、しばしばだ、しばしば
284	しぱしぱ		ト副	(目が)しぱしぱとする、しぱしぱする、しぱしぱと、しぱしぱ
285	しばしば		ト副	(目を)しばしばとさせる、しばしばさせる、しばしばと、しばしば
286	しぶしぶ	渋々	形動	渋々だ、渋々の承諾、渋々
287	しぶしぶ	渋々	ト副	渋々と諦める、渋々諦める、渋々と、渋々
288	しまじま	縞々	形動	縞々(しましま)だ、縞々になる、縞々の服、縞々がある、縞々、縞の、縞
289	しまじま	島々	名詞	島々がある、島々、島の、島
290	しみじみ		ト副	しみじみと考える、しみじみ考える、しみじみと、しみじみ、しみる
291	しめしめ		感動	しめしめ！しめしめしめしめ！
292	じめじめ		ト副	じめじめとする、じめじめする、じめじめと、じめじめ
293	しもじも	下々	名詞	下々の者、下々が頭を下げる、下々、下の、下
294	しゃあしゃあ	洒々	ト副	しゃあしゃあとする、しゃあしゃあする、しゃあしゃあと、しゃあしゃあ
295	しゃあしゃあ		ト副	(水が)しゃあしゃあと出る、しゃあしゃあ出る、しゃあしゃあと、しゃあしゃあ
296	じゃあじゃあ		ト副	(水が)じゃあじゃあと出る、じゃあじゃあ出る、じゃあじゃあと、じゃあじゃあ
297	しゃかしゃか		ト副	しゃかしゃかと鳴る、しゃかしゃか鳴る、しゃかしゃかと、しゃかしゃか
298	じゃかじゃか		ト副	じゃかじゃかと鳴る、じゃかじゃか鳴る、じゃかじゃかと、じゃかじゃか
299	しゃきしゃき		ト副	しゃきしゃきとする、しゃきしゃきする、しゃきしゃきと、しゃきしゃき
300	しゃくしゃく	綽々	形動	余裕・綽々だ、綽々になる、綽々の態度、綽々
301	しゃぶしゃぶ		名詞	(店で)しゃぶしゃぶを食べる、しゃぶしゃぶ
302	じゃぶじゃぶ		ト副	じゃぶじゃぶとする、じゃぶじゃぶする、じゃぶじゃぶと、じゃぶじゃぶ
303	しゃらしゃら		ト副	しゃらしゃらと鳴る、しゃらしゃら鳴る、しゃらしゃらと、しゃらしゃら
304	じゃらじゃら		ト副	じゃらじゃらと鳴る、じゃらじゃら鳴る、じゃらじゃらと、じゃらじゃら
305	しゃりしゃり		ト副	しゃりしゃりとする、しゃりしゃりする、しゃりしゃりと、しゃりしゃり
306	じゃりじゃり		ト副	じゃりじゃりとする、じゃりじゃりする、じゃりじゃりと、じゃりじゃり
307	しゃんしゃん		ト副	しゃんしゃんと鳴る、しゃんしゃん鳴る、しゃんしゃんと、しゃんしゃん
308	じゃんじゃん		ト副	じゃんじゃんと鳴る、じゃんじゃん鳴る、じゃんじゃんと、じゃんじゃん
309	しゅうしゅう	啾々	ト副	鬼哭(きこく)・啾々と泣く、啾々泣く、啾々と、啾々
310	じゅうじゅう	重々	副詞	重々承知だ、重々だ、重々
311	しゅうしゅう		ト副	しゅうしゅうと鳴る、しゅうしゅう鳴る、しゅうしゅうと、しゅうしゅう
312	じゅうじゅう		ト副	じゅうじゅうと鳴る、じゅうじゅう鳴る、じゅうじゅうと、じゅうじゅう
313	しゅくしゅく	粛々	ト副	粛々とする、粛々する、粛々と、粛々
314	しゅわしゅわ		ト副	しゅわしゅわと鳴る、しゅわしゅわ鳴る、しゅわしゅわと、しゅわしゅわ
315	じゅんじゅん	順々	形動	順々だ、順々に並ぶ、順々の挨拶、順々
316	しょうしょう	少々	副詞	少々足りない、少々だ、少々
317	じょうじょう	上々	形動	気分は上々だ、上々になる、上々の気分、上々
318	しょぼしょぼ		ト副	しょぼしょぼとする、しょぼしょぼする、しょぼしょぼと、しょぼしょぼ
319	じょりじょり		ト副	じょりじょりと剃る、じょりじょり剃る、じょりじょりと、じょりじょり
320	じょろじょろ		ト副	じょろじょろと出る、じょろじょろ出る、じょろじょろと、じょろじょろ
321	しらじら	白々	ト副	しらじらとする、しらじらする、しらじらと、しらじら、しろい
322	じりじり		ト副	じりじりとする、じりじりする、じりじりと、じりじり

323	しろじろ	白々	ト副	しろじろとする、しろじろする、しろじろと、しろじろ、しろい
324	じろじろ		ト副	じろじろと見る、じろじろ見る、じろじろと、じろじろ
325	しわしわ	皺々	形動	しわしわだ、しわしわになる、しわしわの顔、しわしわ
326	じわじわ		ト副	(汗が)じわじわと出る、じわじわ出る、じわじわと、じわじわ
327	しんしん	深々	ト副	(雪が)深々と降る、深々降る、深々と、深々
328	じんじん		ト副	じんじんと痛む、じんじん痛む、じんじんと、じんじん
329	すいすい		ト副	すいすいと飛ぶ、すいすい飛ぶ、すいすいと、すいすい
330	すうすう		ト副	すうすうと寝る、すうすう寝る、すうすうと、すうすう
331	すえずえ	末々	名詞	末々まで残る、末々、末の、末
332	すかすか		形動	すかすかだ、すかすかになる、すかすかの果物、すかすか
333	すかすか		ト副	すかすかと通り抜ける、すかすか通り抜ける、すかすかと、すかすか
334	ずかずか		ト副	ずかずかと上がる、ずかずか上がる、ずかずかと、ずかずか
335	すきずき	好き好き	形動	好き好きだ、好き好きに選ぶ、好き好きの選択、好き好き、好きだ、好き
336	ずきずき		ト副	ずきずきとする、ずきずきする、ずきずきと、ずきずき
337	すくすく		ト副	すくすくと伸びる、すくすく伸びる、すくすくと、すくすく
338	すけすけ	透け透け	形動	透け透けだ、透け透けになる、透け透けの服、透け透け
339	ずけずけ		ト副	ずけずけと言う、ずけずけ言う、ずけずけと、ずけずけ
340	すごすご	悄々	ト副	すごすごと帰る、すごすご帰る、すごすごと、すごすご、すごい
341	すたすた		ト副	すたすたと歩く、すたすた歩く、すたすたと、すたすた
342	ずたずた	寸々	形動	ずたずただ、ずたずたになる、ずたずたの布、ずたずた
343	ずたずた	寸々	ト副	ずたずたと切る、ずたずた切る、ずたずたと、ずたずた
344	すぱすぱ		ト副	すぱすぱと吸う、すぱすぱ吸う、すぱすぱと、すぱすぱ
345	ずばずば		ト副	ずばずばと言う、ずばずば言う、ずばずばと、ずばずば
346	ずぶずぶ		形動	ずぶずぶだ、ずぶずぶになる、ずぶずぶの沼、ずぶずぶ
347	ずぶずぶ		ト副	(足が)ずぶずぶと入る、ずぶずぶ入る、ずぶずぶと、ずぶずぶ
348	すべすべ	滑々	形動	すべすべだ、すべすべになる、すべすべの肌、すべすべ
349	すべすべ	滑々	ト副	すべすべとする、すべすべする、すべすべと、すべすべ
350	すぽすぽ		ト副	すぽすぽと抜ける、すぽすぽ抜ける、すぽすぽと、すぽすぽ
351	ずぼずぼ		ト副	ずぼずぼと抜ける、ずぼずぼ抜ける、ずぼずぼと、ずぼずぼ
352	すみずみ	隅々	名詞	隅々まで掃除する、隅々、隅の、隅
353	すやすや		ト副	すやすやと眠る、すやすや眠る、すやすやと、すやすや
354	すらすら		形動	すらすらだ、すらすらになる、すらすらの筆、すらすら
355	すらすら		ト副	すらすらと読む、すらすら読む、すらすらと、すらすら
356	すりすり	擦り擦り	ト副	すりすりと撫でる、すりすり撫でる、すりすりと、すりすり
357	するする		ト副	するすると解(ほど)ける、するする解ける、するすると、するする
358	ずるずる		形動	ずるずるだ、ずるずるになる、ずるずるの鼻、ずるずる
359	ずるずる		ト副	ずるずるとする、ずるずるする、ずるずると、ずるずる
360	すれすれ	擦れ擦れ	形動	時間・すれすれだ、すれすれになる、すれすれの時間、すれすれ
361	ずんずん		ト副	ずんずんと響く、ずんずん響く、ずんずんと、ずんずん
362	せいせい	清々	ト副	奴が居なくて清々とする、清々する、清々と、清々
363	せいぜい	精々	副詞	精々努力する、精々だ、精々
364	ぜえぜえ		ト副	(喉が)ぜえぜえとする、ぜえぜえする、ぜえぜえと、ぜえぜえ
365	せかせか		ト副	せかせかとする、せかせかする、せかせかと、せかせか
366	せつせつ	切々	ト副	切々と語る、切々語る、切々と、切々
367	そうそう	錚々	ト副	錚々たる人物、錚々
368	そうそう	早々	副詞	新年・早々に出掛ける、早々出掛ける、早々
369	そうそう	然う然う	副詞	そうそう良い顔もできない、そうそうは、そうそう
370	ぞくぞく	続々	ト副	続々と集まる、続々集まる、続々と、続々
371	ぞくぞく		ト副	ぞくぞくとする、ぞくぞくする、ぞくぞくと、ぞくぞく
372	そこそこ	其処其処	名詞	百円そこそこだ、そこそこの値段、そこそこ、そこの、そこ
373	そこそこ	其処其処	形動	挨拶もそこそこに本題に入る
374	そもそも	抑々	副詞	そもそも有り得ない、そもそもだ、そもそも
375	そよそよ		ト副	そよそよと吹く、そよそよ吹く、そよそよと、そよそよ
376	そりそり	剃り剃り	動詞	剃り剃りとする、剃り剃りする、剃り剃りと、剃り剃り
377	ぞりぞり		ト副	ぞりぞりと剃る、ぞりぞり剃る、ぞりぞりと、ぞりぞり
378	それぞれ	其々	名詞	それぞれだ、それぞれにある、それぞれの事情、それぞれ、それの、それ
379	そろそろ		ト副	そろそろと帰る、そろそろ帰る、そろそろと、そろそろ
380	ぞろぞろ		ト副	ぞろぞろと歩く、ぞろぞろ歩く、ぞろぞろと、ぞろぞろ
381	そわそわ		ト副	そわそわとする、そわそわする、そわそわと、そわそわ
382	だいだい	代々	形動	先祖・代々だ、代々に伝わる、代々の墓、代々、代の、代
383	だいだい	橙	名詞	(木の)だいだいを植える、だいだい
384	たえだえ	絶え絶え	形動	息も絶え絶えだ、絶え絶えになる、絶え絶えの息、絶え絶え
385	たかだか	高々	副詞	たかだか千円ぐらい、たかだかだ、たかだか
386	たかだか	高々	ト副	高々と持ち上げる、高々持ち上げる、高々と、高々、たかい
387	だくだく		形動	(汗が)だくだくだ、だくだくになる、だくだくの汗、だくだく

388	だくだく		ト副	(汗が)だくだくと流れる、だくだく流れる、だくだくと、だくだく
389	たじたじ		形動	たじたじだ、たじたじになる、たじたじの足、たじたじ
390	たじたじ		ト副	たじたじとする、たじたじする、たじたじと、たじたじ
391	ただただ	只々	副詞	ただただ疲れた、ただただだ、ただただ、ただ疲れた
392	たびたび	度々	副詞	度々言う、度々だ、度々、この度の事件、この度は
393	たぷたぷ		ト副	たぷたぷとする、たぷたぷする、たぷたぷと、たぷたぷ
394	だぶだぶ		形動	だぶだぶだ、だぶだぶになる、だぶだぶの服、だぶだぶ
395	だぶだぶ		ト副	だぶだぶとする、だぶだぶする、だぶだぶと、だぶだぶ
396	たまたま	偶々	副詞	偶々会う、偶々だ、偶々、偶の休み、偶に会う、偶に
397	だめだめ	駄目駄目	形動	駄目駄目だ、駄目駄目、駄目だ、駄目
398	たらたら		形動	不満・たらたらだ、たらたらになる、たらたらの不満、たらたら
399	たらたら		ト副	たらたらと落ちる、たらたら落ちる、たらたらと、たらたら
400	だらだら		ト副	だらだらとする、だらだらする、だらだらと、だらだら
401	だれだれ	誰々	名詞	誰々が何々した、誰々、誰の、誰
402	たわたわ	撓々	ト副	たわたわと弾(はず)む、たわたわ弾む、たわたわと、たわたわ
403	たんたん	淡々	ト副	淡々とする、淡々する、淡々と、淡々
404	だんだん	段々	副詞	段々と良くなる、段々良くなる、段々と、段々
405	だんだん	段々	形動	段々だ、段々に良くなる、段々の成長、段々
406	だんだん	段々	名詞	階段が段々に並ぶ、段々、段の、段
407	ちかちか		ト副	(目が)ちかちかとする、ちかちかする、ちかちかと、ちかちか
408	ちかぢか	近々	名詞	近々に行く、近々行く、近々だ、近々
409	ちくちく		ト副	(腹が)ちくちくとする、ちくちくする、ちくちくと、ちくちく
410	ちびちび		ト副	ちびちびと飲む、ちびちび飲む、ちびちびと、ちびちび
411	ちまちま		ト副	ちまちまとする、ちまちまする、ちまちまと、ちまちま
412	ちゃかちゃか		ト副	ちゃかちゃかと鳴る、ちゃかちゃか鳴る、ちゃかちゃかと、ちゃかちゃか
413	ちゃきちゃき		形動	ちゃきちゃきの江戸っ子、ちゃきちゃき
414	ちゃきちゃき		ト副	ちゃきちゃきとする、ちゃきちゃきする、ちゃきちゃきと、ちゃきちゃき
415	ちゃくちゃく	着々	ト副	着々と進む、着々進む、着々と、着々
416	ちゃらちゃら		ト副	ちゃらちゃらとさせる、ちゃらちゃらさせる、ちゃらちゃらと、ちゃらちゃら
417	ちゃんちゃん		ト副	(仕事を)ちゃんちゃんとする
418	ちゅうちゅう		ト副	ちゅうちゅうと鳴く、ちゅうちゅう鳴く、ちゅうちゅうと、ちゅうちゅう
419	ちゅうちゅう		名詞	(鼠＝)ちゅうちゅうを捕まえる、ちゅうちゅう
420	ちょうちょう	蝶々	名詞	(蝶＝)ちょうちょうが飛ぶ、ちょうちょう
421	ちょきちょき		ト副	ちょきちょきと切る、ちょきちょき切る、ちょきちょきと、ちょきちょき
422	ちょくちょく		ト副	ちょくちょくと来る、ちょくちょく来る、ちょくちょくと、ちょくちょく
423	ちょこちょこ		ト副	ちょこちょことする、ちょこちょこする、ちょこちょこと、ちょこちょこ
424	ちょびちょび		ト副	ちょびちょびと飲む、ちょびちょび飲む、ちょびちょびと、ちょびちょび
425	ちょぼちょぼ		形動	ちょぼちょぼだ、ちょぼちょぼになる、ちょぼちょぼの成績、ちょぼちょぼ
426	ちょぼちょぼ		ト副	ちょぼちょぼと生える、ちょぼちょぼ生える、ちょぼちょぼと、ちょぼちょぼ
427	ちょめちょめ		名詞	ちょめちょめを隠す、ちょめちょめ
428	ちょろちょろ		ト副	ちょろちょろとする、ちょろちょろする、ちょろちょろと、ちょろちょろ
429	ちょんちょん		ト副	ちょんちょんと触る、ちょんちょん触る、ちょんちょんと、ちょんちょん
430	ちょんちょん		名詞	(仮名に)ちょんちょんを打つ、ちょんちょん、ちょんを打つ、ちょん
431	ちらちら		ト副	(雪が)ちらちらと降る、ちらちら降る、ちらちらと、ちらちら
432	ちりちり		形動	(火で髪が)ちりちりだ、ちりちりになる、ちりちりの髪、ちりちり
433	ちりちり		ト副	ちりちりとする、ちりちりする、ちりちりと、ちりちり
434	ちりぢり	散り散り	形動	散り散りだ、散り散りになる、散り散りの家族、散り散り
435	ちんちん		ト副	ちんちんと鳴る、ちんちん鳴る、ちんちんと、ちんちん
436	ちんちん		名詞	(股間の)ちんちんを隠す、ちんちん
437	ついつい		副詞	ついつい食べてしまう、ついついだ、つい食べてしまう、ついだ
438	つうつう		形動	つうつうの間柄、つうつう
439	つかつか		ト副	つかつかと歩み寄る、つかつか歩み寄る、つかつかと、つかつか
440	つきづき	月々	名詞	月々の支払、月々、月の、月
441	つぎつぎ	次々	形動	次々だ、次々に来る、次々の訪問、次々、次の、次
442	つくづく	熟	ト副	つくづくと見る、つくづく見る、つくづくと、つくづく、尽きる
443	つけつけ		ト副	つけつけと言う、つけつけ言う、つけつけと、つけつけ
444	つじつじ	辻々	名詞	辻々を通り抜ける、辻々、辻の、辻
445	つねづね	常々	副詞	常々思う、常々だ、常々、常に、常
446	つぶつぶ	粒々	形動	粒々だ、粒々の汗、豆の粒々を拾う、粒々、粒の、粒
447	つやつや	艶々	形動	つやつやだ、つやつやになる、つやつやの肌、つやつや
448	つやつや	艶々	ト副	つやつやとする、つやつやする、つやつやと、つやつや
449	つらつら	熟々	ト副	つらつらと考える、つらつら考える、つらつらと、つらつら
450	つるつる		形動	つるつるだ、つるつるになる、つるつるの肌、つるつる
451	つるつる		ト副	つるつると滑る、つるつる滑る、つるつると、つるつる
452	つれづれ	徒然	副詞	つれづれ物思う、つれづれだ、つれづれ

453	つんつん		ト副	つんつんとする、つんつんする、つんつんと、つんつん
454	てかてか		形動	てかてかだ、てかてかになる、てかてかの肌、てかてか
455	てかてか		ト副	てかてかとする、てかてかする、てかてかと、てかてか
456	てくてく		ト副	てくてくと歩く、てくてく歩く、てくてくと、てくてく
457	てらてら	照々	形動	てらてらだ、てらてらになる、てらてらの顔、てらてら
458	てらてら	照々	ト副	てらてらと光る、てらてら光る、てらてらと、てらてら
459	てらでら	寺々	名詞	寺々の鐘が鳴る、寺々、寺の、寺
460	でれでれ		ト副	でれでれとする、でれでれする、でれでれと、でれでれ
461	てんてん	転々	ト副	転々とする、転々する、転々と、転々
462	てんてん	点々	名詞	(仮名に)点々を打つ、点々、点を打つ、点
463	とうとう	滔々	ト副	滔々と話す、滔々話す、滔々と、滔々
464	どうどう	堂々	ト副	堂々とする、堂々する、堂々と、堂々
465	どおどお		ト副	どおどおと流れる、どおどお流れる、どおどおと、どおどお
466	どかどか		ト副	どかどかとする、どかどかする、どかどかと、どかどか
467	ときどき	時々	名詞	その時々の風次第、時々、時の、時
468	ときどき	時々	副詞	時々は行く、時々は
469	ときどき	時々	副詞	時々行く、時々だ、時々
470	どきどき		ト副	(胸が)どきどきとする、どきどきする、どきどきと、どきどき
471	とくとく		ト副	(水を)とくとくと注(そそ)ぐ、とくとく注ぐ、とくとくと、とくとく
472	どくどく		ト副	(血が)どくどくと流れる、どくどく流れる、どくどくと、どくどく
473	とことこ		ト副	とことこと歩く、とことこ歩く、とことこと、とことこ
474	どこどこ	何処何処	名詞	どこどこに行く、どこどこ、何処に行く、何処
475	としどし	年々	名詞	年々の花見、年々、年の、年
476	どしどし		ト副	どしどしと言う、どしどし言う、どしどしと、どしどし
477	どたどた		ト副	どたどたと歩く、どたどた歩く、どたどたと、どたどた
478	とつとつ	訥々	ト副	訥々と話す、訥々話す、訥々と、訥々
479	どばどば		ト副	どばどばと出る、どばどば出る、どばどばと、どばどば
480	とびとび	飛び飛び	形動	飛び飛びだ、飛び飛びになる、飛び飛びの庭石、飛び飛び
481	とぼとぼ		ト副	とぼとぼと歩く、とぼとぼ歩く、とぼとぼと、とぼとぼ
482	ともども	共々	副詞	親子・共々お世話になる、共々だ、共に歩む、共に
483	どやどや		ト副	どやどやと入る、どやどや入る、どやどやと、どやどや
484	どよどよ		ト副	どよどよと騒がしい、どよどよ騒がしい、どよどよと、どよどよ
485	とりどり	取り取り	形動	色・とりどりだ、とりどりに咲く、とりどりの花、とりどり、取る
486	どれどれ		感動	どれどれ！どれ！どれどれどれどれ！
487	とろとろ		形動	(目が)とろとろだ、とろとろになる、とろとろの目、とろとろ
488	とろとろ		ト副	とろとろとする、とろとろする、とろとろと、とろとろ
489	どろどろ		形動	どろどろだ、どろどろになる、どろどろの手、どろどろ
490	どろどろ		ト副	どろどろとする、どろどろする、どろどろと、どろどろ
491	とんとん		形動	(収支が)とんとんだ、とんとんになる、とんとんの収支、とんとん
492	とんとん		ト副	とんとんと叩く、とんとん叩く、とんとんと、とんとん
493	どんどん		ト副	どんどんと進む、どんどん進む、どんどんと、どんどん
494	なあなあ		形動	なあなあで済ます、なあなあになる、なあなあの決着、なあなあ
495	ないない	内々	形動	内々で片付ける、内々に話す、内々の話、内々
496	なえなえ	萎え萎え	形動	萎え萎えだ、萎え萎えになる、萎え萎え
497	なおなお	尚々	副詞	なおなお励(はげ)め、なおなおだ、なおなお、なお良い、なお
498	なかなか	中々	副詞	中々良い、中々だ、中々、中に入る、中
499	ながなが	長々	ト副	長々と寝そべる、長々お世話になる、長々と、長々、ながい
500	なきなき	泣き泣き	副詞	泣き泣き引き返す、泣き泣きだ、泣き泣き
501	なくなく	泣く泣く	副詞	泣く泣く諦める、泣く泣くだ、泣く泣く
502	なぞなぞ	謎々	名詞	謎々が出される、謎々、謎の、謎
503	なでなで	撫で撫で	動詞	なでなでとする、なでなでする、なでなでと、なでなで
504	なになに	何々	名詞	何々がどうこうした、何々、何が、何
505	なまなま	生々	ト副	なまなまとする、なまなまする、なまなまと、なまなま、なまの肉
506	なみなみ		ト副	(酒を)なみなみとつぐ、なみなみつぐ、なみなみと、なみなみ、なみが立つ
507	なよなよ		形動	なよなよだ、なよなよになる、なよなよの手足、なよなよ
508	なよなよ		ト副	なよなよとする、なよなよする、なよなよと、なよなよ
509	にぎにぎ	賑々	ト副	にぎにぎと騒がしい、にぎにぎ騒がしい、にぎにぎと、にぎにぎ、にぎわう
510	にこにこ		形動	にこにこだ、にこにこになる、にこにこの笑顔、にこにこ
511	にこにこ		ト副	にこにこと笑う、にこにこ笑う、にこにこと、にこにこ
512	にたにた		ト副	にたにたと笑う、にたにた笑う、にたにたと、にたにた
513	にちにち	日々	副詞	にちにち(日々)努力する、にちにちだ、にちにち、にちと、にち
514	にぱにぱ		ト副	にぱにぱと笑う、にぱにぱ笑う、にぱにぱと、にぱにぱ
515	にまにま		ト副	にまにまと笑う、にまにま笑う、にまにまと、にまにま
516	にゃあにゃあ		ト副	にゃあにゃあと鳴く、にゃあにゃあ鳴く、にゃあにゃあと、にゃあにゃあ
517	にやにや		ト副	にやにやと笑う、にやにや笑う、にやにやと、にやにや

518	にによに		ト副	にによに笑う、にによに笑う、にによに、にによ
519	ぬくぬく		形動	ぬくぬくだ、ぬくぬくになる、ぬくぬくの布団、ぬくぬく
520	ぬくぬく		ト副	ぬくぬくとする、ぬくぬくする、ぬくぬくと、ぬくぬく
521	ぬけぬけ		ト副	ぬけぬけと言う、ぬけぬけ言う、ぬけぬけと、ぬけぬけ、抜ける
522	ぬたぬた		ト副	ぬたぬたと粘る、ぬたぬた粘る、ぬたぬたと、ぬたぬた
523	ぬぷぬぷ		ト副	ぬぷぬぷとする、ぬぷぬぷする、ぬぷぬぷと、ぬぷぬぷ
524	ぬめぬめ	滑々	ト副	ぬめぬめと滑る、ぬめぬめ滑る、ぬめぬめと、ぬめぬめ
525	ぬらぬら	滑々	ト副	ぬらぬらとする、ぬらぬらする、ぬらぬらと、ぬらぬら
526	ぬりぬり	塗り塗り	動詞	塗り塗りとする、塗り塗りする、塗り塗りと、塗り塗り
527	ぬるぬる		形動	ぬるぬるだ、ぬるぬるになる、ぬるぬるの魚、ぬるぬる
528	ぬるぬる		ト副	ぬるぬるとする、ぬるぬるする、ぬるぬると、ぬるぬる
529	ぬれぬれ	濡れ濡れ	形動	濡れ濡れだ、濡れ濡れになる、濡れ濡れの服、濡れ濡れ
530	ねちねち		ト副	ねちねちとする、ねちねちする、ねちねちと、ねちねち
531	ねとねと		ト副	ねとねととする、ねとねとする、ねとねとと、ねとねと
532	ねばねば	粘々	形動	ねばねばだ、ねばねばの納豆、ねばねば、ねばねばが付く
533	ねばねば	粘々	ト副	ねばねばとする、ねばねばする、ねばねばと、ねばねば
534	ねりねり	練り練り	動詞	練り練りとする、練り練りする、練り練りと、練り練り
535	ねんねん	年々	形動	年々増加する、歳歳・年年だ、年々
536	のうのう		ト副	のうのうと生きる、のうのう生きる、のうのうと、のうのう、のん気な
537	のこのこ		ト副	のこのこと出る、のこのこ出る、のこのこと、のこのこ
538	のしのし		ト副	のしのしと歩く、のしのし歩く、のしのしと、のしのし
539	のそのそ		ト副	のそのそと歩く、のそのそ歩く、のそのそと、のそのそ
540	のちのち	後々	副詞	後々苦労する、後々だ、後々、後の、後
541	のびのび	延び延び	形動	延び延びだ、延び延びになる、延び延びの期限、延び延び
542	のびのび	伸び伸び	ト副	伸び伸びとする、伸び伸びする、伸び伸びと、伸び伸び、伸びる
543	のめのめ		ト副	よくも・のめのめとやって来れたな、のめのめと、のめのめ、前にのめる
544	のりのり	乗り乗り	形動	乗り乗りだ、乗り乗りになる、乗り乗りのダンス、乗り乗り
545	のろのろ		ト副	のろのろとする、のろのろする、のろのろと、のろのろ
546	はいはい	這い這い	名詞	這い這いをする、這い這い
547	はいはい		感動	はいはい！何でしょう？はい！はいはいはいはい！
548	ぱいぱい		名詞	（赤ん坊が母親の）ぱいぱいを吸う、ぱいぱい
549	ぱかぱか		ト副	（馬が）ぱかぱかと走る、ぱかぱか走る、ぱかぱかと、ぱかぱか
550	ばかばか		ト副	ばかばかと食う、ばかばか食う、ばかばかと、ばかばか
551	はきはき		ト副	はきはきとする、はきはきする、はきはきと、はきはき
552	ぱきぱき		ト副	ぱきぱきと鳴らす、ぱきぱき鳴らす、ぱきぱきと、ぱきぱき
553	ばきばき		ト副	ばきばきと折る、ばきばき折る、ばきばきと、ばきばき
554	ぱくぱく		形動	（歯が抜けて）ぱくぱくになる、ぱくぱくの口、ぱくぱく
555	ぱくぱく		ト副	ぱくぱくと食べる、ぱくぱく食べる、ぱくぱくと、ぱくぱく
556	ばくばく		ト副	ばくばくと食べる、ばくばく食べる、ばくばくと、ばくばく
557	ぱさぱさ		形動	ぱさぱさだ、ぱさぱさになる、ぱさぱさのご飯、ぱさぱさ
558	ぱさぱさ		ト副	ぱさぱさとする、ぱさぱさする、ぱさぱさと、ぱさぱさ
559	ばさばさ		形動	（髪が）ばさばさだ、ばさばさになる、ばさばさの髪、ばさばさ
560	ばさばさ		ト副	ばさばさとする、ばさばさする、ばさばさと、ばさばさ
561	はしばし	端々	名詞	言葉の端々に込める、端々、端の、端
562	はたはた	鰰	名詞	はたはたが獲れる、はたはた
563	はたはた		ト副	はたはたと翻(ひるがえ)る、はたはた翻る、はたはたと、はたはた
564	ぱたぱた		ト副	ぱたぱたとする、ぱたぱたする、ぱたぱたと、ぱたぱた
565	ばたばた		ト副	ばたばたとする、ばたばたする、ばたばたと、ばたばた
566	ぱちぱち		ト副	ぱちぱちと叩く、ぱちぱち叩く、ぱちぱちと、ぱちぱち
567	ばちばち		ト副	ばちばちと燃える、ばちばち燃える、ばちばちと、ばちばち
568	はやばや	早々	ト副	早々と帰る、早々帰る、早々と、早々、はやい
569	はらはら		ト副	はらはらとする、はらはらする、はらはらと、はらはら
570	ぱらぱら		形動	ぱらぱらだ、ぱらぱらになる、ぱらぱらの雨、ぱらぱら
571	ぱらぱら		ト副	ぱらぱらと降る、ぱらぱら降る、ぱらぱらと、ぱらぱら
572	ばらばら		形動	ばらばらだ、ばらばらになる、ばらばらのトランプ、ばらばら
573	ばらばら		ト副	ばらばらと落ちる、ばらばら落ちる、ばらばらと、ばらばら
574	ぱりぱり		形動	ぱりぱりだ、ぱりぱりになる、ぱりぱりの服、ぱりぱり
575	ぱりぱり		ト副	ぱりぱりとする、ぱりぱりする、ぱりぱりと、ぱりぱり
576	ばりばり		形動	ばりばりだ、ばりばりになる、ばりばりの現役、ばりばり
577	ばりばり		ト副	ばりばりと鳴る、ばりばり鳴る、ばりばりと、ばりばり
578	はるばる	遥々	ト副	遥々と来る、遥々来る、遥々と、遥々、はるかな
579	はればれ	晴々	ト副	晴々とする、晴々する、晴々と、晴々、はれる
580	ばればれ		形動	ばればれだ、ばればれになる、ばればれの嘘、ばればれ
581	はんはん	半々	形動	半々だ、半々にする、半々の支払い、半だ、半
582	ぱんぱん		ト副	ぱんぱんと鳴らす、ぱんぱん鳴らす、ぱんぱんと、ぱんぱん

583	ばんばん		ト副	ばんばんと撃つ、ばんばん撃つ、ばんばんと、ばんばん
584	ひいひい		ト副	ひいひいと言う、ひいひい言う、ひいひいと、ひいひい
585	ぴいぴい		ト副	ぴいぴいと泣く、ぴいぴい泣く、ぴいぴいと、ぴいぴい
586	ぴいぴい		ト副	(警報が)ぴいぴいと鳴る、ぴいぴい鳴る、ぴいぴいと、ぴいぴい
587	ひえぴえ	冷え冷え	ト副	冷え冷えとする、冷え冷えする、冷え冷えと、冷え冷え、冷える
588	ぴかぴか		形動	ぴかぴかだ、ぴかぴかになる、ぴかぴかの車、ぴかぴか
589	ぴかぴか		ト副	ぴかぴかと光る、ぴかぴか光る、ぴかぴかと、ぴかぴか
590	ひくひく		ト副	ひくひくとする、ひくひくする、ひくひくと、ひくひく
591	ぴくぴく		ト副	ぴくぴくとする、ぴくぴくする、ぴくぴくと、ぴくぴく
592	びくびく		ト副	びくびくとする、びくびくする、びくびくと、びくびく
593	ひしひし	犇々	ト副	ひしひしと感じる、ひしひし感じる、ひしひしと、ひしひし
594	ぴしぴし		ト副	ぴしぴしと叱る、ぴしぴし叱る、ぴしぴしと、ぴしぴし
595	びしびし		ト副	びしびしと叱る、びしびし叱る、びしびしと、びしびし
596	びしょびしょ		形動	びしょびしょだ、びしょびしょになる、びしょびしょの服、びしょびしょ
597	びしょびしょ		ト副	びしょびしょとする、びしょびしょする、びしょびしょと、びしょびしょ
598	ひそひそ		ト副	ひそひそと話す、ひそひそ話す、ひそひそと、ひそひそ
599	ひたひた		形動	ひたひただ、ひたひたになる、ひたひたの風呂、ひたひた
600	ひたひた		ト副	(水が)ひたひたと寄せる、ひたひた寄せる、ひたひたと、ひたひた
601	ぴたぴた		ト副	(頬を)ぴたぴたと叩く、ぴたぴた叩く、ぴたぴたと、ぴたぴた
602	ぴちぴち		形動	ぴちぴちだ、ぴちぴちになる、ぴちぴちの魚、ぴちぴち
603	ぴちぴち		ト副	ぴちぴちとする、ぴちぴちする、ぴちぴちと、ぴちぴち
604	ぴちゃぴちゃ		ト副	ぴちゃぴちゃとする、ぴちゃぴちゃする、ぴちゃぴちゃと、ぴちゃぴちゃ
605	びちゃびちゃ		形動	びちゃびちゃだ、びちゃびちゃになる、びちゃびちゃの服、びちゃびちゃ
606	びちゃびちゃ		ト副	びちゃびちゃとする、びちゃびちゃする、びちゃびちゃと、びちゃびちゃ
607	ぴちょぴちょ		形動	ぴちょぴちょだ、ぴちょぴちょになる、ぴちょぴちょの服、ぴちょぴちょ
608	ひとぴと	人々	名詞	人々が集まる、人々、人の、人
609	ひまひま	隙々	名詞	仕事のひまひまに遊ぶ、ひまひま、暇だ、暇
610	ひやひや	冷や冷や	形動	冷や冷やだ、冷や冷やになる、冷や冷やの勝利、冷や冷や
611	ひやひや	冷や冷や	ト副	冷や冷やとする、冷や冷やする、冷や冷やと、冷や冷や
612	ひゅうひゅう		ト副	(風が)ひゅうひゅうと吹く、ひゅうひゅう吹く、ひゅうひゅうと、ひゅうひゅう
613	ぴゅうぴゅう		ト副	(風が)ぴゅうぴゅうと吹く、ぴゅうぴゅう吹く、ぴゅうぴゅうと、ぴゅうぴゅう
614	びゅうびゅう		ト副	(風が)びゅうびゅうと吹く、びゅうびゅう吹く、びゅうびゅうと、びゅうびゅう
615	ひょうひょう	飄々	ト副	飄々とする、飄々する、飄々と、飄々
616	ひょこひょこ		ト副	ひょこひょこと歩く、ひょこひょこ歩く、ひょこひょこと、ひょこひょこ
617	ぴょこぴょこ		ト副	ぴょこぴょこと歩く、ぴょこぴょこ歩く、ぴょこぴょこと、ぴょこぴょこ
618	ひよひよ		ト副	ひよひよと鳴く、ひよひよ鳴く、ひよひよと、ひよひよ
619	ぴよぴよ		ト副	ぴよぴよと鳴く、ぴよぴよ鳴く、ぴよぴよと、ぴよぴよ
620	ひょろひょろ		形動	ひょろひょろだ、ひょろひょろになる、ひょろひょろの腕、ひょろひょろ
621	ひょろひょろ		ト副	ひょろひょろとする、ひょろひょろする、ひょろひょろと、ひょろひょろ
622	ぴょんぴょん		ト副	ぴょんぴょんと飛ぶ、ぴょんぴょん飛ぶ、ぴょんぴょんと、ぴょんぴょん
623	ひらひら		名詞	ひらひらだ、ひらひらのハンカチ、ひらひら、ひらひらを振る
624	ひらひら		ト副	ひらひらとさせる、ひらひらさせる、ひらひらと、ひらひら
625	ぴらぴら		形動	ぴらぴらだ、ぴらぴらになる、ぴらぴらのハンカチ、ぴらぴら
626	ぴらぴら		ト副	ぴらぴらとする、ぴらぴらする、ぴらぴらと、ぴらぴら
627	びらびら		形動	びらびらだ、びらびらになる、びらびらの派手な服、びらびら
628	びらびら		ト副	びらびらとする、びらびらする、びらびらと、びらびら
629	ひりひり		ト副	ひりひりと痛む、ひりひり痛む、ひりひりと、ひりひり
630	ぴりぴり		ト副	ぴりぴりとする、ぴりぴりする、ぴりぴりと、ぴりぴり
631	びりびり		ト副	びりびりとする、びりびりする、びりびりと、びりびり
632	ひろびろ	広々	ト副	広々とする、広々する、広々と、広々、ひろい
633	ぴんぴん		ト副	ぴんぴんとする、ぴんぴんする、ぴんぴんと、ぴんぴん
634	びんびん		形動	びんびんだ、びんびんになる、びんびんの魚、びんびん
635	ふうふう		ト副	(息を)ふうふうと吹く、ふうふう吹く、ふうふうと、ふうふう
636	ぷうぷう		ト副	(息を)ぷうぷうと吹く、ぷうぷう吹く、ぷうぷうと、ぷうぷう
637	ぶうぶう		ト副	ぶうぶうと怒る、ぶうぶう怒る、ぶうぶうと、ぶうぶう
638	ふかぶか	深々	ト副	(頭を)深々と下げる、深々下げる、深々と、深々、ふかい
639	ふかふか		形動	ふかふかだ、ふかふかになる、ふかふかの布団、ふかふか
640	ふかふか		ト副	ふかふかとする、ふかふかする、ふかふかと、ふかふか
641	ぷかぷか		ト副	ぷかぷかと浮く、ぷかぷか浮く、ぷかぷかと、ぷかぷか
642	ぶかぶか		形動	ぶかぶかだ、ぶかぶかになる、ぶかぶかの服、ぶかぶか
643	ぶかぶか		ト副	ぶかぶかとする、ぶかぶかする、ぶかぶかと、ぶかぶか
644	ぷくぷく		ト副	ぷくぷくと太る、ぷくぷく太る、ぷくぷくと、ぷくぷく
645	ぶくぶく		ト副	ぶくぶくと沈む、ぶくぶく沈む、ぶくぶくと、ぶくぶく
646	ふさふさ	房々	形動	ふさふさだ、ふさふさになる、ふさふさの髪、ふさふさ
647	ふさふさ	房々	ト副	ふさふさとする、ふさふさする、ふさふさと、ふさふさ

648	ふしぶし	節々	名詞	体の節々が痛む、節々、節が、節
649	ぷちぷち		ト副	ぷちぷちと潰す、ぷちぷち潰す、ぷちぷちと、ぷちぷち
650	ぶちぶち		ト副	ぶちぶちと千切(ちぎ)る、ぶちぶち千切る、ぶちぶちと、ぶちぶち
651	ふつふつ	沸々	ト副	沸々と煮る、沸々煮る、沸々と、沸々
652	ぶつぶつ		名詞	ぶつぶつだ、ぶつぶつの蕁麻疹、ぶつぶつ、ぶつぶつが出た
653	ぶつぶつ		ト副	ぶつぶつと言う、ぶつぶつ言う、ぶつぶつと、ぶつぶつ
654	ふにふに		ト副	ふにふにと柔かい、ふにふに柔かい、ふにふにと、ふにふに
655	ぷにぷに		ト副	ぷにぷにと柔かい、ぷにぷに柔かい、ぷにぷにと、ぷにぷに
656	ふにゃふにゃ		形動	ふにゃふにゃだ、ふにゃふにゃになる、ふにゃふにゃの縄、ふにゃふにゃ
657	ふにゃふにゃ		ト副	ふにゃふにゃとする、ふにゃふにゃする、ふにゃふにゃと、ふにゃふにゃ
658	ふやふや		形動	ふやふやだ、ふやふやになる、ふやふやのボール、ふやふや
659	ふやふや		ト副	ふやふやと柔かい、ふやふや柔かい、ふやふやと、ふやふや
660	ふよふよ		形動	ふよふよだ、ふよふよになる、ふよふよのボール、ふよふよ
661	ふよふよ		ト副	ふよふよと柔かい、ふよふよ柔かい、ふよふよと、ふよふよ
662	ぷよぷよ		形動	ぷよぷよだ、ぷよぷよになる、ぷよぷよのボール、ぷよぷよ
663	ぷよぷよ		ト副	ぷよぷよと柔かい、ぷよぷよ柔かい、ぷよぷよと、ぷよぷよ
664	ぶよぶよ		形動	ぶよぶよだ、ぶよぶよになる、ぶよぶよのボール、ぶよぶよ
665	ぶよぶよ		ト副	ぶよぶよとする、ぶよぶよする、ぶよぶよと、ぶよぶよ
666	ふらふら		形動	ふらふらだ、ふらふらになる、ふらふらの悪酔い、ふらふら
667	ふらふら		ト副	ふらふらとする、ふらふらする、ふらふらと、ふらふら
668	ぶらぶら		ト副	ぶらぶらとする、ぶらぶらする、ぶらぶらと、ぶらぶら
669	ふりふり	振り振り	ト副	(腰を)振り振りとさせる、振り振りさせる、振り振りと、振り振り
670	ぷりぷり		ト副	ぷりぷりとする、ぷりぷりする、ぷりぷりと、ぷりぷり
671	ぶりぶり		ト副	ぶりぶりと怒る、ぶりぶり怒る、ぶりぶりと、ぶりぶり
672	ふるふる		ト副	ふるふると震える、ふるふる震える、ふるふると、ふるふる
673	ぷるぷる		ト副	ぷるぷると震える、ぷるぷる震える、ぷるぷると、ぷるぷる
674	ぶるぶる		形動	ぶるぶるだ、ぶるぶるになる、ぶるぶるの寒さ、ぶるぶる
675	ぶるぶる		ト副	ぶるぶると震える、ぶるぶる震える、ぶるぶると、ぶるぶる
676	ふわふわ		形動	ふわふわだ、ふわふわになる、ふわふわの布団、ふわふわ
677	ふわふわ		ト副	ふわふわとする、ふわふわする、ふわふわと、ふわふわ
678	ぷんぷん		形動	ぷんぷんだ、ぷんぷんになる、ぷんぷんの怒り、ぷんぷん
679	ぷんぷん		ト副	ぷんぷんとする、ぷんぷんする、ぷんぷんと、ぷんぷん
680	ぶんぶん		ト副	ぶんぶんとうなる、ぶんぶんうなる、ぶんぶんと、ぶんぶん
681	へいへい		ト副	へいへいとする、へいへいする、へいへいと、へいへい
682	ぺいぺい		名詞	新入りのぺいぺいだ、ぺいぺい
683	べきべき		ト副	べきべきと折れる、べきべき折れる、べきべきと、べきべき
684	ぺこぺこ		形動	(腹が)ぺこぺこだ、ぺこぺこになる、ぺこぺこの腹、ぺこぺこ
685	ぺこぺこ		ト副	ぺこぺことする、ぺこぺこする、ぺこぺこと、ぺこぺこ
686	へたへた		ト副	へたへたと座る、へたへた座る、へたへたと、へたへた
687	ぺたぺた		ト副	ぺたぺたと触る、ぺたぺた触る、ぺたぺたと、ぺたぺた
688	べたべた		形動	べたべただ、べたべたになる、べたべたの手、べたべた
689	べたべた		ト副	べたべたとする、べたべたする、べたべたと、べたべた
690	ぺちぺち		ト副	ぺちぺちと叩く、ぺちぺち叩く、ぺちぺちと、ぺちぺち
691	ぺちゃぺちゃ		ト副	ぺちゃぺちゃと喋る、ぺちゃぺちゃ喋る、ぺちゃぺちゃと、ぺちゃぺちゃ
692	べちゃべちゃ		形動	べちゃべちゃだ、べちゃべちゃになる、べちゃべちゃの手、べちゃべちゃ
693	べつべつ	別々	形動	別々だ、別々になる、別々の生活、別々、別の、別
694	へとへと		形動	へとへとだ、へとへとになる、へとへとの選手、へとへと
695	べとべと		形動	べとべとだ、べとべとになる、べとべとの手、べとべと
696	べとべと		ト副	べとべととする、べとべとする、べとべとと、べとべと
697	へなへな		形動	へなへなだ、へなへなになる、へなへなの板、へなへな
698	へなへな		ト副	へなへなとする、へなへなする、へなへなと、へなへな
699	へらへら		ト副	へらへらと笑う、へらへら笑う、へらへらと、へらへら
700	ぺらぺら		形動	ぺらぺらだ、ぺらぺらになる、ぺらぺらの冊子、ぺらぺら
701	ぺらぺら		ト副	ぺらぺらと喋る、ぺらぺら喋る、ぺらぺらと、ぺらぺら
702	べらべら		形動	べらべらだ、べらべらになる、べらべらの英語、べらべら
703	べらべら		ト副	べらべらと喋る、べらべら喋る、べらべらと、べらべら
704	へろへろ		形動	へろへろだ、へろへろになる、へろへろの選手、へろへろ
705	ぺろぺろ		形動	ぺろぺろだ、ぺろぺろになる、ぺろぺろの冊子、ぺろぺろ
706	ぺろぺろ		ト副	ぺろぺろと舐める、ぺろぺろ舐める、ぺろぺろと、ぺろぺろ
707	べろべろ		形動	べろべろだ、べろべろになる、べろべろの悪酔い、べろべろ
708	べろべろ		ト副	べろべろと舐める、べろべろ舐める、べろべろと、べろべろ
709	ぺんぺん		ト副	(三味線を)ぺんぺんと鳴らす、ぺんぺん鳴らす、ぺんぺんと、ぺんぺん
710	ほいほい		ト副	ほいほいと引き受ける、ほいほい引き受ける、ほいほいと、ほいほい
711	ぽいぽい		ト副	ぽいぽいと捨てる、ぽいぽい捨てる、ぽいぽいと、ぽいぽい
712	ほうぼう	方々	名詞	方々を捜す、方々、方の、方

713	ぼうぼう	茫々	ト副	ぼうぼうと茂る、ぼうぼう茂る、ぼうぼうと、ぼうぼう
714	ぼうぼう		ト副	ぼうぼうと燃える、ぼうぼう燃える、ぼうぼうと、ぼうぼう
715	ほかほか		形動	ほかほかだ、ほかほかになる、ほかほかの弁当、ほかほか
716	ぽかぽか		形動	ぽかぽかだ、ぽかぽかになる、ぽかぽかの日射し、ぽかぽか
717	ぽかぽか		ト副	ぽかぽかとする、ぽかぽかする、ぽかぽかと、ぽかぽか
718	ぽきぽき		ト副	ぽきぽきと折る、ぽきぽき折る、ぽきぽきと、ぽきぽき
719	ぼきぼき		ト副	ぼきぼきと折れる、ぼきぼき折れる、ぼきぼきと、ぼきぼき
720	ほくほく		形動	ほくほくだ、ほくほくになる、ほくほくの笑顔、ほくほく
721	ほくほく		ト副	ほくほくとする、ほくほくする、ほくほくと、ほくほく
722	ぽくぽく		ト副	ぽくぽくと叩く、ぽくぽく叩く、ぽくぽくと、ぽくぽく
723	ぽこぽこ		ト副	ぽこぽこと叩く、ぽこぽこ叩く、ぽこぽこと、ぽこぽこ
724	ぼこぼこ		形動	ぼこぼこだ、ぼこぼこになる、ぼこぼこの空き缶、ぼこぼこ
725	ぼこぼこ		ト副	ぼこぼこと叩く、ぼこぼこ叩く、ぼこぼこと、ぼこぼこ
726	ぼさぼさ		形動	ぼさぼさだ、ぼさぼさになる、ぼさぼさの髪、ぼさぼさ
727	ぼさぼさ		ト副	ぼさぼさとする、ぼさぼさする、ぼさぼさと、ぼさぼさ
728	ほじほじ	穿々	ト副	ほじほじとする、ほじほじする、ほじほじと、ほじほじ
729	ほそぼそ	細々	ト副	細々と暮らす、細々暮らす、細々と、細々、ほそい
730	ぽそぽそ		ト副	（米が）ぽそぽそとする、ぽそぽそする、ぽそぽそと、ぽそぽそ
731	ぼそぼそ		形動	（ご飯が）ぼそぼそだ、ぼそぼそになる、ぼそぼそのご飯、ぼそぼそ
732	ぼそぼそ		ト副	ぼそぼそと話す、ぼそぼそ話す、ぼそぼそと、ぼそぼそ
733	ぽたぽた		ト副	ぽたぽたと垂れる、ぽたぽた垂れる、ぽたぽたと、ぽたぽた
734	ぼたぼた		ト副	ぼたぼたと垂れる、ぼたぼた垂れる、ぼたぼたと、ぼたぼた
735	ぼちぼち		ト副	ぼちぼちとやってくる、ぼちぼちやってくる、ぼちぼちと、ぼちぼち
736	ぽちゃぽちゃ		ト副	ぽちゃぽちゃとする、ぽちゃぽちゃする、ぽちゃぽちゃと、ぽちゃぽちゃ
737	ぼちゃぼちゃ		ト副	ぼちゃぼちゃと泳ぐ、ぼちゃぼちゃ泳ぐ、ぼちゃぼちゃと、ぼちゃぼちゃ
738	ぽつぽつ		ト副	ぽつぽつと降る、ぽつぽつ降る、ぽつぽつと、ぽつぽつ
739	ぼつぼつ		名詞	顔にぼつぼつがある、ぼつぼつ
740	ぼつぼつ		ト副	ぼつぼつと出掛ける、ぼつぼつ出掛ける、ぼつぼつと、ぼつぼつ
741	ほとほと	殆と	副詞	ほとほと疲れ果てた、ほとほとだ、ほとほと
742	ほどほど	程々	形動	程々にする、程々の運動、程々、程が、程
743	ぽとぽと		ト副	ぽとぽとと落ちる、ぽとぽと落ちる、ぽとぽとと、ぽとぽと
744	ぼとぼと		ト副	ぼとぼとと落ちる、ぼとぼと落ちる、ぼとぼとと、ぼとぼと
745	ほのぼの	仄々	ト副	仄々とする、仄々する、仄々と、仄々、ほのかな
746	ほやほや		形動	ほやほやだ、ほやほやになる、ほやほやの弁当、ほやほや
747	ほやほや		ト副	ほやほやとする、ほやほやする、ほやほやと、ほやほや
748	ぼやぼや		ト副	ぼやぼやとする、ぼやぼやする、ぼやぼやと、ぼやぼや
749	ぽりぽり		ト副	ぽりぽりと噛む、ぽりぽり噛む、ぽりぽりと、ぽりぽり
750	ぼりぼり		ト副	ぼりぼりと掻く、ぼりぼり掻く、ぼりぼりと、ぼりぼり
751	ほれぼれ	惚れ惚れ	ト副	惚れ惚れとする、惚れ惚れする、惚れ惚れと、惚れ惚れ、惚れる
752	ほろほろ		ト副	ほろほろと泣く、ほろほろ泣く、ほろほろと、ほろほろ
753	ぽろぽろ		ト副	ぽろぽろと落ちる、ぽろぽろ落ちる、ぽろぽろと、ぽろぽろ
754	ぼろぼろ		形動	ぼろぼろだ、ぼろぼろになる、ぼろぼろの服、ぼろぼろ
755	ぼろぼろ		ト副	ぼろぼろと零(こぼ)れる、ぼろぼろ零れる、ぼろぼろと、ぼろぼろ
756	ぽんぽん		名詞	（お腹＝）ぽんぽんが痛い、ぽんぽん
757	ぽんぽん		ト副	ぽんぽんと言う、ぽんぽん言う、ぽんぽんと、ぽんぽん
758	ぼんぼん	坊々	名詞	（若旦那＝）ぼんぼんだ、ぼんぼん、ぼんだ、ぼん
759	まあまあ		形動	まあまあだ、まあまあの出来、まあまあ
760	まあまあ		副詞	まあまあ良い方だ、まあ良い
761	まあまあ		感動	まあまあ！そうでしたか！まあ！まあまあまあまあ！
762	まいまい	蝸牛	名詞	まいまいを見付ける、まいまい
763	まえまえ	前々	名詞	前々から知っている、前々、前の、前
764	まごまご		ト副	まごまごとする、まごまごする、まごまごと、まごまご
765	まざまざ		ト副	まざまざと見せ付ける、まざまざ見せ付ける、まざまざと、まざまざ、まさしく
766	まじまじ		ト副	まじまじと見る、まじまじ見る、まじまじと、まじまじ、まじろぐ
767	ますます	益々	副詞	益々張り切る、益々だ、益々
768	まずまず	先ず先ず	形動	先ず先ずだ、先ず先ずの出来栄え、先ず先ず、先ず大丈夫
769	まぜまぜ	混ぜ混ぜ	動詞	混ぜ混ぜとする、混ぜ混ぜする、混ぜ混ぜと、混ぜ混ぜ
770	またまた	又々	副詞	またまた出番だ、またまただ、またまた、また出番だ、まただ、また
771	まだまだ	未だ未だ	副詞	まだまだ大丈夫、まだまだだ、まだまだ、まだ大丈夫、まだだ、まだ
772	まちまち	町々	名詞	町々に活気が戻る、町々、町の、町
773	まちまち	区々	形動	人によってまちまちだ、まちまちになる、まちまちの答え、まちまち
774	まにまに	間に間に	副詞	波のまにまに漂う、まにまにだ、まにまに
775	まるまる	丸々	ト副	丸々と太る、丸々太る、丸々と、丸々、まるい
776	まんまん	満々	形動	自信・満々だ、自信・満々になる、自信・満々の顔、自信・満々
777	みえみえ	見え見え	形動	見え見えだ、見え見えになる、見え見えの嘘、見え見え

778	みしみし		ト副	みしみしと鳴る、みしみし鳴る、みしみしと、みしみし
779	みすみす	見す見す	副詞	みすみす逃がす、みすみすだ、みすみす
780	みちみち	道々	副詞	道々話をする、道々だ、道々、道の、道
781	みなみな	皆々	名詞	皆々には御苦労だった、皆々、皆の、皆
782	みるみる	見る見る	副詞	見る見るうちに、見る見ると、見る見る、見る
783	みんみん		名詞	(蝉＝)みんみんが鳴く、みんみん
784	みんみん		ト副	(蝉が)みんみんと鳴く、みんみん鳴く、みんみんと、みんみん
785	むかむか		ト副	(胸が)むかむかとする、むかむかする、むかむかと、むかむか
786	むきむき	向き向き	名詞	好みには向き向きがある、向き向き、向きがある、向き
787	むきむき		ト副	むきむきと怒る、むきむき怒る、むきむきと、むきむき
788	むきむき	剥き剥き	動詞	剥き剥きとする、剥き剥きする、剥き剥きと、剥き剥き
789	むくむく		ト副	むくむくと起きる、むくむく起きる、むくむくと、むくむく
790	むざむざ		ト副	むざむざと負けない、むざむざ負けない、むざむざと、むざむざ
791	むしむし	蒸し蒸し	ト副	蒸し蒸しとする、蒸し蒸しする、蒸し蒸しと、蒸し蒸し
792	むしゃむしゃ		形動	むしゃむしゃだ、むしゃむしゃになる、むしゃむしゃの髪、むしゃむしゃ
793	むしゃむしゃ		ト副	むしゃむしゃと食う、むしゃむしゃ食う、むしゃむしゃと、むしゃむしゃ
794	むずむず		ト副	むずむずとする、むずむずする、むずむずと、むずむず
795	むちむち		形動	むちむちだ、むちむちになる、むちむちの筋肉、むちむち
796	むちむち		ト副	むちむちとする、むちむちする、むちむちと、むちむち
797	むにゃむにゃ		ト副	むにゃむにゃと言う、むにゃむにゃ言う、むにゃむにゃと、むにゃむにゃ
798	むらむら	村々	名詞	村々に活気が戻る、村々、村の、村
799	むらむら		ト副	むらむらとする、むらむらする、むらむらと、むらむら
800	むれむれ	蒸れ蒸れ	形動	蒸れ蒸れだ、蒸れ蒸れになる、蒸れ蒸れの部屋、蒸れ蒸れ
801	むんむん		ト副	むんむんとする、むんむんする、むんむんと、むんむん
802	めいめい	銘々	名詞	銘々(めいめい)で用意する、銘々、銘が、銘
803	めえめえ		ト副	めえめえと鳴く、めえめえ鳴く、めえめえと、めえめえ
804	めきめき		ト副	めきめきと上達する、めきめき上達する、めきめきと、めきめき
805	めそめそ		ト副	めそめそとする、めそめそする、めそめそと、めそめそ
806	めちゃめちゃ	滅茶滅茶	形動	めちゃめちゃだ、めちゃめちゃになる、めちゃめちゃの順番、めちゃめちゃ
807	めらめら		ト副	めらめらと燃える、めらめら燃える、めらめらと、めらめら
808	めりめり		ト副	めりめりと壊れる、めりめり壊れる、めりめりと、めりめり
809	めろめろ		形動	めろめろだ、めろめろになる、めろめろの恋愛、めろめろ
810	めんめん	面々	名詞	委員会の面々に挨拶する、面々、面の、面
811	めんめん	綿々	ト副	綿々と受け継がれる、綿々受け継がれる、綿々と、綿々
812	もうもう	濛々	ト副	(煙が立って)濛々とする、濛々する、濛々と、濛々
813	もおもお		ト副	もおもおと鳴く、もおもお鳴く、もおもおと、もおもお
814	もくもく	黙々	ト副	黙々と働く、黙々働く、黙々と、黙々
815	もくもく		ト副	(煙が)もくもくと出る、もくもく出る、もくもくと、もくもく
816	もぐもぐ		ト副	(口を)もぐもぐとする、もぐもぐする、もぐもぐと、もぐもぐ
817	もこもこ		ト副	もこもことする、もこもこする、もこもこと、もこもこ
818	もごもご		ト副	もごもごとする、もごもごする、もごもごと、もごもご
819	もしもし		感動	もしもし！もしもしもしもし！もし！
820	もじもじ		ト副	もじもじとする、もじもじする、もじもじと、もじもじ
821	もじゃもじゃ		形動	(頭が)もじゃもじゃだ、もじゃもじゃになる、もじゃもじゃの頭、もじゃもじゃ
822	もじゃもじゃ		ト副	(頭が)もじゃもじゃとする、もじゃもじゃする、もじゃもじゃと、もじゃもじゃ
823	もそもそ		ト副	もそもそと起き出す、もそもそ起き出す、もそもそと、もそもそ
824	もぞもぞ		ト副	もぞもぞと動く、もぞもぞ動く、もぞもぞと、もぞもぞ
825	もたもた		ト副	もたもたとする、もたもたする、もたもたと、もたもた
826	もちもち		形動	(このお菓子は)もちもちだ、もちもちになる、もちもちのお菓子、もちもち
827	もてもて		形動	(異性に)もてもてだ、もてもてになる、もてもての男、もてもて
828	もともと	元々	形動	駄目で元々だ、元々、元の、元
829	もともと	元々	副詞	元々彼のものだった、元々だ、元々
830	もみもみ	揉み揉み	動詞	揉み揉みとする、揉み揉みする、揉み揉みと、揉み揉み
831	もやもや		形動	もやもやだ、もやもやになる、もやもやの霧、もやもや、もやもやが出る
832	もやもや		ト副	もやもやとする、もやもやする、もやもやと、もやもや
833	もりもり		ト副	もりもりと食う、もりもり食う、もりもりと、もりもり
834	もろもろ	諸々	名詞	諸々の国々、諸々
835	もんもん	悶々	ト副	悶々とする、悶々する、悶々と、悶々
836	やいやい		ト副	やいやいと言われる、やいやい言われる、やいやいと、やいやい
837	やすやす	易々	ト副	易々と明け渡す、易々明け渡す、易々と、易々、やすい
838	やまやま	山々	名詞	アルプスの山々が見える、山々、山の、山
839	やまやま	山々	形動	欲しいのは山々だが、山々だ、山々
840	やみやみ	闇々	ト副	やみやみと暗い、やみやみ暗い、やみやみと、やみやみ
841	やれやれ		感動	やれやれ！やれやれやれやれ！
842	ゆうゆう	悠々	ト副	悠々とする、悠々する、悠々と、悠々

843	ゆくゆく	行く行く	副詞	ゆくゆくは大統領だ、ゆくゆくだ、ゆくゆく
844	ゆさゆさ		ト副	ゆさゆさと揺する、ゆさゆさ揺する、ゆさゆさと、ゆさゆさ
845	ゆめゆめ	努々	副詞	ゆめゆめ忘れるな、ゆめゆめだ、ゆめゆめ
846	ゆらゆら		ト副	ゆらゆらと揺れる、ゆらゆら揺れる、ゆらゆらと、ゆらゆら
847	ゆるゆる	緩々	形動	ゆるゆるだ、ゆるゆるになる、ゆるゆるのズボン、ゆるゆる
848	ゆるゆる	緩々	ト副	列がゆるゆると進む、ゆるゆる進む、ゆるゆると、ゆるゆる、ゆるい
849	ゆんゆん		ト副	電波がゆんゆんと飛ぶ、ゆんゆん飛ぶ、ゆんゆんと、ゆんゆん
850	ようよう	洋々/揚々	形動	前途・洋洋だ、意気・揚々だ、洋々、揚々
851	よくよく	善く善く	副詞	よくよく考える、よくよくだ、よくよく、よく考える、よくだ、よく
852	よたよた		形動	よたよただ、よたよたになる、よたよたの選手、よたよた
853	よたよた		ト副	よたよたと歩く、よたよた歩く、よたよたと、よたよた
854	よちよち		ト副	よちよちと歩く、よちよち歩く、よちよちと、よちよち
855	よなよな	夜な夜な	副詞	夜な夜な声が聞こえる、夜な夜なだ、夜な夜な
856	よぼよぼ		形動	よぼよぼだ、よぼよぼになる、よぼよぼの老人、よぼよぼ
857	よぼよぼ		ト副	よぼよぼとする、よぼよぼする、よぼよぼと、よぼよぼ
858	よりより	寄り寄り	副詞	（時々＝）寄り寄り相談する、寄り寄りだ、寄り寄り
859	よれよれ		形動	（服が）よれよれだ、よれよれになる、よれよれの服、よれよれ
860	よろよろ		形動	よろよろだ、よろよろになる、よろよろの選手、よろよろ
861	よろよろ		ト副	よろよろとする、よろよろする、よろよろと、よろよろ
862	らくらく	楽々	ト副	楽々とこなす、楽々こなす、楽々と、楽々
863	らぶらぶ		形動	ラブラブだ、ラブラブになる、ラブラブの夫婦、ラブラブ
864	らりらり		形動	ラリラリだ、ラリラリになる、ラリラリの酔っ払い、ラリラリ
865	らんらん	爛々	ト副	爛々と輝く、爛々輝く、爛々と、爛々
866	りゅうりゅう	隆々	ト副	筋骨・隆々とする、筋骨・隆々する、隆々と、隆々
867	りんりん	凛々	ト副	勇気・凛々とする、勇気・凛々する、凛々と、凛々
868	りんりん		ト副	りんりんと鳴る、りんりん鳴る、りんりんと、りんりん
869	るいるい	累々	ト副	累々と積み上がる、累々積み上がる、累々と、累々
870	るんるん		ト副	るんるんと良い気分、るんるん良い気分、るんるんと、るんるん
871	れきれき	歴々	名詞	歴々が居並ぶ、歴々、歴が、歴
872	れろれろ		ト副	れろれろと舐める、れろれろ舐める、れろれろと、れろれろ
873	れんれん	恋々	ト副	地位に恋々とする、恋々する、恋々と、恋々
874	ろうろう	朗々	ト副	朗々と歌い上げる、朗々歌い上げる、朗々と、朗々
875	ろくろく	碌々	副詞	碌々と顔も見せない、碌々だ、碌々、碌に顔も見せない
876	わあわあ		ト副	わあわあと泣く、わあわあ泣く、わあわあと、わあわあ
877	わいわい		ト副	わいわいと騒ぐ、わいわい騒ぐ、わいわいと、わいわい
878	わくわく		ト副	胸がわくわくとする、わくわくする、わくわくと、わくわく
879	わざわざ	態々	副詞	わざわざすいません、わざわざだ、わざわざ、わざとやる、わざと
880	わなわな		ト副	わなわなと震える、わなわな震える、わなわなと、わなわな
881	わやわや		ト副	わやわやと騒ぐ、わやわや騒ぐ、わやわやと、わやわや
882	わらわら		ト副	わらわらと集まる、わらわら集まる、わらわらと、わらわら
883	われわれ	我々	名詞	我々は戦う、我々、我の、我
884	わんわん		名詞	（犬＝）わんわんを飼う、わんわん
885	わんわん		ト副	犬がわんわんと吠える、わんわん吠える、わんわんと、わんわん

資料 2. 日本語諸方言の四モーラ畳語の調査データ (1)（ # はデータ無し，コンマは併用）

	東村山久米川	東村山野口	東村山廻田一	東村山廻田二	東村山秋津	東村山恩多	岡山市一イ	岡山市一ロ	岡山市一ハ	岡山市二	岡山市三	尾道市土堂	尾道市久保	盛岡市八幡	青森市石江	青森市松森	高知市春野	高知市上町
番	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
1	0	0	0	0	#	#	3	3	3	3	3	3	3	0,0,0	0	0	a0,a1	a0
2	3	3	3	3	3	3	3	3	2,3	3	3	3	2	4,4,4	3	3	a2,a1	a2,a3,a1
3	3	3	3	3	3	3	2	3	2	3	3	3	2	4,0,4	3	3	a1,a2	a2,a3,a1
4	3	#	3	3	3	3	2	2	3,2	3	2	2,3	2	0,0,0	3	3	a1,b2	a2,a3,a1
5	#	0,4	#	#	#	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	b0	b0
6	0	0	0	0	0	0	3	3	3	0	3	0,3	0	0	0	0	b2	b2
7	4	0	#	#	#	0	#	#	0	3	#	#	0	0	#	#	a2	b0
8	3	3	0	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	4,4,4	3	3	a1,b2	a1,a2,a3
9	0	#	#	#	#	0	#	#	0	3	0	0	3	0	#	#	a0	a0
10	2	2	2	0	2	2	3	3	3	3	3	3	2	2	2	3	a2	a2
11	2	0	0	4	#	4	#	#	0	#	#	4	0	4	4,0	0	b0	b0
12	1	3,0	0	#	1	1,0	2	2	2	2	2	2	2	0,1,0	1,2	1,3	a1	a1

番	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
13	3	3	3	3	3	3	2	2	2	3	2	2	2	4,4,4	3	3	a1,b2	a1
14	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,4,4	1	1	a1	a1
15	1	1	3	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	0,1,0	1	1	a1	a1
16	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	0	2	2	3	3	b2	b2
17	4	0,4	#	4	0	0	0	#	#	#	0	0	0	4	0	0	b0	b0
18	2,0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	a0	a0
19	1	0	0	0	0	0	0	0	24	3	0	24	0	1	#	13	b0	b2
20	1	4	0	0	4	4	#	0	0	0	0	2	4	2	#	0	a0	a0
21	1	2	0	2	1	2	2	2	2	3	13	2	2	0	2	3	a1,13	a1
22	1	4	1	4	4	4	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	b0	b0
23	1	1,0	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2,1,2	1	1,3	13	a1
24	0	0	0	0	0	0	#	0	0	3	3	0	3	0	#	0	b0	b0
25	0	0	0	0	0	0	0	3	3	3	3	0,3	0	0,0,0	0	0	b2	b2
26	0	0	#	#	#	#	3	3	#	3	3	3	3	0,0,0	#	#	a0,a1	a0
27	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2,2,0	1	1	a1,13	a1
28	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,4,4	1	#	13,b2	a1,a2
29	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
30	0	3	0	0	0	3	0	0	0	2	3	3	2	0,0,0	0	0	13,b2	a2,a3
31	1	1	1	1	1	3,1	2	2	2	2	2	2	2	0,1,0	1	1	a1,13	a1
32	#	1	1	1	#	1	2	2	2	2	2	2	2	1,0,0	1	1	13	a1
33	2	2	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	a0	a2
34	1	1	1	3	1	1	3	3	2	2	3	3	2	0,1,1	0	0	13	a1
35	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
36	1	1	1	1	#	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	#	1	13	a1
37	1	3	#	1	#	3	3	3	3	2	#	2	2	4,4,0	#	1	b2,13	a1,a2
38	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,0	1	1	13	a1
39	1	1	1	1	#	1	#	3	#	2	#	2	2	4,1,4	#	#	13	a1
40	#	1	1	3	#	1	3	3	2	2	#	2	2	0,1,0	#	#	13	a1
41	0	0	#	#	#	0	0	0	0	#	#	0	0	4	#	0	#	#
42	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
43	1	1	1	1	1	1	2	2	2	3	2	13	2	0,1,0	1	1	13	a1
44	0	0	0	#	#	0	3	0	3	3	3	3	3	0,0,0	#	#	a0	a0
45	0	0	#	#	#	#	#	0	#	0	#	#	0	4	0	#	b0	b0
46	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	3	0	3	0,0,0	0	0	a0	a0
47	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1	1	0,1,1	1	1	a1	a1
48	1	0	0	0	0	0	3	3	3	3	3	3	1	0	0	#	a1	a3
49	4	0	#	0	0	0	0	0	0	3	3	0	3	0	0	0	b0	a0
50	#	1	#	1	#	1	2	2	0	2	3	2	2	#,0,#	#	0	#	a1
51	1	1	1	1	#	1	2	2	2	2	#	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
52	1	1	1	1	#	1	1	2	2	2	#	2	2	1,0,0	1	1	13	a1
53	3	0	#	0	0	0	0	0	0	0	#	#	#	4	0	0	13	b0,13
54	2	1	1	1	1	1	2	2	2	2	#	2	2	4,1,1	1	1	13,a1	a1
55	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	#,0,#	0	0	a1,13,b2	a1,a2,a3
56	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
57	2	2	2	2	2	2	3	3	3	2	2	2	2	2	0	2	b2	b2
58	1	1	#	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	#	#	13	a1
59	1	1	1	0	1	0	13	13	13	13	13	13	13	1	#	13	b2	b2
60	0	2	2	0	2	0	3	3	3	3	3	3	3	2	0	2	b2	a2
61	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	#	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
62	1	1	1	1	1	1	13	1	13	1	13	13	13	1,1,1	1	1	13	a1
63	1	1	1	1	1	1	2	1	13	1	13	1	13	0,0,0	1	1	13	a1
64	1	1	#	1	#	1	1	3	3	13	3	3	3	1	1	#	b2	b2
65	4	1	#	#	#	0	3	3	3	3	3	3	0	0	0	#	b0	a0
66	4	0	1	0	0	0	#	0	0	3	0	3	0	4	0	0	b0	b0
67	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	0,0,0	1	1,13	a1	a1
68	0	0	1	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
69	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,0	1	1	13	a1
70	4	0	1	4	1	0	0	0	0	2	0	0	0	4	0	0	b0	b0
71	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	a1	a1
72	4	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0	#	0	4	0	0	b0	b0
73	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	#	13	a1
74	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	1	1	1	1	b2	b2
75	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	2	2	3	1	1	a2	a2
76	4	4	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0

番	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
77	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,4,4	1	1	13,a1	a1
78	4	4	#	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	#	0	b0	b0
79	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,4	1	1	13	a1
80	4	4	0	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
81	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
82	#	0	#	1	0	0	0	0	0	0	#	0	0	4	0	#	b0	b0
83	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	0,1,4	1	1	13	a1
84	0	4	4	4	0,4	4	1	0	0	2	#	0	1	1	1	#	a0	a0
85	3	2	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	3	b2	b2
86	4	4	1	4	4	0	0	0	0	0	#	#	0	4	0	0	b0	b0
87	1	1	#	#	#	1	#	2	2	2	#	2	2	0,1,0	1	1	13	a1
88	#	1	#	#	#	0	0	#	0	2	#	#	#	4	0	0	#	#
89	#	4	#	#	#	0	0	#	0	0	#	#	#	4	0	0	b0	#
90	4	4	#	4	0	0	0	0	0	0	#	#	#	4	0	0	b0	b0
91	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
92	2	2	1	3	1	2	3	3	3	3	3	3	2	2	3	#	a2	a2
93	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	0,0,0	1	1	13	a1
94	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	0,1,0	1	1	13	a1
95	0	4,0	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
96	1	1	1	1	#	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	#	1	a0,a1	a1
97	0	0	0	3	0	0	3	3	13	13	3	0	2	0,4	0	0	b0	b2,b0
98	0	4	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
99	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	a1	a1
100	0	4	4	4	#	4	0	0	0	0	0	4	4	4	4	4	a0	a0
101	4	4	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
102	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
103	4	1	4	4	#	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
104	1	1	1	1	1	1,0	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
105	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	4,4,4	3	3	a2	a2,a3
106	0	0	#	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	b0	b0
107	3	1	3	0	1	0	2	2	2	3	2	1	2	0,0,0	0	0	a1	a1
108	3	0	0	0	#	0	3	3	3	3	3	3	3	0,0,3	#	#	a1	a0
109	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1	2,1	1,1,1	1	1	a1	a1
110	1	1	1	1	#	1	2	2	2	2	2	1	1	1,1,1	1	1	a1	a1
111	1	1	1	#	1	1	2	2	2	2	2	1	1	0,1,1	1	1	a1	a1
112	1	1	#	1	#	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	a1,13	a1
113	1	1	1	1	1	1	2	2	13	13	13	2	13	1,1,0	1	1	13	a1
114	4	4	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
115	1	1,0	1	1	#	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
116	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
117	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
118	0	4	#	4	#	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
119	#	0	1	1	#	2	2	2	2	2	2	2	2	#	1	1	13	a1
120	0	4	0	4	#	0	0	#	#	0	#	0	0	4	0	0	b0	b0
121	#	#	#	#	#	#	#	#	#	0	#	#	#	4	0	#	#	b2
122	1	1	1	1	#	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,4	1	1	13	a1
123	#	#	#	#	#	#	#	#	2	2	#	#	#	#	1	1	#	#
124	1	1	1	1	1	1	2	2	2	13	2	1	1	1,1,1	1	1	a1,13	a1
125	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	b0	b0
126	1	1,0	1	1	#	3	2	2	#	2	#	1	0	#	1	1	13,a1	a0
127	0	0	0	3	1	0	0	0	0	2	#	0	0	3	0	0	b0	b0
128	1	1,0	#	1,3	1	1	2	2	2	2	#	1	1	1,1,1	1	#	13	a1
129	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	1	1,1,1	1	1	a1,13	a1
130	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,4	1	1	13	a1
131	#	0	4	4	#	0	2	#	0	0	0	0	0	4,1	0	0	b0	b0
132	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,1	1	1	13	a1
133	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
134	0	0	0	4	4	0	0	0	#	0	#	0	0	4	0	#	b0	#
135	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,1	1	1	13	a1
136	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	#	0	0	4	0	0	b0	b0
137	1	1	#	1	#	1	2	2	2	2	#	2	2	4,0,4	1	1	13	a1
138	0	#	#	4	#	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	4	b0	b0
139	0	#	#	#	#	#	#	#	#	0	#	#	#	#	#	#	b0	#
140	0	#	0	#	#	#	#	#	#	0	#	#	#	0	0	0	b0	b0

番	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
141	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#	0	b0	b0
142	0	0	0	4	#	0	#	0	0	0	#	0	0	3	0	0	b0	b0
143	1	1	1	1	1	1	2	1	13	1	13	1	1,13	4,1,4	1	1	13	a1
144	1	1	1	1	1	1	2	2	2	13	2	1	1	1,1,1	1	1	a1,13	a1
145	2	2	2	#	2	2	2	2	2	2	#	2	2	1,1,0	1	1	13	a1
146	2	2	3	#	#	0	0	0	3	2	#	3	2	2	#	#	b2	b2
147	0	4	4	4	#	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
148	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	#	13	a1
149	4	1	4	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
150	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	2	13	a1
151	2	2,1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	2	13	a1
152	#	1	#	#	#	#	2	2	2	2	#	#	#	0,1,0	1	2	13	a1
153	4	4	4	#	0	0	0	0	#	0	0	0	#	4	0	0	b0	b0
154	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,4	1	1	13	a1
155	4	4	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
156	1	1	1	#	#	1	2	2	#	2	#	2	2	4,0,4	#	#	13	a1
157	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2,3	b2	b2
158	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	#	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
159	4	4	0	4	#	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
160	2	x	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	4,4,4	1	#	13	a1
161	4	1	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
162	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,0	1	1	13	a1
163	#	1	#	2	#	#	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
164	4	1	#	4	#	0	0	0	0	0	#	0	#	4	#	0	b0	b0
165	2	2	#	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0,1,1	#	#	13	a1
166	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,0,4	1	1	13	a1
167	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	0,1,0	1	1	13	a1
168	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	2	2	2	3	a2	a2
169	4	1	#	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0,4	b0	b0
170	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	0,1,0	1	1	13	a1
171	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,4,1	1	1	13	a1
172	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,4	1	1	13,a1	a1
173	4	4	#	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
174	3	1	#	#	#	3	#	3	3	3	#	#	2	4,4,4	3	#	#	a2,a3
175	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	a1	a1
176	1	4	4	4	4	0	0	0	0	0	0	#	0	4	0	0	b0	b0
177	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
178	0	0	#	0	0	0	0	0	0	0	#	0	0	4	0	#	b0	b0
179	1	1	#	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,4,4	1	1	a1	a1
180	0	4	4	4	4	4	0	0	0	0	0	4	0	4	#	0	b0	b0
181	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	#	2	4,1,4	1	1	13	a1
182	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	a1,13	a1
183	1	1	1	1	1,13	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
184	0	4	#	#	#	0	#	3	3	3	3	#	0	4	#	#	#	#
185	4	3	3	3	3	2	3	3	3	3	3	3	0	2	3	3	b2	a2,a3
186	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	4,4,4	3	3	a2,a1	a2,a3
187	1	1	1	1	1,13	1	2	2	2	13	13	1	1	1,1,1	1	1	13	a1
188	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1	1	0,0,0	1	1	13	a1
189	0	0	#	#	#	0	0	0	0	3	3	0	#	0	#	#	a0	a0
190	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1	1	1,1,1	1	1	13	a1
191	1	1	#	1	1,13	1	13	2	2	2	#	2	13	1,1,1	1	1	a1,13	#
192	0	4	4	4	4	0	0	0	0	0	0	4	4	4	0,4	0	b0	b0
193	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
194	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13,a1	a1
195	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	13	2	2	0,1,4	1	1	13	a1
196	1	1	#	1	1	1	#	2	2	2	2	2	1,13	1,1,4	1	1	13	a1
197	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	13	4,1,4	1	1	a1,13	a1
198	1	3	1	1	1	3	0	0	0	3	0	0	0	3	1	1	b3	b3
199	3	2	0	0	#	2	3	3	3	3	3	3	2	3	#	3	b2	b2
200	0	0	0	0	0	0	3	3	3	3	3	3	3	0,0,0	0	0	a0	a0
201	3	0	1	3	#	1	2	#	2	3	#	3	3	0,1,1	0	0	a1,13	a0
202	1	1	1	1	1	1	2	2	2	3	3	3,1	1	1,1,1	0	0	a1,13	a1
203	1	1	0	0	#	1	2	13	13	13	#	3	#	1,1,1	1	#	13,a1	a1,13
204	1	13	#	0	0	1	13	13	13	2	13	13	13	1	3	13	13	13

番	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
205	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	13	2	2	4,4,4	1	1	a1	a1
206	1	1	1	1	1,13	1	2	2	2	2	2	2	2,1	1,1,1	1	1	a1,13	a1
207	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	#	1	a1	a1
208	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	13	2	1	1,1,1	1	1	a1,13	a1
209	1	1	1	1	#	1	2	2	2	2	2	2	2	4,4,1	1	1	a1,13	a1
210	4,0	4	4	4	4	4,0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
211	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,4	1	1	13	a1
212	0	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
213	1	1	1	1	#	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
214	4	4	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
215	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,4	1	1	13	a1
216	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	13	2	13	1,1,4	1	1	13,a1	a1
217	1	1	1	1	1	1	2	2	2	13	13	13	1,2	4,1,1	1	1	13	a1,13
218	4	4	4	4	#	0	0	0	0	0	0	3	0	4	0	0	b0	b0
219	1	1	#	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,1	1	1	a1	a1
220	4	4	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	#	b0	b0
221	1	1	1	#	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
222	2	2	0	2	2	2	3	3	3	3	3	3	2	3	2	3	a2	a2
223	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
224	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
225	4	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
226	4	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	0	0	b0	b0
227	1	1	#	#	#	#	1	2	#	2	2	#	2	1,1,1	1	1	#	a1
228	1	1	1	1	#	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
229	1	3	3	3	3,1	3	3	3	3	3	3	3	2	4,4,4	3	3	a2,13	a2,a3
230	1	1	1	1	1,13	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
231	3	3	#	3	2	0	3	3	3	3	3	3	0	0	0	3	b2	a2,a3
232	1	1	1	1	1,13	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
233	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,4,4	1	1	13	a1
234	3	3,1	3	3	3	3,1	3	3	3	3	3	3,2	2	2,2,2	3	3	b2	a2,a3
235	1	1	1	1	1	1	24	13	13	#	13	13	13	1	#	#	13	a1
236	1	2	1	0	2	2	3	3	3	2	3	3	2	1,2	2	2	a2	a2
237	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	1,13	1,1,1	1	#	a1	a1
238	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
239	4	4	0	4	4	4	2	0	0	2	#	4	0	4	#	4	a0	a0
240	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	4,0,4	3	3	b2	a2,a3
241	4	1	#	4	#	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
242	1	1	#	1,3	1	1	#	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
243	0	0	#	1	0	0	3	3	3	3	3	3	3	1,1,1	0	0	a1,13	a0
244	1	1	0	1	1,0	1	2	2	2	2	13	1	1	0,1,1	1	#	a1	#
245	1	1	#	1	#	1	2	2	2	2	13	1	1,13	0,0,0	1	#	a1,13	a1
246	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1	1	1,1,1	1	1	a1,13	a1
247	0	0	0	0	0	0	3	3	3	3	3	3	0	0	#	#	a0	a0
248	3	3	#	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2,2,2	3	3	a2	a2,a3
249	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	0	2	3	2,3	a2	a2
250	1	1	1	#	1	1	#	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	a1,13	a1
251	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	0,1,1	1	1	13	a1
252	13	1	1	1	1,13	1	13	13	13	13	13	13	13	1	#	13	b2	b2
253	1	1	1	#	1	3,1	2	2	2	2	2	2	1	4,1,4	1	1	a1	a1
254	1	1	1	1	1	1	2	13	2	13	2	2	1	4,1,4	1	1	a1,13	a1
255	3	4	2	2	2	2	3	3	3	3	3	2,4	0	4,0	3	3,0	b2	a2
256	1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	4,4,4	3	3	a2	a2,a3
257	3	3	#	3	#	3	3	3	3	3	3	3	2	4,4,4	3	#	a1,a2	a2,a3
258	1	1	#	1	1,13	1	2	2	2	2	2	2	1	1,1,1	#	#	a1	a1
259	0	0	#	1	0	1	2	2	2	2	2	2	2	0	3	0	b2	b2
260	4	4	1	4	4	0	0	0	0	0	0	0	2	0,4	0	0	b0	b0
261	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	a1	a1
262	4	4	0	4	4	0	0	0	0	2	2	0	0	4	0	0	b0	b0
263	1	1	1	1	1,13	1	2	2	2	2	2	2	2	4,4,4	1	1	13	a1
264	1	1	1	#	#	1	2	2	2	2	2	2	2	4,4,4	#	#	a1	a1
265	1	1	1	#	1,13	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,1	1	1	13	a1
266	0	0	0	0	0	0	3	3	3	3	3	3	3	0,0,0	0	0	a0,a1	a0
267	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	a0	a0,a3
268	3	4	#	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0,3	0	3	a0	a3

番	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
269	1	1	1	3	#	1	1	1	1	1	1	2	1	1	#	1	a1	a1
270	1	1	1	3	1	1	2	2	2	2	2	1	1	1,1,1	1	#	a1,13	a1
271	3	1	#	#	#	1	2	2	2	2	2	2	2	0,1,1	3,1	#	13,a1,a2	a1
272	2	2	#	0	2	2	3	0	3	3	3	3	2	2	3	2	b2	b2
273	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	b2	b0,b2
274	2	2	2	2	2	1	2	2	2	2	13	2	1	0,1,1	1	1	13	a1
275	1	1	1	1	#	1	2	2	2	2	13	2	2	0,1,1	1	1	13	a1
276	1	1	#	1	#	1	2	2	2	2	3	2	2	4,0,4	1	0	13,a2	a1,a2,a3
277	2	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	a1	a1
278	1	1	#	1	1	1	2	2	2	13	2	2	1,13	4,4,0	1	1	13	a1
279	2	1	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,1	1	1	13	a1
280	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
281	1	1	#	1	#	1	2	#	#	2	2	2	2	1,1,1	1	#	13	a1
282	2	2	2	2	2	0	3	3	3	3	3	3	0	2	2	3	a2	a2
283	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	2	1	b2	a1
284	2	1	#	1	#	2	2	#	#	2	2	2	2	1,1,1	1	1	a1	a1
285	1	1	#	1	#	2	#	#	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
286	1	4	#	1	0	0	#	0	0	2	0	3	0	4	0	0	b0	b0
287	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	0	3	0	4,0,4	0	1	13	a1
288	2	4	#	2	#	0	0	3	0	0	3	3	0	4	0	0	b0	b0
289	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	a2	a2
290	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2,2,2	3	3	a2	a2,a3
291	1	1	#	0	1	1	13	13	13	13	13	13	13	1	#	#	b2	13,a1
292	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
293	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	2	2	2	3	a2	a2
294	1	3	3	3	1	3	2	2	2	2	2	1	1	3,1,3	1	1	a1	a0,a1
295	1	1	3	1	1,13	1	2	2	2	2	2	1	1	3,0,3	1	1	13,a1	a1
296	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1	1	1,1,1	1	1	13	a1
297	1	1	#	1	#	1	2	#	2	2	2	#	#	0,0,0	1	1	13	a1
298	1	1	#	1	#	1	#	#	2	2	#	#	#	0,0,1	1	1	13	a1
299	1	1	1	1	1	1	2	2	13	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
300	4	4	1	4	0	0	0	3	3	3	3	3	0	0	0	0	a0	a0
301	0	4	0	4	4	0	0	0	0	0	0	4	0	4	0	0	b0	b0
302	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
303	1	1	#	1	1	1	2	2	2	2	13	2	#	1,1,1	1	1	a1	a1
304	1	1	#	1	1,13	1	2	2	2	2	2	2	#	1,1,1	1	1	a1,13	a1
305	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	a1,13	a1
306	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
307	1	1	#	1	1	1	2	2	2	2	2	1	1	1,1,1	1	1	a1	a0,a1
308	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1	1	1,1,1	1	#	a1	a0,a1
309	#	0	#	0	#	#	2	3	3	3	3	#	3	0,0,0	#	#	a0	a0
310	0	3	#	3	3	3	2	3	3	3	3	3	3	0	0	0	a2	a0,a3
311	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	#	1	0,0,0	1	1	a1	a1,a0
312	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	#	1	1,1,1	1	1	a1	a1
313	3	0	3	3	0	0	3	3	2	2	2	2	2	0,1,0	0	0	a1	a0
314	1	1	#	1	#	1	#	2	2	2	#	#	2	1,1,1	1	1	13	a1
315	3	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	3	0	3	0	3	a0	a0
316	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	a1	a1
317	0	0	0	3	0	0	0	0	3	3	0	3	0	0	0	0	a0	a0
318	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	1	1,1,1	1	1	a1	a1
319	1	1	1	1	1	1	2	2	2	13	13	2	1	1,1,1	1	1	a1	a1
320	1	1	1	1	#	1	2	2	13	13	2	2	2	1,1,1	1	1	a1,13	a1
321	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2,2,2	3	3	a2	a2,a3
322	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	a1	a1
323	3	3	#	#	#	3	3	3	3	3	3	#	2	4,4,4	3	#	a2	a2,a3
324	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,4	1	1	13	a1
325	4	4	4	0	4	0	0	0	0	0	0	3	0	4	0	0	b0	b0
326	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
327	0	0	0	3	0	0	3	3	3	3	3	3	1	0,0,0	0	0	a0,a1	a0
328	1	1	1	1	#	1	2	2	2	2	2	1	1	0,1,1	1	1	a1,13	a1
329	1	1	1	1	1	1	2	1	13	13	2	1	1	1,1,1	1	1	a1,13	a1
330	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1	1,13	0,0,0	1	1	a1,13	a1,a0
331	3	2	3	0	3	2	3	3	3	3	3	3	2	2	#	#	a2	a2
332	4	4	4	2	4,0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,0	0	0	b0	b0

番	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
333	2	2	2	2	#	2	2	2	2	2	2	2	2	4,1,1	1	1	a1,13	a1
334	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	0,1,1	1	1	13	a1
335	2	2	2	4	2	2	2	13	13	3	13	3	1	2	3,2	2	b2	b2
336	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	a1,13	a1
337	2	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	1,2	4,0,4	1	1	13	a1
338	4	0	#	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	b0	b0
339	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
340	2	1	3	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	0,1,0	1	1	a1,a2	a1,a2
341	2	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	0,1,0	1	1	a1,13	a1
342	4	4	0	4	4	4,0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
343	1	1	1	1	#	1	2	2	2	2	2	#	2	4,#,0	#	#	13	a1
344	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1,1,1	1	1	a1,13	a1
345	1	1	1	1	#	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
346	4	4	4	1	#	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
347	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	#	2	2	0,0,4	1	1	13,a1	a1
348	4	4	0	4	#	0	0	0	0	0	0	0	0	4,0	0	0	b0	b0
349	1	2	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
350	2	2	2	2	#	2	2	2	2	2	2	2	2	0,1,1	1	1	a1	a1
351	1	1	1	1	#	1	2	2	2	2	2	2	2	0,1,1	1	1	a1,13	a1
352	2	2	1	2	1	2	1	1	1	3	13	1,3	1	1	3	0	b2	b2
353	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	a1	a1
354	4	4	#	1	#	4	0	0	0	0	0	#	0	4	0	0	b0	b0
355	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	a1,13	a1
356	1	1	#	1	#	1,0	#	#	#	2	13	#	13,1	1,1,1	1	1	13,a1	a1
357	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,1	1	#	13,a1	a1
358	4	4	4	4	1	1	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
359	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,1	1	1	13	a1
360	4	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
361	1	1	#	1	#	1	2	2	2	2	2	1	1	1,1,1	1	#	13	a1
362	3	3	3	3	3	3	2	2	2	3	2	2	1	1,1,1	3	3	a1,13	a1
363	1	1,3	3	3	1	1	3	3	3	3	13	1	1	1	0,1	1	a0	a3,a2,a1
364	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1	1	1,1,1	1	1	a1,13	a1
365	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	a1,13	a1
366	0	0	#	0	0	0	3	3	3	3	3	3	3	0,0,0	0	0	a0	a0
367	0	0	0	0	0	0	3	3	3	3	3	3	0	0	0	0	a0	a0
368	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	a0	a0
369	1	0	#	0	0	0	13	13	13	3	13	0	1	1	0	1,0	a1	a1
370	0	0	0	1	0	0	2	2	3	2	3	3	2	0,0,0	0	0	a1	a0
371	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13,a1	a1
372	0	0	1	0	0	0	1	13	13	0	1	0	1	2	2	2,0	b2	b2
373	4	2	0	0	0	0	0	0	1	13	1	0	0	2	0	0	b2	b2
374	1	1	1	1	1	1	13	13	13	13	13	1	1	1	1	1	13,a1	a1
375	1	1	1	1	1,2	1	2	2	2	2	2	2	1,13	0,1,1	1	1	a1,13	a1
376	1	1	1	2	#	1	#	#	#	13	#	2	1	#	#	#	b3	a1
377	1	1	1	1	#	1	2	2	2	2	2	2	1,13	4,1,1	1	1	13	a1
378	3	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	2	2	3	3	a2	a2,a3
379	1	1	1	1	1	1	2	2	2,13	2	13	1	1	4,1,1	1	1	13	a1
380	1	1	1	1	1,13	1	2	2	13	2	13	2	2	1,1,1	1	1	a1,13	a1
381	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	a1,13	a1
382	1	1	1	1	1	1	1	1	1,13	2	1	1	1	1	1	3,1	b2	b2
383	3	3	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	b0	b0
384	3	2	#	0	3	3	0	3	3	3	3	3	0	2	0	3	b0	b0
385	3	3	3	0	3	3	3	3	3	3	3	0	2	2	3,2	2	b2	b2
386	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2,2,2	3	3	a2	a2,a3
387	4	4	0	4	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0,4	0	0	b0	b0
388	1	1	0	1	1	1	2	2	2	3	2	3	2	0,1,4	0	0	13,a1	a1
389	4	4	#	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
390	1	1	#	1	#	1	2	2	2	2	2	2	2	4,4,4	1	1	13	a1
391	13	13	#	1	13	1	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	b2	b2
392	0	0	0	0	0	0	3	3	3	3	3	0	0	0	0	0	a2	a2,a0
393	1	1	#	#	#	1	2	2	2	2	#	#	#	1,1,1	1	1	13	a1
394	4	4	0	4	0,4	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
395	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,4	1	1	13	a1
396	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	a0	a0

番	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
397	4	#	24	4	4	4	#	#	0	13	24	0	24	4	0	0	13	a0
398	1	4	1	4	#	1	0	1	0	13	2	2	1	2	0	0	b0	b2,b0
399	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	1	0,0,0	1	1	13	a1
400	1	1	1	1	1,13	1	2	2	2	2	2	2	2	0,1,1	1	1	a1,13	a1
401	1	2	1	1	1	1	3	3	3	3	3	3	3	1	3,1	3,1	a2	a2
402	1	1	#	1	#	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	#	#	a1,13	a1
403	0	0	0	0	0	0	3	3	3	3	3	3	3	0,0,0	0	0	a0,a1	a0
404	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	0	3	a3	a3
405	3	3	3	3	3	3	0	0	0	3	0	3	3	3	0	3	a3	a3
406	3	3	3	0	#	3	1	1	1	0	1	3	3	3	3,0	#	b0	b0,a3
407	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	a1,13	a1
408	2	2	0	0	2	2	3	3	0,3	3	3	0	2	0,4	2	3	b2	b2
409	1	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	a1	a1
410	1	1	1	1	1	1	13	13	13	2	2	2	1,13	1,1,1	1	1	13,a1	a1
411	1	1	#	1	#	1	2	2	2	13	#	2	1	1,1,1	1	1	a1	a1
412	1	1	#	1	#	1	2	2	2	2	#	2	1	1,1,1	1	1	a1,13	a1
413	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	#	b0	b0
414	1	1	#	1	#	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
415	0	0	0	0	0	0	3	3	3	3	3	3	2	4,0,4	0	0	a0	a0
416	1	1	#	1	#	1	2	2	2	2	2	2	1	1,1,1	1	1	13	a1
417	0	0	0	#	#	#	2	2	#	3	3	1	#	3	#	#	13	a1
418	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1	1	1,1,1	1	1	13,a1	a1
419	1	1	1	#	1	1	#	2	1	2	3	1	1	1	1	#	b3	b0
420	1	#	#	1	1	1	1	1	#	1	1	1	#	1	1	#	a1	a1
421	1	1	1	1	1	1	2	13	2	2	2	2	1,13	1,1,1	1	1	13	a1
422	1	1	1	1	1	1	13	13	13	13	13	13	1,13	0,1,1	1	1	13	a1
423	1	1	1	1	1	1	2	2	2,13	13	2	2	1	1,1,1	1	#	13	a1
424	1	1	1	1	1	1	13	13	13	2	13	1,13	#	0,1,0	1	1	13	a1
425	4	4	0	4	1	4	0	0	0	13	13	0	0	4	#	0	b0	b0
426	1	1	1	1	1	1	2	2	2	13	13	2	13	4,0,4	1	1	13	a1
427	#	#	#	4	#	1	#	13	#	1	#	#	#	1	1	#	b0	#
428	1	1	1	1	1	1	2	13	2	2	13	2	1,13	1,1,1	1	1	13	a1
429	1	1	#	1	#	1	2	2	#	2	13	#	1,13	1,1,1	1	1	13,a1	a1
430	1	3,1	1	3	3	0	#	0	0	1	1	3	3	3	3	3	a0	a0
431	1	1	1	1	1	1	2	2	2	13	2	2	1	4,1,4	1	1	a1,13	a1
432	4	1	0	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
433	1	1	#	1	#	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,4	1	1	a1,13	a1
434	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	4	b0	b0,b2
435	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1	1	1,1,1	1	1	a1	a1
436	1	1	#	1	1	1	#	1	1	1	1	1	3	1	1	1	b3	a1
437	1	1	1,13	1	13	1	13	13	13	13	13	13	13	1	1	13,1	a1,13	a1
438	1	3	#	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3	#	0	b0	a0
439	2	2	2	2	2	2	2	2	2	13	2	2	2	4,1,4	1	1	a1	a1
440	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2,3	a2	a2
441	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	2	2	2	2	2,3	a2	a2,a3
442	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	4,4,4	3,2	2	a2	a2,a3
443	2	2	#	2	#	2	2	2	#	2	2	#	#	1,1,1	1	1	13	a1
444	0	2	2	0	#	2	0	3	3	3	3	3	1	1	#	3	a2	a2
445	0	3	2	3	2	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2,3	b2	b2
446	0	0,4	0	0,4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
447	4	4	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
448	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,4,4	1	1	13	a1
449	1	1	#	0	#	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,4	1	1	13	a1
450	4	4	0	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
451	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
452	0	3	#	0	#	3	3	3	3	0	#	3,0	0	2	2	2,3	b2	b2
453	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1	1	1,1,1	1	1	a1	a1
454	4	4	4	4	4	4	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	b0	b0
455	1	#	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	1	4,1,1	1	1	13	a1
456	1	1	1	1	1	1	2	13	13	13	13	2	1	1,1,1	1	1	13	a1
457	4	4	0	4	0	0	#	0	0	0	#	0	0	4	0	0	b0	b0
458	1	1	1	1	#	1	2	2	#	2	#	2	2	4,1,4	1	#	13,a1	a1
459	0	2	0	2	2	2	#	3	3	3	3	3	2	2	2	#	b2	a2
460	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	0,0,0	1	1	13	a1

番	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
461	0	0	0	0	0	0	3	3	3	3	3	3	3	0,0,0	0	0	a0,a1	a0
462	3	3	#	0	3	3	#	0	0	0	0	0	0	3	3	3	a0	a0
463	3	0	#	0	0	0	3	3	3	3	3	3	3	0,0,0	0	0	a0	a0
464	3	3	3	3	0	3	3	3	3	3	3	3	3	0,0,0	3	0	a0	a0
465	1	3	3	#	#	1,3	2	2	2	3	2	1	1	0,0,0	1	1	a0	a0
466	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,1	1	1	a1,13	a1
467	2	2	0	0	2	2	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2,3	a2	a2
468	0	4	0	0	0	0	3	3	3	3	3	3	0	2	0	0	a2	a2
469	0	0	0	0	0	0	3	3	3	3	3	3	0	3	0	0	a2	a2,a3
470	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,4	1	1,13	a1,13	a1
471	1	1	#	1	0	1	2	2	2	2	13	2	2	4,1,1	1	1	a1,13	a0,a1
472	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	0,0,0	1	1	a1,13	a1
473	1	1	1	1	#	1	2	2	13	2	2	2	2	1,1,1	1	1	a1,13	a1
474	1	1	1	1	1	1	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	a2	a0
475	2	2	0	0	2	2	3	3	3	3	3	3	0	4	2	2,3	a2	a2
476	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	1	1,1,1	1	1	13	a1
477	1	1	1	1	1	1	2	2	2	13	2	2	2	1,0,1	1	1	a1	a1
478	1	0	#	0	1	0	3	3	3	13	#	3	1	0,0,0	0	0	a0	a0
479	1	1	#	#	#	1	2	2	2	2	#	2	2	4,1,4	1	1	a1	a1
480	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
481	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	1	2	2	0,0,0	1	1	a1,13	a1
482	3	2	2	0	0,2	3	3	3	3	3	3	0	0	0	3	2,3	a2	a2,a0
483	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
484	1	1	1	1	#	1	2	2	2	2	13	2	2	4,1,1	#	1	a1,13	#
485	2,0	2	2	0	2	2	3	3	3	3	3	3	0	2	3	3	b2	b0
486	1	1	1	1	1	1	13	13	13	#	3	13	13	13	#	13	13	a1
487	4	4	4	4	#	0	0	0	0	0	#	0	0	0,4	#	0	b0	b0
488	1	1	1	1	#	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,1	1	1	a1	a1
489	4	4	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
490	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,1	1	1	a1,13	a1
491	1	3	1	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3	3,0	0	b0	b0
492	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	13	1	2,13	0,1,1	1	1	a0,a1,13	a0,a1
493	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	1	1	1,13	0,1,1	1	1	a1,13	a1
494	3	3	4	3	13,3	3	0	13	13	0	13	0	3	3	3,0	0	b0	b0
495	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	a0	a0
496	#	0	#	4	#	0	#	0	0	0	0	3	0	4	0	#	b0	b0
497	1	13	#	0	#	1	13	13	13	3	13	13	13	13,1	#	#	b2	b2
498	0	0	0	0	0	0	0	3	3	3	3	0	0	3	0	3,0	a0	a0
499	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	4,0,4	3,2	2,3	a2,13	a2,a3
500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	a0	a0
501	0	0	0	0	#	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	a0	a0
502	4	4	4	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	a0	a0
503	1	1	1	3,1	1	1	1	#	13	13	2	13	1	4,1,4	1	1	b2	a1
504	1	2	1	1	1	1	3	3	3	3	3	3	3	4,1	3	3	b2	b2
505	3	3	#	3	#	3	#	#	#	3	3	3	2	4,1,4	3	#	a2,13	a1,a2
506	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	0	4,4,1	3	3	a2	a0
507	4	4	#	4	#	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
508	1	1	#	1	1	1	2	2	2	2	#	2	2	4,4,0	1	1	13	a1
509	3	1	#	1	#	3	2	3	3	3	#	3	2	4,0,4	#	#	a1,13,b2	a1
510	4	4	#	4	#	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
511	1	1	1	1	1	1	2	2	2	13	2	2	2	1,1,4	1	1	13	a1
512	1	1	1	1	1	1	2	2	2	13	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
513	0	0	#	0	#	1	0	3	3	13	0	0	0	0	0	#	a0	a0
514	#	#	#	1	#	#	#	13	#	#	#	#	#	#	#	1	#	#
515	#	1	#	1	#	#	#	13	#	2	#	#	2	#	1	1	13	a1
516	1	1	1	1	1	1	13	13	13	13	2	1	1	1,1,1	1	1	13	a1
517	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,1	1	1	13	a1
518	1	1	#	1	#	#	#	2	#	2	#	#	#	#	#	#	13	#
519	4	4	4	4	#	4	0	0	0	0	0	0	0	0,4	0	0	b0	b0
520	1	1	1	0,4	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
521	1	3	3	1	1	3	2	2	2	2	2	3	2	4,1,4	1	0	13,a2	a1,a2
522	1	1	#	1	#	1	#	2	#	2	#	#	#	4,1,4	1	1	13	a1
523	1	#	#	#	#	#	#	13	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#
524	1	1	1	1	1	1	2	13	2,13	#	#	2	2	#	#	1	13	a1

番	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
525	1	1	1	1	1	1	2	#	2	#	#	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
526	1	1	#	0	#	#	0	2	#	2	#	#	2	#	1	1	b2	a1
527	4	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
528	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
529	4	4	#	4	#	0	0	0	0	0	0	#	0	4	0	0	b0	b0
530	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,4	1	1	13	a1
531	1	1	1	1	1	1	2	2	2	13	2	2	2	1,1,4	1	1	13	a1
532	4	4	0	4	0	4,0	#	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
533	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,1	1	1	13	a1
534	1	1	#	1	#	#	#	#	#	1	#	#	2	4,1,4	1	1	#	a1
535	0	0	0	0	0	0	3	3	3	0	3	3	3	0	0	0	a0	a0
536	3	0	3	3	0	3	3	3	3	3	3	3	3	3,0,0	3	#	a0	a0
537	1	1	1	1	1	1	2	2	2,13	13	2	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
538	1	1	#	1	1	1	2	13	13	13	13	2	13	4,1,4	1	1	13	a1
539	1	1	1	1	1	1	13	13	13	13	13	2	13	1,0,0	1	1	13	a1
540	0	0	0	0	0	0	0	3	3	3	3	0	0	0	0	0	a2	a2,a0
541	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0,4	0	0	b0	b0
542	1	1	3	1	3	1	3	3	3	3	3	2	2	4,1,4	3	3	13,b2	a1,a2,a3
543	1	1	#	#	#	3	2	2	3	2	#	3	2	0,#,0	#	#	a2	a1
544	4	4	#	4	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	b0	b0
545	1	1	1	1	1,13	1	2	2	2	2	2	2	2	0,1,1	1	1	13	a1
546	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	b3	b3
547	1	1	1	1	1	13	#	13	13	13	13	1	1	1,13	13	13	13	a1,13
548	1	1	1	#	1	1	#	1	#	1	#	#	#	1	1	1	#	a1
549	1	1	1	1	1,13	1	13	13	13	13	13	2	1	1,1,1	1	#	a1,13	a1
550	1	1	#	1	1	1	2	2	2	13	13	2	#	0,0,0	1	1	13	a1
551	1	1	1	1	1	1	2	2	2	13	2	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
552	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	0,1,0	1	1	13	a1
553	1	1	1	1	#	1	2	2	2	2	13	#	2	0,0,0	1	1	13	a1
554	0	4	1	4	#	0	#	0	0	0	#	2	0	4	#	#	b0	b0
555	1	1	#	1	1,13	1	2	2	2	13	2	2	#	1,1,1	1	1	13	a1
556	1	1	1	1	1	1	2	2	2	13	2	2	#	0,0,0	1	1	a1,13	a1
557	4	4	0	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
558	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
559	4	4	4	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
560	1	1	1	1	#	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
561	2	2	1	2	#	2	3	3	3	3	3	3	2	2	3	3	a2	a2
562	0	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	a0	b0
563	1	1	#	1	1	1,0	2	#	#	13	2	2	2	1,1,1	1	#	a0	a1
564	1	1	1	1	1	1	2	2	2	13	2	2	2	1,1,4	1	1	13	a1
565	1	1	1	1	1	1	2	2	2	13	2	2	2	1,1,4	1	1	13	a1
566	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	0,0,4	1	1	13	a1
567	1	1	1	1	#	1	2	2	2	2	#	2	#	0,1,4	1	1	13	a1
568	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	0,0,0	3	3	a2,13	a2,a3
569	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	1	0,1,0	1	1	a1,13	a1
570	4	4	#	4	4	4	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	b0	#
571	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	1	0,0,4	1	1	13	a1
572	4	4	0	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
573	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,0,4	1	1	13	a1
574	4	4	4	4	#	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
575	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
576	4	4	0	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
577	1	1	1	1	#	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
578	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	0,0,4	3	3	a2,13	a2,a3
579	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2,2,2	3	3	a2,13	a2,a3
580	4	4	0,4	4	0	0	0	0	0	0	0	#	0	4	0	0	b0	b0
581	3	1	3	1	1	1	2	2	2	2	2	3	2	3	3	0	b3	b3
582	1	1	#	1	1	1	2	2	2	2	2	1	1	0,1,1	1	1	a1	a1
583	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1	1	0,1,1	1	1	a1,13	a1
584	1	1	#	1	1	1	2	2	2	2	2	1	1	1,1,1	1	1	a1,13	a1
585	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1	1	1,1,1	1	1	a1,13	a1
586	1	1	1	1	1	1	#	2	2	2	2	#	#	1,1,1	1	1	a1,13	a1
587	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2,2,2	3,2	3	a2,13	a2,a3
588	4,0	4	4	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0

番	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
589	2	1	2	2	2	2	2	2	2	13	2	2	2	4,1,4	1	1	13,a2	a1,a2
590	2	1	#	2	#	2	2	2	2	2	#	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
591	2	1	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1,1,1	1	1	13	a1
592	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	1,13	1,1,1	1	1	13	a1
593	2	1	#	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	a1,13,b2	a1,a2,a3
594	2	1	#	1	#	2	2	2	2,13	#	13	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
595	1	1	1	1	1	1	2	2	13,2	2	13	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
596	4	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
597	1	1	1	1	#	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
598	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
599	4	4	#	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
600	1	2	#	2	#	2	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	#	a1,13	a1
601	1	1	#	2	#	2	#	2	2	2	2	2	2	1,0,1	1	#	13	a1
602	4	1	0	4	#	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
603	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
604	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1,1,0	1	1	13	a1
605	4	4	0	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
606	1	1	1	1	#	1,0	2	2	2	2	2	2	2	4,4,4	1	1	13	a1
607	4	4	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
608	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2,3	a2	a2
609	3	2	#	2	#	0	0	0	#	0	3	2	3	4	2	#	a0	a0
610	4	4	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
611	1	1	1	1	2	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	a1,13	a1
612	1	1	1	1	1	1	2	2	2	13	2	1	1	0,1,0	1	1	a1,13	a1
613	1	1	1	1	1	1	2	2	2	13	2	1	1	1,1,1	1	1	a1	a1
614	1	1	1	1	1	1	2	2	2	13	2	1	1	1,1,1	1	1	a1,13	a1
615	0	0	#	0	#	0	3	3	3	3	3	3	3	0,1,0	0,3	0	a0	a0
616	1	1	1	1	1	1	2	2	13,2	13	13	2	1	1,1,1	1	1	13	a1
617	1	1	#	1	1	1	2	2	2,13	13	13	2	1	1,1,1	1	1	13	a1
618	1	1	#	1	#	1	2	2	#	2	2	2	1,13	1,1,1	1	#	13,a1	a1
619	1	1	1	1	1	1	2	13	2	2	13	2	1	1,1,1	1	1	a1	a1
620	4	4	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
621	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	a1,13	a1
622	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1	1	1,1,1	1	1	13	a1
623	4	4	#	4	#	1	#	0	#	0	0	0	0	4	4,0	#	b0	b0
624	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,4	1	1	a1,13	a1
625	4	4,0	#	4	#	4,0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
626	1	1	1	1	#	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
627	4	4,0	#	4,0	#	4,0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
628	1	1	1	1	#	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,1	1	1	13	a1
629	1	1	1	1	1	1	2	2	2,13	2	2	2	2	1,1,0	1	1	13	a1
630	1	1	1	1	1	1	2	2	2,13	2	2	2	2	0,1,0	1	1	13	a1
631	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	0,1,0	1	1	13	a1
632	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	4,4,4	3	3	a2,13	a2,a3
633	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1	1	3,1,3	1	1	13	a1
634	4	4	#	4	#	0	0	0	#	2	2	0	1	3	0	0	b0	#
635	1	1	1	1	1	1	2	2	2,13	2	2	1	1	0,1,0	1	1	a1,13	a1
636	1	1	1	1	1	1	2	2	2,13	2	2	1	1	0,1,1	1	#	13	a1
637	1	1	#	1	1	1	2	2	13,2	2	2	1	1	0,1,1	1	1	13,a1	a1
638	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2,2,2	3	3	a2	a2,a3
639	4	4	4	4	#	4	#	#	0	#	#	0	0	4	0	0	b0	b0
640	2	1	2	2	2	2	#	#	2	#	#	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
641	2	1	2	2	2	1	2	2	2	13	2	2	2	4,4,4	1	1	13	a1
642	4	4	4	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
643	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,1	1	1	a1,13	a1
644	1	1	#	1	#	2	2	13	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	a1,13	a1
645	1	1	1	1	1	1	2	13	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	a1,13	a1
646	4	4	0	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
647	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	a1,13	a1
648	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2,3	a2	a2
649	#	1	2	1	#	1	2	2	2,13	2	2	2	2	4,1,1	1	1	a1,13	a1
650	1	1	#	1	#	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13,a1	a1
651	2	1	#	1	2	1	2	2	2	13	2	2	2	0,1,0	1	1	a1,13	a1,a0
652	0	4	4	4	4	0,4	0	0	0	0	0	0	0	4	4,0	4	b0	b0

番	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
653	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	a1,13	a1
654	#	1	#	#	#	1	#	#	#	13	#	#	#	#	1	#	#	#
655	#	1	#	#	#	1	#	#	#	13	#	#	#	0,4,0	1	#	13	#
656	4	4	0	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
657	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
658	4	4	#	4	#	4	0	0	#	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
659	1	1	#	1	#	1	2	2	#	2	2	2	2	4,1,1	1	#	a1,13	a1
660	4	4	#	4	#	4	#	#	#	0	0	0	0	4	0	#	b0	b0
661	2	1	#	1	#	x	#	#	#	2	2	2	2	4,1,4	1	#	a1	a1
662	4	4	#	4	4	4	0	#	#	0	0	0	0	4,0	0	#	b0	b0
663	2	1	#	1	1	x	2	#	#	2	2	2	2	1,1,1	1	#	a1,13	a1
664	4	4	4	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0,4	0	0	b0	b0
665	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
666	4	4	0	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
667	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,4,4	1	1	13	a1
668	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
669	1	1	1	#	1,13	1,0	2	2	2,13	2	2	2	2	1,1,1	1	#	13	a1
670	1	1	1	1	#	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13,a1	a1
671	1	1	#	1	#	1	2	2	2	2	2	2	2	0,0,0	1	1	13,a1	a1
672	1	1	#	1	1	1	#	1	#	2	2	2	#	4,0,4	1	#	13	a1
673	1	1	1	1	#	1	2	1	2	2	2	2	#	4,1,4	1	1	13	a1
674	4	4	#	4	#	4	0	0	0	2	0	0	0	4	0	0	b0	b0
675	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	1	1,1,1	1	1	13	a1
676	4	4	0	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
677	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,1	1	1	13	a1
678	1	4	#	4	#	4	0	0	0	1	1	0	0	3	0	0	b0	b0
679	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1	1	3,1,1	1	1	a1,13	a1
680	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1	#	0,0,3	1	1	a1	a1
681	1	1	1	1	#	1	#	2	2	2	#	1	1	1,1,1	1	#	13,a1	a1
682	3	3	3	3	3	3	#	0	0	0	#	0	#	3	0	0	b0	b0
683	1	1	#	1	#	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	#	13	a1
684	4	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
685	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
686	1	1	#	1	#	1	2	2	#	2	2	2	2	0,1,0	1	#	13,a1	a1
687	1	1	1	1	#	1	2	2	2	13	13	2	2	4,1,4	1	1	13,a1	a1
688	4	4	0	4	4,0	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
689	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
690	1	1	#	1	#	1	2	#	#	2	#	2	1	#	1	1	13	a1
691	1	1	#	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	0,1,4	1	1	13	a1
692	4	4	0	4	#	4	#	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
693	0	0	0	0,4	0	0	0	0	0	0	0	3	3	3	0	0	a0	a0
694	4	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
695	4	4	#	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
696	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
697	4	4	#	4	#	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
698	1	1	#	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13,b2	a1
699	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13,a1	a1
700	4	4	#	4	#	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
701	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	a1,13	a1
702	4	4	#	4	#	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
703	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	a1,13	a1
704	4	4	#	4	#	0	#	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
705	4	4	#	4	#	0	#	0	0	0	#	0	0	4	0	0	b0	#
706	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,1	1	1	a1	a1
707	4	4	0	4	#	0	#	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
708	1	1	#	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
709	1	1	1	1	#	1	2	2	2	3	#	1	1	0,1,1	1	#	a1,13	a1
710	1	1	1	1	1	1	13	13	13	2	13	1	1,13	0,1,1	1	1	a1,13	a1
711	1	1	1	1	1	1	13	13	13	13	13	1	1	1,1,1	1	1	a1,13	a1
712	1	1	0	1	1	1	3	3	3	3	3	1	1	1	3,1	3,1	b2	b3
713	1	1	1	1	0,1	1	2	2	2	3	2	1	1	0,1,0	1	1	a1	a0,a1
714	1	1	1	1	1,0	1	2	2	2	3	2	1	1	0,1,0	1	1	a0,a1	a1
715	4	4	0	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
716	4	4	#	4	#	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0,1	0	b0	b0

番	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
717	1	1	1	1	1	1	2	2	2,13	13	2	2	2	4,1,4	1	1	a1	a1
718	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,0	1	1	13	a1
719	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	0,0,0	1	1	13	a1
720	4	4	4	4	#	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
721	1	1	1	1	1	1	2	2	#	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
722	1	1	1	1	#	1	2	13	2,13	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
723	1	1	#	1	1	1	2	2	2,13	13	2	2	1	1,1,4	1	#	a1,13	a1
724	4	4	4	4	#	0	0	0	#	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
725	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
726	4	4	4	4	#	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
727	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
728	#	1	#	1	#	1	#	#	#	2	#	#	#	#	1	#	13	a1
729	3	3	3	3	3	3	3	3	3,13	3	3	3	2	4,4,4	3	3	13,a1,a2	a2,a3
730	1	1	#	1	1	1	2	2	2,13	2	1	2	2	1,1,1	1	1	a1	a1
731	4	4	#	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
732	1	1	1	1	1	1	2	2	13,2	2	2	2	2	0,0,0	1	1	a1	a1
733	1	1	1	1	1	1	2	2	13,2	2	2	2	2	0,1,1	1	1	a1	a1
734	1	1	#	1	1	1	2	2	2,13	2	2	2	2	1,1,0	1	1	a1	a1
735	1	1	1	1	1	1	13	13	2,13	13	13	13,2	13	4,1,4	1	1	a1	a1
736	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	1	1,1,1	1	1	a1	a1
737	1	1	#	1	1	1	2	2	2,13	2	13	2	13	4,0,0	1	1	a1	a1
738	1	1	1	1	1	1	13	13	13,2	13	13	1,13	1	0,1,0	1	1	a1	a1
739	0	1	4	4	4	4	0	0	0	0	0	0	4	4	4,0	4	b0	b0
740	1	1	#	1	1	1	2	13	13,2	13	13	1,13	1	1,1,1	1	1	a1	a1
741	2	3	0	1	0	0	0	2	0	0	2	0	2	2	0	0	13,a2	a2,a3,a1
742	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	b0	b0
743	1	1	1	1	1	1	2	13	13,2	13	13	2	1,13	4,1,4	1	1	a1	a1
744	1	1	1	1	#	1	2	2	13,2	13	13	2	2	0,1,0	1	1	a1	a1
745	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2,2,2	3	3	a2	a2,a3
746	4	4	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
747	1	1	1	1	#	#	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
748	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
749	1	1	1	1	1	1	2	1	13,2	2	13	2	2	1,1,1	1	1	a1	a1
750	1	1	1	1	1	1	2	2	2,13	2	13	2	2	1,1,4	1	1	a1	a1
751	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2,2,2	3	3	a2,13	a2,a3
752	1	1	#	1	#	1	2	2	2	2	13	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
753	1	1	1	1	1	1	2	2	2,13	2	13	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
754	4	4	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
755	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	13	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
756	1	1	1	1	1	1	#	1	1	1	1	1	1	1	1	1	b3	a1
757	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1	2,1	1,1,1	1	1	a1	a1
758	3	3	3	3	3	#	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	b3	b3
759	1	3	1	1	13	3	13	13	13	13	13	13	3	3	3	3	13	b3,13
760	1	3	1	1	13	3	#	13	13	13	13	13	13	3	3	3	13	b3,a1
761	1	13	1	1	13	3	13	13	13	13	13	13	13	13	#	13	13	a1,13
762	0	3	3	0	#	0	0	0	0	0	1	1	3	#	#	#	b3	a0
763	0	0	3	0	0	3	3	3	3	3	3	3	3	3	0	0	a2	a2,a3
764	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
765	3	3	#	2	3	3	3	3	3	2	3	2	2	0,0,0	3	#	a1,b2	a1,a2,a3
766	3	3	#	1	#	3	3	3	3	3	3	2	2	4,0,4	3	3	13,b2	a2,a3
767	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	2,3	a2	a2,a3
768	1	13	1	1	13	1	13	13	13	13	13	13	13	3,13	3,1	13	13	a2,a3,a1
769	1	1	1	1	2	1	#	13	#	1	1	#	1	1,1,4	1	1	b2	a1
770	0	0	0	0	0	0	3	3	3,13	13	13	13	13	0	0	0	13	a2
771	1	13	1	1	13	13	13	13	13	13	13	13	13	1	13	13	b2	b2
772	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	2	4	2	2,3	a2	a2
773	2	2	2	2	2	2	13	13	13,3	1	3	1,3	1	4	0	3	b2	b2
774	0,2	0	#	0	3	0	0	0	#	13	3	0	2	1	0	#	a2,a0	a0
775	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	4,0,4	3	3	a2,13	a2,a3,a1
776	3	0	0	0,4	0	0	3	3	3	3	3	3	3	0	0	0	a0	a0
777	4	0	#	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
778	1	1	1	1	1	1	2	2	2,13	2	13	2	2	0,1,0	1	1	13	a1
779	1	3	3	1	0	3	0	2	0	2	0	1	2	0	0	0	b0	a0
780	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	a0	a0

番	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
781	2	2	3	0	0	0	3	3	3	3	2	3	2	2	0	#	a2	a2
782	1	1	1	1	1	1	1	13	1	13	13	1	1,13	13	13	13	b2	b2
783	1	3	3	3	3	3	0	2	#	3	13	1	3	1	1	#	a1	b0
784	1	1	3	1	1	1	#	2	#	3	1	1	1	0,1,0	1	#	a1	a1
785	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	a1	a1
786	1	4	1	1	1	1	13	13	13	13	13	1	1	3	#	#	b2	a2
787	#	#	#	1	#	#	#	#	#	2	1	#	#	0,1,0	#	1	a1	a1
788	#	1	#	#	1	#	1	13	#	2	#	2	1	0,1,0	1	1	#	a1
789	1	1	#	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	0,1,0	1	1	13	a1
790	1	3,1	#	1	1	1	2	13	3	2	2	2	2	0,1,1	1	2,1	a1,b2	a1,a2,a3
791	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	13	2	2	0,1,0	1	1	13	a1
792	1	4	#	4	#	0	#	#	0	2	0	0	13	4	0,1	#	b0	b0
793	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	1,13	1,0,0	1	1	a1,13	a1
794	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	0,1,1	1	1	13	a1
795	4	4	#	4	#	0	0	0	#	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
796	1	1	#	1	#	1	2	2	2	2	2	#	1,2	1,1,1	1	1	a1,13	a1
797	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	3	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
798	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	2	2	2	#	a2	a2
799	1	1	#	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2,2,2	1	1	a2,13	a1,a2
800	4	4	#	4	#	0	#	0	0	0	#	0	0	2	0	0	b0	b0
801	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1	1	0,1,1	1	1	13	a1
802	3	3	3	3	3	3	0	3	0	3	0	3	3	3	3,0	3	b2	b2
803	1	1	1	3	1	1	1	13	13	2	2	1	1	0,1,1	1	1	a1,13	a1
804	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	0,1,1	1	1	a1,13	a1
805	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	0,1,1	1	1	a1,13	a1
806	0	4	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
807	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	a1,13	a1
808	1	1	1	1	1,13	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
809	4	4	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
810	0	3	#	3	#	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	a2	a0
811	0	0	0	0	#	0	0	3	3	3	3	3	3	0,0,0	0	0	a0	a0
812	0	0	3	0	0	0	0	3	3	3	3	3	3	0,1,0	0,3	0	a0,a1	a0
813	1	1	1	3,1	1	1	1	13	13	2	2	1	1,13	1,1,1	1	1	a1	a1
814	0	0	0	0	0	0	3	3	3	3	3	3	2	4,1,4	0,3	0	a0	a0
815	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2,13	0,1,4	1	1	a0,13	a1
816	1	1	1	1	1,13	1	2	2	2	2	2	2	1,13	1,1,1	1	1	13	a1
817	1	1	1	1	1	#	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
818	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	13	a1
819	1	1	1	1	1	1	1	13	13	13	1	1	1	1	1	13	a1	a1
820	1	1	1	1	1,13	1	2	2	2,13	2	2	2	2	4,1,4	1	1	a1,13	a1
821	4	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
822	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,1	1	1	#	a1
823	1	1	1	1	#	1	2	2	2	2	13	2	2	4,1,1	1	1	13	a1
824	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	13	2	2	4,1,1	1	1	13	a1
825	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,4,4	1	1	13	a1
826	4	4	#	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	#	b0	b0
827	4	4	#	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	b0	b0
828	0	4	0	0,4	0	0	#	0	0	0	0	0	0	0	0	0	b0	b0
829	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	b0,13	a2,a3
830	1	1	1	1	0,13	1	#	#	#	1	1	2	1	4,1,4	1	1	b2,13	a1
831	4	4	0	4	#	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
832	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,4,4	1	1	13	a1
833	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,0,4	1	1	a1,13	a1
834	0	0	#	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	b2	b0
835	0	0	#	0	#	0	3	3	3	3	3	3	3	0,0,0	0,3	0	a0,a1	a0
836	1	1	1	1	1	1	2	2	2	13	2	1	1	1,1,1	1	#	a1,13	a1
837	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	13,3	2	4,0,0	3	3	a1,a2	a2,a3,a1
838	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2,3	a2	a2
839	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	0	0	0	0	0	b2	b0
840	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	3	#	2	#	#	#	#	#
841	1	13	0	1	0	13	13	13	13	13	13	13	13	13	#	13	13	a1
842	3	0	0	0	0	0	3	3	3	3	3	3	3	0,0,0	0,3	0	a0	a0
843	0	0	0	0,4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	a0	a0
844	1	1	1	1	#	1	2	2	2	2	2	2	1,13	0,0,0	1	1,13	13	a1

番	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
845	2	3	#	1	#	0	3	3	3	0	3	3	2	2	0	#	a2	a2,a3,a1
846	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	0,1,0	1	1,13	13	a1
847	4	4	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	2	0,4	0	0	b0	b0
848	1	1	#	4	#	1	2	2	2	2	2	2	2	0,0,4	1	#	13	a1,a2,a3
849	#	#	#	1	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#
850	3,0	0	3	3	0	0	3	3	3	3	3	3	3	0	0	0	a0	a0
851	0	0	0	0	0	0	0	3	3,13	13	0	13	13	3	0	0	a1,13	a2,a3
852	0,4	4	0	4	#	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
853	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
854	1	1	1	1	1	1	2	13	2	13	13	1,13	13	1,1,0	1	1	13	a1
855	0	0	#	0	#	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	b2	b2
856	4	4	#	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
857	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
858	#	0	#	#	#	#	#	#	#	#	3	0	#	4	#	#	a2	#
859	4	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
860	4	4	#	4	#	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	b0	b0
861	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
862	0	3	0	3	0	3	3	3	3	3	3	3	2	4,0,4	0,3	3	a2	a0
863	4	4	0	4	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0,4	0	0	b0	b0
864	4	#	#	4	#	#	#	0	#	13	#	#	#	#	#	#	#	#
865	0	0	0	0	0	0	3	3	3	3	3	3	3	0,0,0	0,3	0	a0,a2,a1	a0
866	3	0	#	0	0	0	3	3	3	3	3	3	3	0,0,0	0,3	0	a0,a1	a0
867	3	0	#	0	#	0	3	3	3	3	3	3	3	0,0,0	0,3	0	a0,a1	a0
868	1	1	1	1	4	1	2	2	2	2	2	1	1,3	0,1,0	1	1	a1	a1
869	0	0	#	0	#	0	3	3	3	3	3	3	3	0,0,0	0,3	0	a0,a1	a0
870	1	1	#	1	3	#	2	2	2	2	2	1	1	1,1,1	1	#	a0,a1	a0
871	0	2	#	0,4	0	0	0	3	3	3	3	3	0	0	0	#	a2	a0
872	#	1	#	1	#	1	2	2	2	13	#	#	#	0,1,1	1	1	a0	a1
873	0	0	#	0	#	0	3	3	3	3	3	3	#	0,0,0	3,0	#	a0	a0
874	0	0	#	0	#	0	3	3	3	3	3	3	3	0,0,0	0	0	a0	a0
875	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	a0	a0
876	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1	1	1,1,1	1	1	13	a1
877	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1	1	1,1,1	1	1	a1,13	a1
878	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1,1,1	1	1	a1,13	a1
879	3	3	2	3	1	1	0	0	0	0	0	2	2	3	2,1	3,1	a2	a1
880	#	1	#	1	#	1	3	2	2	2	2	2	2	4,1,4	1	1	13	a1
881	1	#	#	1	#	1	#	2	2	2	#	2	2	0,1,1	1	1	#	a1
882	1	1	#	1	#	1	#	2	2	2	2	2	2	0,1,0	1	1	a2	#
883	3	0	0	0	0	0	3	3	3	3	3	3	3	3	0	0	b2	b2
884	1	1	1	1	1	1	#	1	1	1	1	3	3	1	1	#	b3	b3
885	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1	1	1,1,1	1	1	a1	a1

資料 3. 日本語諸方言の四モーラ畳語の調査データ (2)（ # はデータ無し，コンマは併用）

	安芸市	土佐市	南あわじ市	上甑島里	沖永良部島	対応か別語	沖永良部島のセグメント	※「対応か別語」欄の，「対」は東京との対応語，「別」は別語，「？」は不明，「無」は該当無し。但し吟味した区別ではなく，本稿の作業用のもの。以下，沖永良部島の用例・意味・解説
番	19	20	21	22	23	24	25	26
1	a0	a0	a0	B	b1	別	hanaganaRtu	[hanaga]naR[tu]sjuN, [na]juN. tu は義務的で、取り外せない。
2	a2	13	a1	B	b1	対	oRoRtu	[oR]oR[tu [sju!N, [na]juN. 本来[sjuN, [na]ju%N だが、文末が低くなる。
3	a2	a1	13	A	b1	対	aRaRtu	[aR]aR[tu [sjuN.]aRsaN は低く始まるが、aRsaN ‾‾, aR[sa]N の両形ある。
4	a2	a1	b2	B	#	無		「飽きる」は[jubiri]ju[N, [jubiri]Ta[N b2.
5	b0	b0	b0	B	#	別	FaRFa(R)	[Fa]R[Fa(R) [sju!N, [na]sjuN, [na]juN. 語幹末 R は普通無いが現れることも。
6	b2	b2	#	B	b3	対	atuatu	[a]tu[atu [hana]sa%R 後々話すよ、[a]tu[atunu [ha]na[sji
7	b0	b0	#	B	#	無		「甘い」は]amasaN a0
8	a1	a1	a1	B				
9	a0	#	a0	B				

番	19	20	21	22	23	24	25	26
10	a2	a2	a2	B	b3	別	jaRjaR	[ja]R[jaRnu]ta[cju]N, [ja]R[nu]ta[cji
11	b0	b0	b0	B				
12	a1	13	13	B				
13	a2	a1,13	13	B				
14	a2,a1,13	13,a1	13	A				
15	a1	a1	13	A	b3	対	icjuicju	[i]cju[icju(tu)]sjuN 元気よく・張り切って・小奇麗に
16	b2	b2	b2	A	b3	対	icijicji	[i]cji[icji hamarasja 一々うるさい
17	b0	b0	b0	B				
18	a0	a0	a0	A	b3	別	baRba(R)	[ba]R[ba [i]cjuN 厭々行く、[ba]R[ba]ja[sji]ga 厭々だが
19	a0	b2	b2	A	b2	別	aiai	a[i]a[i (2 単位), [ai]a[i [gaNa]ra[N いやいやそうでない, a[i]a[i]a[i]a[i
20	b0	a0	a0	A	b3	別	baRbaR	[ba]R[baR [sjuN, [ba]R%, [ba]R _ja[sji]ga 嫌だが
21	13	a1	13	A	b3	別	toRtoR	[to]R[toR [hazjima]ju[N 到頭（＝ようやく）始まる
22	b0	b0	a0	B	b3	別	wazjiwazji	[wa]zji[wazjinu]sjiR 相手への鬱憤
23	a1	a1	13	B	b3	別	wazjiwazji	[wa]zji[wazji [sjuQ]saR
24	b0	b0	b2	B				
25	b2	b2	b2	B				
26	a0	#	a0	A				
27	13,a1	a1	13	A				
28	a1	a1	13	A				
29	a1	13	13	A	b3	対	uzjiuzji	[u]zji[uzji(tu)]sjiR, [u]zji[u]zji.
30	a0,13	a1	a0	A	b1	別	ususuRtu	[tu]mi[ti [usuu]suR[tu]aRgaTaN 朝が薄っすらと明けた, [jo]R[neR [usuu]suR[tu]kuragaTaN 夕方が薄っすらと暗がった, [usuu]suR[tu [ui]ju[N ゆっくり不満げにぼんやり起きる, [sja]N[sjaN [ui]ju[N しゃっきり起きる,]ususaN 薄い(髪・明かり・紙・服)
31	a1	13	13	A				
32	a1	13	13	#	b3	対	udauda	[u]da[uda [Fana]sjuN, [u]da[uda [na]ra[zji サッサと(=[so]R[so)せず(反義)
33	a0	a0	a0	A	b3	別	naRnaR	[na]R[naR(])nu [Fana]sji%]sjiraR, [naR]nu _cjuR 中の人
34	13,a1	a1	13	A				
35	a1,13	13	13	A	b3	対	utuutu	[u]tu[utu]sjiR
36	a1,13	13	13	A				
37	a1,13	13	a0	A	b1	対	MaRMaRtu	[MaR]MaR[tu]ju[kwaa]TaN
38	a1	13	13	A				
39	a1,13	13	13	#				
40	a1,13	#	13	A	b3	別	kurukuru	[naR]da[R [ku]ru[kuru]sjiR
41	#	b0	a0	B	#	無		「熟れる」は[uri]ju[N, [uri]Ta[N b2.
42	a1,13	13,a1	a1,13	A				
43	a1	13	13	A	b3	対	uRNuRN	[uR]N[uRN]sjuN, 「uR」を 1 拍扱いとした。
44	a0	a0	a0	A				
45	b0	b0	b0	B	#	無		「性的に興奮する」は[kuri]ju[N, [kuri]Ta[N b2.
46	a0	a0	a0	A	b3	別	toRtoR	[to]R[toR]cjizjicjuN 到頭（＝ようやく）（＝永い間）続く
47	a1,13	a1	13	A				
48	b0	a2	a1	A	#	別	udauda	[u]da[uda [Fana]sjuN
49	a0	b2	a0	A				
50	13	a1	13,a0	#				
51	a1,13	a1	13	A	a0	別	nuNginuNgi	]nuNginuNgi(tu)]sjuN, nuN[gjaR]nuN[gjaR 怖や怖や
52	a1,13	a1	13	#				
53	13	b0	13	A	#	無		]usuri]usuri 押せ！押せ！
54	13	13,a1	13	A				
55	13	a1	13	A	b1	対	utiutiRtu	[ji]ru[mu [utiu]tiR[tu 落着いて静か]niburaraN,]nibujuN,]nibuTaN a0
56	a1	13,a1	13	A	b3	別	doRdoR	[do]R[doR]sjuN 行こうか行かないか迷う時など
57	b2	b2	b2	B				
58	a1	a1	13	B				
59	b2	b2	b2	B	b2	別	abeabe	a[be]R, [abe]a[be
60	a0	b2	b2	B				
61	a1	13,a1	13	A				

番	19	20	21	22	23	24	25	26
62	13	a1	13	A	b3	対	kaRkaR	[ka]R[kaR [na]cjuN, [kaR]tu [na]cjuN
63	13	a1,13	13	A	b3	対	gaRgaR	[ga]R[gaR [na]cjuN, [gaR]tu [na]cjuN
64	a1	a1	13	A				
65	a0,b0	a0	a0	B				
66	b0	b0	#	B	b3	対	gakugaku	[Fa]R[nu [ga]ku[gaku [na]juN
67	a1	a1	13	B	b3	対	gakugaku	[Fa]R[nu [ga]ku[gaku]sjiR
68	b0	b0	b0	B	b3	対	kasakasa	[ti]R[nu [ha]jo[sanu [ka]sa[kasa [dja]R
69	a1	13,a1	13	B	b3	対	kasakasa	[ti]R[nu [ha]jo[sanu [ka]sa[kasa]sjiR
70	b0	b0	b0	B				
71	a1	a1	13	B				
72	b0	b0	b0	B				
73	a1	a1	a1,13	#				
74	b2	b2	b2	B				
75	a2	a2	a2,b2	A				
76	b0	b0	b0	B	b3	対	gatagata	[ga]ta[gata [na]juN
77	a1	a1,13	13	B	b3	対	gatagata	[ga]ta[gata]sjuN
78	b0	b0	b0	B	b3	対	kacjikacji	[cji]bu[runu [ka]cji[kacji [na]juN
79	a1	13,a1	13	#	b3	対	kacjikacji	[cji]bu[runu [ka]cji[kacji]sjuN, [Fu]Fa[sa]N 固い
80	b0	b0	b0	B	b3	対	gacjigacji	[ga]cji[gacji [na]juN
81	a1	a1,13	13	B	b3	対	gacjigacji	[ga]cji[gacji]sjuN
82	b0	b0	b0	B				
83	a1	13,a1	13	A	b3	対	gacugacu	[ga]cu[gacu ka[mu]na 食べるな, (najuN は不可)
84	#	a0	#	B	#	無		小さめの蝉を sjiR[wa]i と言う
85	b2	b2	b2	B				
86	b0,a1	b0	#	#	b3	対	gabagaba	]Fukunu 服の, [zji]N[nu 金の [ga]ba[gaba [na]juN
87	a1	#	#	A	b3	対	gabagaba	]Fukunu 服の, [zji]N[nu 金の [ga]ba[gaba]sjuN
88	#	#	b0	#				
89	#	#	b0	#				
90	b0	b0	b0	B	b3	対	gabugabu	[wa]ta[nu [ga]bu[gabu [na]Ta[N
91	a1	a1	13	A	b3	対	gabugabu	[wa]ta[nu [ga]bu[gabu]sjuN
92	a2	a2	a2	B	b3	対	hamigami	[ha]mi%R, [ha]mi[nu]uN
93	a1	a1	13	A	b3	対	gamigami	[ga]mi[gami [ama]ra[ti, [ama]ju[N 叱る
94	a1	13,a1	13	A				
95	b0	b0	b0	B	b3	対	karakara	FaQ[teR]nu [ka]ra[kara]sjiR, [nu]R[diRnu]hariti 嗄れて
96	a1	a1	13	#				
97	b0	b0	b0	B	b3	?	karagara	[i]nu[cji(R) [ka]ra[gara [hjiNzji]Ta[N 逃げた
98	b0	b0	b0	B				
99	a1	a1,13	13	A	b3	対	garagara	[sjaQ]taR[nu [ga]ra[gara]sjiR
100	a1	a0	a0	A				
101	b0	b0	b0	B				
102	a1	13,a1	13	A				
103	b0	b0	b0	B	b3	対	garigari	[sjiga]ri[ti [ga]ri[gari [na]ti
104	a1	a1,13	13	#	b3	対	garigari	[sjiga]ri[ti [ga]ri[gari]sjuN
105	a2	a1	a1,13	A	b1	対	harugaruRtu	[haruga]ruR[tu]FaRsjuN, muQcja[gi]ti
106	b0	b0	b0	#				
107	a1	13	a1	A	b3	対	kaNkaN	ti[da]nu kaN[kaN ti[ti a[ca]N, kaN[kaN]tu (ni は不可)
108	a0,a1	a0	a1	A	b1	別	sabisabiRtu	[sabisa]biR[tu]sjuN, [na]juN
109	a1	a1	13	A	b3	対	gaNgaN	[cji]bu[runu [ga]N[gaN]sjiR
110	a1	a1	13	A	b3	対	kiRkiR	[ki]R[kiR]hamarasjaR (障子の音、動かすもの)
111	a1	13	a1,13	B	b3	対	giRgiR	[gi]R[giR]hamarasjaR
112	a1	13	13	A	b3	対	gikugiku	]Fusjinu(腰の), Fa[zji]nu(足の) [gi]ku[giku]sjiR, [na]juN
113	a1	13	13	#				
114	b0	b0	b0	A	b3	対	gizagiza	[gi]za[giza [na]juN
115	a1,b0	13	13	A	b3	対	gizagiza	[gi]za[giza]sjuN
116	a1	a1,13	13	A	b3	対	gisjigisji	[ja]R[nu [gi]sji[gisjitu]jurejuN
117	a1	a1	13	A				
118	b0	b0	b0	B	b3	対	kicjikicji	Fu[ku]nu [ki]cji[kicji]daR,]sjuN, 大工道具とかも
119	a1	13	13	B	b3	対	kicjikicji	[zjiN [ki]cji[kicji [Fa]ro[ri(払え)
120	b0	b0	b0	#				
121	b0	b2	#	#	#	別	hanaganaRtu	
122	a1	13	13	A				

番	19	20	21	22	23	24	25	26
123	#	#	13	#	b1	別	kiRgiRtu	[kiR]giR[tu 黄々と(花の色、フリージャ), (絵具の)]kiRronu ta[ra]N
124	a1	a1	a1,13	A	b3	対	kjaNkjaN	[kja]N[kjaN]nacjuN, 犬や豚(普通は[bu]R[buR, 正月料理にする)
125	b0	b0	b0	A	b3	対	kjuRkjuR	]cjibaranu [kju]R[kjuR [na]juN
126	a1,a0	13	a1	#	b3	対	kjuRkjuR	]cjibaranu [kju]R[kjuR]sjuN
127	b0	b0	b0	A	b3	対	gjuRgjuR	[gju]R[gjuR [na]jun, 牛・物などが集まって
128	a1	13	a1	A	b3	対	gjuRgjuR	[gju]R[gjuR]sjuN,]nusjijuN(載せる)
129	a1	13	13	A	b3	対	kjorokjoro	[kjo]ro[kjoro [mi]ju%N
130	a1	13	13	A	b3	対	gjorogjoro	]JuRnu [mi]R[nu [gjo]ro[gjoro]sjuN
131	b0	b0	b0	A	b3	対	kirakira	[ki]ra[kira [na]Ta%N
132	a1	13,a1	13	A	b3	対	kirakira	[mi]R[nu [ki]ra[kira]sjuN
133	a1	13,a1	13	A	b3	対	giragira	FaQ[teRnu [gi]ra[gira]sjiR 熱いさま
134	b0	b0	b0	A	b3	対	kirikiri	[wa]ta[nu [ki]ri[kiri [na]juN
135	a1	a1,13	13,a1	A	b3	対	kirikiri	[wa]ta[nu [ki]ri[kiri ja[di
136	b0	b0	b0	A	b3	対	girigiri	[gi]ri[giri [ma]ni[oR]TaN
137	a1	a1,13	13,a1	A				
138	b0	b0	b0	#	b3	対	kiregire	[ki]re[gire na[ti 綱・紐が
139	b0	b0	b0	#				
140	b0	b0	#	A				
141	b0	b0	b0,a0	A	#	別	cjikazjikani	[cjikazji]ka[ni u[cu]raR(移ろう)
142	b0	b0	b0	#				
143	a1	13	a1	A	b3	対	guigui	[gu]i[gui [nu]maR
144	a1	13	a1	A	b3	対	guRguR	[wa]ta[nu [gu]R[guR na[cji
145	a1	a1	a1	B	b3	対	kusjakusja	[cji]mu[nu [ku]sja[kusja]sjiR, [na]juN
146	b0	a2	#	B	#	無	maNdi	[ma]N[dinu]muN, [ku]sa[nu [mu]i%ti(萌えて), [ha]raR(刈ろう)
147	b0	b0	b0	#	b3	対	kusjakusja	[ha]bi[nu [ku]sja[kusja [na]ju%N
148	a1	a1	a1	#	b3	対	kusjakusja	[ha]bi[nu [ku]sja[kusja]sjuN
149	b0	b0	b0	#	b3	対	gusjagusja	[u]mu[nu [gu]sja[gusja [na]juN, 生煮え, スイカが潰れて
150	a1	a1	a1	#	b3	対	gusjagusja	[u]mu[nu [gu]sja[gusja]sjuN
151	a1	a1,13	13	A	b3	対	kusukusu	[ku]su[kusu]warojuN
152	a1	a1	13	#	b3	別	mugamuga	]Fananu [mu]ga[muga]sjuN, [na]juN, [wa]ra[binu [mu]ga[muga [a]cjuN
153	b0	b0	b0	#				
154	a1	13	13	A				
155	b0	b0	b0	B	b3	対	kutakuta	[ku]ta[kuta(ni) [dari]Ta[N, (sjuN 不可)
156	a1	13	13	#	b3	対	kudakuda	[gu]da[guda [moN]ku i[cji, [ku]da[kuda]hamarasjaR
157	b2	b2	a2	A	b3	対	kucjigucji	[ku]cji[gucjini]hamarasjaR, [juN
158	a1	13,a1	13	#	b3	対	gucjigucji	[gu]cji[gucji]hamarasjaR
159	b0	b0	b0	#				
160	a1	13	13	#				
161	b0	b0	b0	A	b3	対	gucjagucja	[gu]cja[gucja [na]Ta%N,]sjuN, 野菜・話が壊れて
162	a1	13	13	A	b3	対	gucjagucja	[gu]cja[gucja [juN
163	a1	13	13	A				
164	b0	b0	b0	#	b3	対	gucjogucjo	[gu]cjo[gucjo na[ti,]sjuN, 野菜・話が壊れて
165	a1	13	13	#	b3	対	kucukucu	[ku]cu[kucu]waroRti
166	a1	a1	13	A	b3	対	gucugucu	[gu]cu[gucu [njuN, [niR
167	a1	a1	13	A	b3	対	kudokudo	[ku]do[kudo i[cjiR]hamarasjaR
168	a2	a2	a2	A	a0	対	kuniguni	]kuniguninu,]kuni,]kuninu
169	b0	b0	b0	A	b3	別	gunjagunja	[gu]nja[gunjani]kizami, 小さく潰れて・葱の微塵切りのように
170	a1	13	13,a1	A	#	別	guniguni	[gu]ni[gunini]kizami 小さく刻め, [na]juN, (sjuN 不可)
171	a1	13	13	A	b3	対	kunikuni	[ku]ni[kuni]sjuN, [na]juN
172	a1	13,a1	13,a1	A	b3	対	kujokujo	[ku]jo[kujo]sjuN, (najuN 不可)
173	b0	b0	b0	A	b3	対	kurakura	[cji]bu[runu [ku]ra[kura [na]Ta%N
174	a2	13,a1	#	A	b1	対	kuraguraRtu	[ju]R[nu(夕の) [kuragu]raR[tu na[ti,]kurasa na[ti
175	a1	13	a1,13	A	b3	対	kurakura	[cji]bu[runu [ku]ra[kura]sjiR
176	b0	b0	b0	A	b3	対	guragura	[gu]ra[gura [na]juN
177	a1	13	13	A	b3	対	guragura	[gu]ra[gura]sjuN
178	b0	b0	b0	#				
179	a1	a1	13	A	b3	対	kurikuri	[mi]R[nu [ku]ri[kuritu]sjiR [cju]ra[sa]N

番	19	20	21	22	23	24	25	26
180	b0	b0	b0	B	#	無		[ni]bu[tunu aN
181	a1	13,a1	13	A	b3	対	guriguri	[gu]ri[guri]moRsjuN, 回りにくく凸凹, 畑で穴を掘る, 台所で料理する
182	a1	13,a1	13,a1	A	b3	対	kurukuru	[ku]ru[kuru]moRjuN
183	a1	a1	13,a1	A	b3	対	guruguru	[gu]ru[guru makaR(巻こう)
184	a2	a0	a0	A	#	無		[ju]R[nu kurijuNtani(暮れる時まで) mataR(待とう)
185	a2	b3	b2	A				
186	a2	a1	13	B	b1	対	kuruguruRtu	[ku]mu[nu [kurugu]ruR[tu [sjiR [ki]CjaN [tuni(ので) [a]mi [Fu]juN, [FuN sa[ta]wa [kurugu]ruR[tu]sjuN, 人・砂糖・雲…
187	a1	a1	13,a1	A	b3	対	kuNkuN	Fa[na [ku]N[kuN]narasjuN
188	a1	a1	13,a1	A	b3	対	guNguN	[gu]N[guN(tu) [haga]ju[N(引っ張る)
189	a0	a0	a0	B	#	別	harugaruRtu	
190	a1	a1	13,a1	A	b3	対	geRgeR	[ge]R[geR [Fa]cjuN
191	a1	a1	13	A	b3	別	gaRga(R)	ga[ku]nu [ga]R[ga]nacjuN
192	b0	b0	b0	B				
193	a1	13	13	B				
194	a1	a1	13	A	b3	対	kerakera	[ke]ra[kera]warojuN
195	a1	a1,13	13	A	b3	対	geragera	[ge]ra[gera]warojuN
196	a1	a1,13	13	#	b3	対	kerokero	[ke]ro[kero]sjuN, [na]juN(元気になる)
197	a1	a1	13	A	b3	対	gerogero	[ge]ro[gero [Fa]cju%N
198	b3	b3	b3	B				
199	b2	b2	b2	B	#	無		[Fui, Fu[i]nu
200	a0	a0	a0	B	b3	別	sjaRsja(R)	[sja]R[sja(tu) [ti]ju[N, 電気・ランプ
201	a1,a0	a0	a0	B	b3	対	goRgo(R)	]hoRranu(河)]utunu [go]R[go]hamarasja
202	a1	a0,13	a1	B	b3	対	goRgo(R)	]hazjinu]utunu [go]R[go]hamarasja
203	a0	a0,13	13	A	#	無		koku[ri]tu [unazji]Cja[N(頷いた)
204	13	a1	13,a0	#	#	無		i[cja]saN, [iQ]cjaR[ma [nu]mi[N 少しだけ飲む
205	13	a1	13	A	b3	対	gokugoku	[go]ku[goku [nu]mi[N
206	a1,13	a1	13	A	b3	対	gosjigosji	[go]sji[gosji [su]su[ri(こすれ)
207	a1	a1	13	A	b3	対	kosekose	[ko]se[kose sjiN[naR(するな)
208	a1,13	a1,13	13	A	b3	対	kosokoso	[ko]so[koso [haku]riN[naR(隠れるな)
209	a1,13	a1,13	13	A	b3	対	gosogoso	[ji]ru%R [go]so[goso]hamarasja
210	b0	b0	b0	B	b3	対	gotagota	[go]ta[gota [na]Ta[N, [go]ta[gotanu [uki]ju[N
211	a1	13,a1	13	A	b3	対	gotagota	[go]ta[gota]sjuN
212	b0	b0	b0	A	b3	対	kocjikocji	[cji]bu[runu [ko]cji[kocji]sjuN, [na]juN
213	a1	13,a1	13	A	b3	対	kocjikocji	[ko]cji[kocji [na]ju%N
214	b0	b0	b0	B	b3	対	gocjagocja	[go]cja[gocja [na]Ta[N, [go]cja[gocjanu [ma]R%, [ma]R[nu(間の)
215	a1	13	13	A	b3	対	gocjagocja	[go]cja[gocja]sjuN
216	a1	a1	13	A	b3	対	kocjokocjo	[ko]cjo[kocjo [ha]jo[sa]N 虫刺され等で痒い, 強い場合[ga]sa[gasa [ha]jo[sa
217	a1	a1	13	A	b3	対	kocukocu	[ko]cu[kocutu [nareRgu]tu%,]beNkjoR]sjirijoR
218	b0	b0	b0	A	b3	対	gocugocu	[ti]R[nu [go]cu[gocu na[ti
219	a1,13	a1	13	A	b3	対	gocugocu	[ti]R[nu [go]cu[gocu]sjuN
220	b0	b0	b0	B	#	無		[hji]cja[hjicja を用いる
221	a1	13	13	B				
222	a2	a2	a2	B	b3	対	kutugutu	[ga]N[sjanu [ku]tu[gutunu [mu]N[dai na[ti, [Fana]sji[nu [jajaku]sji[sa na[ti
223	a1	a1	13	B	b3	対	kutukutu	[wa]ra[binu [u]mu[cjanu [ku]tu[kutu na[ti, 児童は [wa]ra[cja, wa[raN]cja
224	a1,13	13,a1	13	A	b3	対	gutugutu	[gu]tu[gutu [na]juN, 鍋
225	b0	b0	b0	B	b3	?	konagona	[ko]na[gona [na]juN, sjuN は「～にする」の意で
226	b0	b0	b0	A	b2	別	haNbuNhaNbuN	[haNbuN]haN[buN(単位はモーラと音節で揺れる), haN[buN(nu)
227	#	#	13	#				
228	a1	a1,13	13	#	b3	対	gobogobo	[go]bo[gobo]wacjuN
229	a2	a1	13	B	b1	対	FumagumaRtu	[Fumagu]maR[tu]sjigutu [sjuN, [so]R[zji]sjuN
230	a1	a1	13	A	b3	対	gumigumi	]Funu [ja]R[wa [gu]mi[gumi]sjuN
231	b2	b2	a0	A	#	無		[nacjiwa]roR[ti 泣き笑って
232	a1	13,a1	a1	A	b3	対	kurikuri	[to]R[nu [ku]ri[kuri]sjiR Ma[sa]N
233	13,a1	13,a1	a1	A	b3	対	gorigori	FaQ[teRnu [go]ri[gori]sjiR 石が多い,]isjinu～ 固そう, 砂糖はもちもちの逆
234	a2	a1	a1,13,a2	B	#	無		[naR(もう) [ba]R[doR(嫌だよ), [kuri]Ta[N

番	19	20	21	22	23	24	25	26
235	13	a1	13	A	a0	対	FuriFuri	]FuriFuri(これこれ)]jamiri(やめれ),]Furi(これ),]Furinu
236	a2,a1	a1	13	A	#	無	ariFuri	[a]ri[Furi あれこれ,]ari(あれ),]arinu
237	a1	a1	13	A	b3	対	kurukuru	[juR(よく) [ku]ru[kuru]warojuN
238	a1	a1	13,a1	A	b3	対	guruguru	[hamidu]ru[nu [gu]ru[guru na[cji [a]mi [Fu]juN
239	a0	a0	a0	#				
240	a2	a1	13,a1	B	#	無		]nuNginuNgi(tu)]sjuN
241	b0	b0	b0	B	b3	対	guwaguwa	]meRnu [gu]wa[guwa [na]Ta%N
242	a1	13	#	A	b3	対	guwaguwa	]meRnu [gu]wa[guwa]sjiR [kama]ra[N(食べられない)
243	a0,a1	a0,13	a1	A	b3	対	koNkoN	[ko]N[koN(tu)]nibujuN
244	a0,a1	a1	a1	A	b3	別	koNkoN	]mizjinu(水の) [ko]N[koN wa[cji
245	a1	a1	a1	A	b3	対	goNgoN	[go]N[goN [tata]cju[N
246	a1	a1	a1	A	b3	対	zaRza(R)	[a]mi[nu [za]R[za(R) [Fu]ju%N
247	a0	a0	a0	A				
248	a2	a1	b2	A	b3	対	saisai	[cji]bu[runu [sa]i[sai(tu)]sjuN, [na]juN
249	a2	a2	a2	A	a0	対	saQcjiRzaQcjiR	]saQcjiRzaQcjiRnu [cjimu]ja[mi, ju[bi]nu sa[cji,]sacjinu
250	a1	a1	13,a1	A				
251	a1	a1	13,a1	A				
252	b2	b2	b2	A	b3	別	saRsaR	[sa]R[saR]cjibaraR(気張ろう)
253	a1	a1	13	A	b3	対	sabasaba	[a]mi[ti(浴んで) [sa]ba[saba]sjiR [i]kaR(サッパリして行こう)
254	a1	a1	13	A	b3	対	zabuzabu	kawa izji [za]bu[zabu]aroRjuN, [cja]bi[cjabi(動きの小さい洗濯), [cja]mi[cjami(動きが小さい仕事・効率が悪い)
255	a2	a0	a2	B	b3	対	samazama	[sa]ma[zamanu
256	a2	a1	a1	B	#	無		[hji]R[sa(寒い)
257	a2	a1	a1	B				
258	a1	a1	13	B	#	別	soRso(R)	
259	b2	b2	b2	B				
260	b0	b0	b0	B	b3	対	sarasara	]haminu [sa]ra[sara [na]juN
261	a1	13	13,a1	B	b3	対	sarasara	]haminu [sa]ra[sara]sjuN
262	b0	b0	b0	#	b3	対	zarazara	]sjina [ha]bu[ti [za]ra[zara [na]juN,]sjina(砂),]sjinanu
263	a1	13	13	A	b3	対	zarazara	[heR [ha]bu[ti [za]ra[zara]sjuN, [heR(灰),]heRnu
264	a1	13,a1	13,a1	A	b3	対	soRso(R)	]hazjisji(風で) [so]R[so]jurijuN
265	a1	13,a1	a1	A	b3	対	zawazawa	砂糖黍が[za]wa[zawa]sjuN, 怖くて[zo]R[zo(ぞわぞわ)]sjuN, [na]ju%N
266	a0	a0,13	a0	B	#	別	sjaRsja(R)	
267	a0	a0	a3	B	b3	対	saNzaN	[sa]N[zaN [ma]Cja[N,]makeTaN
268	a0	a0	a3	B				
269	a1,13	b3	a1	A	b3	対	sjiRsjiR	幼児語[sji]R[sjiR]sjiri, 成人語[sji]R[bai
270	a1	13,a1	a1	A	b3	対	sjiRsji(R)	[sji]R[sji(R)]nacjuN, zjiRRRtu nacjuN, 地[zji]R%, 地の神[zji]R[nu [ha]mi%
271	a1	13,a1	a1	A	#	無		[agu]ma[sja 疲れている
272	b0	b3	b2,b3	B				
273	b0	a0	a0	A	b3	?	zjikizjikini	[zji]ki[zjikini [Fana]sa[R
274	a1	a1,13	13	A	b3	対	sjikusjiku	[sji]ku[sjiki]nacji [i]cja[mu(如何も)]sjiraraN(できない)
275	a1	a1	13	A	b3	対	zjikuzjiku	Fa[zji]nu]mizjimusjinu [zji]ku[zjiku ja[di [i]cja[mu]sjiraraN
276	a2	b2	13	A				
277	a1	a1	13	#	b3	対	sjikosjiko	[to]R[nu [sji]ko[sjiko Ma[sa]N
278	a1	13,a1	13	B	#	無		[juR]taR[ma(静かに) [a]cju%N
279	a1	a1	13	A	b3	対	sjitusjitu	[sji]tu[sjitu [Fu]ju%N
280	a1	a1	13	A	b3	対	zjituzjitu	[naga]mi[nu(長雨＝梅雨) [zji]tu[zjitu]sjuN
281	a2,a1	13,a1	a1	#				
282	a2	a2	a2	A	a0	対	sjinazjina	]gaNsjanu]sjinazjinanu [aN,]sjinanu(砂・品, u[mi]nu～, [misji]jaR[nu～)
283	a1	b2	b2	A				
284	#	13,a1	13,a1	A	b3	対	sjipasjipa	[mi]R[nu [sji]pa[sjipa]sjuN, [na]juN
285	a1	a1	13	#				
286	b0	b0	#	A				

番	19	20	21	22	23	24	25	26
287	b0	a1	13	A	b3	対	sjibusjibu	[sji]bu[sjibu]jamijuN(やめる)
288	b0	b0	#	B	b3	対	sjimasjima	[sji]ma[sjima]sjuN,]cjibaranu, [su]i[kanu, [cji]ra[nu(顔の片側が赤くなり)
289	a2	a2	a2	B	b3	対	sjimazjima	[sji]ma[zjima 島々・村々, [sji]ma%島・村, [sji]ma[nu
290	a2	b2	13	B	b1	対	sjimizjimiRtu	[sjimizji]miR[tu [kaNgeR]ju[N, [kaN]geR[juN, [Fa]R[nu [sjimi]ju[N(染・閉)
291	b2	b2	13	A				
292	a1	13,a1	13	A	b3	対	zjimizjimi	[zji]mi[zjimi]sjuN
293	a2	a2	a2	A	a0	別	sjaRzjaR	]sjaRzjaRnu]cjuR,]sjaRnu]cjuR(下の人), u[i,]uinu]cjuR(上の人)
294	a0	a1	a1	B				
295	#	13,a1	13	A	b3	対	sjaRsjaR	]mizjinu [sja]R[sjaR [izji]ju[N
296	a1	a1	13	A	b3	対	zjaRzjaR	]mizjinu [zja]R[zjaR [izji]ju[N
297	a1	#	13	A	#	無		[ka]sa[kasa [na]juN
298	a1	a1	13	A				
299	a1	a1	13	A	b3	対	sjakisjaki	[FuN]cjuRwa [sja]ki[sjaki]sjun
300	a0,b0	a0	a0	A	b3	別	sjakusjaku	]jojuR [sja]ku[sjakutu]sjuN
301	b0	b0	a0	B				
302	a1	a1	13	A	b3	対	zjabuzjabu	u[mi]izji [zja]bu[zjabu [ui]zju[N
303	a1	a1	13	A				
304	a1	13,a1	13	A	b3	対	zjarazjara	[zja]ra[zjara [na]juN(金属音), [ta]ma[nu [zja]ra[zjara [izji]ju[N(パチンコ)
305	a1	a1,13	13	A				
306	a1	a1,13	13	A	b3	対	zjarizjari	]sjinanu [zja]ri[zjari]sjiR 食べ物に混ざって
307	a0,a1	#	13	A	b3	別	sjaNsjaN	[sja]N[sjaN]sjiri しっかりしろ・きちっとしろ
308	a1	a1	13	A	b3	対	zjaNzjaN	]haninu [zja]N[zjaN [na]juN
309	a0,a1	a0	#	A				
310	a0	b2	b2,a0	A				
311	a1,a0	a1,13	a1	A	b3	対	sjuRsjuR	meR tacjun tuki [sju]R[sjuR]nacjuN
312	a0,a1	13,a1	a1	A	b3	対	zjuRzjuR	]musjinu [zju]R[zjuR]nacjuN, 夜の虫、蝉、…
313	a0	a0	13	B	#	別	seRse(R)	[se]R[se]sjuN 涼しい
314	a0,a1	#	13,a1	A				
315	a0	a0	a0	A				
316	a1	a1	a1	B	#	無		[mu]N[nu, [zji]N[nu [iQ]cjaR[ma(少し) [ta]ra[N
317	a0	a0	a0	B				
318	a1	a1	13	A	b3	別	sjibusjibu	[mi]R[nu [sji]bu[sjibu]sjuN
319	a1	13,a1	13	A	b3	対	zjurizjuri	]hjizji [zju]ri[zjuri [su]juN
320	a1	a1	13,a1	A				
321	a2	a1	a1	B	b1	対	sjirazjiraRtu	ti[da]nu [sjirazji]raR[tu izjiti cjuN(出てくる), ハナガナとの反対語も
322	a1	a1	a1,13	B	b3	対	zjirizjiri	ti[da]nu [zji]ri[zjiritu a[ca na[ti kiCjaN
323	a2	a1	a1	B	b1	対	sjuRzjuRtu	[sjuR]zjuR[tu, 塩・白糖・砂浜
324	a1	a1	13,a1	A	b3	対	zjiruzjiru	[wuna]gu[u [zji]ru[zjiru [mju]%N, [mi]ju%N
325	b0	b0	a0	A	b3	対	sjiwasjiwa	Fu[ku]nu [sji]wa[sjiwa [na]TaN, 世話(=心配)も [sji]wa [sjuN, [keR]Ta[N
326	a1	a1	13	A	b3	対	zjiwazjiwa	aQ[sjiR]nu(汗) [zji]wa[zjiwa [izji]ju[N, 昼食 [aQ]sji[R, 朝食[me]R[sji
327	a0	a0	a1	B				
328	a1	a1	13,a1	A	b3	対	zjiNzjiN	i[R]nu [zji]N[zjiN [ja]mi[N, i[R, i[R]nu 胃
329	a1	a1	13,a1	A	b3	対	suisui	[FaR]tu[nu(鳩),]tuinu [su]i[sui]tubiN,]JuRnu [su]i[sui [ui]zju[N
330	a0,a1	13,a1	13,a1	A	b3	対	suRsuR	[su]R[suR]nibujuN
331	a2	a2	a2	A	a0	?	suezue	]suezuemade [noko]sju[N,]sue,]suenu
332	b0	b0	b0	B	b3	対	sukasuka	[su]ka[suka [na]Ta[N, [su]ka[sukanu]goRbura, [sjiR]bu[i
333	a1,a0	a1	13,a1	B	b3	対	sukasuka	]kudamononu [su]ka[suka]sjuN
334	a1,13	a1	13,a1	A	b3	対	zukazuka	[zu]ka[zuka(tu)]juN 入る,]iRCjaN 入った
335	b2	b2	b2	B	#	無		[su]cjuN 好く, [su]CjaN 好いた
336	a1	a1	13	A	b3	対	zukizuki	[zu]ki[zuki]sjuN, 手・足・腰…
337	a1	a1	13	A	b3	対	sukusuku	[su]ku[suku [nubi]ju[N, 作物…
338	b0	b0	a0	A				
339	a1	a1	13	A	b3	対	zukezuke	[zu]ke[zuke [juN
340	a2,a1,13	a1	13	#				
341	a1	a1	13	A	b3	対	sutasuta	[su]ta[suta [he]R[sa(速く) a[ki]joR(歩け)

番	19	20	21	22	23	24	25	26
342	b0	b0	b0	A	b3	対	zutazuta	[zu]ta[zuta(ni) [kju]N%, 大きく・ぶっきらぼうに
343	a1	13	13	A				
344	a1	a1	13	A	b3	対	supasupa	[su]pa[supa]suRjuN, タバコ
345	a1	a1,13	13	A	b3	対	zubazuba	[zu]ba[zuba [juN, [jaR(言おう)
346	b0	b0	b0	A				
347	a1	a1	13	A	b3	対	zubuzubu	[du]ru[nu]naRcji [zu]bu[zubu Fa[zji]nu]iRcji(入って), (najuN 不可)
348	b0	b0	b0	A	b3	対	subesube	[ha]da[nu [su]be[sube(ni) [na]juN
349	a1	13,a1	13	A	b3	対	subesube	[ha]da[nu [su]be[sube(tu) [na]juN
350	a1	a1	13	A	b3	対	suposupo	[ku]i[nu [su]po[supo [nuki]ju[N
351	a1	a1,13	13,a1	#				
352	b2	b2	b2	B	a0	別	sjiRzjiR	]sjiRzjiRnu [aN,]sjiRzjiR,]sjiR(後・隅),]sjiRnu [aN
353	a1	a1	13	A	b3	対	sujasuja	[su]ja[suja]nibujuN,]niburaR(寝よう)
354	b0	b0	b0	A				
355	a1	a1	13,a1	A	b3	対	surasura	[ho]N[o [su]ra[sura [ju]mi[N, [su]ra[suratu [ju]ma[R
356	#	#	#	#				
357	a1	a1	13	A	b3	対	surusuru	]kuiCjanu]roRpunu [su]ru[suru [nuki]ju[N
358	b0	b0	b0	A	b3	対	zuruzuru	]Fananu [zu]ru[zuru [na]juN
359	a1	13,a1	13	A	b3	対	zuruzuru	]Fananu [zu]ru[zuru]sjiR
360	b0	b0	b0	B	b3	対	suresure	]zjikaN [su]re[sureni [cji]Cja[N(着いた)
361	a1	13,a1	13,a1	A	b3	対	zuNzuN	[zu]N[zuN [hjibi]cju[N, 太鼓
362	a0	a1	a1	A	b3	対	seRse	[sje]R[sje]sjuN 涼しい、爽やか, sje, se は対立無
363	b2	a0	b2,a1	B	b3	対	seRzeR	[se]R[zeR]dorjoku(o)]sjuN
364	a1	a1	a1	A	b3	対	zeRzeR	[nu]R[diRnu [ze]R[zeR]sjuN
365	a1	a1	13	A	b3	対	sekaseka	[se]ka[seka]sjuN
366	a0	a0	a0	A				
367	a0	a0	a0	B	#	無		]uturusjanu]cjuNcjaR 偉い人達
368	a0	a0	a0	B	b3	別	soRso(R)	[so]R[so]sjuN サッサとする, 早々とを使う
369	a1	a1	a0	B	#	無		]gaNsjanu ju[kwa [cji]ra[mu [diki]ra[zji
370	a0,a1,13	a0	a0	A	#	無		[do]N[doN
371	a1,13	a1	13	A	b3	対	zokusoku	[hji]R[sanu [zo]ku[zoku]sjuN
372	b2	b2	b2	B	#	無		]hjakueNbeR 百円ぐらい, [Ma]R%そこ, u[ri それ
373	b2	b2	b2	B				
374	a1	b2	#	A				
375	a1	a1	13	A	#	別	soRso(R)	[so]R[so(R)]Fazjinu [Fu]cju[N
376	#	a1	#	#				
377	a1	a1	13,a1	A				
378	a2	a2	a2,b2	A				
379	a1,13	a1	a1,13	A	b3	対	sorosoro	[so]ro[soro [mudu]ju[N [doR
380	a1,13	a1	13	A	b3	対	zorozoro	[zo]ro[zoro [a]cju[N
381	a1,13	a1	13	A	b3	対	sowasowa	[so]wa[sowa]sjun
382	b2	b2	b2	B	b3	対	daidai	[da]i[dainu [Fa]ka%, [waN [da]i, [da]i[nu
383	b0	b0	b0	B	b3	対	daidai	[da]i[dainu [hji]R%
384	b2	b0	b2	B				
385	b2	b2	a0,a2	B	b1	対	takadaka	[takada]ka [sjeN]je%N [beR たかだか千円ぐらい, sje/se, je/e は対立ナシ
386	a2	a1	a0,13	B	b1	対	takadakaRtu	[takada]kaR[tu [muQ]cja[gi]ri, [muQ]cja[gi]juN, [ta]ka[ja]R, ja[sa]N 安い, ja[saQ]saR(有核)
387	b0	b0	b0	#	#	別	daradara	aQ[sjiRnu [da]ra[dara]Facji,]FacjuN 出る・流れる
388	a1	a1	b0	B				
389	b0	b0	b0	B				
390	b0	a1	13	B				
391	b2	b2	b2	B	#	無		無料は ta[da, ta[da]nu [mu]N%, ta[da]nu]Fataracji
392	a2	a2	a0	A	#	無		[i]ku[keRmu [juN
393	a1	a1	13	A	b3	対	tabutabu	[wa]ta[nu [ta]bu[tabu]sjuN, [koi]ju[N 太る, [ko]i[tu]N, [koi]cju%R, [Fu]tu[sa]N 糸が太い,]FususaN ほそい
394	b0	b0	b0	B	b3	対	dabudabu	]Fukunu [da]bu[dabu [na]juN, 服・帽子・靴…
395	a1	a1	13	#	b3	対	dabudabu	]Fukunu [da]bu[dabu]sjiR
396	a0	a0	a0	A	a0	対	tamatama	]tamatama [oR]ju[N, [nu]mi[ga ta[ma]niwa i[kaR]gaR 飲みに偶には行こうか, ta[ma]ni(wa) [oR]ju[N
397	13	13,a1	#	#	#	無		da[mi [na]TaQ]saR 駄目になったよ

番	19	20	21	22	23	24	25	26
398	b0	b0	a1	A				
399	a1	a1	13	A	b3	対	taratara	[na]R[da(nu) [ta]ra[tara]utijuN
400	a1	a1	13	A	b3	対	daradara	[da]ra[dara]sjiR, 力を抜いて、なまけて
401	a2	a2	a2	A	a0	対	tarudaru	]tarudaruga [nuR]di]icjijoR 誰々が何と言ったか, ta[ru,]tarunu
402	a1	a1	13	#				
403	a0	a0	a0	B				
404	a3	a0	a3	B	b3	対	daNdaN	[da]N[daN(tu) ju[kwa [na]juN [doR, [da]N%, [da]N[nu
405	a3	a3	a3	B				
406	b3	b0	a3	B				
407	a1	13,a1	13	A	b3	対	cjikacjika	[mi]R[nu [cji]ka[cjika]sjuN
408	b2	b2	b2	B	b1	対	cjikazjikani	[cjikazji]ka[ni [Fa]nasaR(話そう)
409	a1	a1	13	A	b3	対	cjikucjiku	]nizjini(棘に)]cjikati(突かれて) [cji]ku[cjiku [ja]mi[N
410	a1	a1	13	A	b3	対	cjibicjibi	]mizjinu [cji]bi[cjibi [u]titi, [cjibi]ri[cjibiri [nu]mi[N
411	a1	#	a3,13	A	b3	対	cjimacjima	[cji]ma[cjima]sjuN,]sjiR やる事なす事小さい, [cji]ma[sa]N こまかい, [Fu]ma[sa]N こまかい・遠慮がち
412	a1	a1	13	A				
413	b0	b0	b0	A				
414	a1	a1	13	A				
415	a0,a1	a0	a0	A	b3	対	cjakucjaku	工事が[cja]ku[cjakutu]susumiN,]susuduN [doR 進んでいるよ
416	a1	a1	13	#	b3	対	cjaracjara	cju[ra [cji]ba[ra]kicji [cja]ra[cjara]sjiR はしゃいでいる, [cju]ra[sa 綺麗な
417	a0	13	a1	A	#	無		[cja]N[tu]sjiri [joR
418	a1	a1	a1	A	b3	対	cjuRcjuR	[ju]mu[nunu, nu[zu]minu [cju]R[cjuR]naQcjiR,]nacjuN, jujuN 寄る
419	a1	a1	a1	A	#	無		蟷螂[i]sja[tu, キジムナ[hjiRnu]mu[N, ku[ni]gaminucjuR も ku[nigaminucjuR も可
420	a1	a1	a1	B	#	無	habiraR	[ha]bi[raR, [ha]bi[raR]nu]tubiN,]tudi]kicji 飛んできて
421	a1	a1	13	A	b3	対	cjokicjoki	[Fasa]mi[sji [cjo]ki[cjokitu [kju]N%
422	a1	13,a1	13	#	b3	対	cjokucjoku	a[gu]nu(友の) [cjo]ku[cjokutu [cju]N%
423	a1	a1	13	A	b3	対	cjokocjoko	[cjo]ko[cjoko]sjiR, こまめに動き回る
424	a1	a1	13	A	b3	対	cjubicjubi	[cju]bi[cjubi [nu]mi[N
425	b0	a1	b0	#				
426	a1	a1	13	A	b3	対	cjobocjobo	]sjigoto [cjo]bo[cjobo]sjuN, [sa]ki%R [cjo]bo[cjobo [nu]di
427	a1	#	a1	A				
428	a1	a1,13	13	A	b3	対	cjurucjuru	[cju]ru[cjuru]sjuN, (najuN 不可)
429	a1	#	13	#				
430	b0	b3	13	A	b3	対	cjoNcjoN	[hji]ra[ganani, [ka]ta[kanani [cjo]N[cjoN [u]cju%N
431	a1	a1,13	13	A	b3	対	cjiracjira	[mi]R[nu [cji]ra[cjira]sjuN 光が目に入る
432	b0	b0	b0	#				
433	a1	a1	a1	#	b3	対	cjiricjiri	[ti]R[nu [cji]ri[cjiri]sjuN,]muituN
434	b0	b0	b2	B	b3	対	cjirizjiri	[cji]ri[zjiri [na]juN
435	a0,a1	a1	13	#	b3	対	cjiNcjiN	]haninu(鐘の) [cji]N[cjiN]nati
436	a1	b3	b3	A	#	無	kuku	ku[ku [haku]sju[N, ku[ku]nu [hakuri]ju[N, [to]R%蛸(隠語)
437	b2	a1	a1,13	A	a0	対	cuicui	]cuicui ka[di]sjimoTaN,]cui ka[di]sjimoTaN, 食べ過ぎた時・人の分も
438	b0	a0	a0	B	b3	対	cuRcuR	[cu]R[cuR(tu) [Fana]sji[nu]cuRzjiTaN
439	a1	a1	13	A	b3	対	cjikacjika	[cji]ka[cjika a[cji]juTaN, a[cju]N 歩く,]jujuN 寄る
440	a2	a2	a2	B	b3	対	cjicjizjicji	[cji]cji[zjicjinu [Fa]re[R(支払い・お祓い)
441	a2	a2	13	A	b3	対	cugicugi	[cu]gi[cugi]narabiN,]sjiri,]cugi,]cuginu]cjuR
442	b2	b2	13	B	b3	対	cukuzuku	[cu]ku[zukutu [mi]ju%N
443	a1	13,a1	13	#				
444	a2	a2	a2	B	a0	対	cjizjicjizji	]cjizjicjizjinu [aN,]cjizjinu,]cjizji(ちょっとした高台で人が集まれる広場)
445	b2	b2	b2	B	#	無		[i]cji[mu [muR]ju[N, [muR]do[nu(ムード)など長母音はやや広く、[mudu]ju[N(戻る)など短母音と相補分布するが、]moRjuN(回る)の母音よりは狭い。

番	19	20	21	22	23	24	25	26
446	b0	b0	b0	B	b3	対	cjibucjibu	[cji]bu[cjibunu [maR]mi[R(豆), cji[bu, cji[bu]nu]aN
447	b0	b0	b0	B	b3	対	cujacuja	Furi cjikiriba これ付ければ [cu]ja[cuja [na]ju%N [doR
448	a1	13	13	A	b3	対	cujacuja	[cu]ja[cuja(tu) [hjicja]ju[N
449	a2	a1,13	13	#				
450	b0	b0	b0	B	b3	対	curucuru	[cji]bu[runu [cu]ru[curu [na]juN
451	a1	a1	13	A	b3	対	curucuru	[cu]ru[curu [sube]ju[N
452	b2	b2	a0,a2	A				
453	a1	13,a1	a1	A	b3	対	cuNcuN	[cu]N[cuN]sjiR
454	b0	b0	b0	B	b3	対	tekateka	[te]ka[teka [na]juN, 額など
455	a1	13,a1	13	A	b3	対	tekateka	[te]ka[teka]sjiR
456	a1	13,a1	13	A	b3	対	tekuteku	[te]ku[teku [a]cju[N
457	b0	b0	#	#				
458	#	13,a1	13	#				
459	a2	a2	a2	A	a0	対	tiradira	]tiradiranu]haninu [na]ju%N,]tira,]tiranu
460	a1	13,a1	13	A	b3	対	deredere	[de]re[deretu]sjiR 女性に対して甘くなる
461	a0	a0	a0	A	b3	対	teNteN	[te]N[teN]sjiR
462	a0	a0	13,a1	A	a0	対	teNteN	]teNteNnu [wa]R[sja]N おかしい, [teN,]teNnu
463	a0	a0	a0	#	#	別	gudaguda	「滔々と」は[gu]da[guda であって[to]R[toR ではない
464	a0	a0	a0	B	a0	対	doRdoRtu	]doRdoRtu [sji]ma [tu]juN, [sji]ma[nu 相撲の
465	a1,a0	a0,a1	a0	A				
466	a1	a1	13	#	b3	対	dokadoka	[do]ka[doka]hamarasja
467	a2	a2	b2	B	b3	対	tukiduki	[uN [tu]ki[dukinu]hazjisjidai, [tu]ki[nu [ta]cji 時が経ち
468	a2	a2	b2	B				
469	a2	a2	b2	B	b3	対	tukiduki	[tu]ki[duki [uku]ju[N 起こる
470	a1	a1	a1	A	b3	対	dukiduki	]niRnu [du]ki[duki]sjuN,]niR,]niRnu 胸, [ni]R%, [ni]R[nu 根
471	a0,a1	a0	13	A	b3	対	tukutuku	]mizjinu [tu]ku[tuku]iriraR,]irijuN
472	a1,a0	a0,a1	13	A	b3	対	dukuduku	]mizjinu [du]ku[duku [nagari]ju[N
473	a1	a1	13	A	b3	対	tukutuku	[tu]ku[tuku [a]cju[N
474	a2	a2	a0	B	b4	別	udaudaR	u[da]udaRcji]icjuN, [iQ]cjui [jo]R, u[da, u[daR]nu 何処, u[da]udaR 何処何処
475	a2	a2	a2	B	b3	対	tusjidusji	[tu]sji[dusjinu [Fana]mi%R, [tu]sji%R, [tu]sji[nu, お祝い[je]R%, [je]R[nu
476	a1	13,a1	13	A	b3	対	dusjidusji	[du]sji[dusji [juN, [jaR 言おう
477	a1	a1	13	A	b3	対	dotadota	[do]ta[dota [a]cju[N
478	a0	a0	a0	A				
479	a1	a1	13	#				
480	b0	b0	b2,b0,a0	A	a0	対	tubitubi	]tubitubini [u]cji [ki]joR 置きなさい,]tubiN,]tubi
481	a1	a1	13	A	b3	対	tobotobo	[to]bo[tobotu [a]cju[N
482	b2	a0	a2,a0	A	a0	対	tumudumu	[u]ja[kwaR]tumudumuni [je]R お祝い [sji]raR しよう,]tumuni
483	a1	a1,13	13,a1	A	b3	対	dojadoja	[do]ja[dojatu]iRcji [ki]Cja%N, [cju]N%来る
484	a1,13	a1	13,a1	A				
485	b2	b2	b2	B	b3	対	tuidui	[i]ru[R [tu]i[dui
486	13	13	13	B	b1	別	udoudoR	[u]do%R]izji [mja]R どれ行ってみよう, [u]do[u]do～, [udou]doR～
487	b0	b0	b0	B	b3	対	turuturu	]kareRnu カレーの [tu]ru[turu [na]juN
488	a1	a1	13	A	b3	対	turuturu	[keR]nu 粥の [tu]ru[turu [sjiR [ki]CjaN
489	b0	b0	b0	B	b3	対	duruduru	[miQ]cjaR[nu 土の [du]ru[duru [na]juN
490	a1	a1	13	B	b3	対	duruduru	[miQ]cjaR[nu 土の [du]ru[duru]sjiR
491	b0	b3	b0	B	b3	対	toNtoN	[zji]N[nu [to]N[toN [na]Ta%N
492	a1,13,a0	a1,13	13,a1	A	b3	対	toNtoN	[to]N[toN [tata]cju[N
493	a1,13	13,a1	a1	A	b3	対	doNdoN	[do]N[doN [Fa]ju[N 舟が走る、車、動くもの、人間、…
494	b0	13,a1	a0	B	b2	対	naRnaR	[naR]na[Rsji [sjima]sa[R 済まそう
495	b0	a0	a0	A	#	別	naRnaR	
496	b0	b0	#	B				
497	b2	b2	b2	A	b4	別	naRhjiRnaRhjiR	[na]R[hjiRnaRhjiR]cjibari, [na]R[hjiR]cjibari [joR
498	a0	a0	a0	A	b3	対	nakanaka	[na]ka[naka ju[kwa]N, na[R, na[R]nu
499	a1	a1	13	A	b1	対	naganagaRtu	[nagana]gaR[tu [nibutu]Ta[N
500	a0	a0	a0	A	#	無		]nacjigacjana 泣きながら [mudu]Ta[N,]nacjuN 泣く

番	19	20	21	22	23	24	25	26
501	a0	a0	a0	A				
502	a0	a0	a0	A				
503	a1	#	b2,13	B	b3	対	nadinadi	[na]di[nadi [sjiraR, [nadi]ju[N
504	b2	b2	b2	B	b2	?	nuRnuR	[nuR]nuR[nu i[cja [sjiR]joR, [nuR]nu%R, [nuR, [nuR]nu
505	a2	#	13	B	b1	対	namanamaRtu	[namana]maR[tu [Fana]sa[R 現実の真新しい話をしよう, na[ma, na[ma]nu
506	a1	a0,a1	a0	B	b1	対	naminamiRtu	]sakiu [namina]miR[tu]cjigi [joR
507	b0	b0	a0	B	b3	対	najonajo	[na]jo[najonu [wuna]gu[R
508	a1	13	13	#	b3	対	najonajo	[na]jo[najo [sjiNnaR するな
509	a1	13,a1	13	B				
510	b0	b0	b0	B				
511	a1	a1	13	B	b3	対	nikoniko	[ni]ko[niko(tu) [na]TaN,]waroRraR 笑おう
512	a1	a1,13	13	B	b3	対	nitanita	[ni]ta[nita]waroRTaN
513	b0	a0	a0	B				
514	#	#	#	#	b1	別	nuRnuRtu	[nuR]nuR[tu [i]cju[N, 「のうのうと」と「何」の掛詞で意味は「のうのうと」を基本とするが、「何の為に生きるか」と考えて時間を浪費するようなちょっと変わった生き方を意味する
515	#	#	#	#				
516	a1	a1	13	A	b3	対	mjaRmjaR	mja[R 猫, [mjaR]nu [mja]R[mjaR]naQcjiR
517	a1	13	13	A	b3	対	nijanija	[ni]ja[nija]waroRTaN
518	#	13,a1	#	#				
519	b0	b0	b0	B	b3	対	nukunuku	[nu]ku[nuku [na]juN
520	a1	a1	13	B	b3	対	nukunuku	[nu]ku[nuku]sjuN
521	a2	a1	13	B	b3	?	nukenuke	[nu]ke[nuke [juN
522	#	a1	13	#				
523	#	#	#	#				
524	a1	a1	13	#				
525	#	13,a1	13	#	b3	対	nuranura	]juRreRnu [nu]ra[nura]sjuN, (幽霊が現れる様子)
526	#	a1	a0	#	#	無		]nujuN 塗る
527	b0	b0	b0	B	b3	対	nurunuru	[nu]ru[nuru [na]juN
528	a1	a1	a1	A	b3	対	nurunuru	[nu]ru[nuru [sjuN
529	b0	b0	b0	B	#	無		]nurijuN 濡れる
530	a1	a1	13	A	b3	別	nicjanicja	[ni]cja[nicja]sjiR, テーブルの表面など, [ti]R[ni [ni]cja[nicjanu [cji]Cja[N
531	a1	13,a1	13	#				
532	b0	b0	#	B	b3	対	nebaneba	[ne]ba[neba [na]ju%N, [ti]R[ni [ne]ba[nebanu [cji]Cja[N
533	a1	13,a1	13	B	b3	対	nebaneba	[ne]ba[neba]sjiR
534	#	a0,a1	b2,13	#	#	無		[niR]ju[N 練る, 餅を練る, 田んぼの畦を踏み固める
535	a0	a0	a0	A	#	別	tusjidusji	
536	a0,a1	a0	a0	B	b1	対	noRnoRtu	[noR]noR[tu [i]cju[N 生きる, 何も考えずにのんびりと
537	a1	a1	13	A	b3	対	nokonoko	[no]ko[noko [i]zji[ti]kicji
538	a1	a1	13	A	b3	対	nosjinosji	[no]sji[nosji [a]cju[N 牛
539	a1	a1	13	A	b3	対	nosonoso	[no]so[noso [a]cju[N 牛, ni[sa]N 遅い
540	a2	a0	a0	A	#	別	atuatu	
541	b0	b0	b2	B	b3	対	nubinubi	[nu]bi[nubi [na]ju%N, [Fudi]ju[N 成長する, (sjuN 不可)
542	a2,a1,13	13,a1	13,b2	B	b1	対	nubinubiRtu	[nubinu]biR[tu [Fudi]ju[N 育つ
543	a1	a1	a1	#				
544	b0	b0	a0	B				
545	a1	a1	13	A	#	別	mugamuga	
546	b3	b3	a1	A	b3	対	haihai	[ha]i[hai]sjuN
547	13	13	13	A	b3	別	oRoR	[o]R%はい, [o]R[o]R はいはい, [o]R[oR はいはい,]gaNdironaR そうですか
548	#	#	#	A	#	別		[cji]cji%R 乳, [cjicji]baN[do ブラジャー(神戸長田区ゴム工場帰り女性の言葉)
549	a1	a1	13	A	b3	対	pakapaka	[Ma]R[nu [pa]ka[paka]udujuN 走る, [MaR]oR[sji 馬を闘わせる催し
550	a1	a1	13	#				
551	a1	a1	13	A	b3	対	hakihaki	[ha]ki[haki [sjiri

番	19	20	21	22	23	24	25	26
552	a1	a1	13	A	b3	対	pakipaki	[ti]R% [pa]ki[paki]narasjuN
553	a1	a1	13	#	b3	対	bakibaki	[ta]R[muN タキギ [ba]ki[baki [wuR]ju[N 折る
554	b0	b0	#	#				
555	a1,13	a1	13	A	b3	対	pakupaku	人が[pa]ku[paku [ka]mi[N
556	#	a1	13,a1	#	b3	対	bakubaku	馬が草を[ba]ku[baku [ka]mi[N, 食べながら口を鳴らす, [a]wa%R 粟
557	b0	b0	b0	B	b3	対	pasapasa	[pa]sa[pasa [na]ju%N
558	a1	a1	13	A	b3	対	pasapasa	[FuN]meRnu [pa]sa[pasa]sjuN
559	b0	b0	b0	#	b3	対	basabasa	[ha]ra[zjinu 髪の [ba]sa[basa [na]ju%N, [Fa]ro[zji 親戚
560	a1	a1	13	A	b3	対	basabasa	[ha]ra[zjinu 髪の [ba]sa[basa]sjuN
561	a2	a2	a2	A	a0	対	hasjibasji	[mu]ni%R 言葉, [mu]ni[nu]hasjibasji [cji]ka[di 掴んで]hamarasja,]goRdaNgamarasja 非常にうるさい
562	b0	a0	b0	A	b3	対	hatahata	[ha]ta[hatanu]JuRnu [tura]Ta[N
563	a1	a0,a1	13	A	b3	対	hatahata	[ha]ta[hatatu]nununu 布の]hjuRgajuN 広がる
564	a1	a1	13	A	b3	対	patapata	[pa]ta[pata]sjiR スリッパ
565	a1	a1	13	A	b3	対	batabata	[ba]ta[bata]sjiR 仕事など急いでする, [ba]ta[bata [bi]N[boR]sjiNnaR 貧乏暇なしするな
566	a1	a1	13,a1	A	b3	対	pacjipacji	[ti]R[u [pa]cji[pacji [ta]ta[cji [joR 叩いてしまったよ, [ta]ta[ki [joR 叩けよ
567	a1	a1	#	A	b3	対	bacjibacji	[ba]cji[bacji]muijuN 燃える, [pa]cji[pacji]muijuN
568	a2	a1	a1	B	b1	対	heRbeRtu	[heR]beR[tu [mudu]ju[N
569	a1	a1	13	A	b3	対	harahara	[ha]ra[hara]sjuN
570	b0	b0	b0	B				
571	a1	a1	a1	A	b3	対	parapara	[pa]ra[para [a]mi[nu [Fu]ju[N, (najuN 不可)
572	b0	b0	b0	B	b3	対	barabara	[ba]ra[bara [na]juN
573	a1	a1	a1	A	b3	対	barabara	[ba]ra[bara [uti]Ta[N
574	b0	b0	b0	B	b3	対	paripari	[pa]ri[pari [na]juN 糊で、張り詰めた状態
575	a1	a1	13	B	b3	対	paripari	[pa]ri[pari]sjuN
576	b0	b0	b0	B	b3	対	baribari	]habinu 紙の [ba]ri[bari [na]juN 破れたとき
577	a1	a1	13	A	b3	対	baribari	[ba]ri[bari]cjibatuN 頑張っている, [ba]ri[bari]sjuN 台風で壁が
578	a2	a1	a1	B	b1	対	harubaruRtu	[haruba]ru%R, [haruba]ruR[tu]moRcjidironaR 来てくれましたか
579	a2	a1	a1	B	b1	対	FaribariRtu	]hjuRwa 今日は [Fariba]riR[tu]sjuN [jaR
580	b0	b0	b0	A	#	無		[bari]ju[N ばれる
581	b0	b3	b3	B	a0	対	haNhaN	]haNhaNni [sji]ra[jaR, [ha]N[buN 半(分), [Fa]N%判・印鑑
582	a1	a1	13,a1	B	b3	対	paNpaN	[wa]ta[nu [pa]N[paN [na]Ta[N 腹一杯になった, cjimikwaR sjaN 詰込過ぎた
583	a1,13	a1	13,a1	A	b3	対	baNbaN	[ba]N[baN [u]cju[N
584	a1	a1	a1	A	b3	対	hjiRhjiR	[hji]R[hjiR [juN,]nacji, [hji]R[hjiR [hji]R [hji]cji ヒーヒー屁をひって
585	a1	a1	a1	A	b3	対	piRpiR	]tuinu [pi]R[piR]nacji,]nacjuN
586	a1	a1	a1	A	b3	別	biRbi(R)	[bi]R[bi(R)]sjiR 病気でだらけて, bi[bi]nu 女陰, [bi]R[bi]sjuN エッチする(隠語)
587	a2	a1	a1	B	b1	別	hjiRbiRtu	]hjiRsahjiRsa [sjiR 冷え冷えする, [hjiR]biR[tu]asjibaR 日頃遊ぼう, asjidi kurasaR
588	b0	b0	b0	B	b3	対	hjicjahjicja	[hji]cja[hjicja [na]ju%N 車・廊下・脂ぎった料理…
589	a1,13	a1	13	A	b3,b4	対	hjicjahjicja	[hji]cja[hjicja]sjiR, [hjicja]ju[N, [hamidu]ru[nu [pi]cja[picja]sjuN, inabikarinu [pi]kaR[pika, hamidurunu [go]roR[goro
590	a1	#	13	B	b3	対	hjikuhjiku	[hji]ku[hjiku]sjuN ゲップ・痙攣
591	a1	a1	13	A	b3	対	pikupiku	]JuRnu tudiFani sjiR [pi]ku[piku]sjuN 魚が飛び跳ねしてピクピクする
592	a1	a1	13	A	b3	対	bikubiku	怖くて[bi]ku[biku]sjuN
593	a1	a1	13,a1	A	b3	別	hjisjahjisja	[hji]sja[hjisja(tu)]kaNzjuN
594	a1	a1	13,a1	A				
595	a1	a1	a1	A	b3	対	bisjibisji	[bi]sji[bisji [ama]ju[N 叱る
596	b0	b0	b0	B	b3	対	bisjobisjo	[bi]sjo[bisjoni]nuriTaN
597	a1,13	a1	13	A	b3	対	bisjobisjo	[bi]sjo[bisjo [sjuQ]saR Fu[ku heR[ri 換えれ
598	a1	a1	a1	A	b3	対	hjisjuhjisju	[hji]sju[hjisju [Fana]sa[R
599	#	b0	b0	A				
600	a1	a1	a0	A	b3	対	hjitahjita	[hji]ta[hjitatu [na]mi[nu]kicji, (ni 不可)

番	19	20	21	22	23	24	25	26
601	a1	a1	#	A	b3	対	pitapita	[cji]ra%R [pi]ta[pita [tata]ka[ti [joR
602	b0	b0	b0	A	b3	対	picjipicji	[pi]cji[picji [na]juN [doR,]JuR
603	a1	a1	a1	A	b3	対	picjipicji	[pi]cji[picji]sjuN
604	a1	a1	13,a1	A	b3	対	picjapicja	[pi]cja[picja]asjibiN 水で
605	b0	b0	b0	A	b3	対	bicjabicja	[bi]cja[bicja [na]juN
606	a1	a1	13	A	b3	対	bicjabicja	[bi]cja[bicja]sjuN
607	b0	b0	b0	A	b3	対	bicjobicjo	[bi]cjo[bicjo [na]juN
608	a2	a2	a2	A	a0	対	cjuRzjuR	[cju]N[cjaRnu 人々,]cjuR,]cjuRnu [acuma]ju[N,]cjuRzjuR,]cjuRzjuRnu 人々
609	a2	a2	a2	A	a0	対	hjimahjima	]sjigutunu]hjimahjimani]asjibiN, hji[ma,]hjimani
610	b0	b0	a0	B				
611	a1	13,a1	a1	A				
612	a1	a0,13	a1	A	b3	対	hjuRhjuR	[nama]ka[ra 今から [hju]R[hjuR [Fu]cju[N 吹いている・吹く
613	a1	a1,13	a1	A	b3	対	pjuRpjuR	[pju]R[pjuR [Fu]cju[N
614	a1	a1,a0	a1	A	b3	対	bjuRbjuR	[bju]R[bjuR Fu[cju]N 既に吹いている・風が強い
615	a0	a0	a0	A	#	別	hjoRhjoR	[aN]cjuRwa [hjo]R[hjoRtu [sjuN, [sjuQ]saR 痩せている様
616	a1	a1	13	A	b3	対	hjokohjoko	]amakara 向こうから [FaR]tu[nu [hjo]ko[hjoko [a]cjuN [ja]R
617	a1	a1	13	A	b3	対	pjokopjoko	[wa]ra[binu [pjo]ko[pjoko [a]cjuN, [hji]jo[ko ひよこ
618	a1	#	13	A				
619	a1	a1	a1,13	A	b3,b4	対	pijopijo	[pi]jo[pijo]nacjuN
620	b0	b0	b0	A	b3	対	hjorohjoro	[u]zji[nu 砂糖黍の [hjo]ro[hjoro [na]TaN
621	a1	a1	13	A	b3	対	hjorohjoro	[u]zji[nu 砂糖黍の [hjo]ro[hjoro]sjuN
622	a1	a0,a1	13	A	b3	対	pjoNpjoN	[pjo]N[pjoN]tuDaN,]tubiN [doR
623	b0	b0	b0	B	b3	対	hjirahjira	[hji]ra[hjira [na]juN, [hji]ra[hjiranu ha[bi
624	a1	a1	13	A	b3,b4	対	hjirahjira	[hji]ra[hjira]tubiN
625	b0	b0	b0	B	b3	対	pirapira	]habinu [pi]ra[pira [na]ju%N 薄くする, [kju]N%
626	a1	a1	a1	A	b3	対	pirapira	]habinu [pi]ra[pira [sjuN 薄いとき
627	b0	b0	b0	B	b3	別	birabira	[bi]ra[bira [na]ju%N, 柔らかい・赤ちゃんが・女性が
628	a1	a1	a1	A	b3	別	birabira	[bi]ra[bira]sjuN
629	a1	a1	13,a1	A	b3	対	hjirihjiri	[hji]ri[hjiri [ja]mi[N
630	a1	a1	13,a1	A	b3	対	piripiri	カラシで[pi]ri[piri]sjuN, 緊張して
631	a1	a1	13,a1	A	b3	別	biribiri	[wa]ra[bio [bi]ri[biri [na]sju[N 子供を沢山産む
632	a2	a1	a1	B	b1	対	hjuRbjuRtu	[FuN [ja]R[wa [hjuR]bjuR[tu]jaQsaR, [sjuQ]saR
633	a1	a1	a1	A	b3	対	piNpiN	[pi]N[piN]sjuN 元気
634	b0	b0	#	B				
635	a1	a1	a1	A	b3	対	FuRFuR	[Fu]R[FuR [Fu]cju[N
636	a1	a1	a1	A				
637	a1	13,a1	a1	A	b3	対	buRbuR	[bu]R[buR [oko]ju[N
638	a2	a1	a1	B	b1	対	FukabukaRtu	[cji]bu[ruwu [Fukabu]kaR[tu [sagi]ju[N,]Fuka 鮫,]Fukanu
639	b0	b0	#	B	b3	対	FukaFuka	[Fu]ka[Fuka [na]ju[N, [na]Ta[N
640	a1	a1	#	A	b3	対	FukaFuka	[Fu]ka[Fuka]sjuN,]sjaN 日干しで
641	a1	a1	13	A	b3	対	pukapuka	[pu]ka[puka]uNcjuN
642	b0	b0	b0	B	b3	対	bukabuka	]Fukunu [pu]ka[puka, [bu]ka[buka [na]juN
643	a1,13	a1	13	A	b3	対	bukabuka	]Fukunu [pu]ka[puka, [bu]ka[buka]sjuN
644	a1	a1	13,a1	A	b3	対	bukubuku	[bu]ku[buku [koi]ju[N
645	a1	a1	13	A	b3	対	bukubuku	[bu]ku[buku]sjizumiN,]sjizuDaN,]ubu(N)kurijuN
646	b0	b0	b0	B	b3	対	FusaFusa	[ha]ra[zjinu, [ku]sa[nu [Fu]sa[Fusa]nati, [na]Ta[N
647	a1	a1	13	A	b3	対	FusaFusa	[ha]ra[zjinu, [ku]sa[nu [Fu]sa[Fusa [sjuN
648	a2	a2	a2	B	a0	対	Fusjibusji	]Fusjibusjinu [ja]mi[N,]deRnu 竹の]Fusji,]Fusjinu
649	a1	a1	13	A	b3	対	pucjipucji	[maR]mi[wu [pu]cji[pucjitu]cubusaR
650	a1	a1	13	A	b3	対	bucjibucji	[bu]cji[bucji [cji]N[kjuN, cjiN[kjuN, [cji]N[gjuN 千切る, [kju]N%切る
651	a1	a1	13	A	b3	別	guragura	[gu]ra[gura [njuN
652	b0	b0	b0	B	b3,b4	対	bucubucu	[bu]cu[bucunu(対他人・相手), bu[cu]bucunu(独り言・対家族) [ni]bu[tu 腫れ物, [ni]bu[tunu]bu[cu]bucu, [ku]N[zjainu(強), [kuN]zjainu(弱) cjuR 国頭の人, [ku]ni[gaminu [cjuR と ku[ni]gaminu _cjuR は完全に自由に交替
653	a1	a1	13	A	b3	対	bucubucu	[bu]cu[bucu [juN
654	a1	a1	#	#				

番	19	20	21	22	23	24	25	26
655	#	a1	a1	#				
656	b0	b0	b0	B	b3	対	FunjaFunja	[Fu]nja[Funja [na]ju%N
657	a1	13,a1	a1	A	b3	対	FunjaFunja	[Fu]nja[Funja]sjuN
658	b0	b0	b0	#				
659	a1	a1	a1	#				
660	#	b0	b0	B	b3	対	FujoFujo	土・粥が水で柔らかい、[Fu]jo[Fujo [na]juN
661	#	a1	a1	#	b3	対	FujoFujo	土・粥が水で柔らかい、[Fu]jo[Fujo]sjuN
662	b0	b0	b0	B	b3	対	pujopujo	[pu]jo[pujo は[Fu]jo[Fujo に同じ
663	a1	a1	a1	#	b3	対	pujopujo	[pu]jo[pujo は[Fu]jo[Fujo に同じ
664	b0	b0	b0	B	b3	対	bujobujo	[bu]jo[bujo は[Fu]jo[Fujo にほぼ同じだが意味が少し違う（下記）
665	a1	13,a1	a1	A	b3	対	bujobujo	水気の物・果物が熟れ過ぎて・粥やオカズに水が多過ぎて
666	b0	b0	b0	B	b3	対	FuraFura	[cji]bu[runu [Fu]ra[Fura [na]juN
667	a1	a1	a1	A	b3	対	FuraFura	[cji]bu[runu [Fu]ra[Fura]sjuN
668	a1	a1	a1	A	b3	対	burabura	[bu]ra[bura]asjibiN
669	a1	a0	a1	A	b3	対	FuriFuri	[Fu]ri[Furi]sjiri [jo]R
670	a1	a0,a1	a1	A				
671	a1	a1	a1	A				
672	a1	#	a1	A				
673	a1	a1	a1	A				
674	a1	#	#	B	b3	対	buruburu	[bu]ru[buru [na]juN
675	a1	a1	a1	A	b3	対	buruburu	[bu]ru[buru [ugu]cju[N, [hji]R[sa]N 寒い
676	b0	b0	b0	B	b3	対	FuwaFuwa	]FutoNnu [Fu]wa[Fuwa [na]juN
677	a1	a1	a1	A	b3	対	FuwaFuwa	]FutoNnu [Fu]wa[Fuwa]sjuN
678	b0	b0	#	A	b3	対	puNpuN	[pu]N[puN [na]ju%N
679	a1	a1	a1	A	b3	対	puNpuN	[pu]N[puN oko[tu]N _doR
680	a1	a1	a1	A	b3	対	buNbuN	]Facjinu [bu]N[buN]tudi [cjuN
681	a1	a0,a1	a1	A				
682	b0	b0	#	B				
683	a1	a1	13	A				
684	b0	b0	b0	B	b3	対	pekopeko	[jo]R[sjanu ひもじくて [wa]ta[nu [pe]ko[peko [na]juN
685	a1	a1	13	A	b3	対	pekopeko	[jo]R[sjanu ひもじくて [wa]ta[nu [pe]ko[peko]sjiR
686	a1	a0,a1	13	#	b3	対	hetaheta	[he]ta[heta]ji[CjaN, ji の摩擦は強く発音するとのこと
687	a1	a1	13	A	b3	対	petapeta	[pe]ta[peta [kaR]ju[N 触る(掛かる)
688	b0	b0	b0	B	b3	対	betabeta	[du]ru[nu [be]ta[beta [na]juN
689	a1	13,a1	13	A	b3	対	betabeta	[du]ru[nu [be]ta[beta]sjiR
690	a1	#	13	#				
691	a1	13,a1	13	A	b3	対	pecjapecja	[pe]cja[pecja]mu[ni]gutu [ju]N[mjaR TaRga(達が)]hamarasjanu
692	b0	b0	#	B	b3	対	becjabecja	[be]cja[becja]nati, [sjuN
693	a0	a0	a0	B	b3	対	becubecu	[be]cu[becu(ni) [na]ju[N, [sjuN(～にする)
694	b0	b0	b0	B	b3	対	hetoheto	[he]to[heto [dja]R, [sjuN, [na]Ta%N
695	b0	b0	b0	B	b3	対	betobeto	[be]to[beto [na]ju%N
696	a1	a1	a1	B	b3	対	betobeto	[be]to[beto]sjuN
697	b0	b0	b0	B	b3	対	henahena	[he]na[hena [na]juN
698	a1	a1	13	A	b3	対	henahena	[he]na[hena [juN 座る
699	a1	a1	13,a1	B	b3	対	herahera	[he]ra[hera]waroRjuN
700	b0	b0	b0	B	b3	対	perapera	[pe]ra[pera [na]juN 方言・英語
701	a1	a1	13,a1	A	b3	対	perapera	[pe]ra[pera [juQ]saR 言う・喋る
702	b0	b0	b0	B	b3	対	berabera	[be]ra[bera は[pe]ra[pera に同じ
703	a1	a1	a1	A	b3	対	berabera	[be]ra[bera は[pe]ra[pera に同じ
704	b0	b0	b0	B	b3	対	herohero	[nu]mi[kwaR]sjiR 飲み過ぎて [he]ro[hero]daR
705	b0	b0	b0	B	b3	対	peropero	[pe]ro[peronu [u]su[sanu]habi [jaQ]saR
706	a1	a1	13	A	b3	対	peropero	[pe]ro[pero [na]mi[ti
707	b0	b0	b0	B	b3	対	berobero	[nu]mi[kwaR]sjiR 飲み過ぎて [be]ro[bero]daR
708	a1	13,a1	13	A				
709	a0,a1	a1,13	a1	A	b3	別	cjiNcjiN	]samisjirunu]nati, [cji]N[cjiNtu]nati
710	a1	a1	a1	A	b3	対	hoihoi	[ho]i[hoi [uki]ju[N 受ける
711	a1	a1	a1	A	b3	対	poipoi	[po]i[poi [Fa]N[gi]juN 捨てる
712	b2	b2	b2	A	a0	対	hoRboR	]hoRboR,]amaFumao [tomi]ju[N 探す,]amanu あそこ,]Fumanu ここ, ho[R 地下の河, hoR[nu

番	19	20	21	22	23	24	25	26
713	a0,a1	a0,a1	a0,a1	A	b3	対	boRboR	[ku]sa[nu [bo]R[boR [sji]ge[ti]haranjaR [na]ra[sji]ga
714	a1,a0	a1	a0,a1	A	b3	対	boRboR	]macjinu [bo]R[boR]muiti
715	b0	b0	b0	B	b3	対	FukaFuka	布団の中が温かく[Fu]ka[Fuka [sjuN, [na]juN, nu[ku]saN, 空っぽで[Fu]ka[Fuka [nu]R[mu [naQ]saR
716	b0	b0	b0	B	b3	対	pukapuka	]hjuRwa [pu]ka[puka [na]Ta[N
717	a1	a1	13	A	b3	対	pukapuka	]hjuRwa [pu]ka[puka [sjuQ]saR, nu[ku]saQsaR
718	a1	a1	13,a1	A	b3	対	pukipuki	[ta]R[muN タキギ [pu]ki[puki wu[ri]joR,]wuti meR[sji]joR 折って燃やせよ
719	a1	a1	13,a1	A	b3	対	bukibuki	[bu]ki[buki [wuri]ju[N 折れる
720	b0	b0	b0	B	b3	対	hokuhoku	[cji]mu[nu [ho]ku[hoku [na]juN, [cji]mu[kuku]ru 心臓+心臓=心臓
721	a1,b0	a1	13	A	b3	対	hokuhoku	]cjibara]kicji [ho]ku[hoku]sjuN,]sjiR
722	a1	a1	13	A				
723	a1	a1	13	#				
724	b0	b0	b0	B	b3	対	bukubuku	[bu]ku[buku [na]Ta%N 怪我だらけ
725	a1	a1	13,a1	A	b3	対	bukubuku	[bu]ku[buku [ta]ta[ki]joR
726	b0	b0	b0	B	b3	対	bosabosa	[ha]ra[zjinu [bo]sa[bosa [na]juN
727	a1	a1	13	A	b3	対	bosabosa	[ha]ra[zjinu [bo]sa[bosa]sjiR
728	a1	#	#	#	#	無		[Fuzji]ju[N ほじる
729	a2	a1	a1	A	b1	対	FusubusuRtu	[Fusubu]suR[tu]kurasaR
730	a1	a1	13	A	b3	別	posoposo	]meRnu [po]so[posotu]sjuN ご飯が煮える時ポソポソ泡が弾ける
731	b0	b0	b0	B				
732	a1	a1	13	A	b3	対	bosoboso	[bo]so[boso [muN]gaQ[tai 物語]sjuN
733	a1	a1	13	A	b3	対	potapota	[po]ta[pota [ta]ri[tuQ]saR
734	a1	a1	13	A				
735	a1,13	a1	13	A	b3	対	bocjibocji	[bo]cji[bocji [cjuQ]saR 来るよ
736	a1	a1	13	A	b3	対	pocjapocja	[po]cja[pocja [ui]cju[N 泳ぐ, [koi]ju[N 太る
737	a1	a1	13	A				
738	a1	a1	13,a1	A	b3	対	pocupocu	[po]cu[pocutu Fu[ti [ki]Cja[N
739	b0	b0	b0	B				
740	13,a1	a1	13	B				
741	a1	a1	13	A	b3	?	hotohoto	[ho]to[hototu [dari]Ta[N
742	b0	b0	a0	A	b2	別	tegetege	[tege]te[geni]sjuN
743	a1	a1	13	A	b3	対	potopoto	]mizjinu [po]to[poto [uti]ju[N
744	a1	a1	13	A	b3	対	botoboto	]mizjinu [bo]to[boto [uti]ju[N
745	a2	a1	a3,13,a1	B	b1	対	FunubunuRtu	[Funubu]nuR[tu]sjuN [ja]R
746	b0	b0	b0	B	b3	対	FaRFa(R)	[Fa]R[Fa(R) [sju!N, [na]sjuN, [na]juN. 語幹末 R は普通無いが現れることも。
747	a1,b0	13,a1	13	#	b3	対	FaRFa(R)	[Fa]R[Fatu]sjuN も可だがあまり言わない
748	a1	13,a1	13	A	b3	対	bojaboja	[bo]ja[boja]sjiR,]itaburijuN 黙って気が抜ける,]toRburijuN ボケっとする
749	a1	a1	13	A	b3	対	poripori	[po]ri[pori [ka]mi[N 食べる, [kuR]ju[N 噛む
750	a1	a1	13	A	b3	対	boribori	[bo]ri[boritu [ha]cju[N 掻く
751	a2	a1	13,a1	A	b1	対	FuriburiRtu	[Furibu]riR[tu [sjuN,]FurijuN 惚れる
752	a1	a1	13	A	b3	対	purupuru	[pu]ru[puru]nacjuN
753	a1	a1	13	A	b3	対	purupuru	[pu]ru[puru [uti]ju[N
754	b0	b0	b0	B	b3	対	boroboro	[bo]ro[boro [na]ju[N 古びる・疲れる
755	a1	a1	13	A	b3	対	boroboro	[bo]ro[boro [Fa]N[kari]juN 零れる
756	b3	b3	#	A	b3	対	poNpoN	[po]N[poN [ja]mi[N, [ja]me[R 痛いの?, [ja]miN[njaR 痛いの?
757	a1	a1	13,a1	A	b3	対	boNboN	[bo]N[boN [juN, (poNpoN ではなく)
758	b3	b3	b3	B	b3	?	boNboN	[bo]N[boN は標準語
759	b3	13	13	A	#	別	tegetege	[tege]te[ge]daR まあまあだ, [ju]kwaN[beR [deki]Ta[N 良い塩梅にできた
760	b3	a1	#	A				
761	13	13,a1	13	A				
762	b0	b3	a0	#	#	無		[cji]N[tai, cjiN[tai まいまい
763	a2	a2	a2	B	b3	対	meRmeR	[me]R[meR]kara]ati 知って [a]Ta[N いた, [meR, [meR]nu _cjuR 前の人
764	a1	a1	13	A	b3	対	magomago	[ma]go[mago [sjiR [he]R[sa [cji]R[mu]sji[ra]zji 早く来もせず

番	19	20	21	22	23	24	25	26
765	a1	a1	13	B	b1	対	mazamazaRtu	[mazama]zaR[tu [mi]Cja[N 見た
766	a1	a1	13	B	b1	対	mazjimazjiRtu	[mazjima]zjiR[tu [mi]ju[N
767	a2	a2	b2	A	a0	対	masumasu	]masumasu]cjibarijoR
768	a1,13	a2	13	B				
769	a1	#	b2	B	b3	対	mazjimazji	[ma]zji[mazji]sjiri[joR, (幼児語でなく、仕事中の大人に対しても使う)
770	a1,a0	a1	13	A	a0	対	matamata	]matamata]ka, ma[ta]ka, ma[ta]sjiri[joR もう 1 回しろ, ma[ta]nu [ki]ka[i
771	b2	b2	b2	A	a0	対	madamada	]madamada [dai]zjoR[bu, [daizjo]R[bu, ma[da, ma[da]ka
772	a2	a2	a2	A	a0	対	macjimacji	]macjimacjinu]hamarasja,]macji,]macjinu
773	b0	b0	b0	B	a0	対	macjimacji	]macjimacji(tu, ni) [na]ju%N
774	a2	a0	a0	B	b3	対	manimani	[na]mi[nu [ma]ni[mani]uka[du]N
775	a2	a1	a1	A	b1	対	marumaruRtu	[maruma]ruR[tu [koi]ju[N,]marusa, ma[ru, ma[ru]nu
776	a0	a0	a0	B	a0	対	maNmaN	]zjisjiN(nu)]maNmaN(ni) [na]ju[N
777	b0	b0	b0	B	a0	?	miemie	iQcjaN 幾ら [haku]CjaN[te 隠したって]miemie [doR, [mjaR]juN[doR
778	a1	a1	13	A	b3	対	misjimisji	軋む音, [mi]sji[misji]nacjuN
779	b0	b0	b0	B				
780	b0	a0	a0	A	a0	対	micjimicji	[mudu]ju[nu]micjimicjiniti [Fana]sji]sjiraR,]micji,]micjinu
781	a2	a2	a2	A	#	別	muRrumuRru	
782	b2	b2	b2	B	#	無		mi[cju]nu [ma]R[ni [aburi]Ta[N あぶれた
783	a0	b3	a0	B	#	別	miRmiRzemi	梅雨明け]miRmiRzemi が sjiR…と鳴く, 次にクマゼミ a[sa, a[sa]nu が sai…と鳴く, 秋に[sji]R[wai が sjiRwai…と鳴く
784	a0,a1	a1	#	B	b3	別	saisai	a[sa]nu [sa]i[sai]nacjiR]hamarasjanu
785	a1	a1	13	A	b3	対	mukamuka	]niRnu [mu]ka[muka]sjiR
786	a0	a0	b2,a0,24	A	a0	対	mukimuki	]sjigutuniwa]mukimukinu [a]ti, mu[ki,]mukinu
787	#	#	#	#				
788	a1	#	13	#	b3	対	muQcjimuQcji	[ho]R[o [muQ]cji[muQcji]sjirajaR, [ho]R%皮
789	a1	a1	13	A	#	別	mukumuku	
790	a1	a1	13,a1	A				
791	a1	a1	13	A	b3	対	musjimusji	[mu]sji[musji]sjuN 湿度高い
792	b0	b0	b0	B				
793	a1	a1	13	A	b3	別	musjamusja	[mu]sja[musja(tu)]acji, [mu]N]kadi, (najuN 不可), ゆっくりと・遅く
794	a1	a1	13	A	b3	対	muzumuzu	Fa[zji]nu [mu]zu[muzu]sjuN, [Fu]sji[bjaR 腰坂=背中,]hjaRnu 坂, [bja]R%ニラ
795	b0	b0	b0	A				
796	a1	a1	13	A	#	無		[mu]ki[muki, [mo]ri[mori
797	a1	a1	13	A	b3	対	munjamunja	[i]mi]micji [mu]nja[munja]sjiR
798	a2	a2	a2	A	#	別	sjimazjima	
799	a1	a1	13	A	b3	対	muramura	[mu]ra[mura]sjiR,]sjiRbusja [na]Ta[N,]sjiRbusjaN 何かしたい,]Fusja 欲しい
800	b0	b0	b0	B	#	無		[mu]ri[ti]icjigurusjaN 死にそう, i[cji]nu]sjiRgurusjaN 息がしにくい, i[cji]guru[sja 死にそう, i[cji]guru[sjaR もう生きられない,]icjigurusja 行きにくい,]kurusjaN 苦しい
801	a1	a1	a1	A	b3	対	muNmuN	[mu]N[muN]sjuN
802	b2	b2	b2	B	b3	対	meRmeR	[me]R[meR]ikeN]iR
803	a1	a1	a1	A	b3	対	meRmeR	ja[zji]nu [me]R[meR]nacji
804	a1	a1	13	A	b3	対	mekimeki	[me]ki[meki [su]du[cji 育ち,]Fuditi 大きくなり
805	a1	a1	13	A	b3	対	mesomeso	[wa]ra[binu [me]so[meso]nacjuN,]nacjisa 泣き虫だ
806	b0	b0	b0	B	b3	対	mecjamecja	[me]cja[mecja [na]Ta[N
807	a1	a1	13	A	b3	対	meramera	]guminu [me]ra[mera]muijuN, gumi はゴミ・木の葉・クズ
808	a1	a1	13	A	b3	対	merimeri	[me]ri[meri [ja]R[nu [jabu]ri[ti
809	b0	b0	b0	B	b3	対	meromero	[me]ro[mero]nati
810	a0	a3	a0	A	#	無		[e]R[sacji]sjuN
811	a0	a0	a0	A	a0	対	meNmeNtu	]meNmeNtu]cjigati 継がれて,]cjigajuN 継がれる
812	a0	a0,13	a0	B	a0	対	moRmoRtu	ma[cji]nu]moRmoRtu [i]cji[ti kwa[zji]ni [na]ti

番	19	20	21	22	23	24	25	26
813	13	a1	a1	A	b3	対	moRmoR	]usjinu [mo]R[moR]nacji
814	a0,a1,13	a0	a0	A	a0	対	mukumukutu	]mukumuku(tu) [Fatara]cju[N
815	a1	a0,13	13,a1	A	b3	対	mukumuku	[ku]mu[nu,]hjibusjinu [mu]ku[muku]sjiR
816	a1	a1,13	13	A	b3	対	mugumugu	]kucjinu [mu]gu[mugutu [mu]N [ka]di
817	13	a1	13	A				
818	13	a1,13	13	A	b3	対	mogomogo	]kucjinu [mo]go[mogo]sjiR
819	a1	a1	13	A	a0	?	mosjimosji	]mosjimosji(実際に電話に出る際に)
820	a1	a1	13	A	b3	対	muzjimuzji	[mu]zji[muzji]sjuN, 痒い・向こうに行きにくい
821	b0	b0	b0	B	b3	対	muzjamuzja	[ha]ra[zjinu [mu]zja[muzja [na]juN
822	a1	a1	13	A	b3	対	muzjamuzja	[ha]ra[zjinu [mu]zja[muzja]sjiR, 虫が [mu]zja[muzja]sjuN
823	a1	a1	13	A	b3	対	mosomoso	[mo]so[moso [ui]ju[N, 遅く起きるのは mugamuga
824	a1	a1	13,a1	A	b3	対	muzumuzu	]musjinu [mu]zu[muzu [ugu]cju[N
825	a1	a1	13	A	b3	対	motamota	[mo]ta[mota]sjiR]sjigutu [na]ra[N 仕事にならない
826	b0	b0	b0	A	b2	対	muQcjiRmuQcjiR	[Funu sa[ta]nu [muQcjiR]muQ[cjiR [sjiR Ma[sa]N, najuN 可
827	b0	b0	b0	B				
828	b0	b0	b0	B	#	無		mu[tu, mu[tu]nu, 木の根っこも mutu
829	a0	a2	a0	B	b3	対	mutumutu	]gaNsjanu]kiRwa [mu]tu[mutu [na]N%そんな気は元々無い
830	a1,13	a1	13	#	a0	対	mumimumi	Fa[zji]mumimumi]sjira[ja]R
831	b0	b0	b0	B	b3	対	mojamoja	[mo]ja[moja [na]ju%N
832	a1	13,a1	13	A	b3	対	mojamoja	[mo]ja[moja]kirinu]Fucji, 心が[mo]ja[moja]sjuN
833	a1	a1	13	A	b3	対	morimori	[mo]ri[mori]kami
834	b0	b0	a0	B	b1	対	muRrumuRru	[muRrumuR]runu mi[na]saN, [muR]runu mi[na]saN(「皆さん」は標準語)
835	a0	a0	a0	B				
836	13	a1	a1	A	b3	対	jaijai	[ja]i[jai [ja]R[ti
837	a2,a0	a1	13	B	a0	対	jasujasutu	]jasujasutu]sjigutunu]sjiraTaN [jaR
838	a2	a2	a2	B	a0	対	jamajama	]jamajamanu [ha]mi[gami, [ja]ma%R, [ja]ma[nu [su]zu[cji ソテツ, [suzucji]ja[ma ソテツ山
839	b0	b2	a2	B	a0	対	jamajama	Fu[sja]a[sji]ga]jamajama]ja[sji]ga,]cjicjijama 築山, [macjigi]ja[ma 松山,]janajama 入ったら危険, [Fuzjicji]ja[ma 入ったら危険
840	#	#	13	#	#	無		]juRjami,]juRjaminu]kurasa
841	13	a1	13	A				
842	a0	a0	a0	B	b1	対	juRjuRtu	[juR]juR[tu [a]cjuN, 走る・漕ぐ・泳ぐ・スポーツ・余裕と自信があってする
843	a2	a0	a0	A	a0	?	jukujuku	]jukujukuwa [se]N[seR]daR
844	a1	a1	13	A	b3	対	jusajusa	[ju]sa[jusa]wubujuN
845	a0	b2	13	B				
846	a1,13	a1	13	A	b3	対	jurajura	[ju]ra[jura]jurijuN
847	b0	b0	b0	B	b1	対	jurujuruR	[juruju]ruR[nu cju[bi
848	a1,13	a1	13	B	b1	対	jurujuruRtu	cju[bi]nu 帯の [juruju]ruR[tu 緩くて締らない
849	#	#	#	#				
850	a0	a0	a0	B				
851	a0,a1,13	a1	a0	A	a0	?	jokujoku	]jokujoku [kaN]geR[ri, [kaNge]R[ri,]joku [kaN]geR[ri, [ju]kwaN[beR
852	b0	b0	b0	B	b3	対	jutajuta	[ju]ta[juta [na]Ta[N
853	a1,13	a1	13	A	b3	対	jutajuta	[ju]ta[juta [a]cju[N
854	a1,13	a1	13,a1	A	b3	対	jocjijocji	[jo]cji[jocji [a]cju[N
855	b0	a1	a0	B	b3	?	jirujiru	[ji]ru[jiru]juRreRnu Fu[i]nu/Fu[i]ga]cjikajuN
856	b0	b0	b0	B	b3	対	jobojobo	[jo]bo[jobo [na]juN
857	13,b0	a1	13	A	b3	対	jobojobo	[jo]bo[jobo]sjuN, a[cji [a]cjuN 歩き歩く
858	#	a0	a0	A				
859	b0	b0	b0	B	b3	対	jorejore	[jo]re[jore]nati
860	b0	b0	b0	B	b3	対	jorojoro	[jo]ro[joro]nati
861	a1	a1	13	A	b3	対	jorojoro	[jo]ro[joro]sjuN
862	a0	a0,a1	a0	B	b1,a0	対	rakuraku(R)tu	[rakura]kuR[tu,]rakurakutu]sjigutunu [sji]Da[N
863	b0	b0	b0	B	b3	対	raburabu	[ra]bu[rabu [na]juN,]sjuN, [ra]bu[rabunu [tu]zji[wutu
864	#	#	#	B				
865	a0	a0,a1	a0	B	b3	対	raNraNtu	[mi]R[nu [ra]N[raNtu]sjiR]niburaraN
866	a0	a0	a0	B				

番	19	20	21	22	23	24	25	26
867	a0	a0,a1	a0	B				
868	a0,a1	a0,a1	a1	B	b3	対	riNriN	]deNwanu [ri]N[riN]nacjuN
869	a0	a0	a0	A				
870	a1,13,a0	a0,13	a0	A	b3	対	ruNruN	[ru]N[ruNtu ju[kwa]kimucji
871	b0	a0	a0	A				
872	b0	a1	13	#				
873	a0	a0	a0	B				
874	a0	a0	a0	B				
875	a0	a0	a0	A	a0	対	rukuruku	]rukuruku(tu) [cji]ra[mu [misji]ra[zji,]rukuni]juRFara]N 耐えられない [wa]ra[bi [dja]R,]juRcjibajuN よく頑張る
876	13	a1	a1	A	b3	対	waRwa(R)	[wa]R[wa]nacjuN
877	a1	a1	13,a1	A	b3	対	waiwai	[wa]i[wai]hamarasjaR
878	a1	a1	13,a1	A	b3	対	wakuwaku	]niRnu [wa]ku[waku]sjiR
879	a1	a1	13,a0	A	b3	対	wazawaza	[wa]za[waza ki[cjiR]muroRti,]wazatu [ja]bu[ti]na 壊したのか
880	a1	a1	13	A	b3	対	wanawana	[wa]na[wana]Furueti
881	a1	#	13	A				
882	a1	#	13	#				
883	b2	b2	b2,24	B	#	無		wa[cja 我々, wa[cja]nu, [waN 我, [waN]nu]kutu]ja[sji]ga, [iku]sa%戦
884	a1	b3	#	A	b4	対	waNwaN	]Furiwa]wa[cja [ja]R[nu [waN]waN _doR
885	13,a1	a1	a1,13	A	b3	対	waNwaN	[wa]N[waNtu]nacjuN

An Attempt at Cross-dialectal Comparison of 4-Mora Reduplicated Words in Japanese Dialects

TAKAYAMA Rintaro

takayama_rintaro@nifty.com

Keywords: Japanese dialects, Comparative method, 4-mora reduplicated words, Accent, Long vowel.

Abstract

In this paper, 4-mora reduplicated words (such as *pikapika-to*, *akaaka-to*, *rakuraku-to*, *tamatama*, *pikapika-da*, *manman-da*, *shimajima-ga*, *butsubutsu-ga*, and *wanwan-ga*) in Japanese dialects (such as Aomori City, Morioka City, Higashimurayama City, Tokyo, Okayama City, Onomichi City, Hiroshima City, Kyoto, Kobe City, Awaji Island, Tokushima City, Kochi Prefecture, Koshiki Island, and Okinoerabu Island dialect) are compared cross-dialectally, trying to reconstruct their accents in the proto-language of both mainland Japanese dialects and Ryukyuan dialects. Emergent long vowels in Ryukyuan segments (such as *pikaapika-tu* and *akaakaa-tu*) are also considered.

（たかやま・りんたろう　東京大学大学院博士後期課程）